

北上市
子どもの生活実態調査
結果報告書

平成 31 年 3 月
岩手県 北上市

目 次

第1章 調査の概要	3
1 報告書について	3
2 調査の背景	3
3 調査の目的	3
4 子どもの貧困対策の検討体制	4
5 調査の実施方法と配布・回収状況	5
(1) 調査時期	5
(2) 調査対象者・配布方法・回収状況	5
6 報告書の見方について	6
7 低所得層（所得層Ⅰ）の算出について	6
8 国の貧困率について	7
9 本市における子どもの状況	7
10 調査結果からみた現状	8
11 調査結果を踏まえた今後の課題	11
第2章 保護者調査の結果	17
1 貧困世帯基準への該当状況	17
2 5歳児・小学5年生・中学2年生の保護者の調査結果	19
(1) 回答者の基本情報等	19
3 子どものことに関する調査結果	23
(1) 就学前の保育・教育の状況について	23
(2) 子どもの将来について	25
4 保護者の現在の就業状況について	28
5 保護者（回答者）の健康状態について	32
6 子どもの健康状態等について	37
(1) 回答者からみた子どもの健康状態	37
(2) 医療機関の受診状況について	40
(3) 食事について	42
(4) 入浴や歯磨きについて	43

(5) 学校・保育園・幼稚園を休んだことについて	44
7 子どもとの関わりについて	47
8 子育てにかかる費用について	56
9 家庭での生活について	60
10 世帯の経済状況について	63
11 これまでの経験について	72
12 公的支援の利用状況について	76
第3章 子ども（小学5年生・中学2年生）調査結果	85
1 朝食について	85
2 ふだんの生活について	86
3 学校・勉強について	96
4 放課後の過ごし方について	101
5 「ゆめ」について	103
6 普段考えていることについて	105
第4章 ひとり親・保護世帯の調査結果	111
1 回答者とその世帯について	111
2 お子さんのことについて	115
3 保護者の現在の就業状況について	116
4 保護者（回答者）の健康状態について	119
5 子どもの健康状態等について	120
6 子どもとの関わりについて	124
7 子育てにかかる費用について	126
8 家庭での生活について	127
9 世帯の経済状況について	129
10 これまでの経験について	135
11 公的支援の利用状況について	138
12 悩みごと等について（ひとり親世帯のみ）	139
13 家庭の経済状況について（ひとり親世帯のみ）	142
14 様々な支援制度について（ひとり親世帯のみ）	144

第5章 自由意見	149
1 アンケート調査の自由意見	149
（1）子どもの生活実態調査（就学前5歳児の保護者）の自由意見	149
（2）小5保護者の自由意見	153
（3）中2保護者の自由意見	156

第 1 章

調査の概要

第1章 調査の概要

1 報告書について

この報告書は、平成 29 年度に実施した「北上市子どもの生活実態調査」をまとめたものです。

2 調査の背景

子どもの将来がその生まれ育った環境によって左右されたり、また、困窮が世代を超えて連鎖したりすることのないよう、子どもの貧困への対策を総合的に進めることは極めて重要です。国（厚生労働省）が実施した国民生活基礎調査によると、平成 27 年の子どもの貧困率は 13.9%と平成 24 年の調査 16.3%(過去最悪)より改善したものの、子どもの貧困の解消に向けた取り組みが期待されています。

国では、平成 26 年 1 月に「子どもの貧困対策の推進に関する法律」を施行し、同年 8 月には「子供の貧困対策に関する大綱」を制定し、全ての子どもたちが夢と希望を持って成長していくことができる社会の実現を目指し、必要な環境整備と教育の機会均等を図るなど子どもの貧困対策の総合的な推進を掲げております。

岩手県においては、国の法律に基づき、一人ひとりの子どもを健やかに育むことができる社会の実現に寄与するため、平成 27 年 4 月に「いわての子どもを健やかに育む条例」、平成 28 年 3 月には子どもの貧困対策を総合的に推進するための基本指針として、「いわての子どもの貧困対策推進計画」を策定しています。

当市においては、これまで、子育て世帯や経済的困窮を抱える家庭への支援を行ってきましたが、貧困の状況を詳細に捉えておらず、庁内において横断的な検討と貧困対策の充実が必要となっておりました。このことから、これらの動向と貧困対策の意義を踏まえ、北上市子どもの貧困対策に関する研究会議を設置し、子どもの生活実態を適切に把握するため、子どもとその家庭に対し「北上市子どもの生活実態調査」を実施しました。

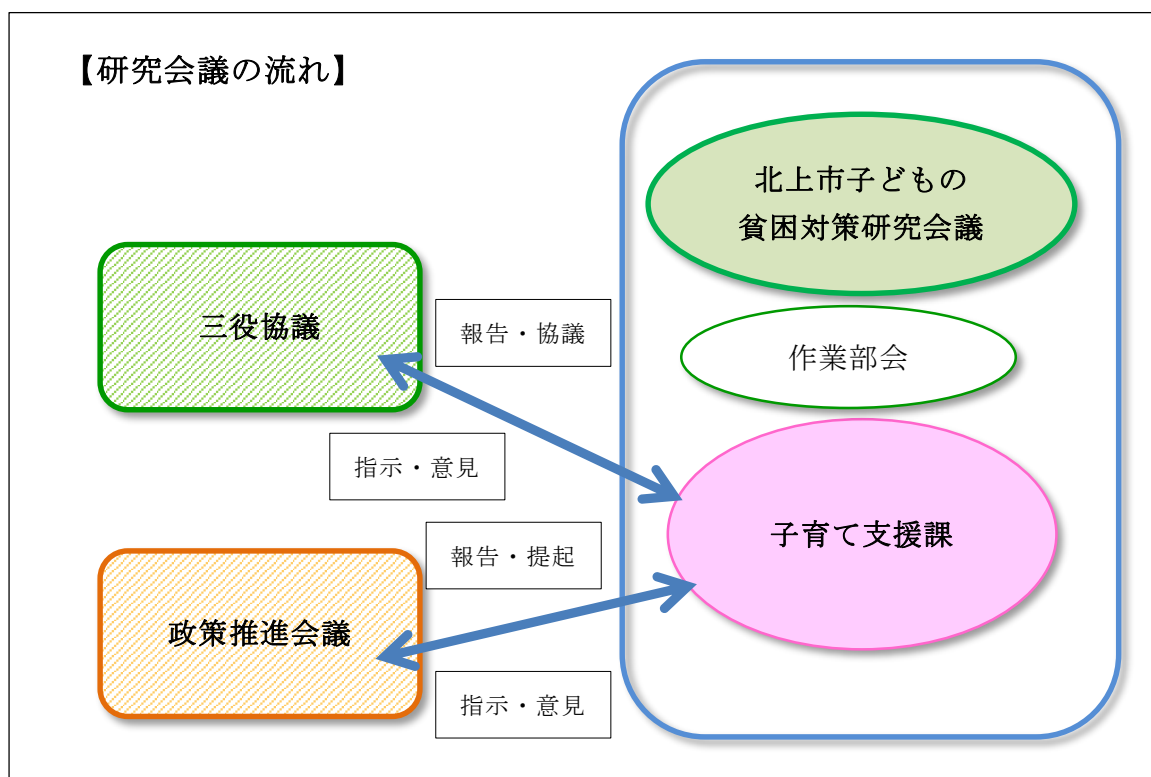
3 調査の目的

子どもの貧困対策に取り組むに当たっては、子どもを取り巻く生活実態や経済状況などをはじめとした実態を適切に把握することが必要です。貧困の状態にある家庭の支援のみならず貧困に陥らない予防的な対策のため、その実態を踏まえ行政、地域及び関係機関等が緊密な連携により、貧困の実情に応じた具体的な施策を講じていかなければなりません。

このことから、当市においても、子どもの貧困対策を市全体で推進するため、「北上市子どもの生活実態調査」や国の大綱などを踏まえ、貧困対策の基本となる方針を策定し、今後、子どもの貧困の解消に向け、効果的な施策を検討及び展開していくものです。

4 子どもの貧困対策の検討体制

平成 29 年 12 月 8 日北上市における子どもの貧困対策に関する事項を検討するため、北上市子どもの貧困対策に関する研究会議を設置しました。



北上市子どもの貧困対策に関する研究会議設置要領（抜粋）

（組織）

第3 研究会議は、委員長、副委員長及び委員をもって組織する。

2 委員長は教育委員会教育部長を、副委員長は保健福祉部長をもって充てる。

3 委員は、次の各号に掲げる者をもって充てる。

- (1) 企画部長
- (2) まちづくり部長
- (3) 企画部政策企画課長
- (4) まちづくり部地域づくり課長
- (5) まちづくり部生涯学習文化課長
- (6) 保健福祉部健康増進課長
- (7) 保健福祉部福祉課長
- (8) 教育委員会教育部総務課長
- (9) 教育委員会教育部学校教育課長
- (10) 教育委員会教育部子育て支援課長

5 調査の実施方法と配布・回収状況

(1) 調査時期

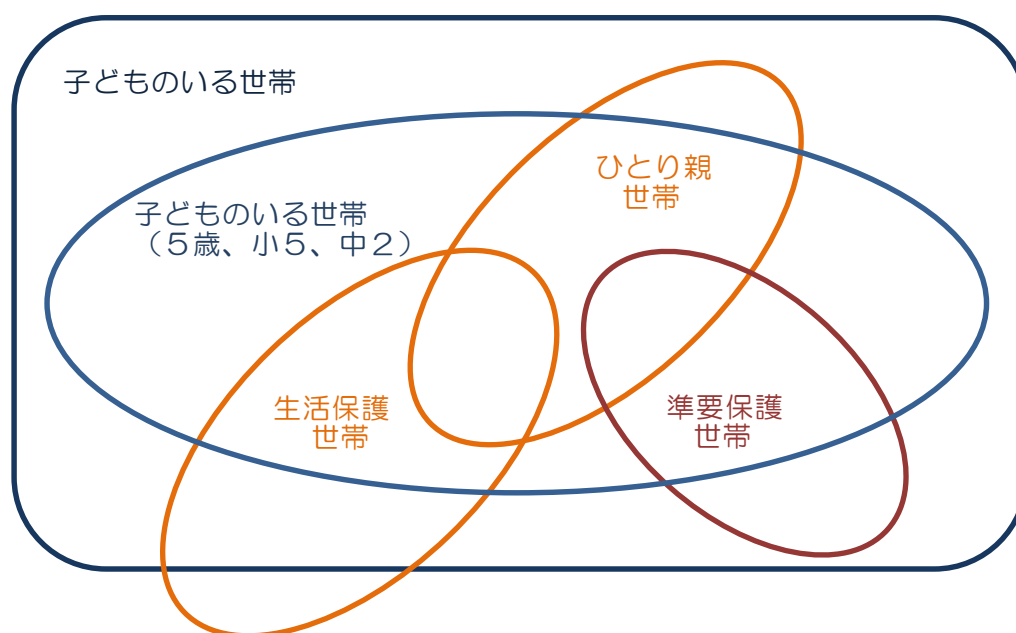
平成30年2月16日～平成30年3月19日

(2) 調査対象者・配布方法・回収状況

調査による配布・回収状況は、以下のとおりです。

図表1.1 調査票の配布・回収状況

対象者	配布方法	配布数	回収数	回収率
①就学前5歳児の保護者	郵送	662 件	364 件	55.0%
②就学前5歳児のひとり親家庭		42 件	20 件	47.6%
③小学5年生の保護者	小学校を通じて配布	788 件	556 件	70.6%
④小学5年生のひとり親家庭		81 件	43 件	53.1%
⑤中学2年生の保護者	中学校を通じて配布	858 件	562 件	65.5%
⑥中学2年生のひとり親家庭		103 件	67 件	65.0%
⑦準要保護・生活保護	郵送	68 件	32 件	47.1%
⑧ひとり親家庭の保護者		701 件	342 件	48.8%
⑨小学5年生の児童	小学校を通じて配布	869 件	641 件	73.8%
⑩中学2年生の生徒	中学校を通じて配布	961 件	645 件	67.1%



「準要保護」：要保護者に準ずる程度に困窮していると市長が認める者で、経済的理由により就学が困難と認められる児童生徒又は就学予定者の保護者。

6 報告書の見方について

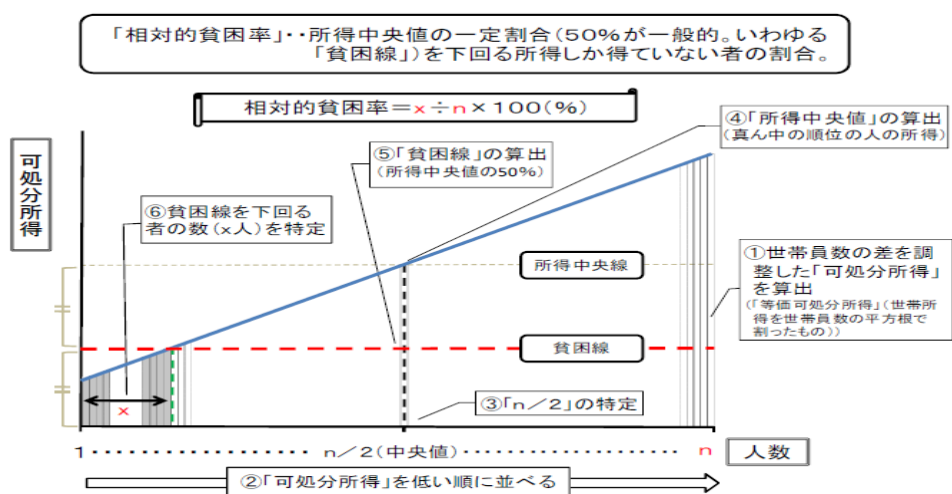
調査結果の数値については小数点第2位以下を四捨五入しているため、内訳を合計しても100%に合致しない場合があります。

小学5年生、中学2年生の保護者および子ども調査の母数（ n 値）は、所得層を算出するため保護者調査票と子ども調査票の紐付けができた人数となっているため、実際の回収数と異なります。紐付けが出来た実際の人数は、小学5年生調査は590人、中学2年生調査は597人となっています。

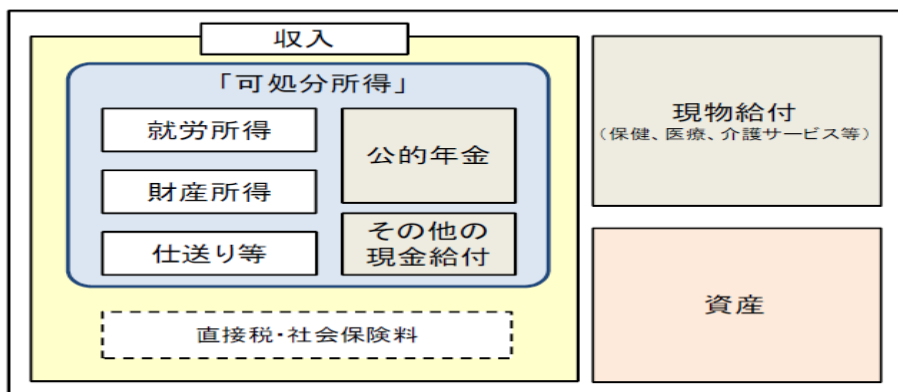
7 低所得層（所得層Ⅰ）の算出について

厚生労働省「平成28年国民生活基礎調査」から算出された日本国内の等価可処分所得（世帯の可処分所得【手取り収入】を世帯人数の平方根で割り調整した所得）の中央値の2分の1である122万円未満を基準額とし、全体に占める貧困の割合所得層Ⅰ・Ⅱを算出しました。

本報告書では、基準値122万円を下回る世帯を「所得層Ⅰ（貧困層）」、上回る世帯を「所得層Ⅱ」としています。



相対的貧困率の算出に当たって用いる「可処分所得」には、以下のものが含まれる。 ※「資産」の多寡については考慮していない。



8 国の貧困率について

国の貧困率の年次推移

	昭和 60年	63	平成 3年	6	9	12	15	18	21	24	27
	(単位：％)										
相対的貧困率	12.0	13.2	13.5	13.8	14.6	15.3	14.9	15.7	16.0	16.1	15.7
子どもの貧困率	10.9	12.9	12.8	12.2	13.4	14.4	13.7	14.2	15.7	16.3	13.9
子どもがいる現役世帯	10.3	11.9	11.6	11.3	12.2	13.0	12.5	12.2	14.6	15.1	12.9
大人が一人	54.5	51.4	50.1	53.5	63.1	58.2	58.7	54.3	50.8	54.6	50.8
大人が二人以上	9.6	11.1	10.7	10.2	10.8	11.5	10.5	10.2	12.7	12.4	10.7
	(単位：万円)										
中央値 (a)	216	227	270	289	297	274	260	254	250	244	244
貧困線 (a/2)	108	114	135	144	149	137	130	127	125	122	122

注：1) 平成6年の数値は、兵庫県を除いたものである。

2) 平成27年の数値は、熊本県を除いたものである。

3) 貧困率は、OECDの作成基準に基づいて算出している。

4) 大人とは18歳以上の者、子どもとは17歳以下の者をいい、現役世帯とは世帯主が18歳以上65歳未満の世帯をいう。

5) 等価可処分所得金額不詳の世帯員は除く。

資料 平成28年国民生活基礎調査の概況

9 本市における子どもの状況

(1) 子どもの数（18歳以下） 各年度3月末現在 （単位：人）

年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
人口	16,959	16,812	16,562	16,285	15,924
対比	—	▲147	▲250	▲277	▲361

※児童福祉法による児童の定義は18歳未満の者となっているが、児童扶養手当法による児童の定義は18歳に達する日以後の最初の3月31日までの間にある者等が基準となっており、今回のひとり親は子が18歳以下を対象としたため、18歳以下の数値を掲載した。

(2) ひとり親世帯の数

年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
世帯数	863	846	778	733	719
対比	—	▲17	▲68	▲45	▲14

(3) 子どものいる生活保護世帯数

年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
世帯数	60	52	48	42	43
対比	—	▲8	▲4	▲6	1

(4) 要保護・準要保護世帯数

年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
世帯数	277	281	265	235	309
対比	—	4	▲16	▲30	74

10 調査結果からみた現状

貧困世帯の生活実態について調査結果から、国が定義する貧困世帯の対象となる「所得層Ⅰ」と基準を上回る世帯「所得層Ⅱ」とを比較分析しながら「所得層Ⅰ」の現状を明らかにし分析しました。

※所得層は P6「7 低所得層（所得層Ⅰ）の算出について」参照

（１）所得層Ⅰの状況

○貧困層の割合

国が定義する貧困世帯の対象となる「所得層Ⅰ」の該当割合は、５歳児・小学５年生・中学２年生調査の３学年全体では 9.6%、ひとり親世帯での「所得層Ⅰ」は 41.6%となっています。【第２章 P17～P18】

（２）子どもの学習意欲と将来について

○子どもに希望する最終学歴

子どもに希望する最終学歴を「大学またはそれ以上」と回答した割合をみると、３学年全体の所得層Ⅱでは 39.8%であるのに対し、所得層Ⅰは 21.2%であり、約半数となっています。【第２章 P25 問 11】

○授業の理解度

授業の理解が困難（「わからないことが多い」＋「わからない」）の割合を所得層別にみると、小学５年生では所得層ⅠがⅡより4.6^{ポイント}高く、中学２年生では所得層ⅠがⅡより17.3^{ポイント}といずれも上回っています。【第３章 P97 問 17】

○『がんばれば、むくわれる』と思う気持ち

自分自身の思いや気持ちをみると、『がんばれば、むくわれる』と思う（「とてもそう思う」＋「思う」）割合を所得層別にみると、所得層Ⅰの小学５年生が76.9%、中学２年生が55.8%となり、いずれも所得層Ⅱ（82.9%・75.1%）を下回っています。【第３章 P105 問 24】

○『学校に行きたくない』と思った割合

『学校に行きたくないと思ったこと』が「よくあった」と「時々あった」を合わせた割合は、所得層Ⅱの小学５年生 40.5%、中学２年生 46.4%に対し、所得層Ⅰでは小学５年生 52.3%、中学２年生 67.3%とそれぞれ 11.8^{ポイント}、20.9^{ポイント}高くなっています。いずれも、中学生になると上昇していますが、世帯別にみると、小学５年生、中学２年生ともに、ひとり親世帯の割合が 52.4%、60.0%と高くなっています。【第３章 P106 問 25】

頑張ればむくわれると思う子の数が中学２年生に所得層で大きな差があらわれているほか、学習意欲、授業の理解度について、親の経済状況が一定程度影響しているものと考えられます。また、経済的理由から進学をあきらめている世帯も一定数いると考えられます。

(3) 生活の状況

○子どもの居場所について

『(家以外で) 休日に夜までいることができる場所』があれば「行く」、「行ってみたい」と回答した割合は、ひとり親世帯 47.7%と半数近くを占めています。

【第3章P107問26】

○保護者の健康状態

所得層別にみる保護者の健康状態は、「どちらかといえばよくない」と「よくない」を合わせた割合は所得層Ⅰが16.6%、所得層Ⅱの8.4%に対し約2倍となっています。また、ひとり親世帯では、「どちらかといえばよくない」と「よくない」を合わせた割合が16.2%、準要保護・生活保護世帯では18.8%となっており、3学年全体に対して高くなっています。【第2章P33問15】

○保護者の心の状態

三学年全体の保護者の過去1ヶ月の心の状態をみると、「将来に希望が持てない(いつも+たいてい)」の割合は所得層Ⅰが23.2%、所得層Ⅱが8.5%となっており、「気分が沈みこんで、何が起こっても気が晴れない」の割合は所得層Ⅰが17.2%、所得層Ⅱが5.3%となっており、所得層Ⅰの割合が高くなっています。また、ひとり親世帯及び準要保護・生活保護世帯の「将来に希望が持てない(いつも+たいてい)」の割合がそれぞれ27.3%、28.1%となっており、三学年全体より高くなっています。【第2章P34問16】

○医療機関を受診させなかった理由

医療機関を受診させなかった理由において、「公的医療保険に加入していたが、医療費を支払うことができないと思ったため」が8.5~14.9%となっています。

【第2章P40問19】

世帯の経済状況と心身の健康において相関関係があるものと推察されます。

(4) 低所得層における経済の状況

○借金をして生活している割合

3学年全体の「所得層Ⅰ」の家計状況をみると、借金をして生活している世帯が11.9%となっています。一方、「所得層Ⅱ」は5.7%となり、「所得層Ⅰ」の割合が2倍以上高くなっています。【第2章P64問29】

○食料が買えなかった経験

所得層別の過去1年間に食料が買えなかった経験をみると、所得層Ⅰでは「よくあった」「ときどきあった」「まれにあった」を合わせた割合は40.4%となり、所得層Ⅱ(14.6%)を大きく上回っています。【第2章P66問30】

○衣類が買えなかった経験

所得層別の過去1年間に衣類が買えなかった経験をみると、所得層Ⅰでは「よくあった」「ときどきあった」「まれにあった」を合わせた割合は39.7%となり、所得層Ⅱの約2倍となっています。【第2章P67問31】

(5) 保護者の雇用状況と所得への影響

○雇用形態と世帯の所得

父親及び母親が「正規の職員・従業員（正社員・正職員）」で就業していると回答したそれぞれの割合は、所得層Ⅱの87.5%、37.3%に対し、所得層Ⅰでは65.0%、22.9%と22.5^{ポイント}から4.4^{ポイント}低くなっており、保護者の雇用状況が所得状況へ一定程度影響していることがうかがえます。

【第2章P29問13】

(6) ひとり親・保護家庭の現状

○家庭状況の連鎖

ひとり親・保護世帯では、親の最終学歴、中学3年での暮らし向き、中学3年での成績のいずれも調査対象全体に比べて低い傾向があり、相関関係がうかがえます。

【第2章P72～74問36～39、第4章P135、136問36～39】

○ひとり親の家庭状況の連鎖

ひとり親・保護世帯では、中学3年ごろの家庭の様子で、ひとり親世帯だった割合が、調査対象全体に比べて高めにあり、ひとり親世帯出身者が親になりひとり親世帯になる割合が一定程度いることが推察されます。

【第2章P73問37、第4章P135問37】

○悩みの相談相手

悩みの相談相手について、調査対象全体では「配偶者・パートナー」が最も多いのに比べて、ひとり親・保護世帯では「自分の親」が最も多くなっている。

ひとり親・保護世帯では「相談できる相手がいない」「病気時等に子どもの面倒をみってくれる人がいない」がそれぞれ10%以上あり、調査対象全体に比べて割合が高く、子育て等で孤立の傾向がうかがえる。

【第2章P60問26、P62問27、第4章P128問26、問27】

○ひとり親・保護世帯の時間的負担

ひとり親・保護世帯は、時間に余裕がなく、子どもを病院に連れて行くことが難しかったり、朝食を食べる習慣がない割合が高かったりする傾向がある。

【第4章P120～122問19、20】

ひとり親世帯の41.6%は「所得層Ⅰ」であり、3学年全体の約4倍となっています。各設問の結果より、ひとり親・保護世帯の生活における時間的、精神的、経済的負担の多さがうかがえます。

(7) 公的制度の周知と利用

○進学時の奨学金の利用希望

進学時の奨学金を「利用したいと思う」と回答した割合は、3学年全体で 21.4%、所得層Ⅰでは 35.1%、ひとり親世帯 30.7%となっています。

所得層Ⅰで「利用したいが所得面で要件を満たさないのではないかと思います」が 5.3%となっており、制度の認知度の低さがうかがえます。【第2章 P76 問 42】

○子どもに関する施策等の情報について希望する入手方法

子どもに関する施策等の情報について希望する入手方法をみると、学年別保護者及びひとり親・保護者世帯も「市の広報」、「学校・保育所・幼稚園からのチラシ」からが約 8 割となっていますが、SNS（LINE、ツイッターなど）からの情報入手も約 1 割を占めています。情報収集においては様々な媒体が利用されております。

【第2章 P78 問 43、第4章 P138 問 43】

○困ったときに相談する公的機関

困ったときに相談する公的機関のうち民生委員、社会福祉協議会に相談しない割合が 69%～76%と高くなっており、地域や関係機関の支援制度の認知度がうかがえます。【第2章 P79～81 問 44】

11 調査結果を踏まえた今後の課題

前述した調査結果による現状を踏まえ、次のように課題を整理しました。

(1) 教育の支援

当市においては、調査結果によると、学習意欲について所得層ⅠとⅡの差が11.8^{ポイント}～20.9^{ポイント}となっており、また、頑張ればむくわれると思う子の数が、中学2年で所得層Ⅰが所得層Ⅱを約2割下回っており、授業の理解度も、所得層ⅠとⅡの差が4.6～17.3^{ポイント}となっています。家庭の経済状況が、学習意欲や自己肯定感に影響していることが読み取れることから、子ども学習意欲や自己肯定感向上のため、子どもの感情や情緒面等を考慮しながら、その家庭や学校環境を踏まえ、庁内関係機関や専門機関等との連携を図り、保育施設や学校を窓口として、早期の段階で生活支援や福祉制度につなげていく体制づくりが必要です。

また、子どもの最終学歴を「大学またはそれ以上」と希望する割合が、所得層Ⅰが所得層Ⅱの約半数となっており、経済的理由から進学をあきらめている世帯が一定数いると考えられることから、家庭の経済状況にかかわらず、安心して希望する高等教育を受けることができる支援が必要です。

(2) 生活の支援

子どもが安心して生活するためには、心身の健康、家庭など安全快適に過ごせる場所が必要となります。子どもが安心できる居場所、気軽に相談できる場所づくりが必要です。

調査結果から、保護者の健康状態がよくない割合が所得層Ⅰは所得層Ⅱに比べて約2倍となっており、また、心の状態も「将来に希望が持てない」、「気分が沈みこんで、何が起ころうとも気が晴れない」と感じる割合が所得層Ⅰは所得層Ⅱに比べて約3倍と高い傾向にあることから、早期対応により親子の心身の不安を柔らげ、安心して子育てできるよう、関係機関との連携など相談体制の充実による生活の支援が必要となります。

また、医療費の支払いができないため子どもを医療機関に受診させなかった経験のある保護者が8.5～14.9%いることから、安心して受診できる支援が必要となります。

『(家以外で) 休日に夜までいることができる場所』があれば「行く」、「行ってみたい」と回答した割合は、ひとり親世帯47.7%と半数近くを占めていることから、子どもが安心できる居場所、気軽に相談できる場所づくりが必要です。

(3) 困窮世帯への経済的支援

調査結果から、必要な食料が買えなかった経験、衣料が買えなかった経験のある割合が、それぞれ所得層Ⅰでは40.4%、39.7%となっており、また借金等をして生活している割合は所得層Ⅰが11.9%と所得層Ⅱの2倍以上となっており、経済的な悩みをかかえている世帯が一部にあることがうかがえます。

こうした家庭に対して、行政の支援のみならず社会福祉協議会の生活困窮者自立支援事業等、適切な支援の制度への理解や利用に結び付けるための取り組みが必要です。

(4) 保護者の就労の支援

調査結果によると、父親または母親が「正規の職員・従業員（正社員・正職員）で就業していると回答した割合は所得層Ⅰが所得層Ⅱよりそれぞれ22.5～4.4^{ポイント}低いことから、「所得層Ⅰ」に陥る大きな要因として、保護者が非正規雇用、または離職中であることがあげられます。

貧困から抜け出すための支援として、非正規雇用、または離職中の父親・母親に対する就労支援は不可欠であり、スキルアップ支援事業の充実やハローワーク等の機関との連携を通して、企業の求人の紹介など就労支援に向けた積極的な対策が必要です。

(5) ひとり親世帯等への支援

調査結果から、ひとり親・保護世帯は、時間に余裕がなく、行くことが難しかったり、朝食を食べる習慣がない割合が高かったりする傾向があり、また「相談できる相手がない」「病気時等に子どもの面倒をみってくれる人がいない」がそれぞれ10%以上あり、ひとり親世帯の41.6%は「所得層Ⅰ」であり、3学年全体の約4倍となっていることから、時間的、精神的、経済的負担の多さがうかがえます。

また、ひとり親・保護世帯では、親の最終学歴、中学3年での暮らし向き、中学3年での成績のいずれも調査対象全体に比べて低い傾向があり、次世代への影響がうかがえます。

親の不安解消や時間的な余裕が、安定した子育てにつながることから、気軽に相談できる体制及び健康を維持しながら自立した生活ができる家庭環境づくりのための支援が必要です。

(6) 行政と地域等が連携した支援活動

調査結果から、所得層Ⅰとひとり親世帯等では、進学時の奨学金を「利用したいと思う」と回答した割合は高いが所得層Ⅰで「利用したいが所得面で要件を満たさないのではないかと思う」が5.3%となっており、制度の認知度の低さがうかがえます。また、困ったときに相談する公的機関のうち民生委員、社会福祉協議会に相談しない割合が69%～76%と高くなっており、地域や関係機関の支援制度の認知度の低さがうかがえます。

このことから、公的制度や関係機関の支援制度の周知や案内、地域や関係機関等との連携など包括的な支援活動のためのネットワークの強化が必要となります。また、支援活動を行う上で公的制度や子育て支援活動等を利用するだけで解決できる生活課題もあることから、保護者の子育ての悩みや不安の軽減、地域からの孤立の解消のため、子育て支援に係わる公的制度や子育て支援活動等の利用に関する周知などそれぞれの世帯状況に寄り添う相談体制の充実が必要です。

第 2 章

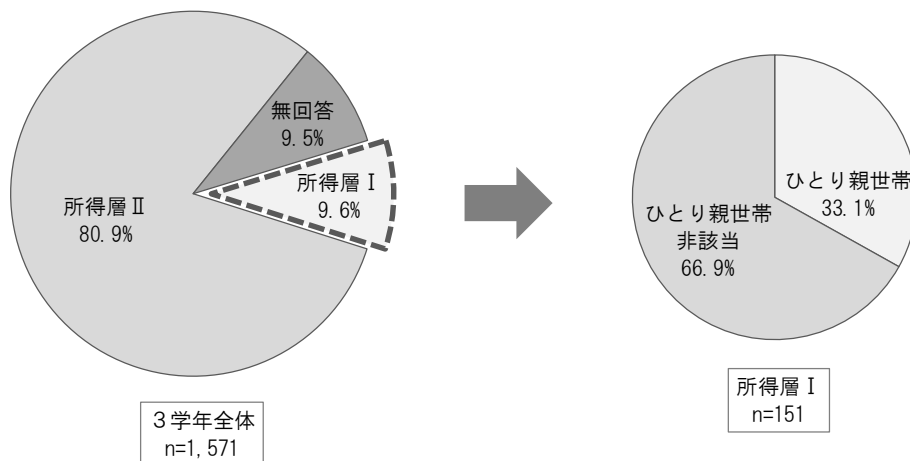
保護者調査の結果

第2章 保護者調査の結果

1 貧困世帯基準への該当状況

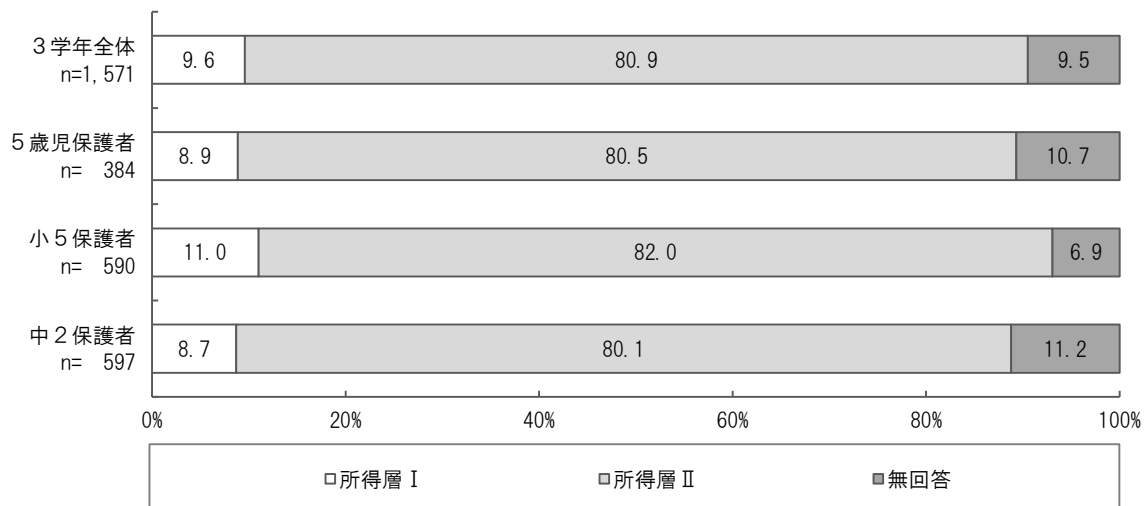
○5歳児・小学5年生・中学2年生の保護者回答者のうち、「所得層Ⅰ」の該当世帯は9.6%となっています。また、該当世帯の33.1%が「ひとり親世帯」となっています。

■ 貧困世帯基準該当の状況

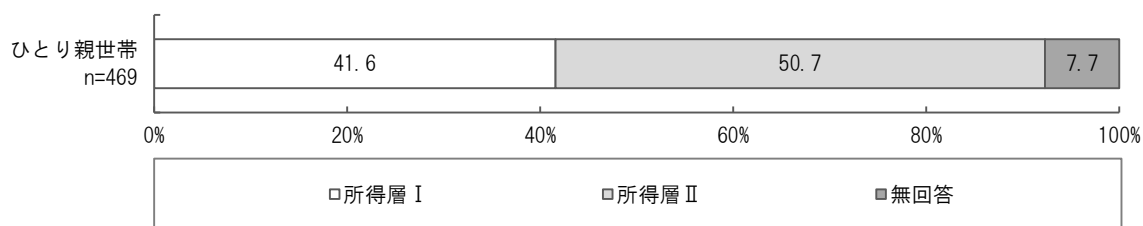


※3学年全体…①、②、③、④、⑤、⑥(P5参照)の調査票に回答した方を合計しています。

■ 貧困世帯基準該当の状況（学年別）

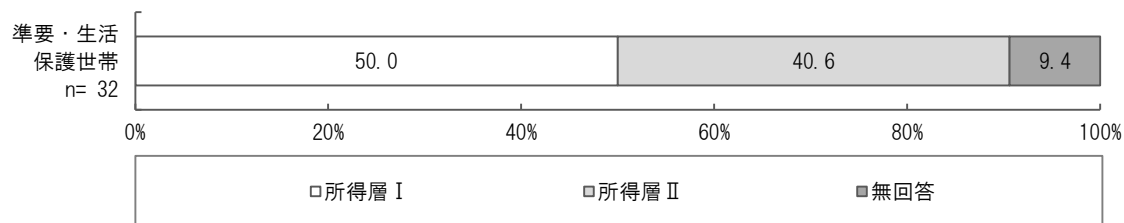


■ 貧困世帯基準該当の状況（ひとり親世帯）

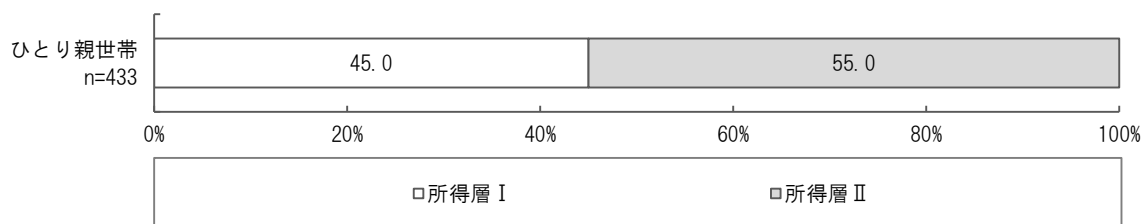


※ひとり親世帯…②、④、⑥、⑧(P5参照)の調査票に回答した方を合計しています。

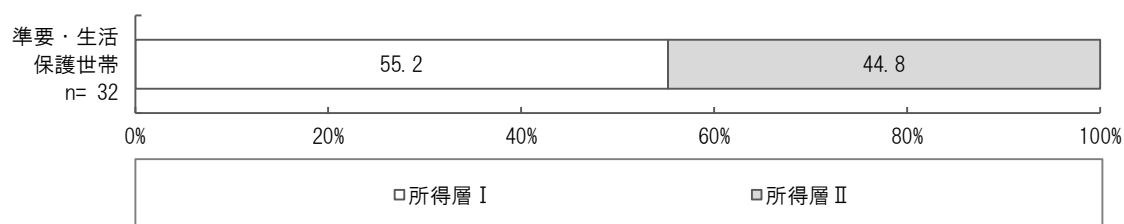
■ 貧困世帯基準該当の状況（準要保護・生活保護世帯）



■ 貧困世帯基準該当の状況（ひとり親世帯、除く無回答者）



■ 貧困世帯基準該当の状況（準要保護・生活保護世帯、除く無回答者）

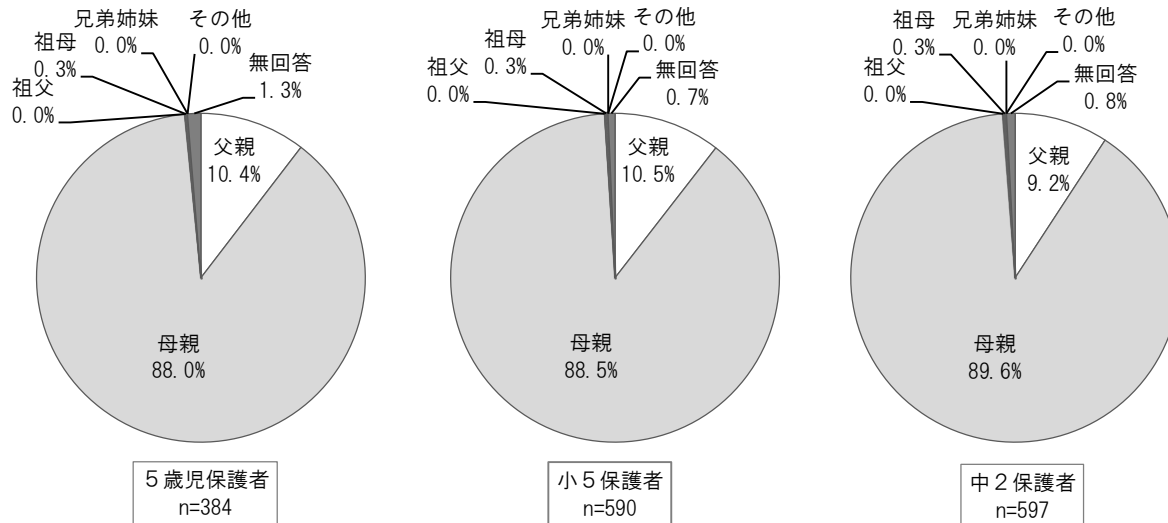


2 5歳児・小学5年生・中学2年生の保護者の調査結果

(1) 回答者の基本情報等

○本調査への回答者は、いずれの学年も「母親」が88.0～89.6%と大多数を占め、次いで「父親」が9.2～10.5%となっています。

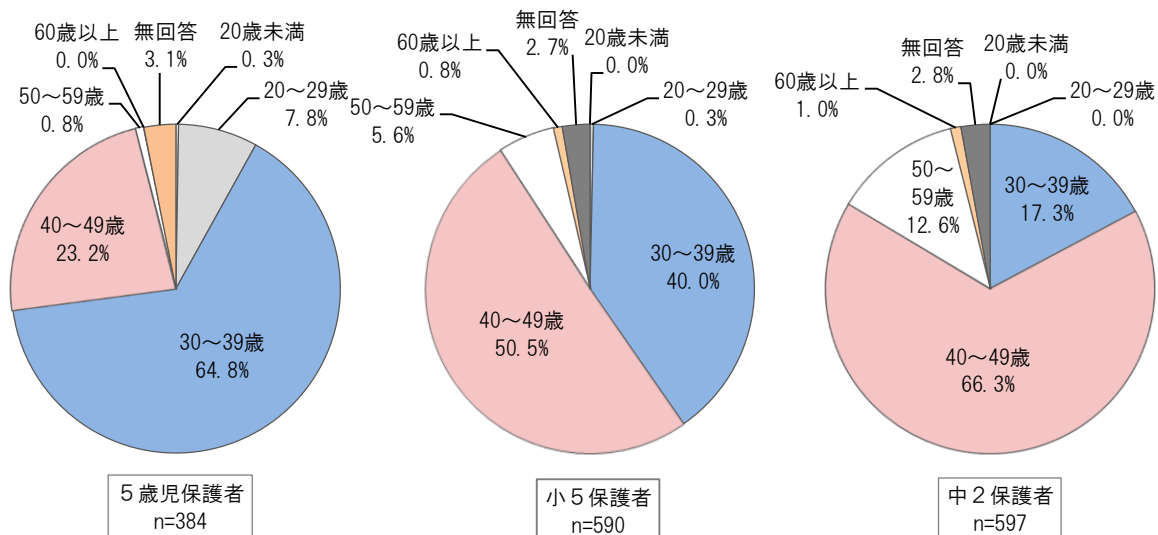
問1 調査への回答者（子どもから見た属性）



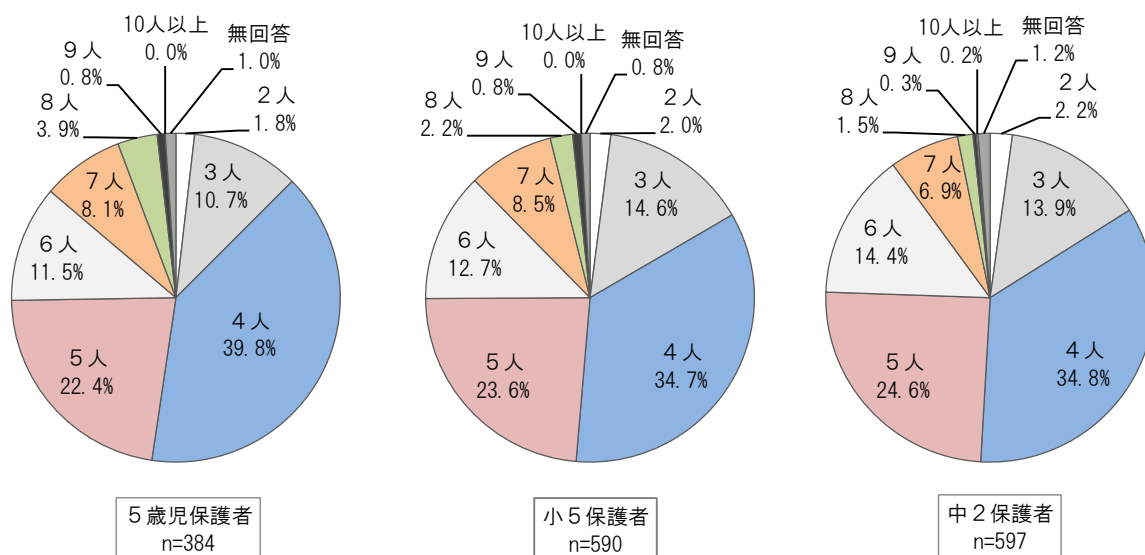
○回答者の年齢は、5歳児保護者では「30～39歳」が64.8%、小5保護者・中2保護者では「40～49歳」が50.5%・66.3%で最も高くなっています。

○同居している家族の人数をみると、いずれの学年も「4人」が3割台と最も高く、次いで「5人」が2割台となっています。

問2 回答者の年齢



問5 同居している家族の人数

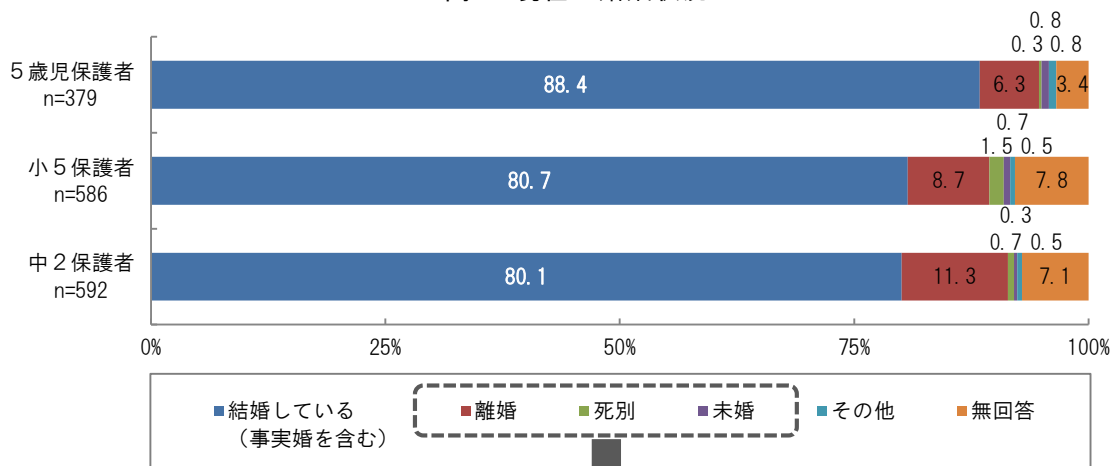


○現在の婚姻状況は、いずれの学年も「結婚している（事実婚を含む）」が8割台となっています。離婚・死別・未婚と回答している方はいずれの学年も1割前後となっています。

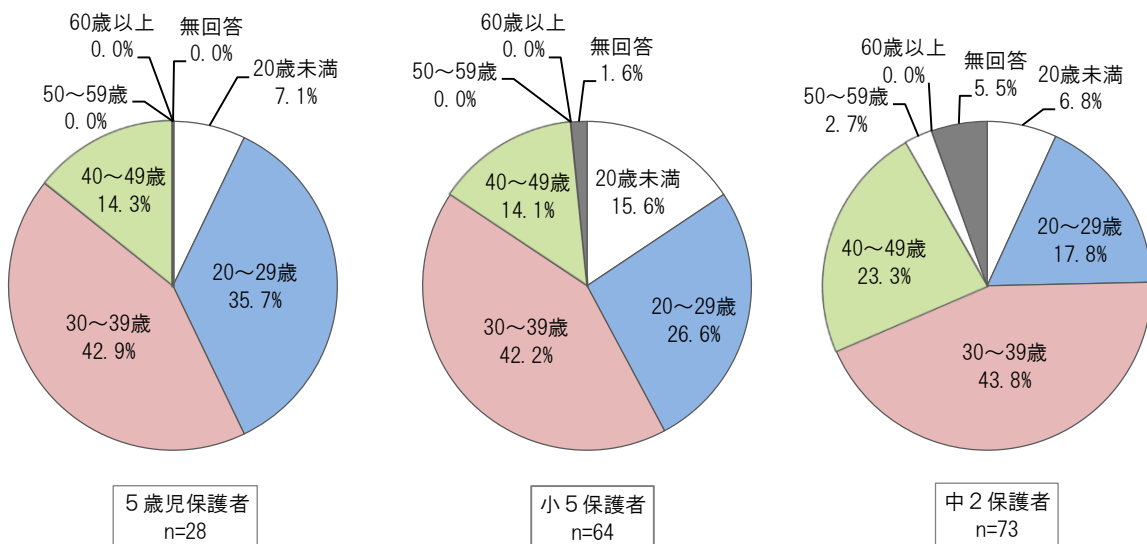
○ひとり親家庭になった年齢をみると、いずれの学年も「30～39歳」が4割台と最も高く、次いで「20～29歳」となっており、子育てと就労の負担が大きい世代の割合が高くなっています。

問1で「1. 父親」「2. 母親」「3. 祖父」「4. 祖母」と回答した方

問4 現在の婚姻状況



【ひとり親家庭になった年齢】

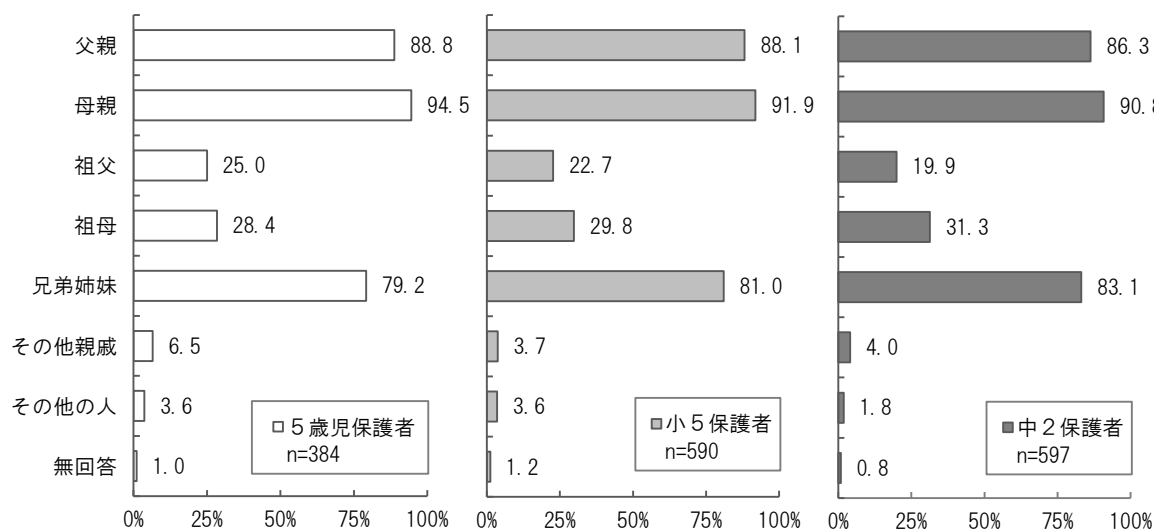


○同居している家族は、いずれの学年も「母親」「父親」が約9割、「兄弟姉妹」約8割となっています。

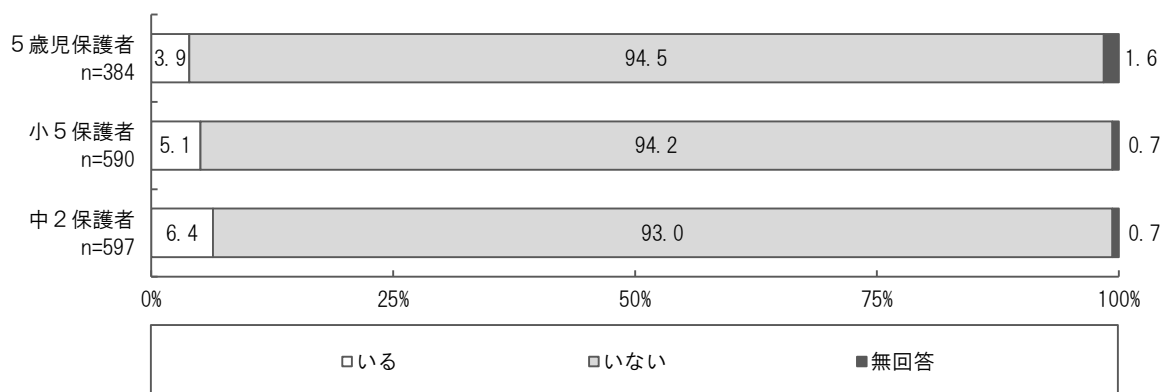
○同居家族のうち介護が必要な方の有無をみると、学年が上がるにつれ「いる」割合が3.9～6.4%と高くなっています。

○世帯が受けている公的支援をみると、「就学援助費」の支援を受けている割合が2.6～8.0%と高くなっており、学年が上がるにつれ負担が大きくなっています。

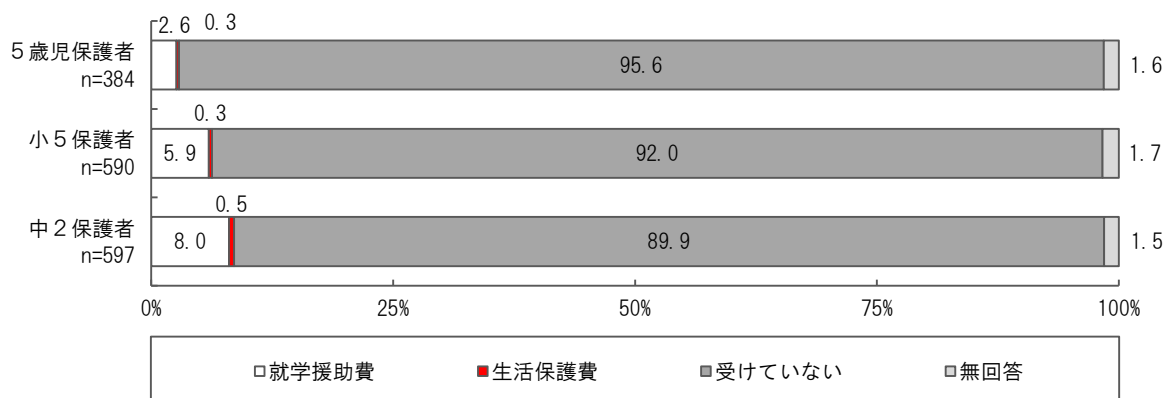
問6 同居している家族



問8 同居家族のうち介護が必要な方の有無



問9 世帯が受けている公的支援



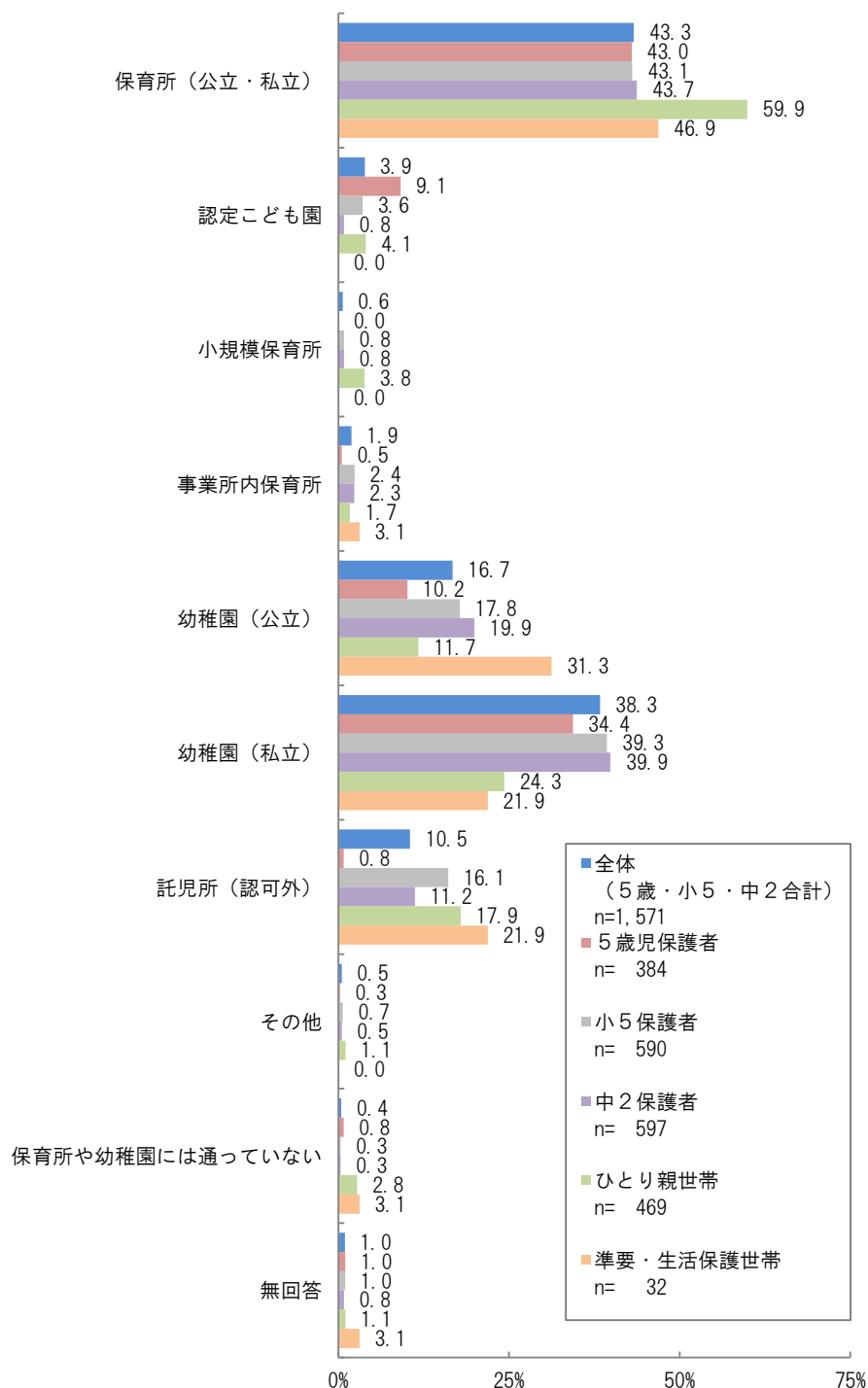
3 子どものことに関する調査結果

(1) 就学前の保育・教育の状況について

○通っている・通っていた保育所や幼稚園をみると、5歳・小5・中2では「保育所（公立・私立）」と「幼稚園（私立）」の利用割合の差は大きくないですが、ひとり親世帯では「保育所（公立・私立）」の割合が突出して高く、一方「幼稚園」の利用は公立・私立ともに低いことから、保育所のニーズが高い状況です。

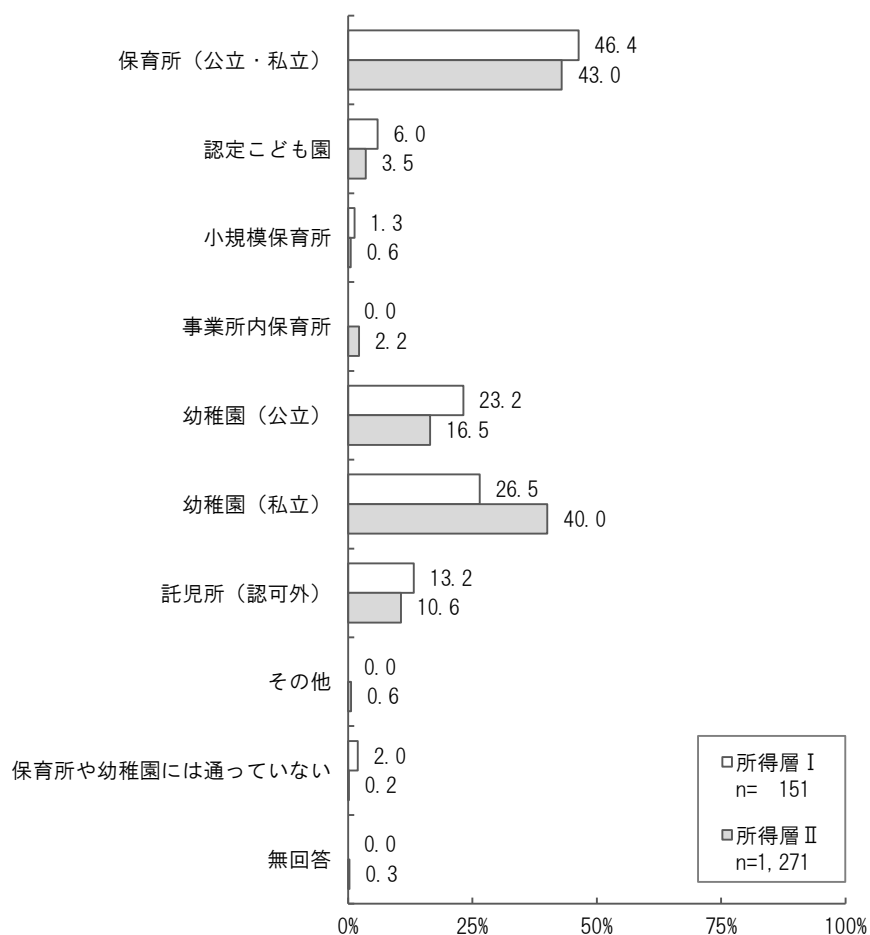
○また、準要保護・生活保護世帯では「幼稚園（公立）」の利用割合が、他の調査対象者より高くなっています。

問10 通っている・通っていた保育所や幼稚園（調査対象者別）



○通っている・通っていた保育所や幼稚園を所得層別にみると、所得層Ⅱに対し、所得層Ⅰでは「幼稚園（私立）」に通っている割合が所得層Ⅱよりも低く、ニーズに差が生じています。

問10 現在通っている保育所や幼稚園（3学年全体の所得層別）



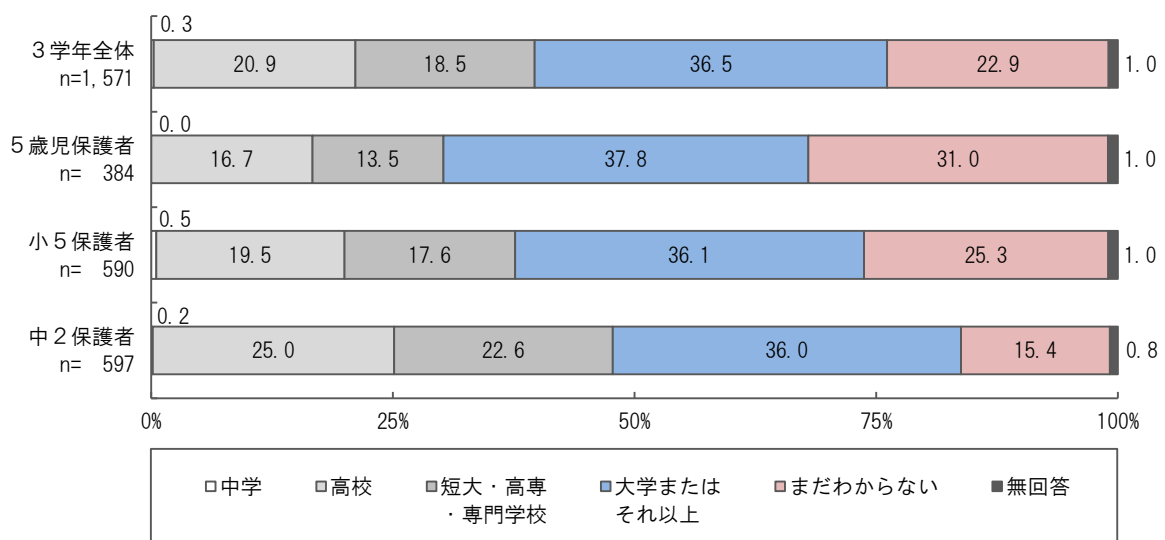
(2) 子どもの将来について

○希望する子どもの最終学歴は、いずれの学年も「大学またはそれ以上」が3割台と最も高くなっています。また、学年が上がるにつれ「高校」の割合が16.7～25.0%、「短大・高専・専門学校」の割合が13.5～22.6%と高くなり、「まだわからない」の割合は低くなっています。

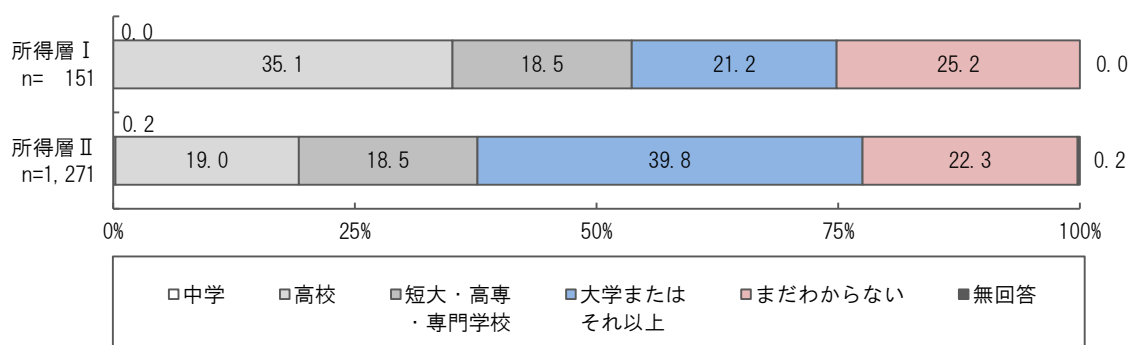
○所得層別にみると、所得層Ⅰでは「高校」(35.1%)、所得層Ⅱでは「大学またはそれ以上」(39.8%)と回答した割合が最も高くなっています。また、「高校」と「大学またはそれ以上」について所得層ⅠとⅡの差をみると、「高校」は(所得層Ⅰ:35.1%、所得層Ⅱ:19.0%) 16.1^{ポイント}差、「大学またはそれ以上」は(所得層Ⅰ:21.2%、所得層Ⅱ:39.8%) 18.6^{ポイント}であり差が大きくなっています。

◎所得層Ⅰの世帯では、所得層Ⅱの世帯に比べて、経済的理由から進学をあきらめている世帯も一定数いると推察されます。

問11 希望する子どもの最終学歴（学年別）



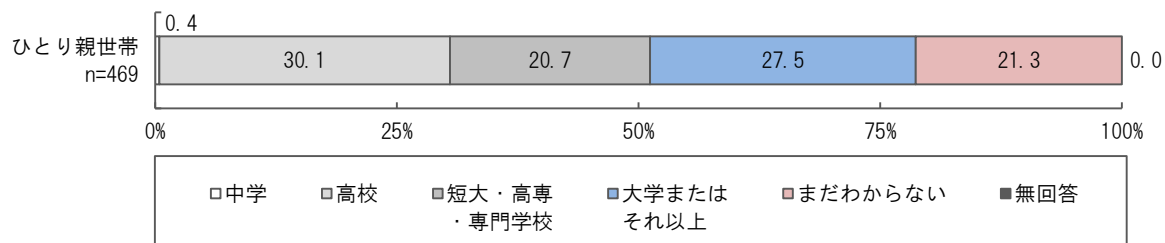
問11 希望する子どもの最終学歴（3学年全体の所得層別）



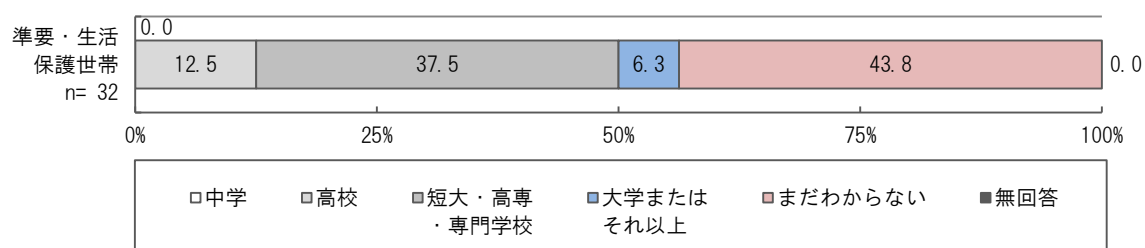
○ひとり親世帯の希望する子どもの最終学歴は、「高校」（30.1％）が最も高く、「大学またはそれ以上」（27.5％）については3学年全体に対し9.0^{ポイント}低く、「まだわからない」（21.3％）となっています。

○また、準要保護・生活保護世帯では、「まだわからない」（43.8％）が最も高く、次いで「短大・高専・専門学校」（37.5％）、「高校」（12.5％）となっており、「大学またはそれ以上」については、3学年全体に対し30.2^{ポイント}低くなっています。

問11 希望する子どもの最終学歴（ひとり親世帯）

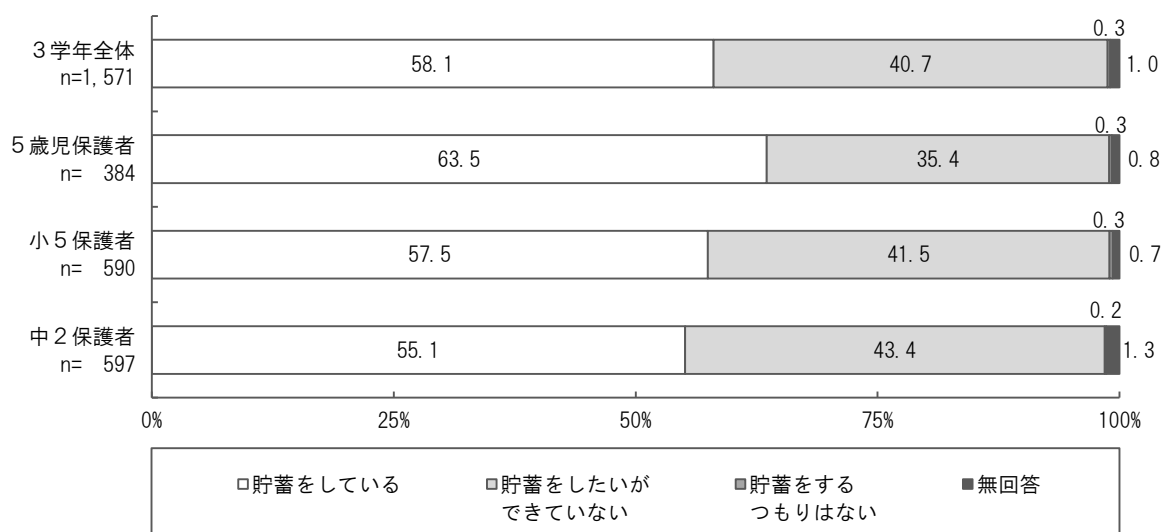


問11 希望する子どもの最終学歴（準要保護・生活保護世帯）



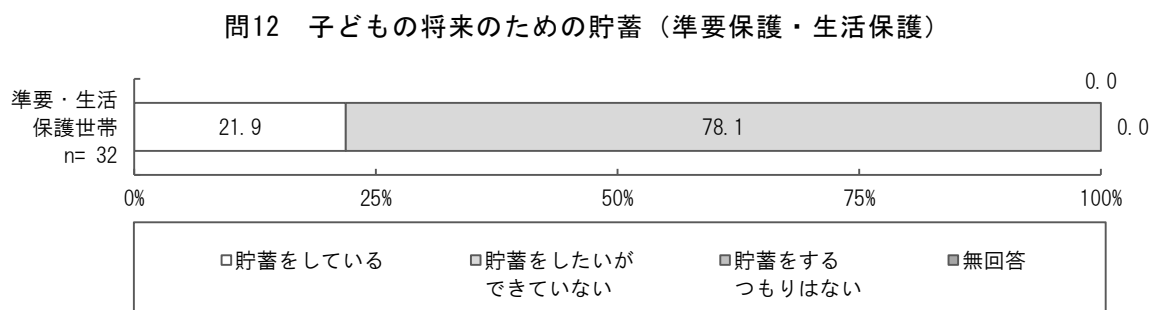
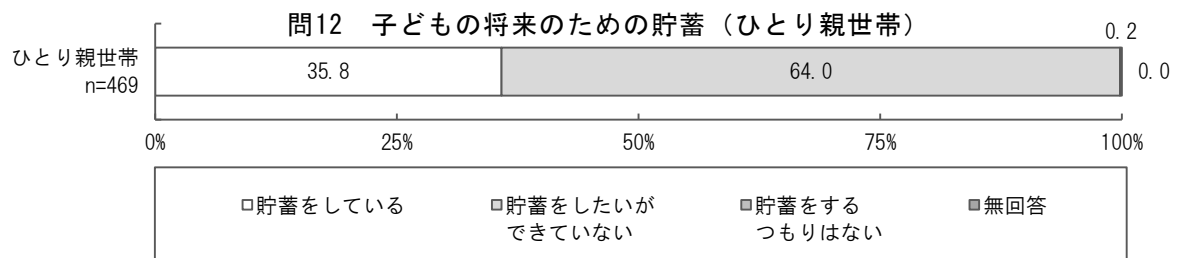
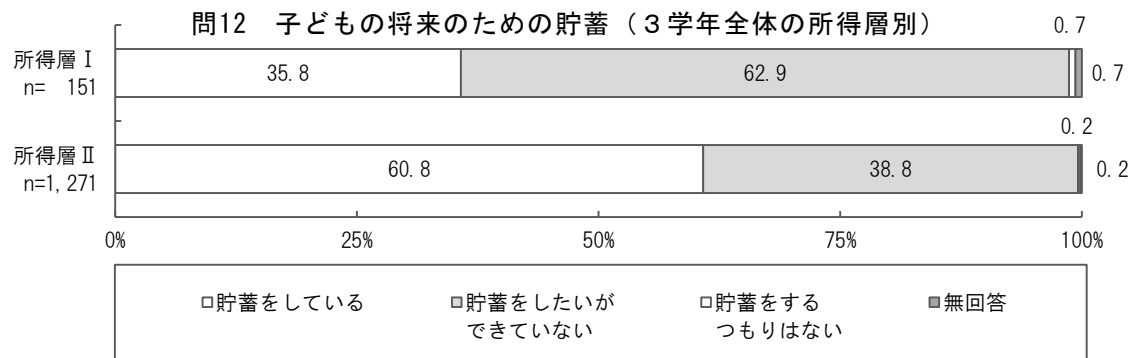
○子どもの将来のための貯蓄をみると、いずれの学年も「貯蓄をしている」（55.1～63.5％）が最も高くなっています。また、学年が上がるにつれ「貯蓄をしたいができていない」（35.4～43.4％）の割合が高くなっています。

問12 子どもの将来のための貯蓄



○子どもの将来のための貯蓄を所得層別にみると、所得層Ⅰでは「貯蓄をしたいができていない」(62.9%)、所得層Ⅱでは「貯蓄をしている」(60.8%)と回答した割合が最も高くなっています。また、「貯蓄をしている」と「貯蓄をしたいができていない」について所得層ⅠとⅡの差をみると、「貯蓄をしている」は(所得層Ⅰ：35.8%、所得層Ⅱ：60.8%)25.0^{ポイント}差、「貯蓄をしたいができていない」は(所得層Ⅰ：62.9%、所得層Ⅱ：38.8%)24.1^{ポイント}差と乖離が大きくなっています。

○また、ひとり親世帯・準要保護・生活保護世帯ともに、「貯蓄をしたいができていない」(64.0%・78.1%)が最も高く、次いで「貯蓄をしている」(35.8%・21.9%)となっています。

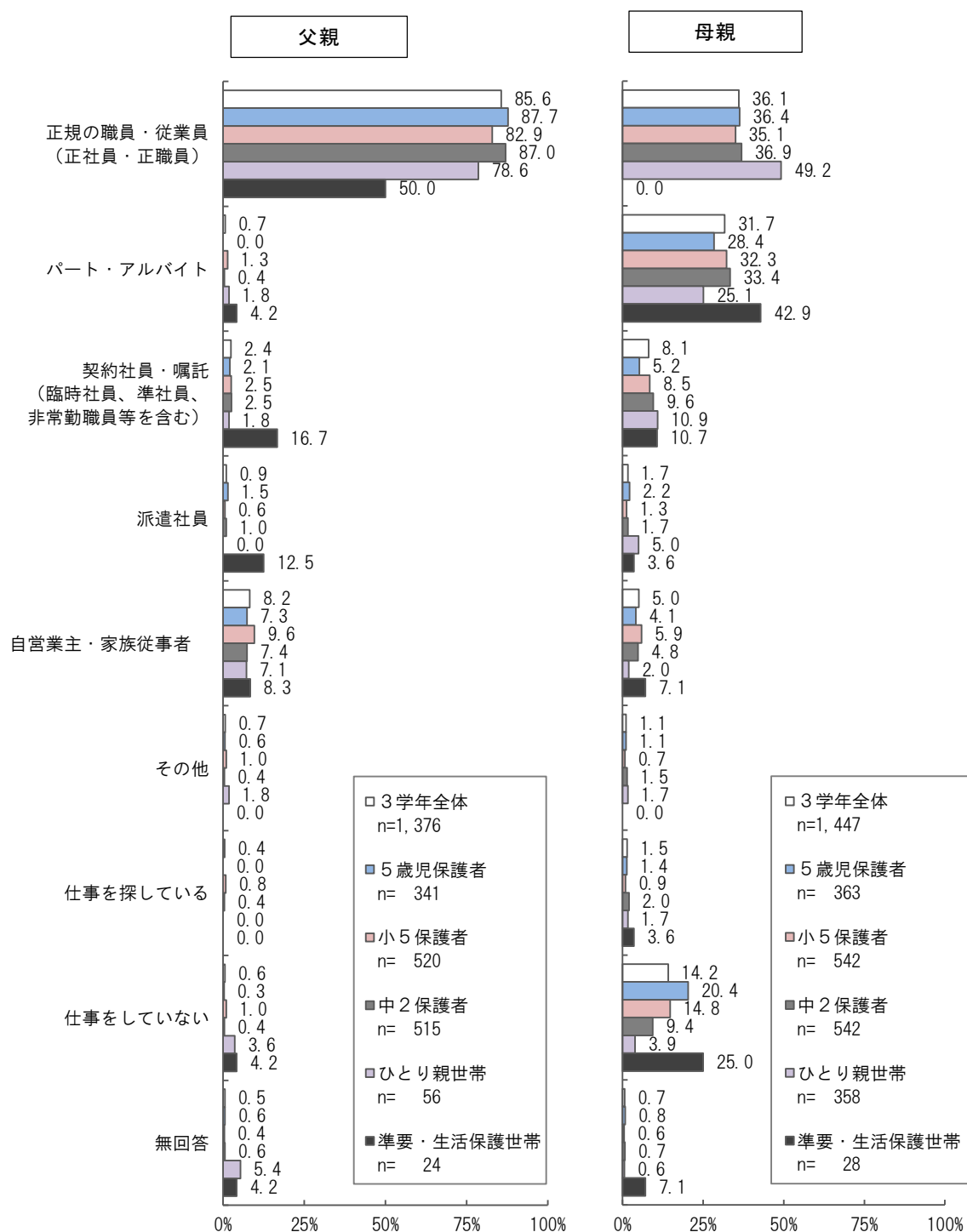


4 保護者の現在の就業状況について

○父親の現在の就業状況をみると、いずれの回答者区分も「正規の職員・従業員（正社員・正職員）」（50.0～87.7%）が最も高くなっています。

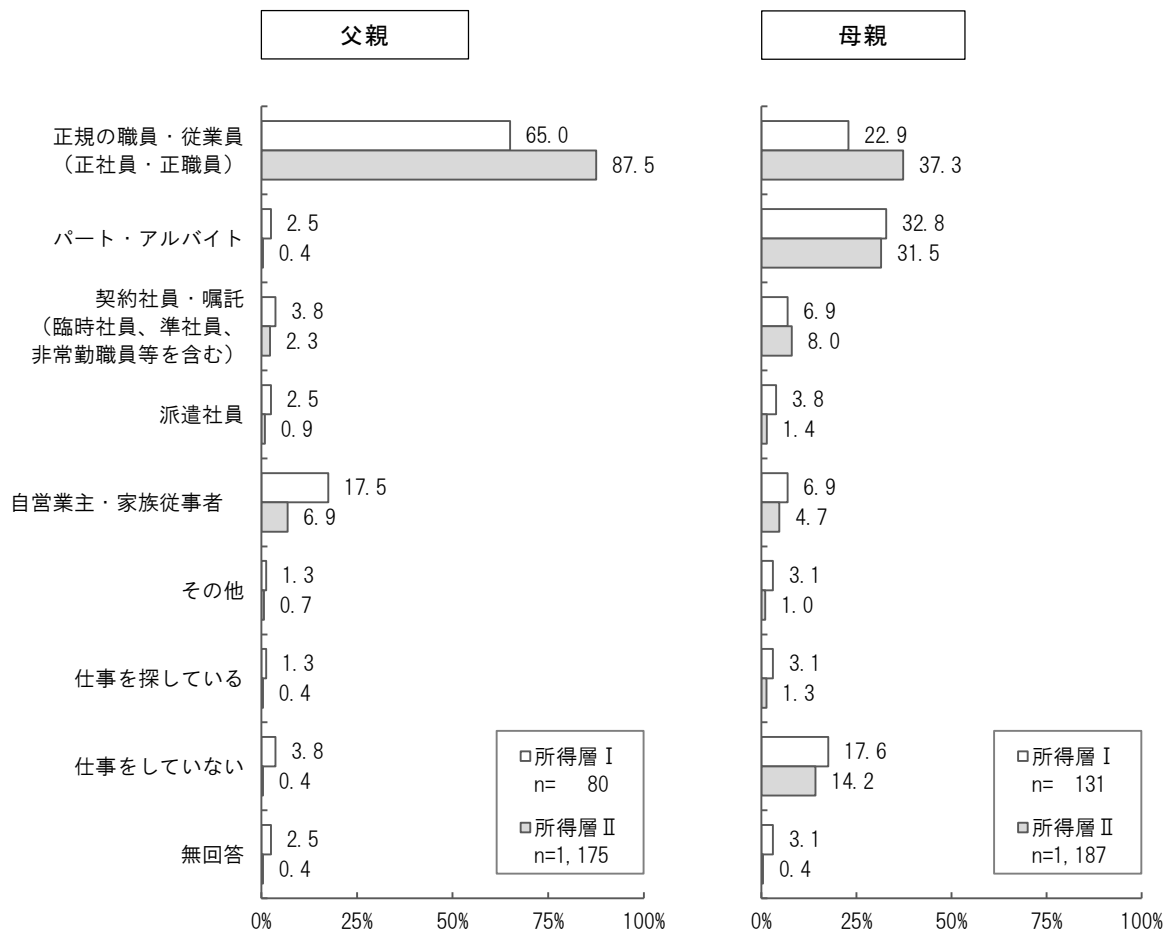
○母親の現在の就業状況をみると、ひとり親世帯では「正規の職員・従業員（正社員・正職員）」（49.2%）が他の回答者区分より高くなっています。

問13(1) 現在の就業状況（調査対象者別）



○所得層別にみると、「正規の職員・従業員（正社員・正職員）」の割合は、父親・母親ともに所得層Ⅱは所得層Ⅰよりも高くなっています。

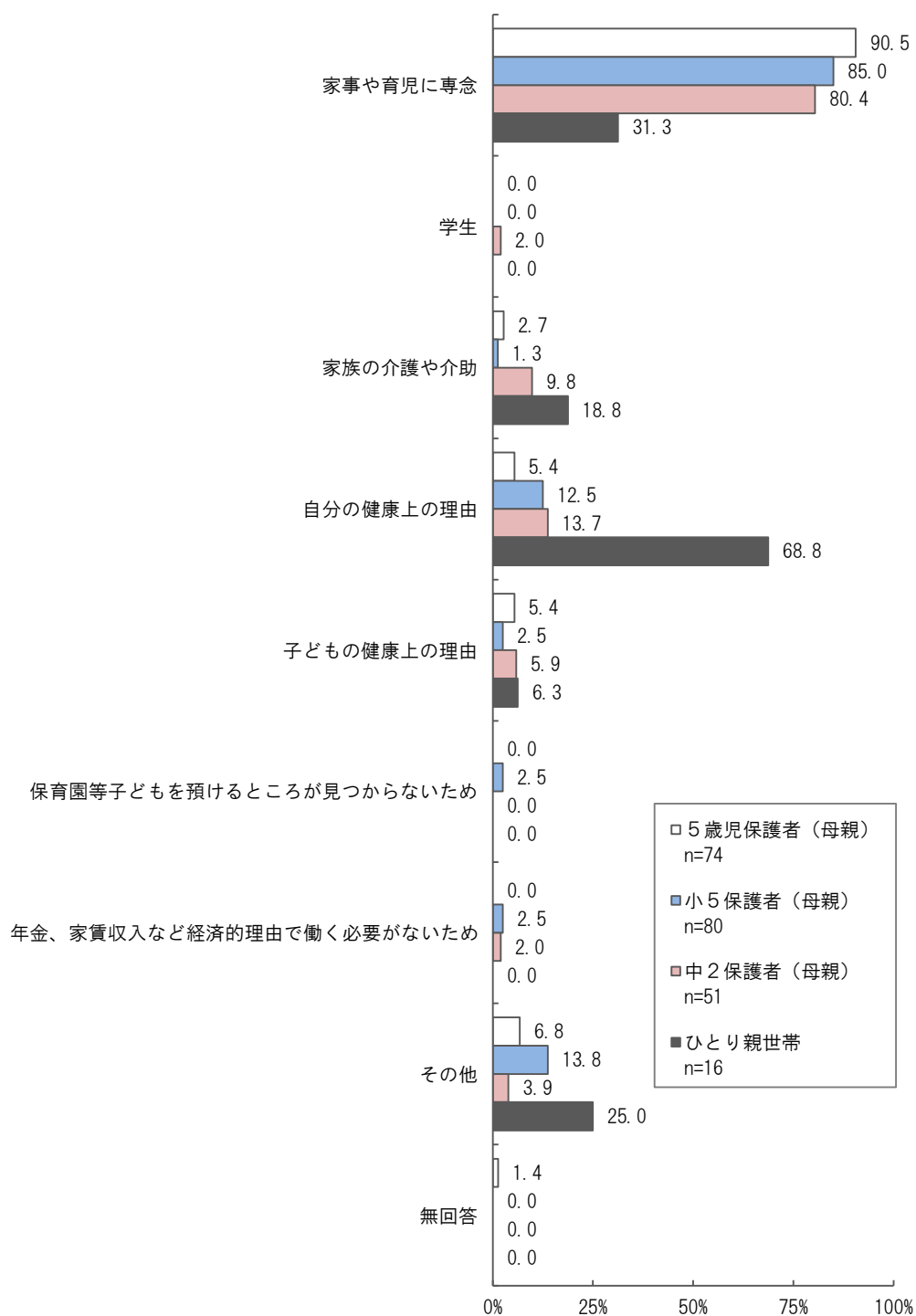
問13(1) 現在の就業状況（3学年全体の所得層別）



○母親の仕事をしていない理由は、いずれの学年も「家事や育児に専念」(80.4～90.5%)が最も高くなっています。

○また、ひとり親世帯では、「自分の健康上の理由」(68.8%)が最も高く、次いで「家事や育児に専念」(31.3%)となっています。

問13(2) 現在仕事をしていない理由（学年別母親・ひとり親世帯）（複数回答）



○母親とひとり親世帯の勤務時間帯をみると、いずれも「平日の日中（午前8時～午後8時）」が9割前後と最も高くなっています。

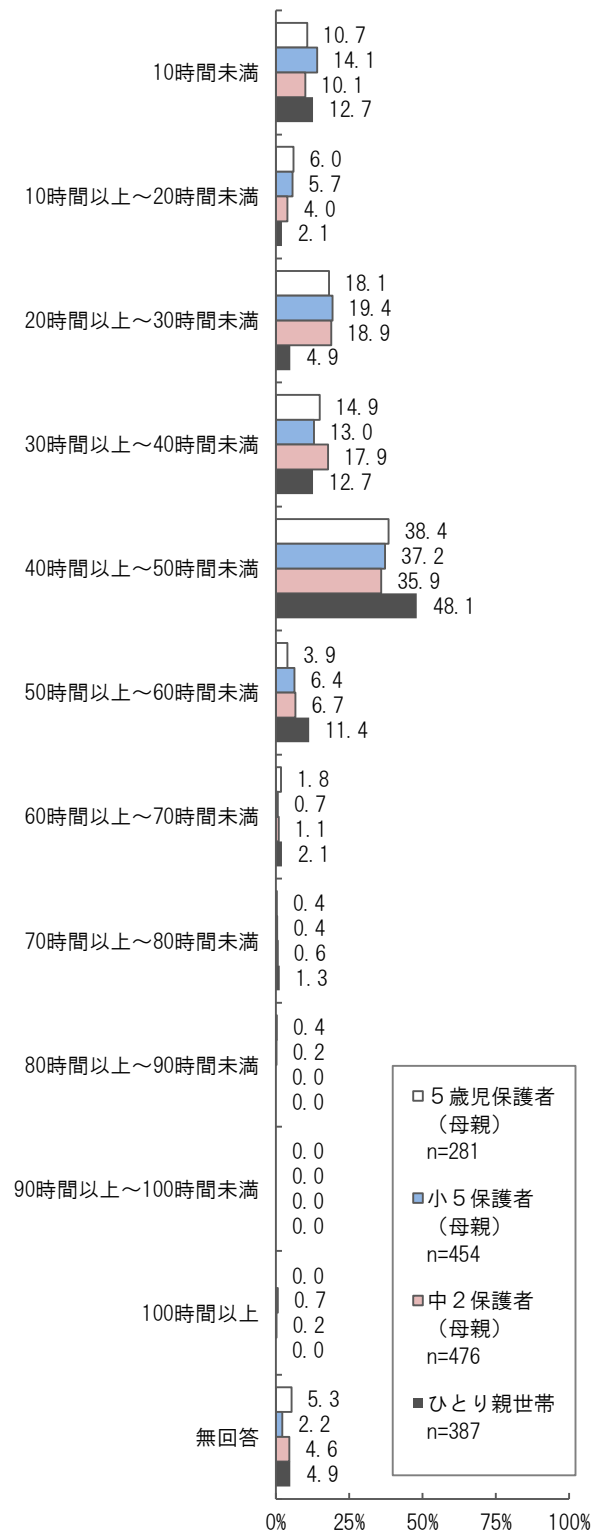
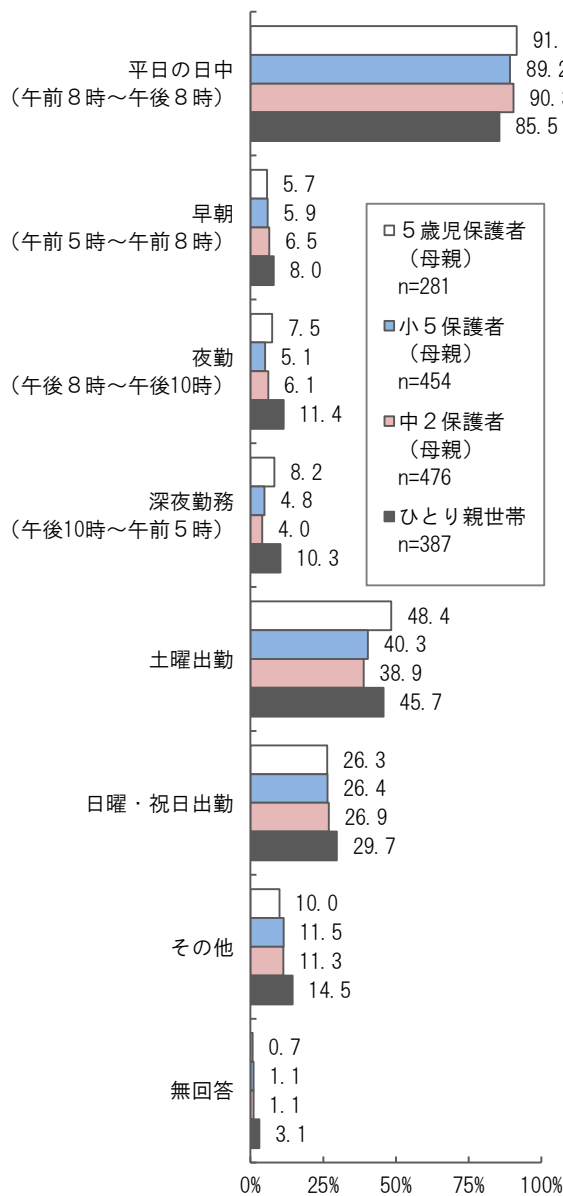
○1週あたりの労働時間は、「40時間以上～50時間未満」（48.1～35.9%）と回答した割合が最も高くなっています。

※ひとり親・保護世帯結果はP118 参照

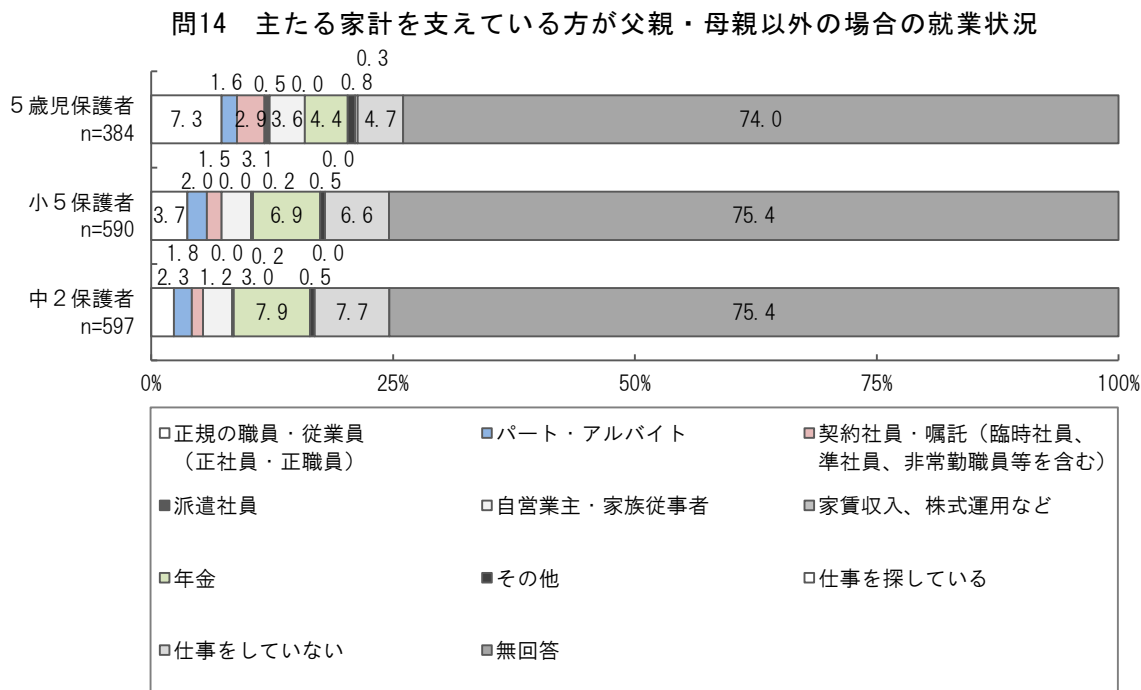
問13(3) 勤務時間帯

問13(4) 労働時間

（学年別母親・ひとり親世帯）

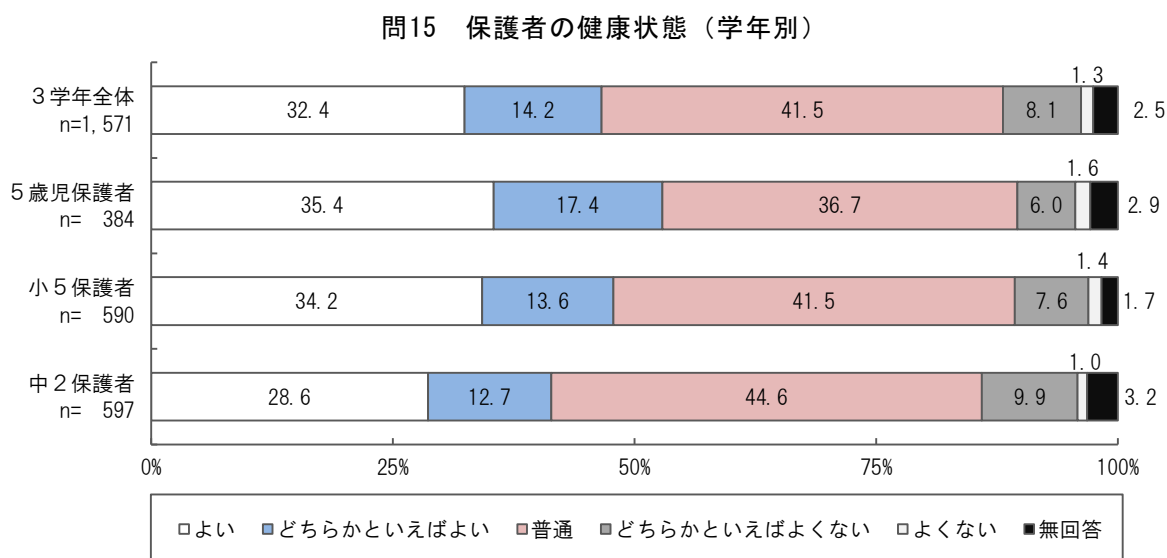


○父親・母親以外の方の就業状況をみると、「正規の職員・従業員（正社員・正職員）」と回答した方は7.3～2.3%と学年が上がるにつれ低くなっています。一方「年金」は4.4～7.9%、「仕事を探している」は4.7～7.7%と回答した方は学年が上がるにつれ高くなっています。



5 保護者（回答者）の健康状態について

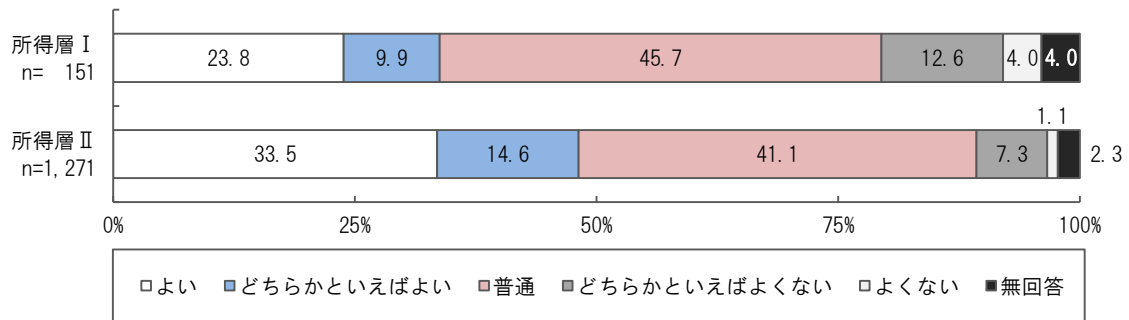
○保護者の健康状態をみると、「よい」と「どちらかといえばよい」を合わせた割合は41.3～52.8%と学年が上がるにつれ低くなっています。



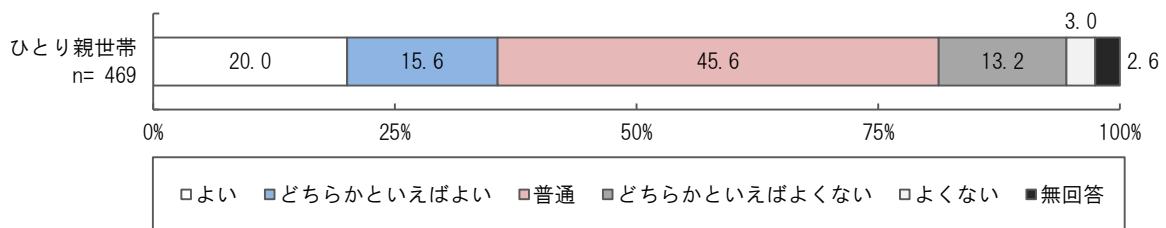
○所得層別にみる保護者の健康状態は、「どちらかといえばよくない」と「よくない」を合わせた割合が所得層Ⅰで16.6%、所得層Ⅱで8.4%となっており、所得層Ⅰは所得層Ⅱよりも健康状態がよくない傾向が見られます。

○また、ひとり親世帯では、「どちらかといえばよくない」と「よくない」を合わせた割合が16.2%、準要保護・生活保護世帯では18.8%となっており、3学年全体に対して高くなっています。

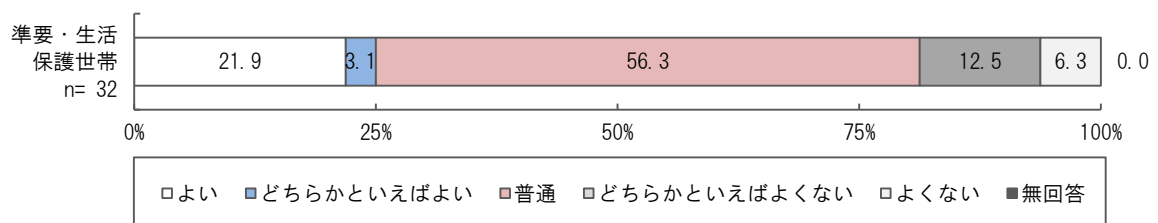
問15 保護者の健康状態（3学年全体の所得層別）



問15 保護者の健康状態（ひとり親世帯）

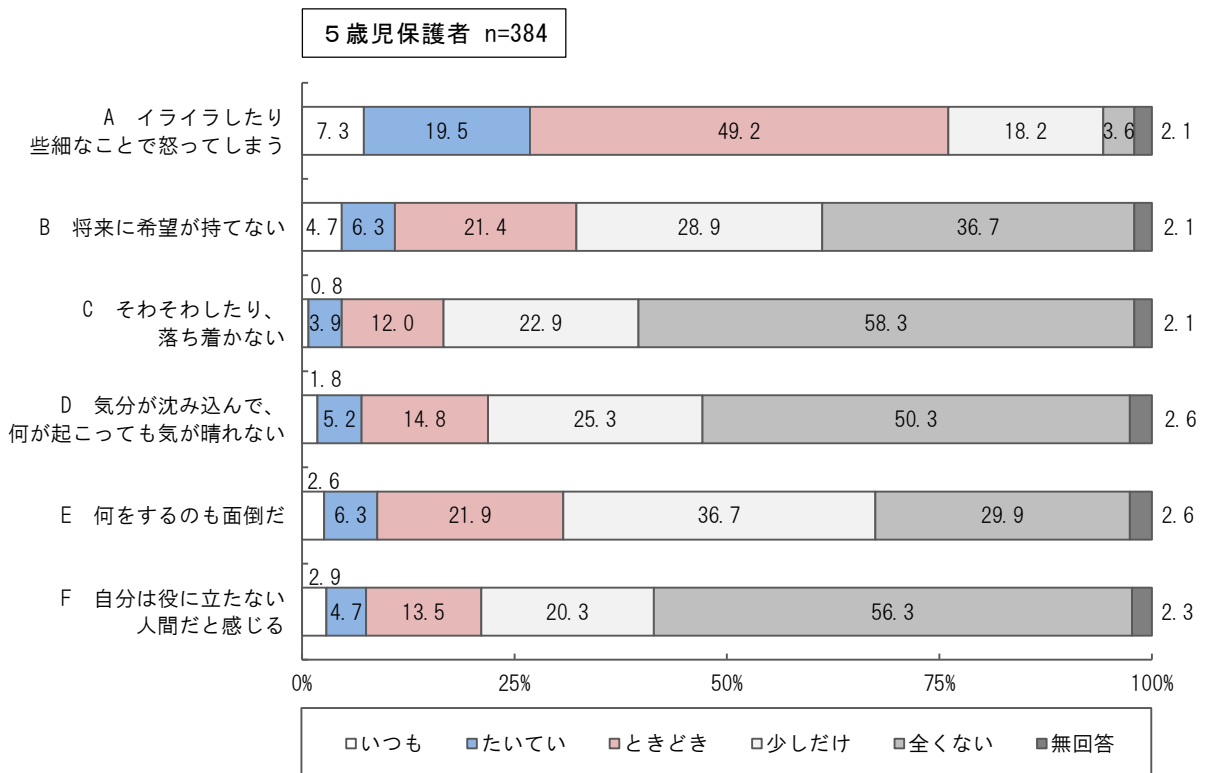
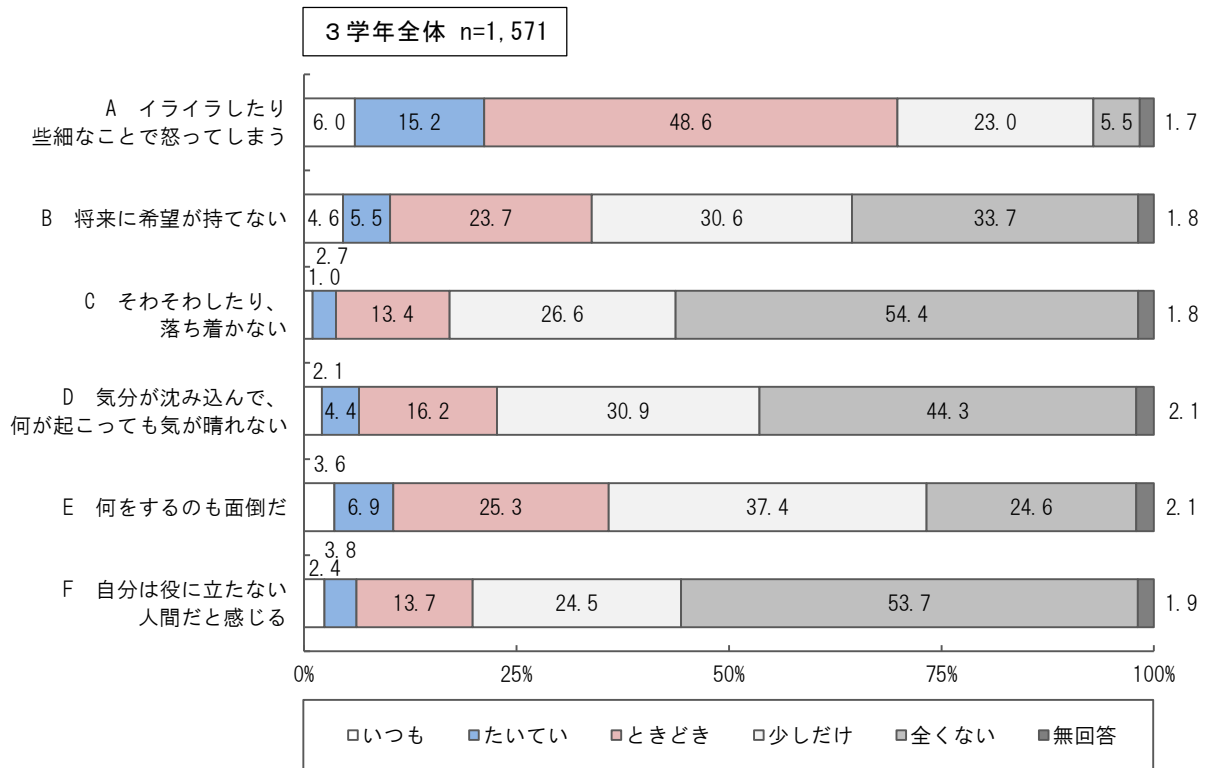


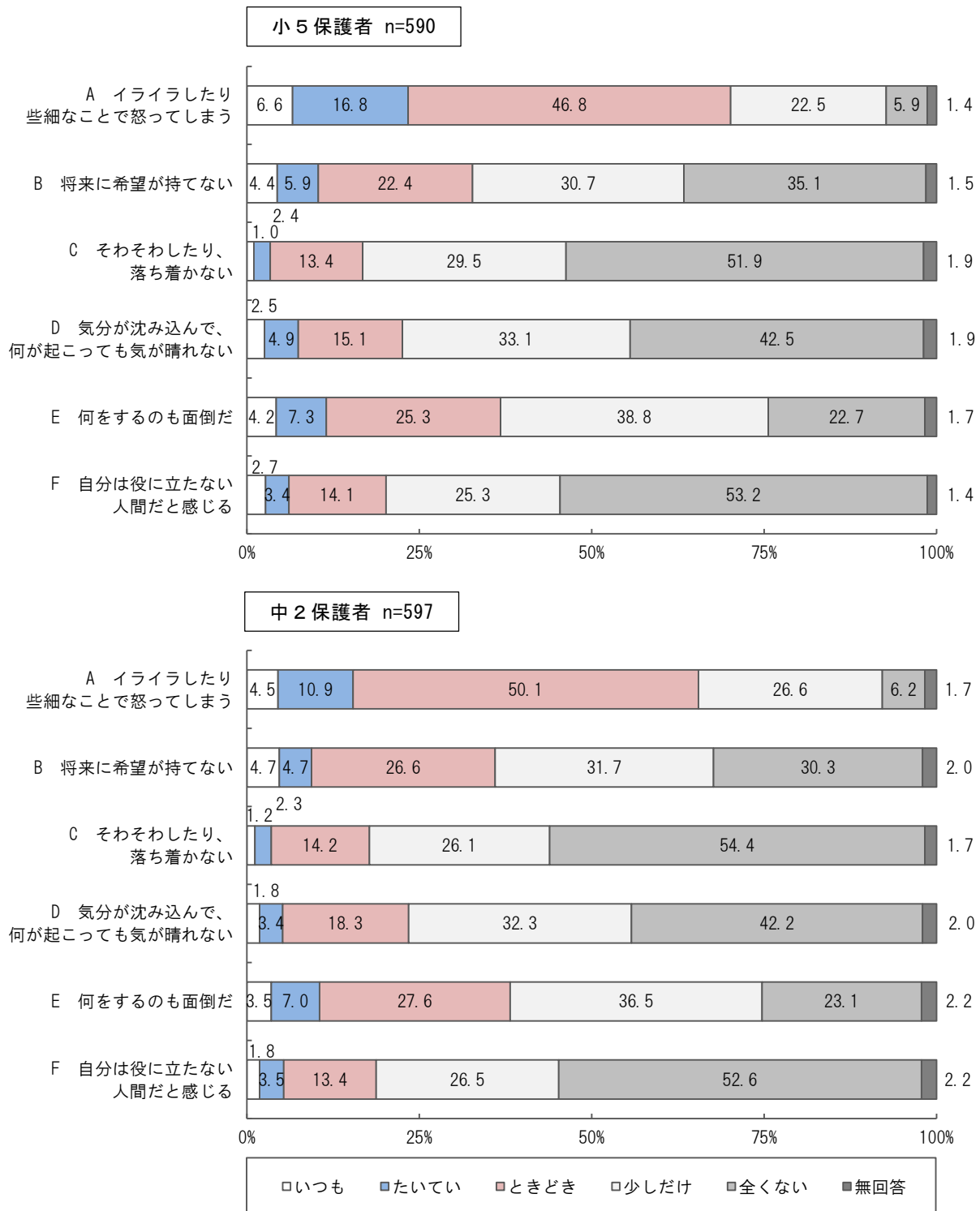
問15 保護者の健康状態（準要保護・生活保護世帯）



○保護者の過去1か月の心の状態は以下のとおりです。いずれの学年も各項目で大きな差はない状況となっています。

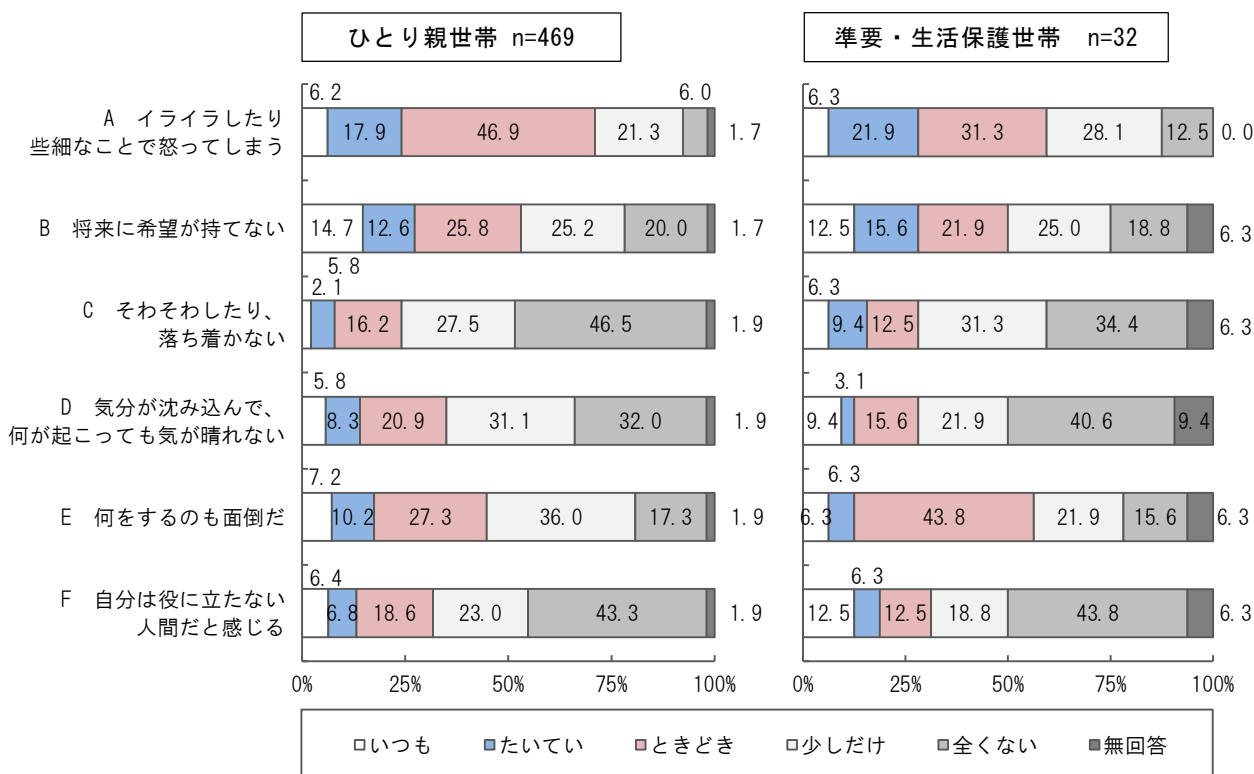
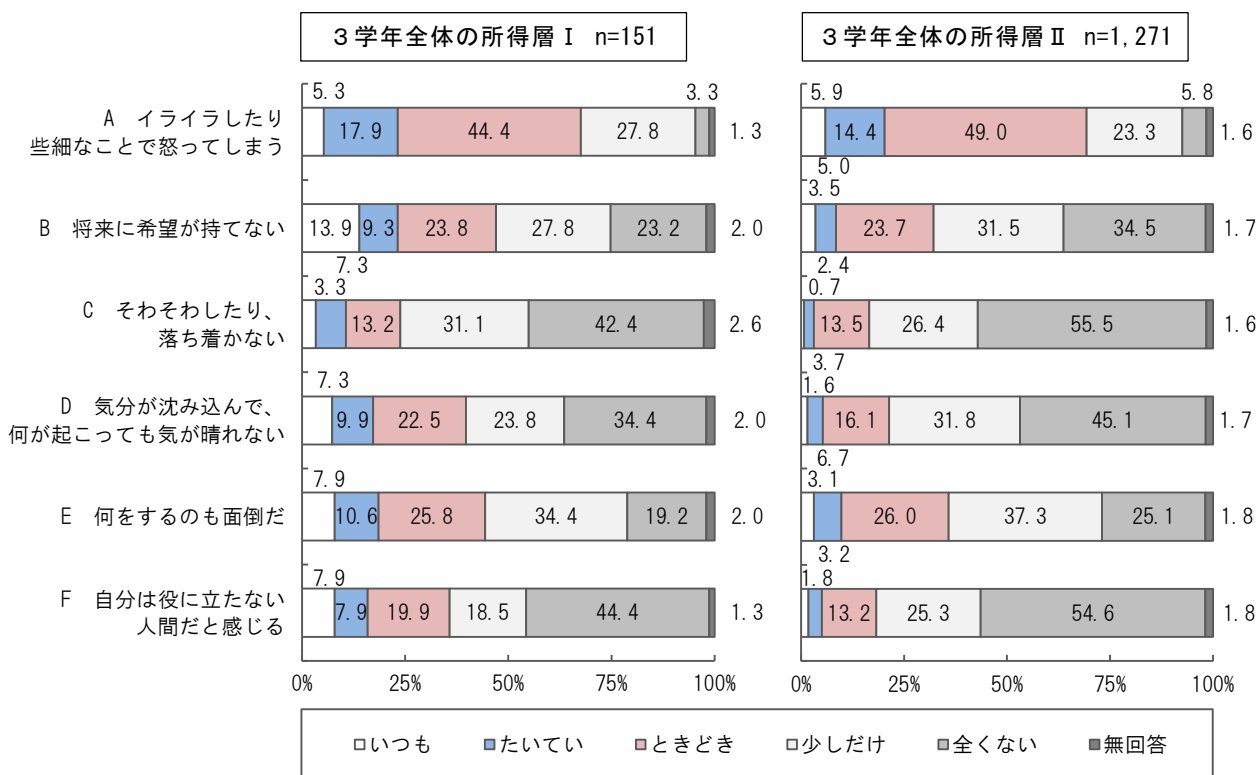
問16 過去1ヶ月の心の状態





○所得層別に保護者の過去1ヶ月の心の状態をみると、所得層Ⅰが所得層Ⅱよりも「いつも」と「たいてい」を合わせた割合が高くなっています。

○また、ひとり親世帯・準要保護・生活保護世帯ともに「将来に希望が持てない」と感じている割合が高くなっています。



6 子どもの健康状態等について

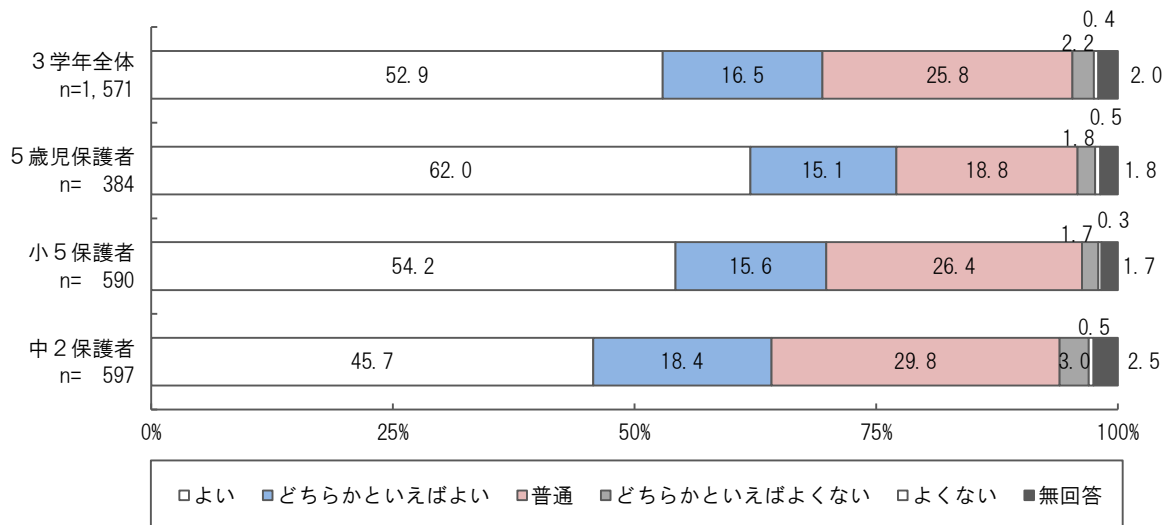
(1) 回答者からみた子どもの健康状態

○子どもの健康状態についてみると、「よい」と「どちらかといえばよい」を合わせた割合は77.1～64.1%と学年が上がるにつれ低くなっています。

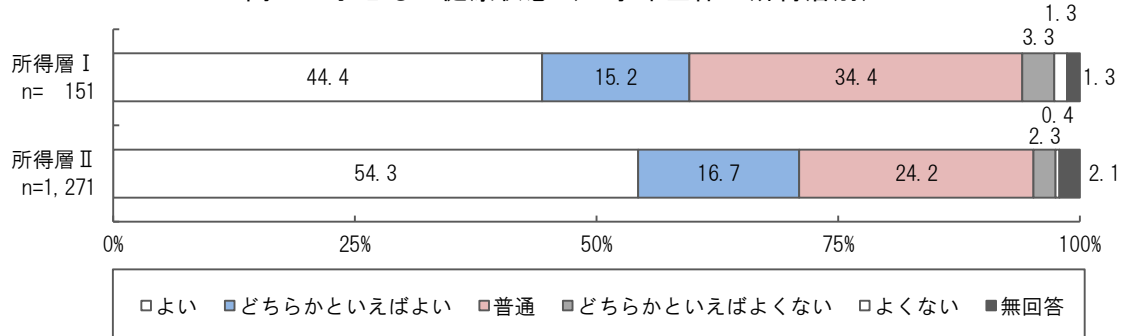
○所得層別にみる保護者の健康状態は、所得層Ⅱが所得層Ⅰよりも「よい」と「どちらかといえばよい」を合わせた割合が高くなっています。

○ひとり親世帯・準要保護・生活保護世帯ともに、「よい」と回答した割合は4割台となっています。

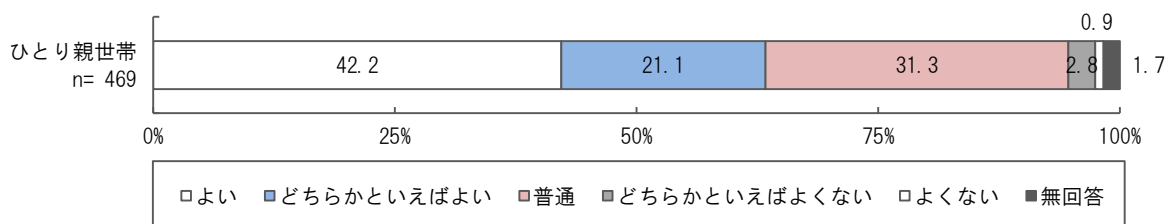
問17 子どもの健康状態（学年別）



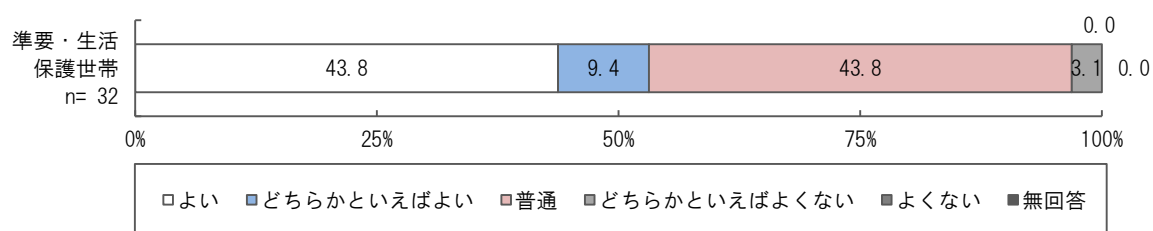
問17 子どもの健康状態（3 学年全体の所得層別）



問17 子どもの健康状態（ひとり親世帯）



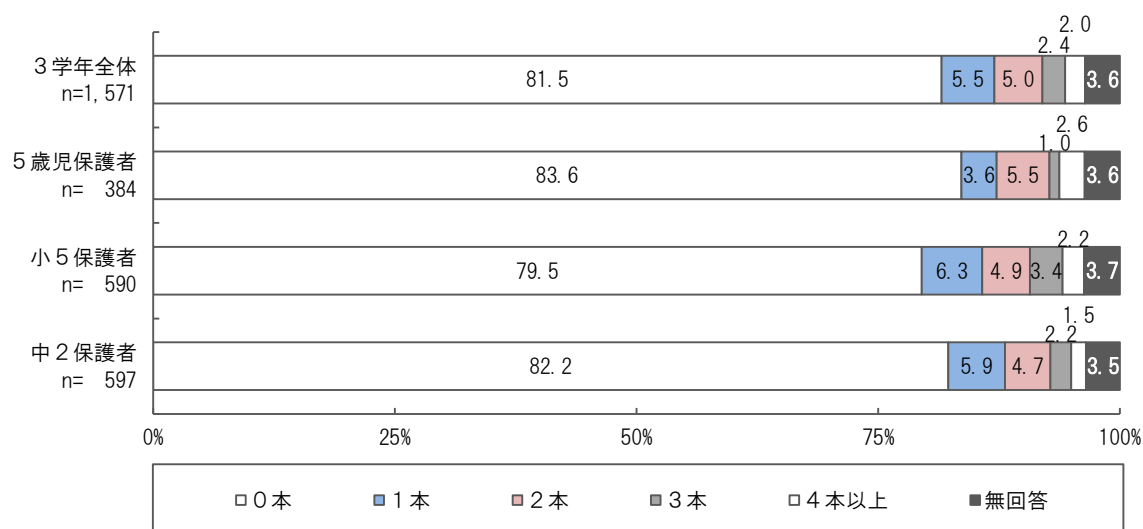
問17 子どもの健康状態（準要保護・生活保護世帯）



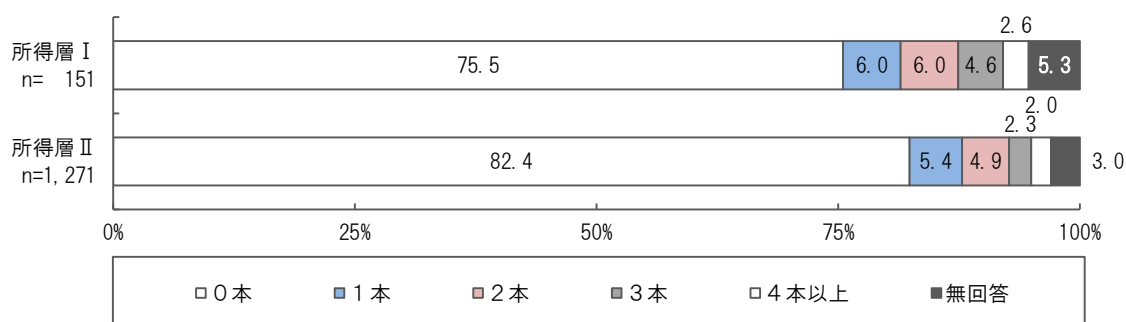
○子どもの虫歯の本数は、いずれの学年も「0本」（79.5～83.6％）が最も高くなっています。

○所得層別にみる子どもの虫歯の本数は、所得層Ⅰでは「1～4本以上」と回答した割合が所得層Ⅱよりも高くなっています。

問18 子どもの虫歯の本数（学年別）

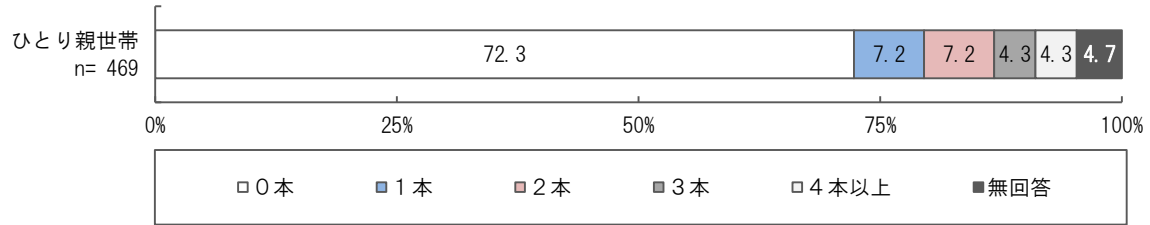


問18 子どもの虫歯の本数（3学年全体の所得層別）

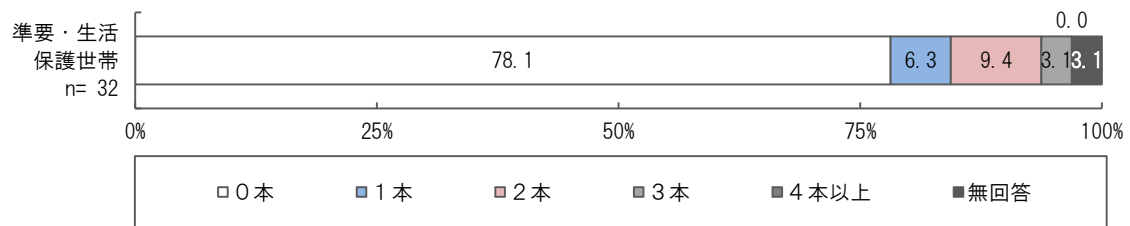


〇ひとり親世帯の子どもの虫歯状況をみると、「1本」以上と回答した方の割合が23.0%と3学年全体の14.4%を大きく上回っています。

問18 子どもの虫歯の本数（ひとり親世帯）



問18 子どもの虫歯の本数（準要保護・生活保護世帯）

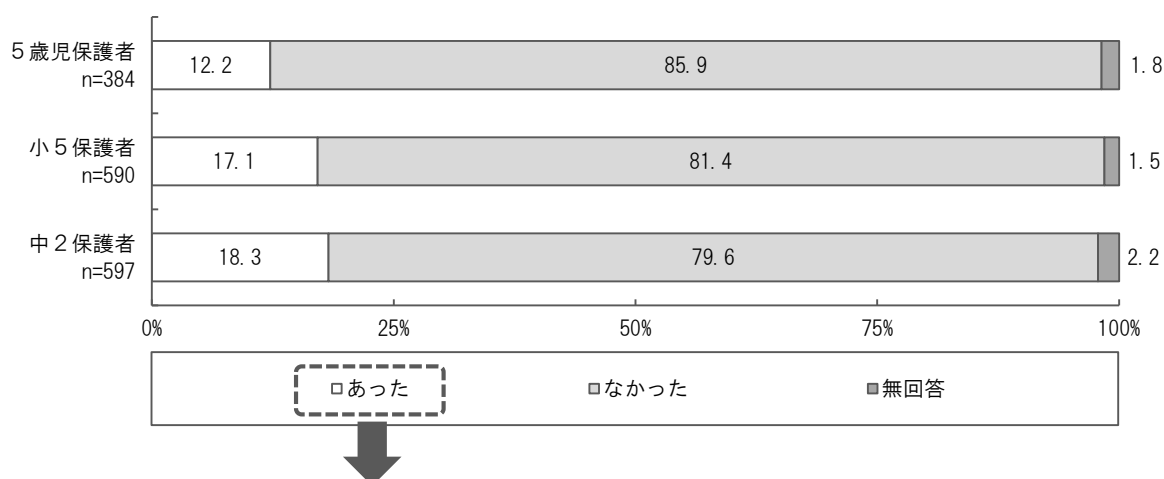


（２）医療機関の受診状況について

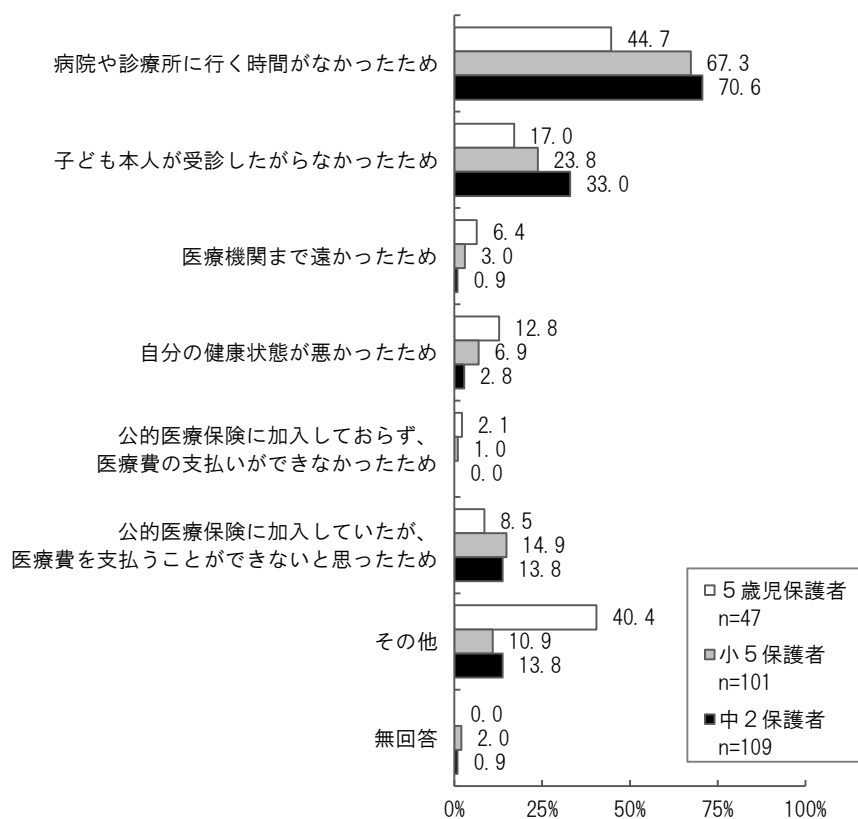
○子どもに医療機関の受診をさせなかったことがあるかをみると、いずれの学年も「ない」が8割前後を占めています。一方、「ある」は1割を超えています。

○医療機関を受診させなかった理由は、いずれの学年も「病院や診療所に行く時間がなかったため」(44.7～70.6%)が最も高く、次いで「子ども本人が受診しなかったため」(17.0～33.0%)、「公的医療保険に加入していたが、医療費を支払うことができないと思ったため」(8.5～14.9%)となっています。

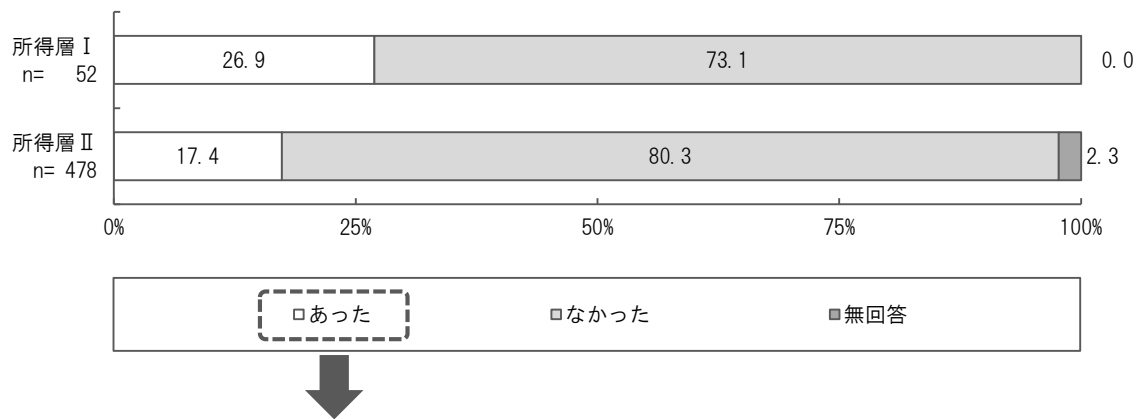
問19(1) 子どもに医療機関を受診させなかった経験の有無



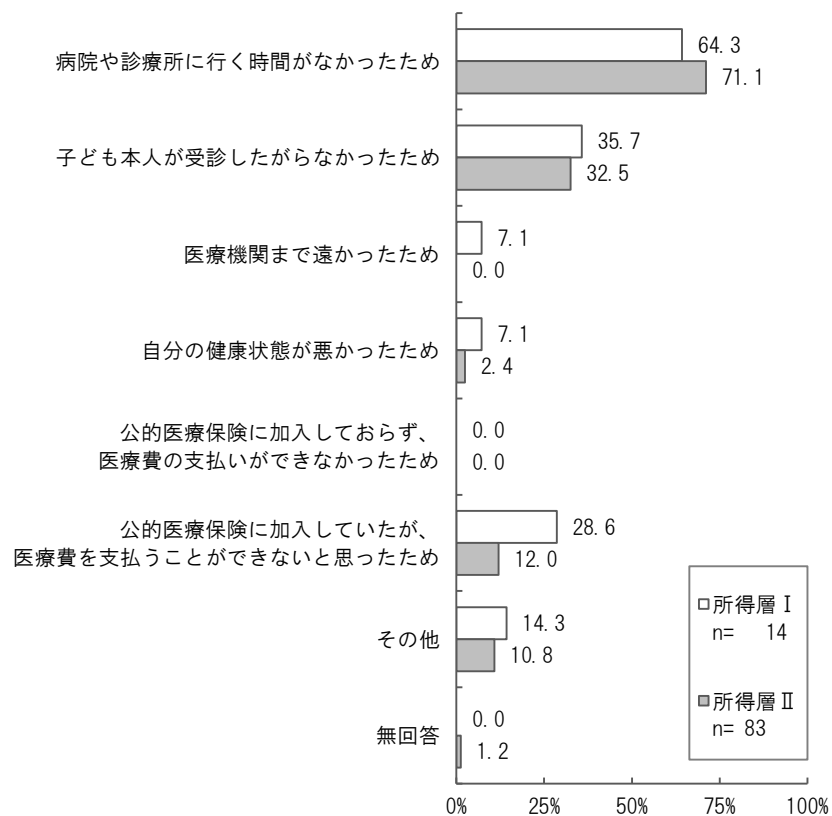
問19(2) 医療機関を受診させなかった理由



問19(1) 子どもに医療機関を受診させなかった経験の有無（3学年全体の所得層別）



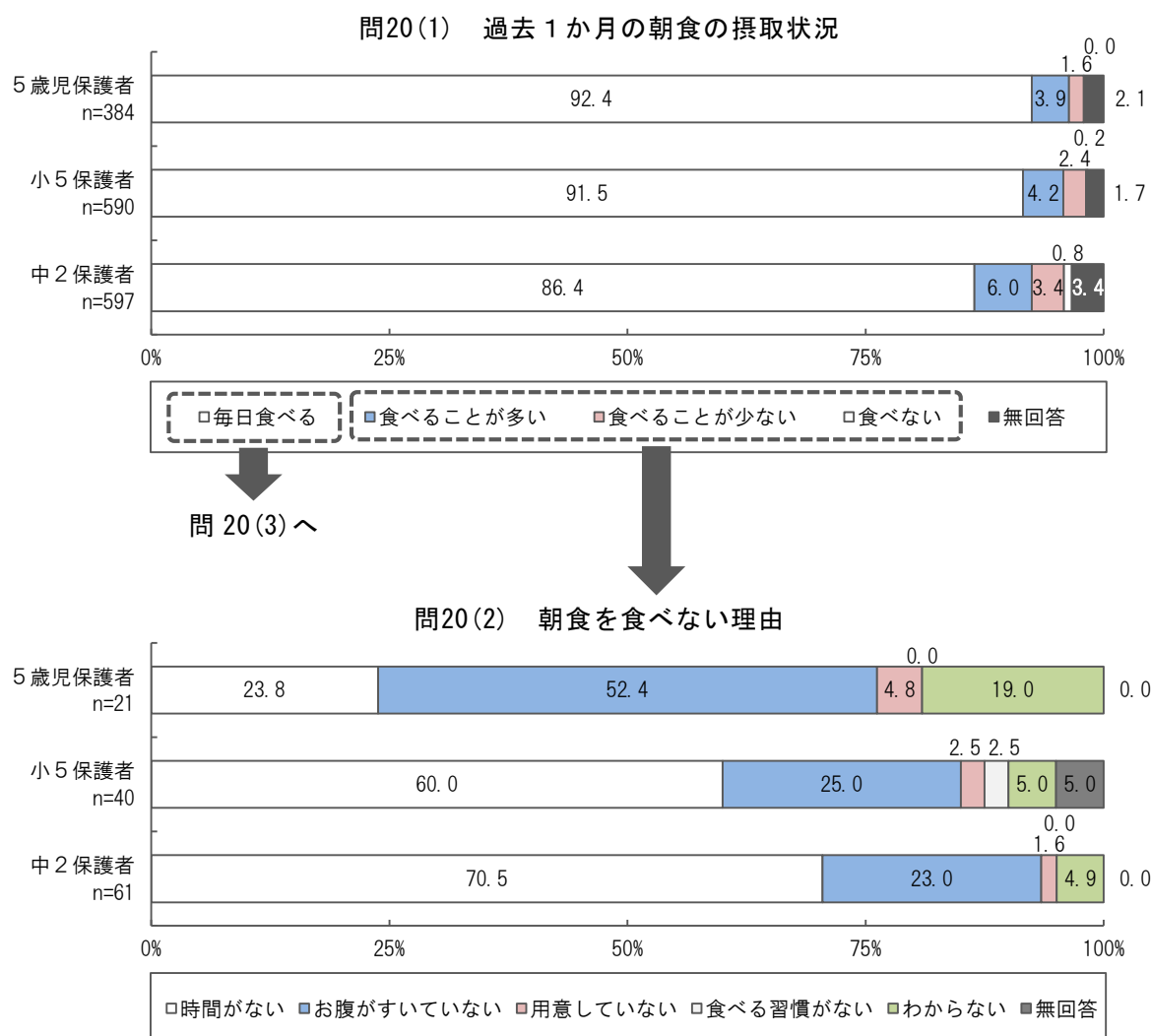
問19(2) 医療機関を受診させなかった理由（3学年全体の所得層別）



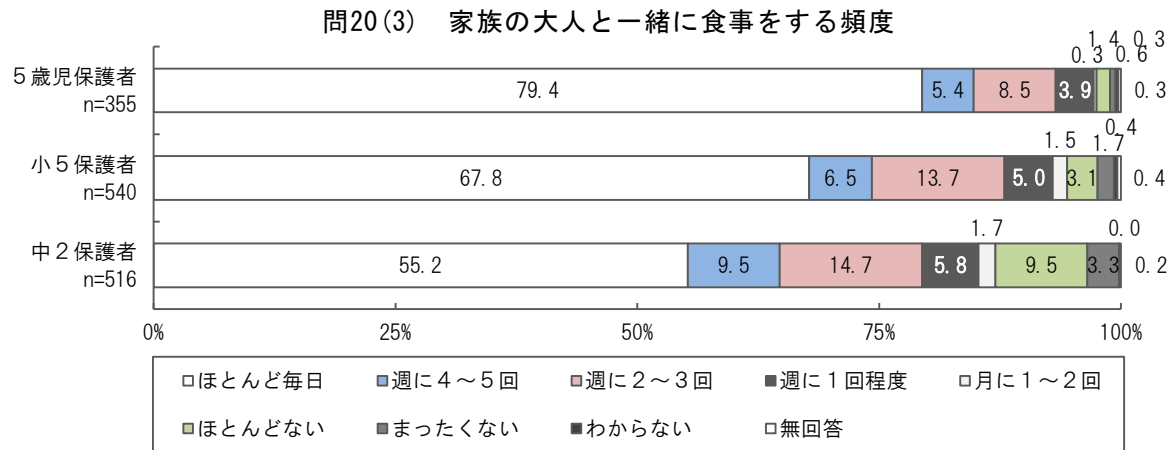
(3) 食事について

○子どもの朝食の摂取状況についてみると、いずれの学年も「毎日食べる」が8～9割と最も高くなっています。また「朝食を食べないことがある」と回答した方の割合は中2保護者で約1割となっています。

○朝食を食べない理由については、5歳児保護者で「お腹がすいていない」(52.4%)、小5保護者・中2保護者で「時間がない」(60.0%・70.5%)が最も高くなっています。



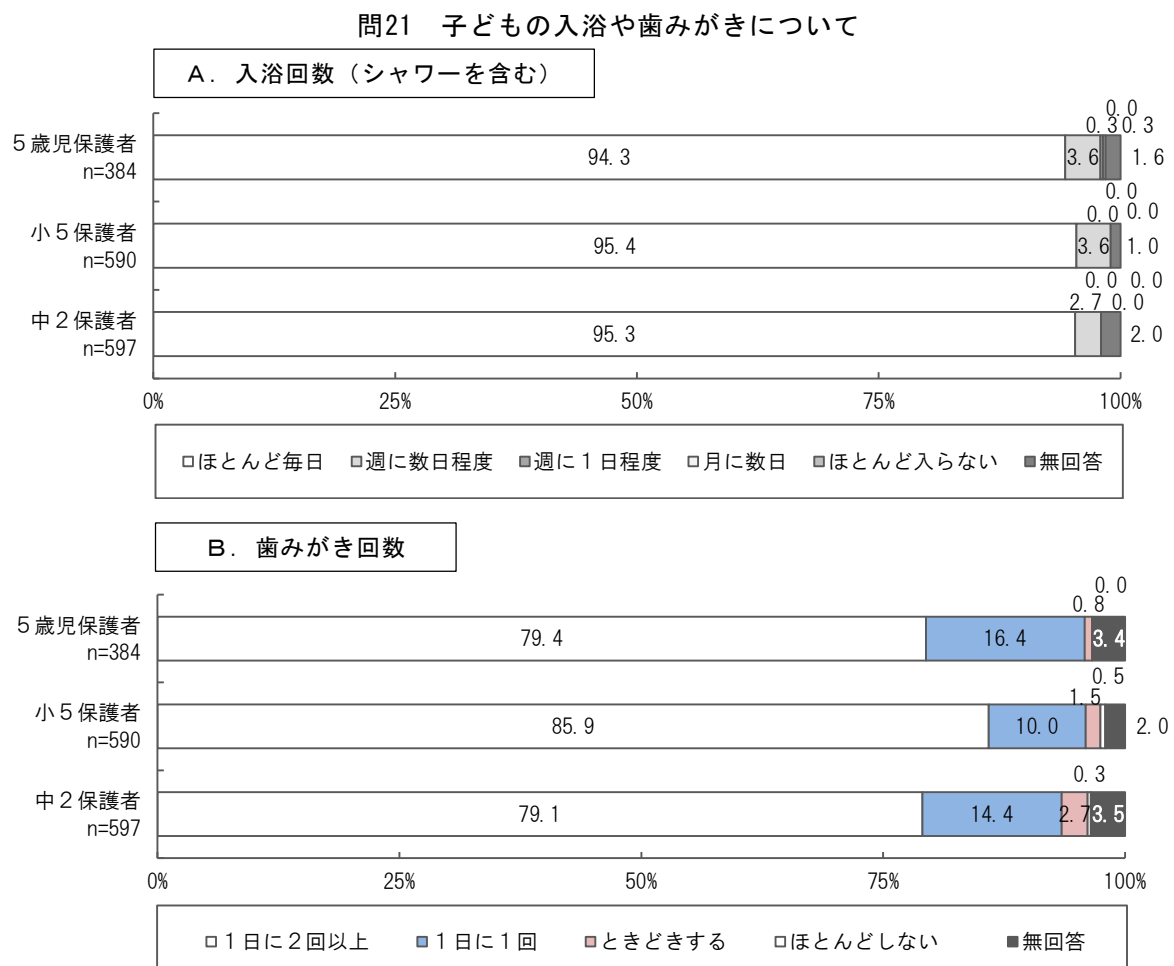
○子どもが家族と一緒に食事をする頻度は、いずれの学年も「ほとんど毎日」（55.2～79.4%）が最も高くなっています。一方、「ほとんどない」と「まったくない」を合わせた割合は中2保護者で約1割となっており、学年が進むほど一緒に食事する割合が低くなっています。



（４）入浴や歯磨きについて

○入浴回数をみると、いずれの学年も「ほとんど毎日」が9割台となっています。

○歯みがき回数をみると、いずれの学年も「1日に2回以上」が8割前後と最も高く、次いで「1日に1回」が1割台となっています。

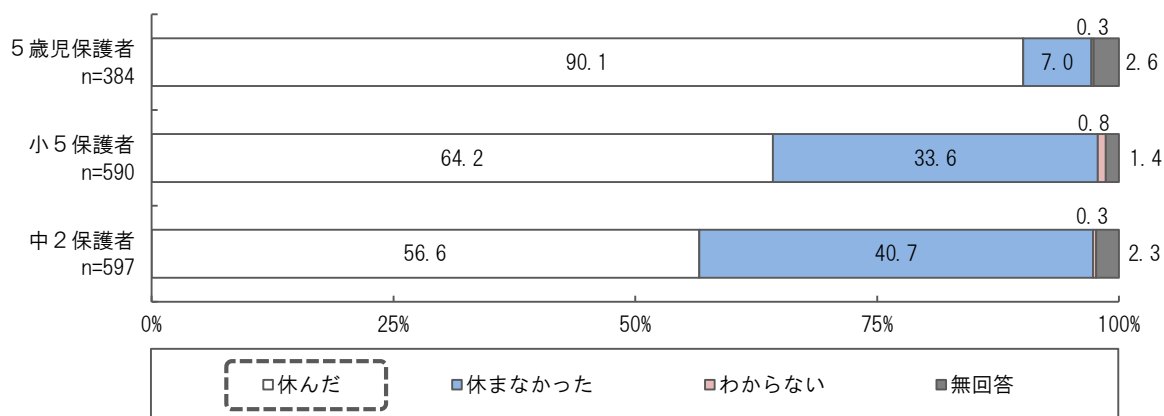


(5) 学校・保育園・幼稚園を休んだことについて

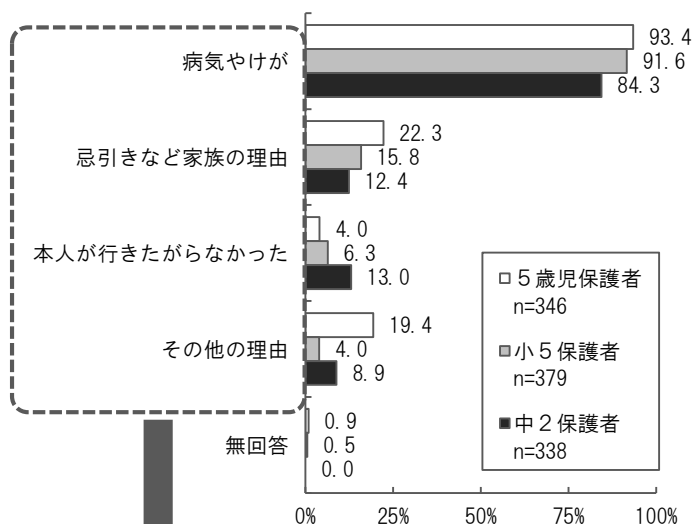
○4月から現在まで、学校・保育園・幼稚園をお休みした状況をみると、いずれの学年も「休んだ」(56.6～90.1%)が最も高くなっていますが、学年が上がるにつれ割合は低くなっています。

○学校・保育園・幼稚園を休んだ理由は、いずれの学年も「病気やけが」(84.3～93.4%)が最も高く、次いで5歳児保護者・小5保護者で「忌引きなどの家族の理由」(22.3%・15.8%)、中2保護者で「本人が行きたがらなかった」(13.0%)となっています。

問22(1) 学校・保育園・幼稚園をお休みした状況



問22(2) 休んだ理由

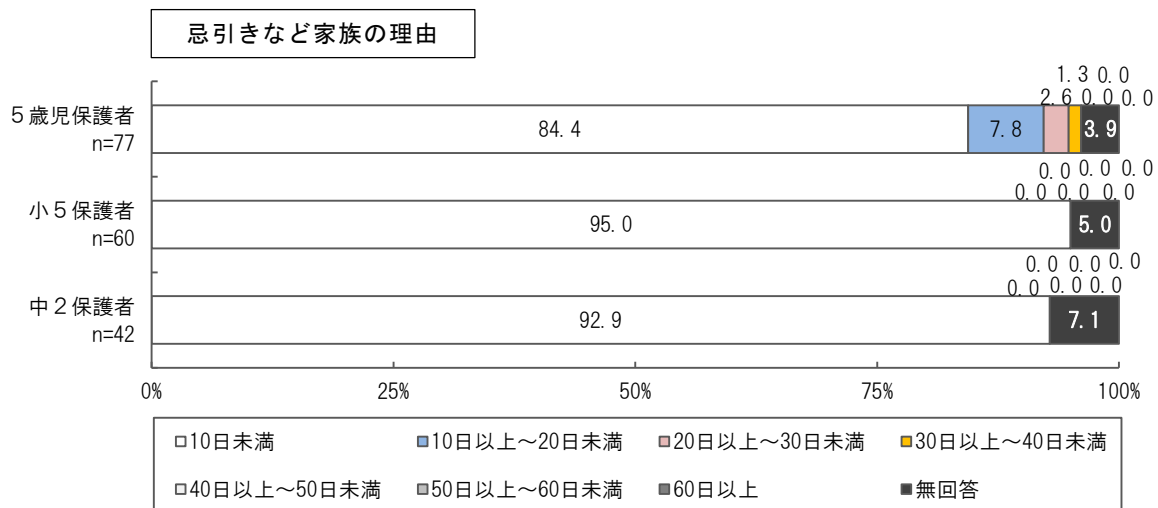
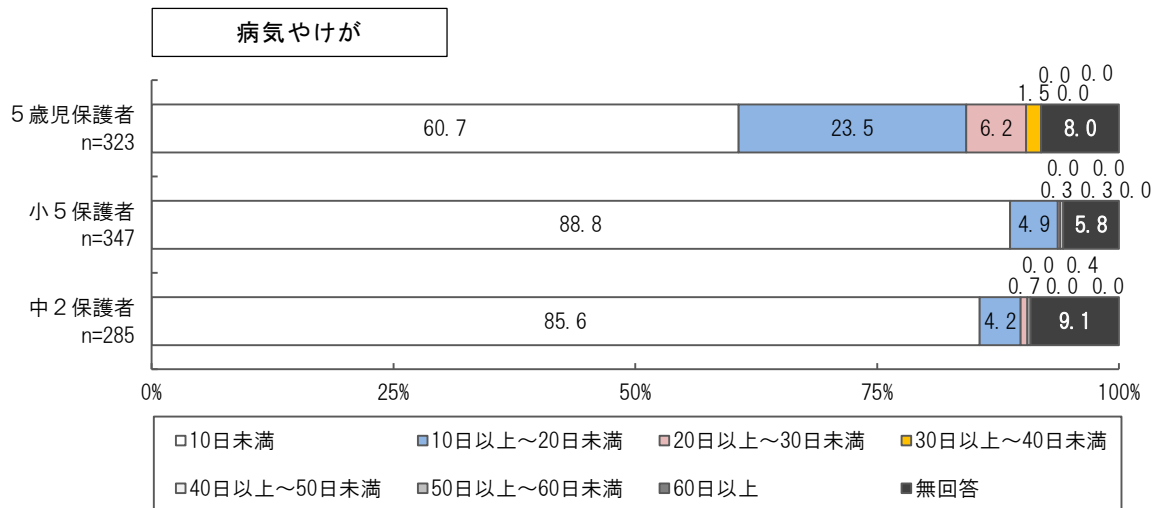


問22(2) 休んだ日数へ

○病気やけがが理由で学校・保育園・幼稚園を休んだ日数は、いずれの学年も「10日未満」(60.7～88.8%)が最も高く、次いで5歳児保護者は「10日以上～20日未満」(23.5%)となっています。

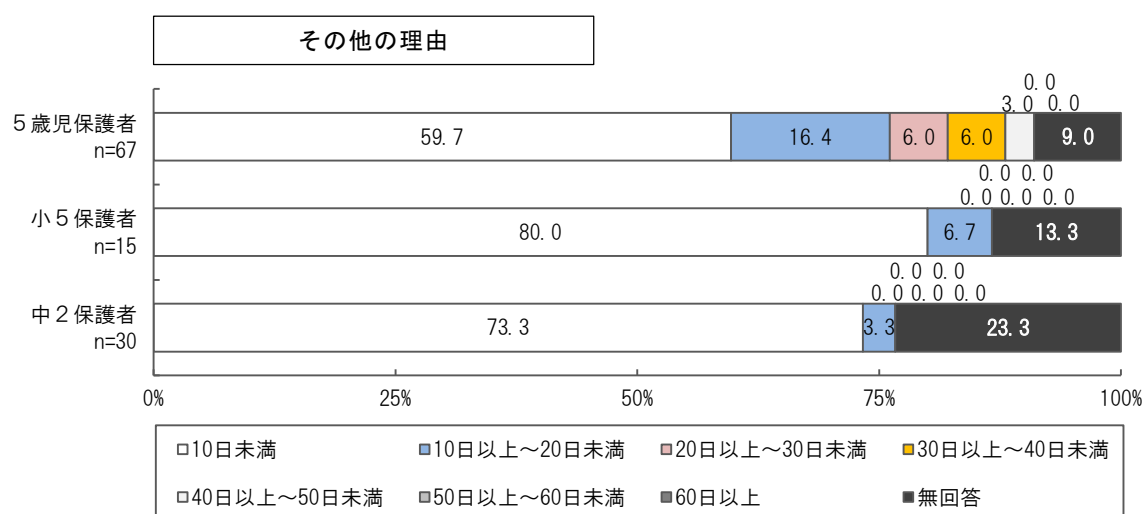
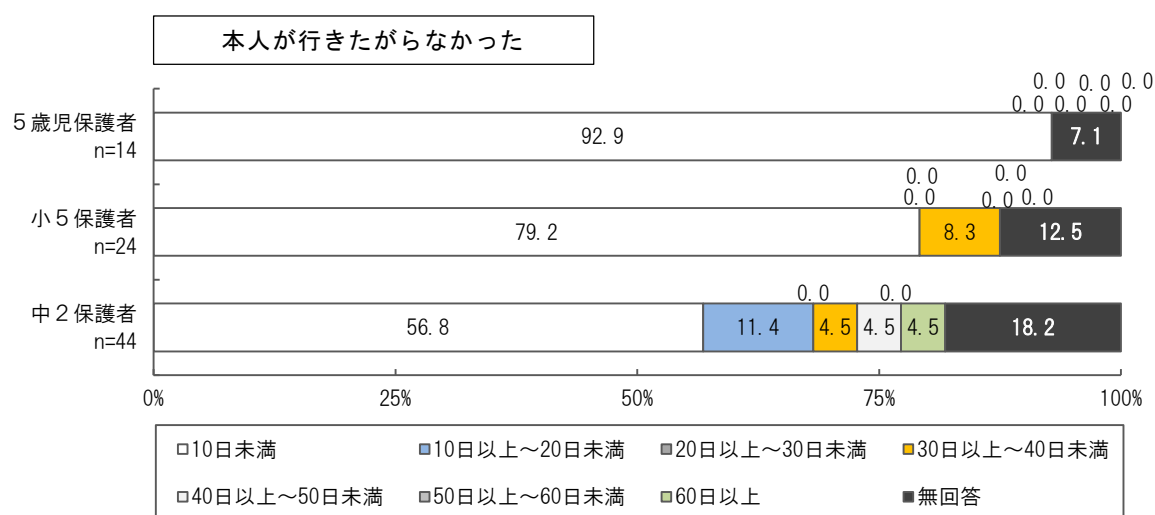
○忌引きなど家族の理由で学校・保育園・幼稚園を休んだ日数は、いずれの学年も「10日未満」(84.4～95.0%)が最も高く、次いで5歳児保護者は「10日以上～20日未満」(7.8%)となっています。

問22(2) 休んだ日数



○本人が行きたがらなかったという理由で学校・保育園・幼稚園を休んだ日数は、いずれの学年も「10日未満」（56.8～92.9％）が最も高く、次いで中2保護者は「10日以上～20日未満」（11.4％）となっており、学年が進むほど休みが長期化する傾向があります。

○その他の理由で学校・保育園・幼稚園を休んだ日数は、いずれの学年も「10日未満」（59.7～80.0％）が最も高く、次いで5歳児保護者は「10日以上～20日未満」（16.4％）となっており、学年が進むほど休みが長期化する傾向があります。

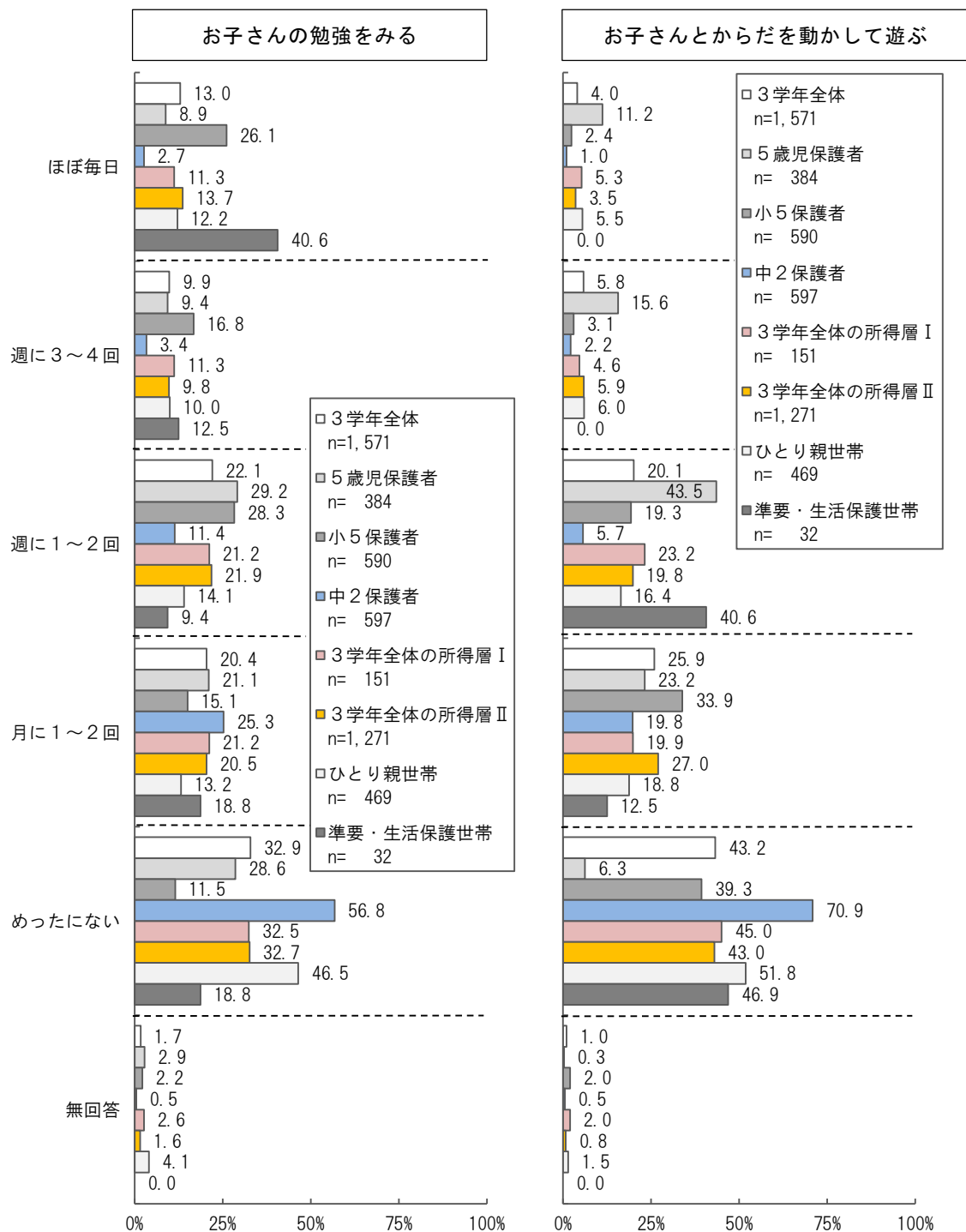


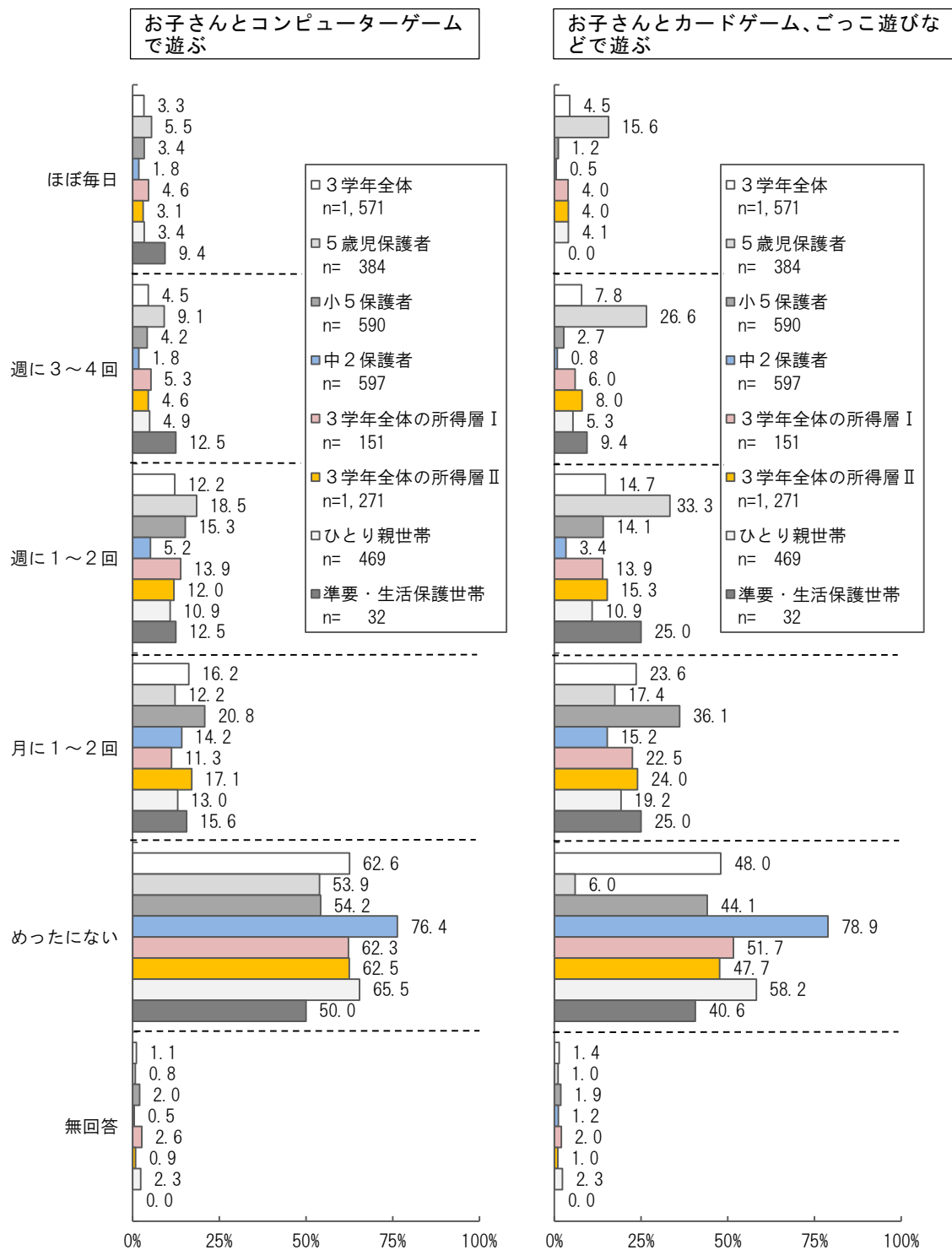
7 子どもとの関わりについて

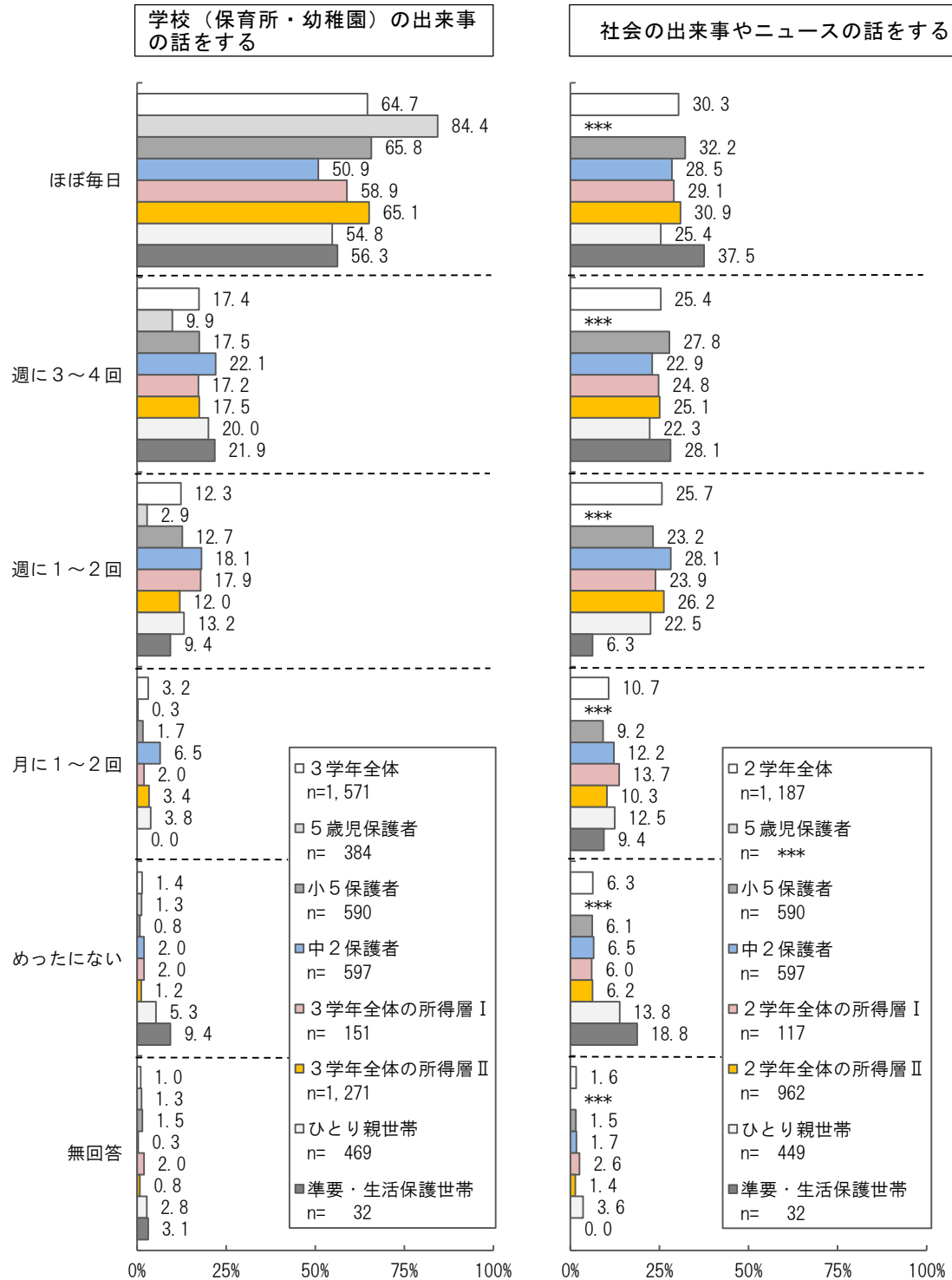
○家庭での子どもと関わる状況を学年別にみると、『お子さんの勉強をみる』『お子さんとからだを動かして遊ぶ』など一緒に何かをする項目では、「めったにない」と回答した割合が5歳児・小学5年生に比べ、中学2年生で高くなっています。一方で、『学校（保育所・幼稚園）の出来事の話をする』『友達のことについて話をする』などの会話によるコミュニケーションの項目では、「めったにない」と回答した割合の学年差はありません。

○また、ひとり親世帯では「めったにない」と回答した割合が、すべての項目で3学年全体の割合を上回っていることから、関わりが少ない状況がうかがえます。

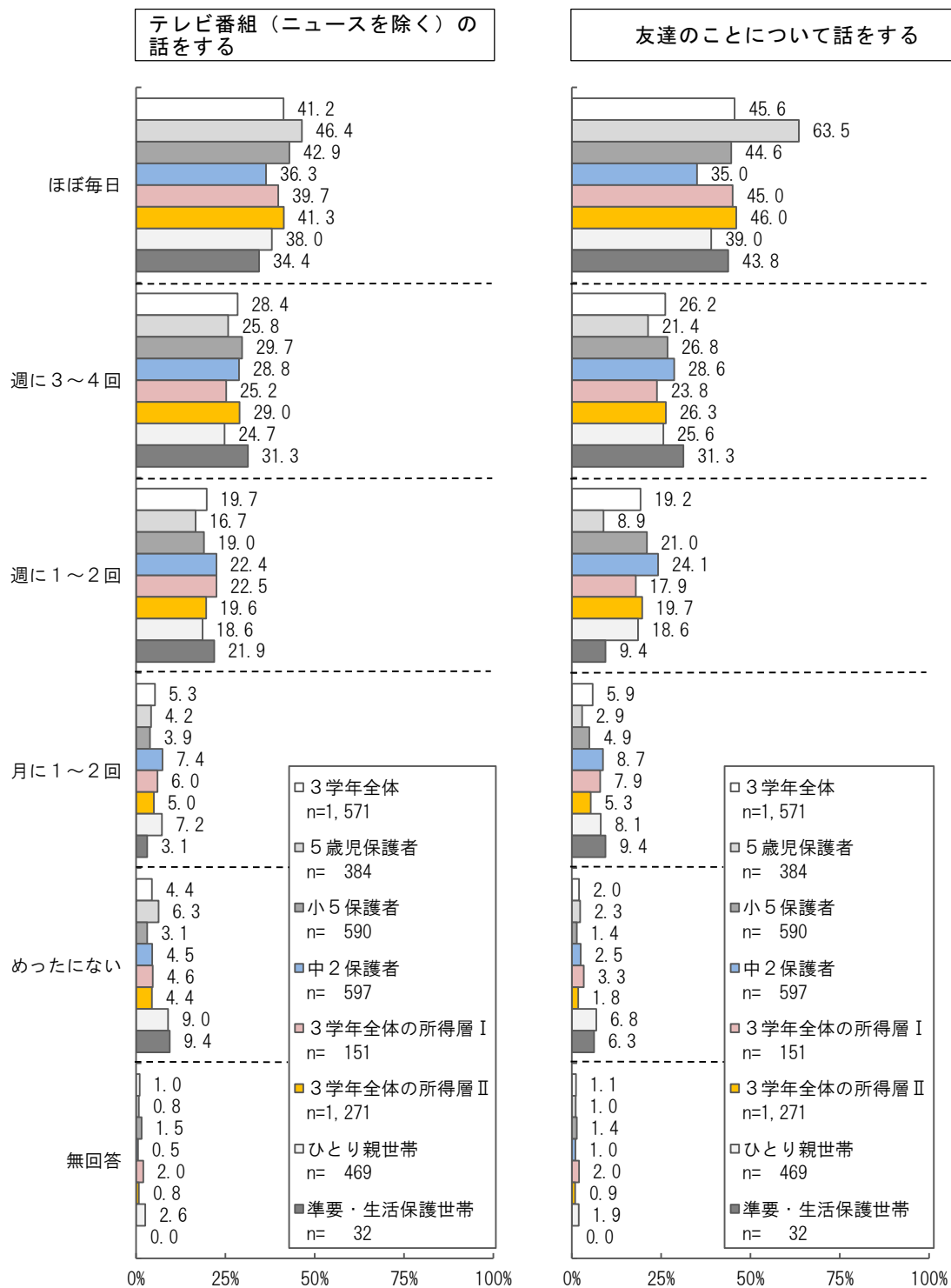
問23(1) 家庭で子どもと関わる頻度（調査対象者別）

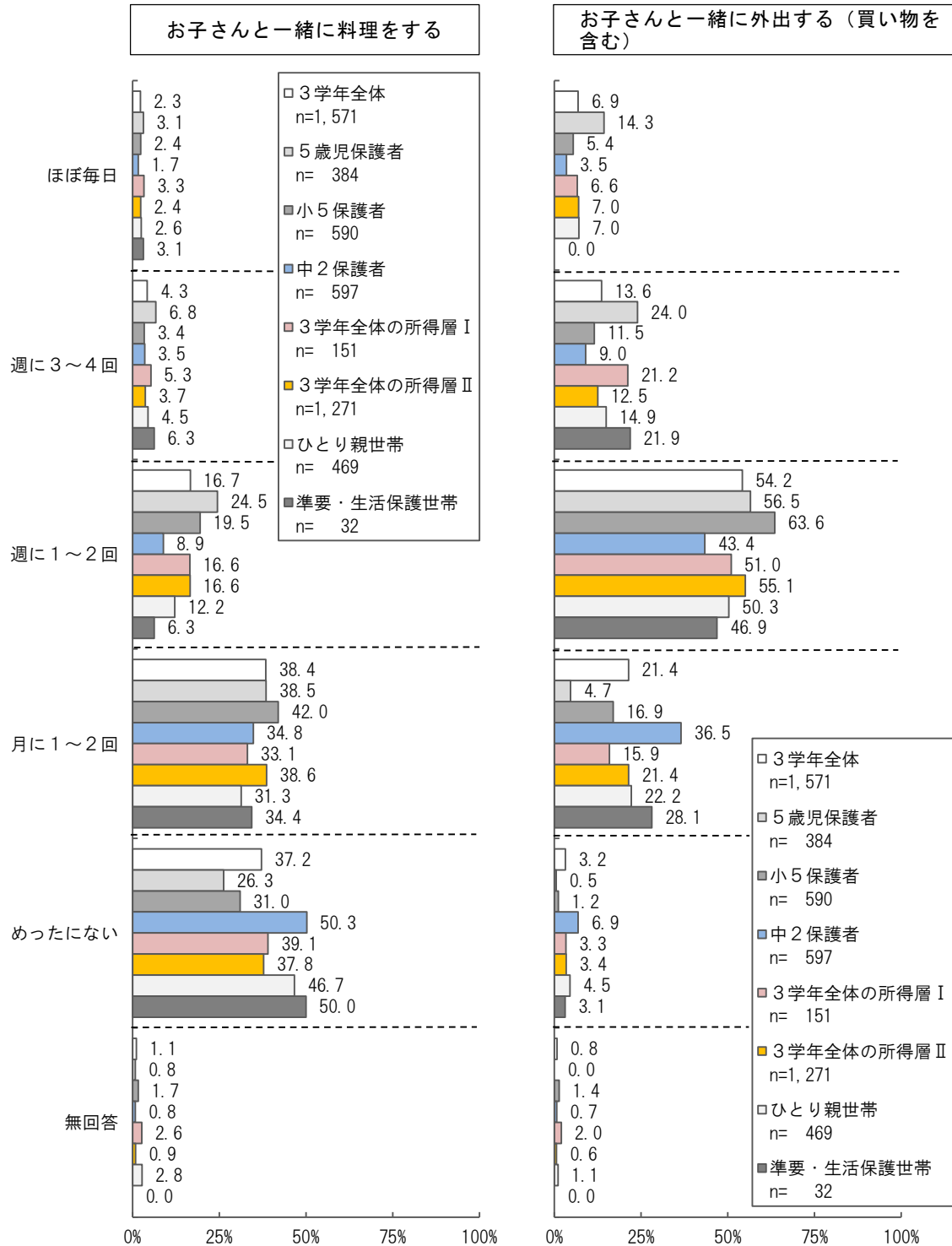






※5歳児保護者の設問に「社会の出来事やニュースの話をする」はありません。



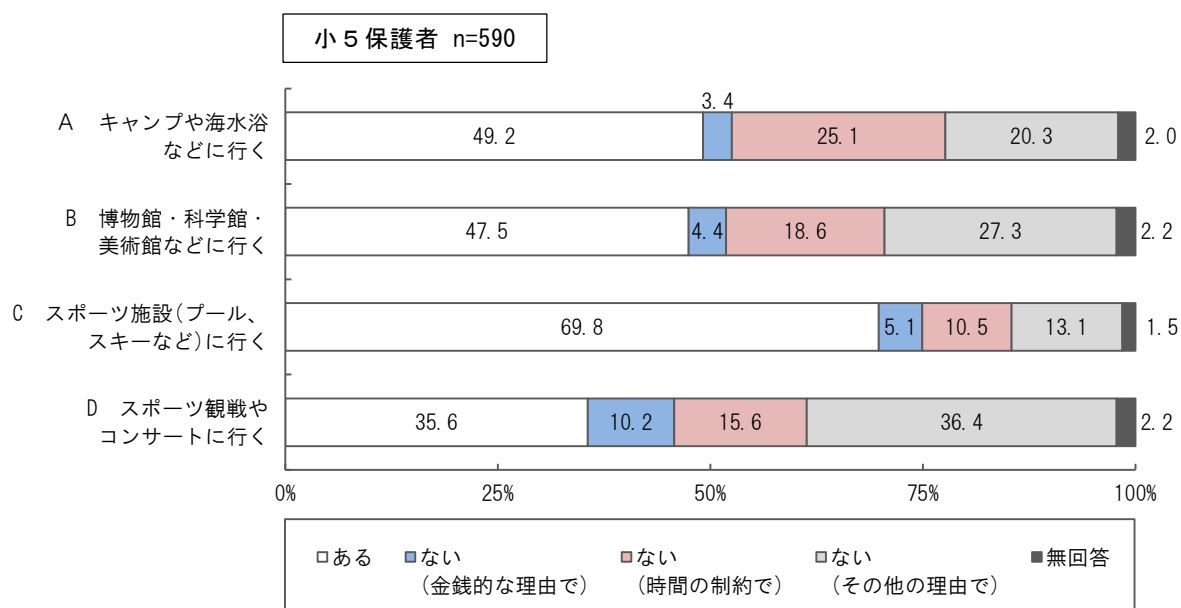
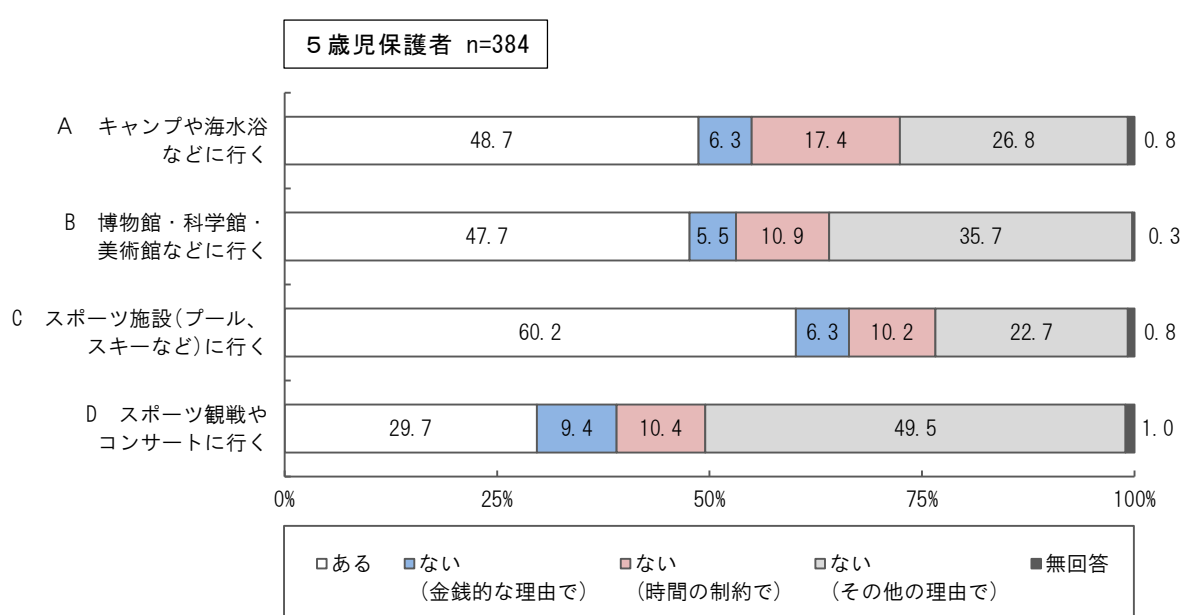


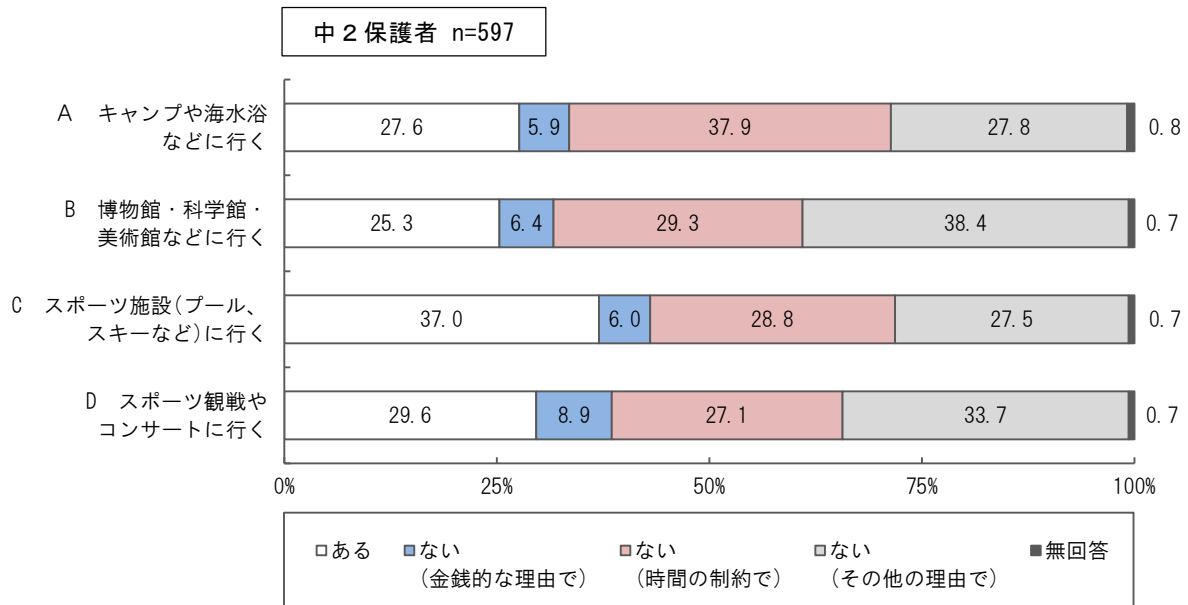
○子どもと体験することが「ない」と回答した5歳児保護者の割合は、『スポーツ観戦やコンサートに行く』(69.3%)が最も高く、次いで『博物館・科学館・美術館などに行く』(52.1%)、『キャンプや海水浴などに行く』(50.5%)となっています。

○小5保護者の割合は、『スポーツ観戦やコンサートに行く』(62.2%)が最も高く、次いで『博物館・科学館・美術館などに行く』(50.3%)、『キャンプや海水浴などに行く』(48.8%)となっています。

○子どもと体験することが「ない」と回答した中2保護者の割合は、『博物館・科学館・美術館などに行く』(74.1%)が最も高く、次いで『キャンプや海水浴などに行く』(71.6%)、『スポーツ観戦やコンサートに行く』(69.7%)となっています。

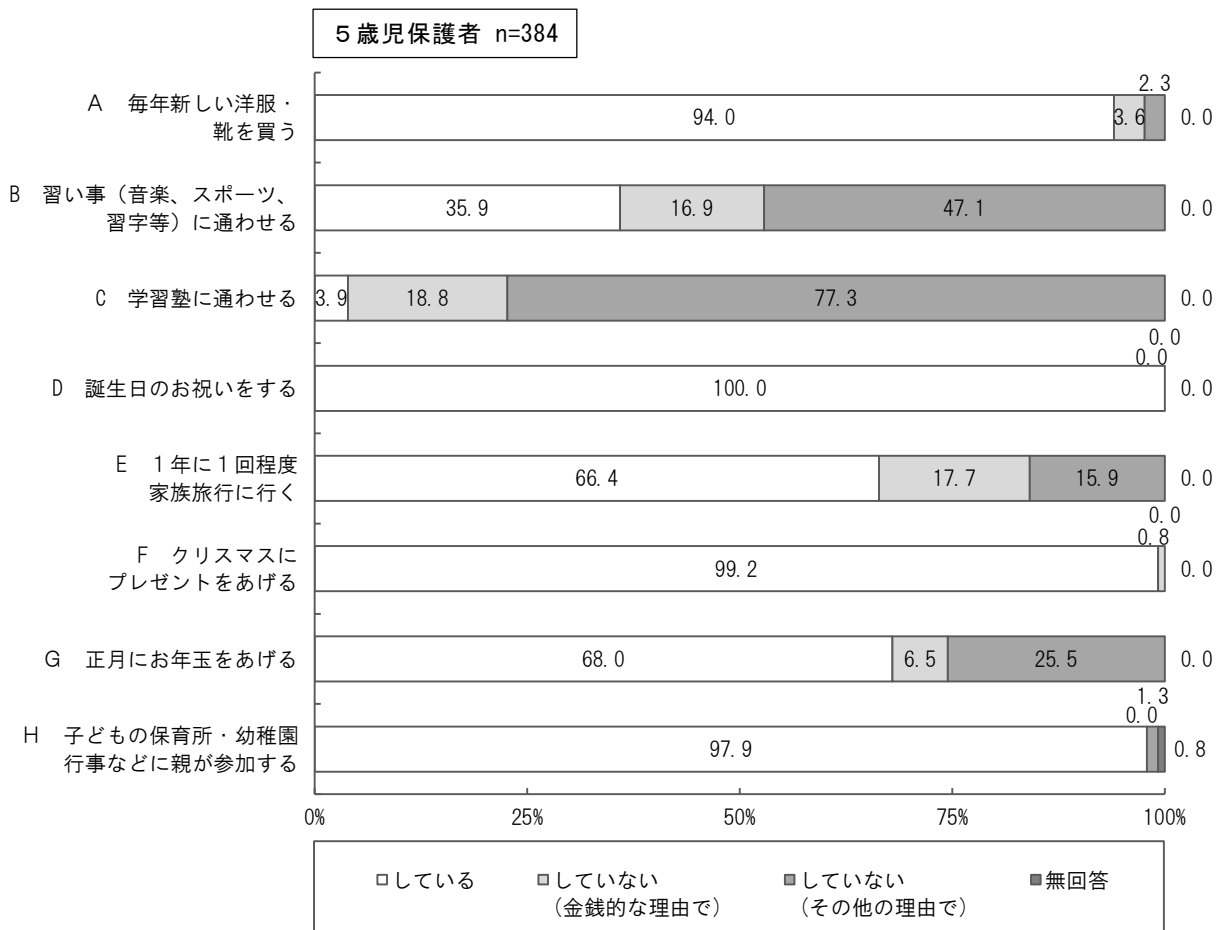
問23(2) 子どもと体験すること



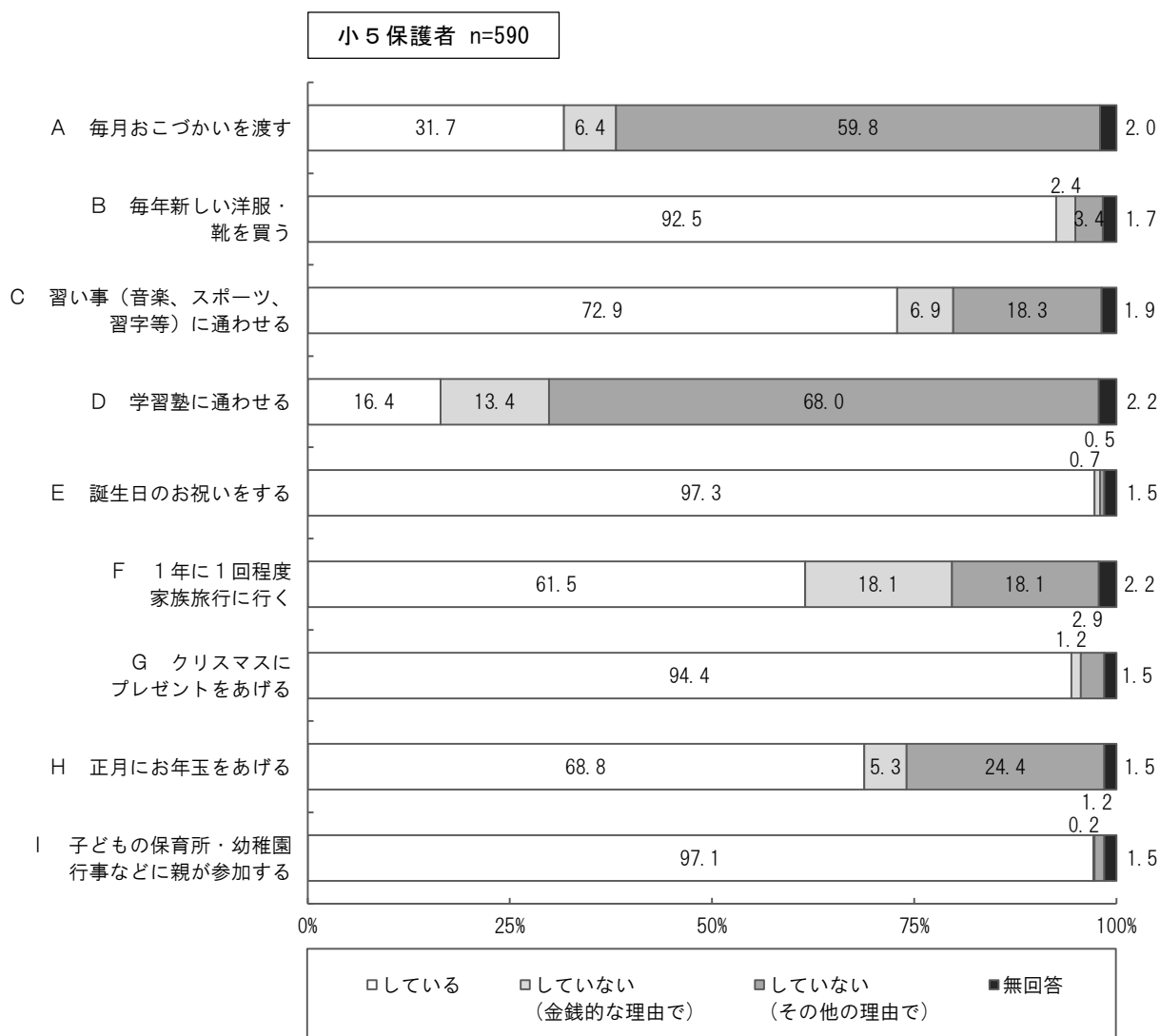


○家庭で子どもにしているかどうかについて、「していない」と回答した5歳児保護者の割合は、『学習塾に通わせる』(96.1%)が最も高く、次いで『習い事(音楽、スポーツ、習字等)に通わせる』(64.0%)となっています。

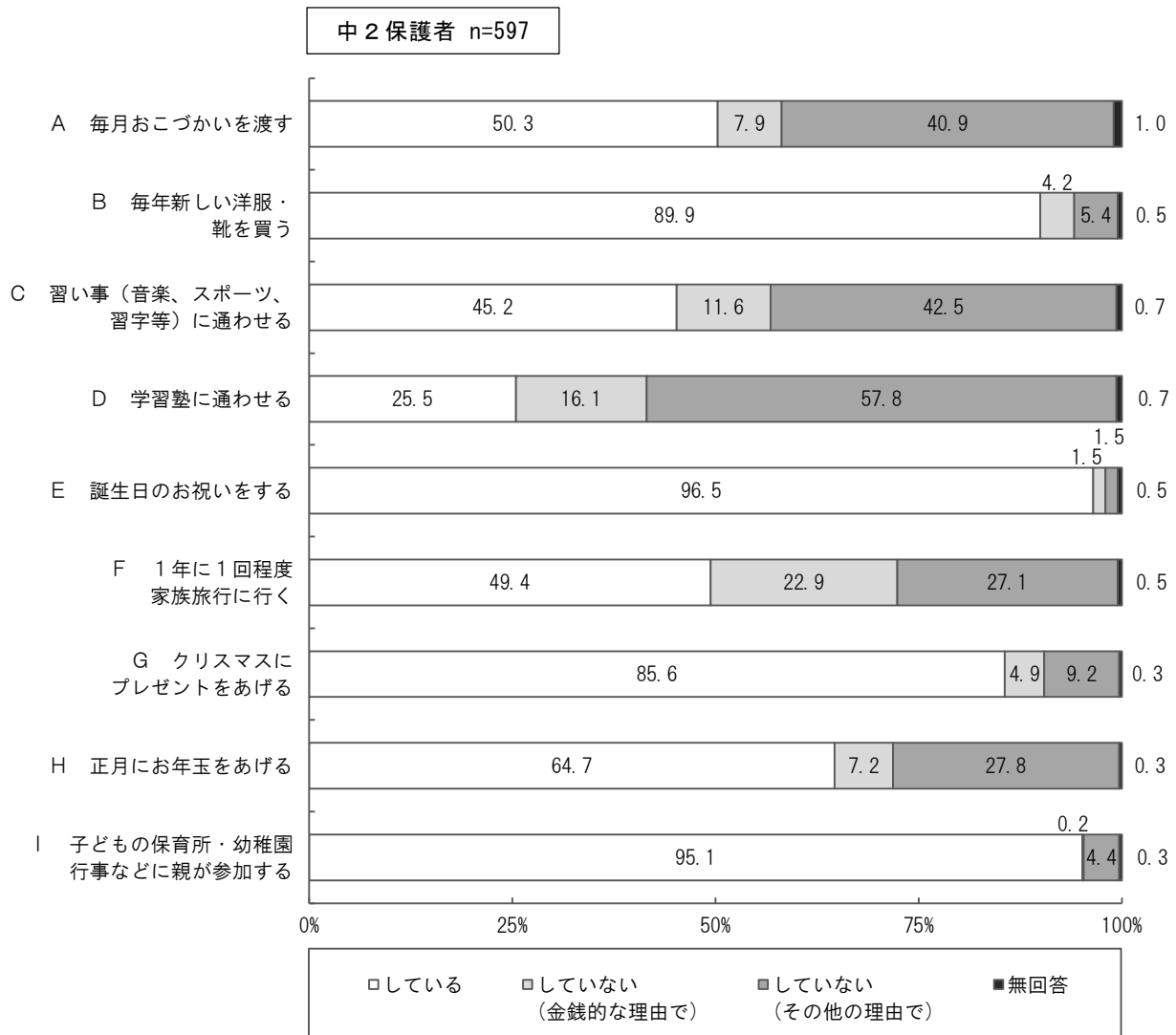
問24 家庭で子どもにしていること



○家庭で子どもにしているかどうかについて、「していない」と回答した小5保護者の割合は、『学習塾に通わせる』（81.4%）が最も高く、次いで『毎月おこづかいを渡す』（66.2%）となっています。



○家庭で子どもにしているかどうかについて、「していない」と回答した中2保護者の割合は、『学習塾に通わせる』（73.9%）が最も高く、次いで『習い事（音楽、スポーツ、習字等）に通わせる』（54.1%）、『毎月おこづかいを渡す』（48.8%）となっています。

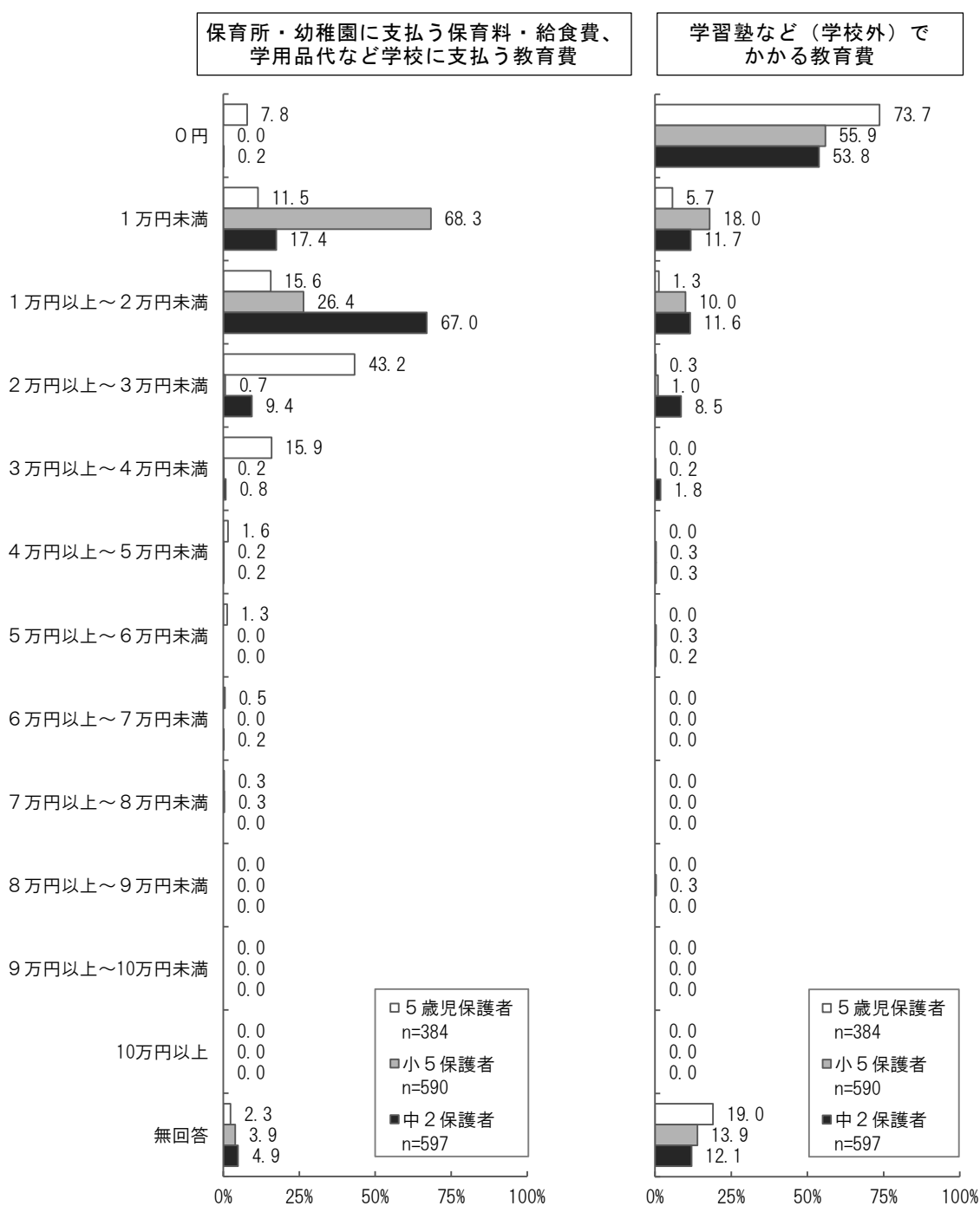


8 子育てにかかる費用について

○給食費、学用品代など学校に支払う教育費をみると、5歳児保護者は「2万円以上～3万円未満」（43.2%）、小5保護者は「1万円未満」（68.3%）、中2保護者は「1万円以上～2万円未満」（67.0%）が最も高くなっています。

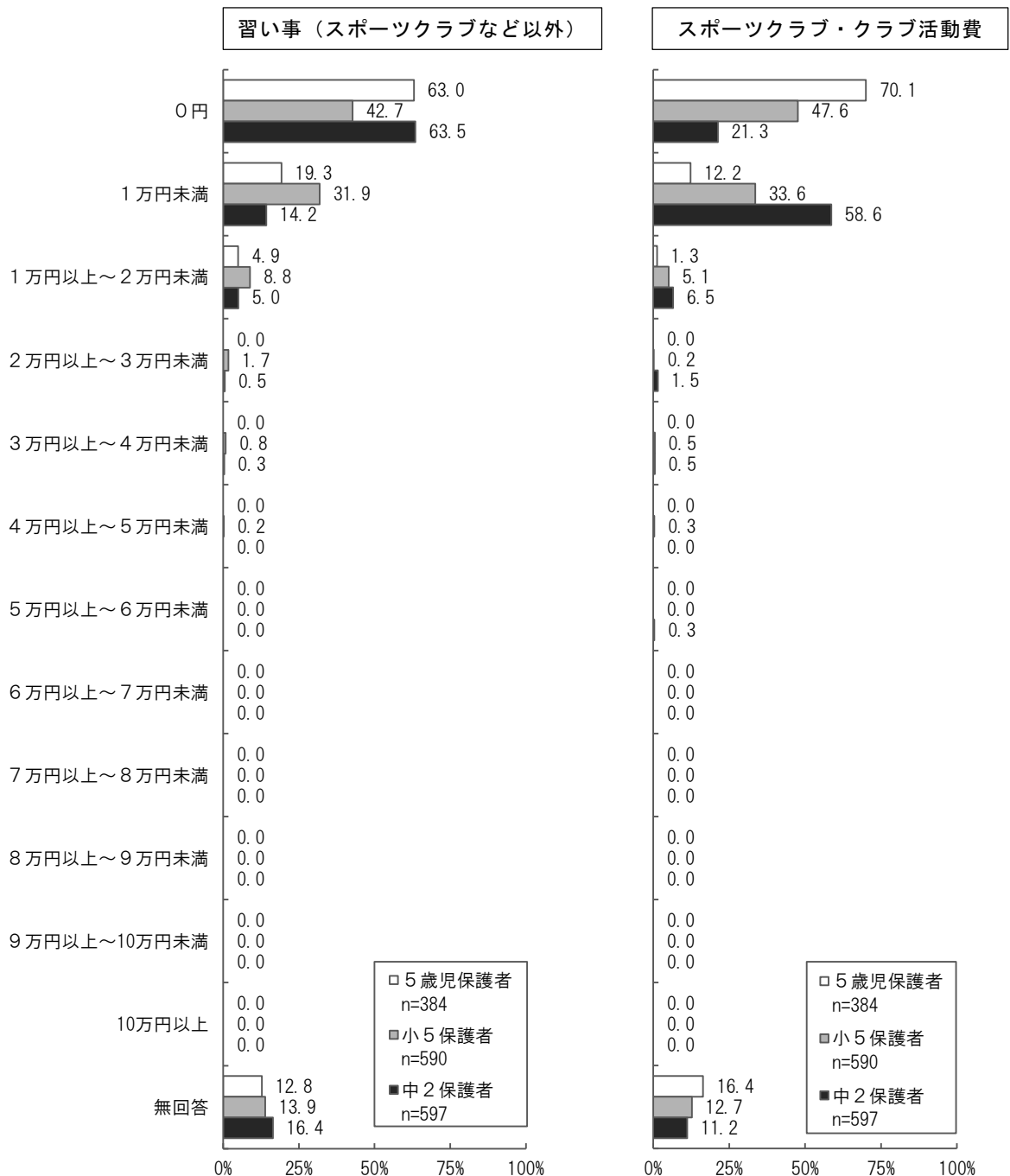
○学習塾など、学校外でかかる教育費をみると、いずれの学年も「0円」（73.7～53.8%）が最も高く、次いで小5保護者・中2保護者は「1万円未満」（18.0%・11.7%）となっています。

問25 子どもにかかる生活費（月額）



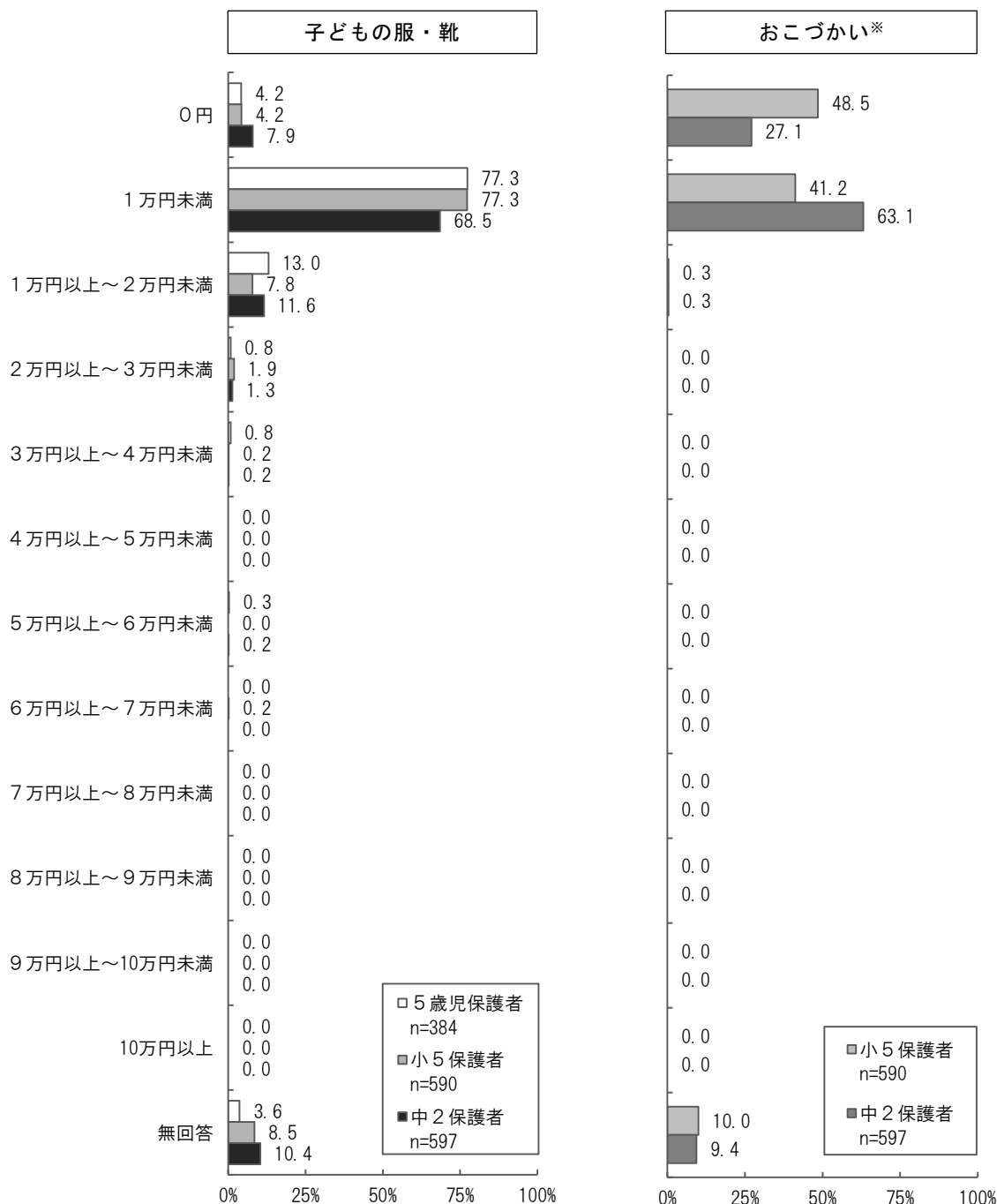
○習い事（スポーツクラブなど以外）に支払う教育費をみると、いずれの学年も「0円」（42.7～63.5%）が最も高く、次いで「1万円未満」（14.2～31.9%）となっています。

○スポーツクラブ・クラブ活動費をみると、5歳児保護者・小5保護者は「0円」（70.1%・47.6%）、中2保護者は「1万円未満」（58.6%）が最も高くなっています。



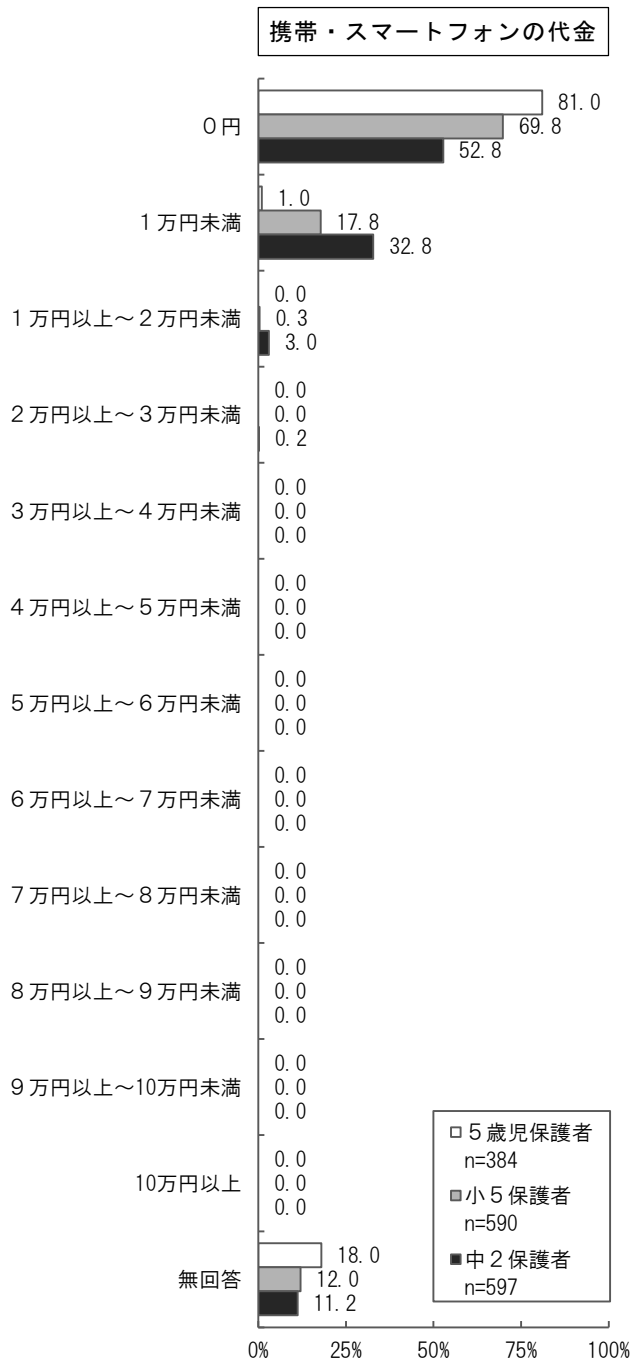
○子どもの服・靴に支払う生活費をみると、いずれの学年も「1万円未満」(68.5～77.3%)が最も高くなっています。

○おこづかいに支払う生活費をみると、小5保護者は「0円」(48.5%)、中2保護者は「1万円未満」(63.1%)が最も高くなっています。



※5歳児保護者の設問に「おこづかい」はありません。

○携帯・スマートフォンの代金をみると、いずれの学年も「0円」（52.8～81.0%）が最も高く、次いで小5保護者・中2保護者は「1万円未満」（17.8%・32.8%）となっています。

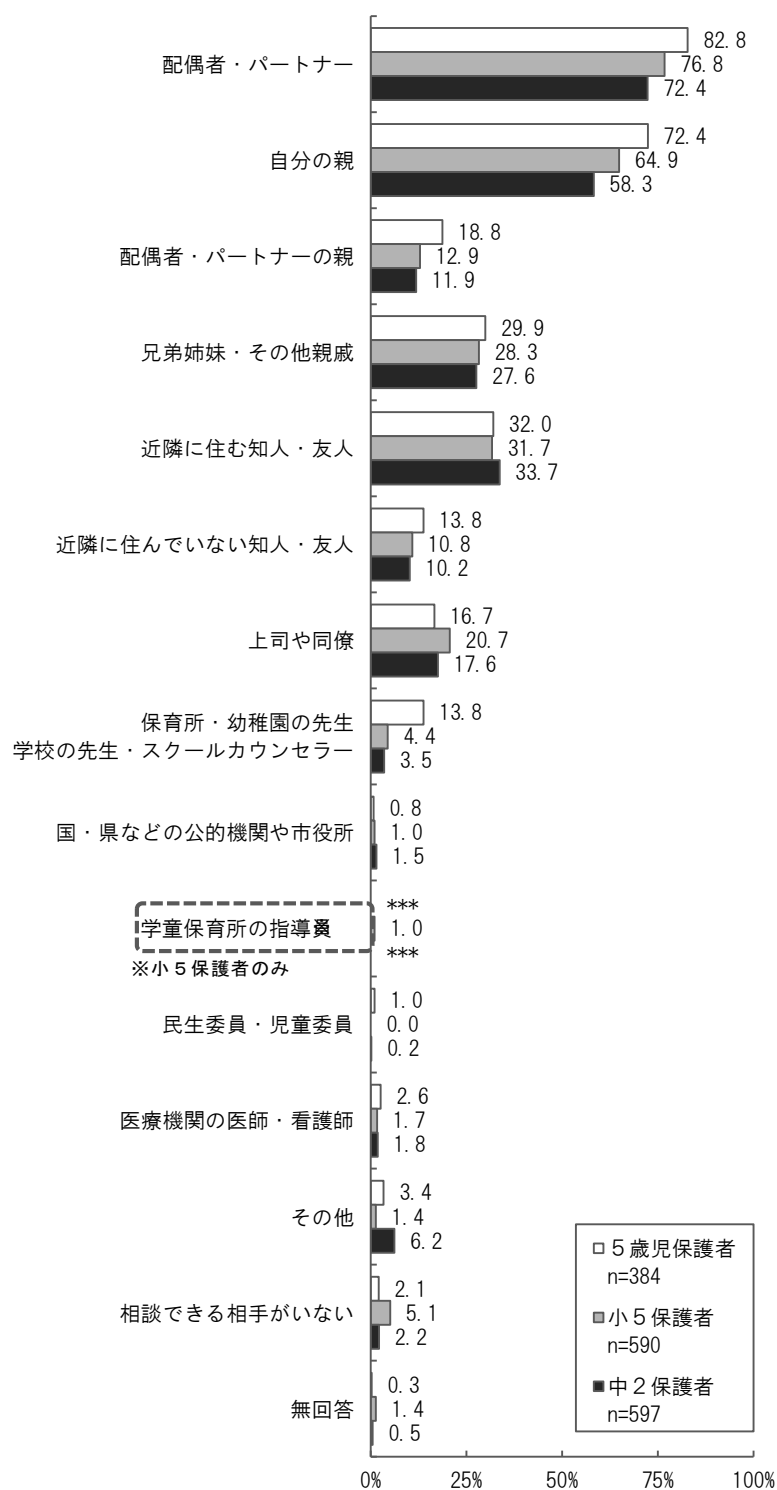


9 家庭での生活について

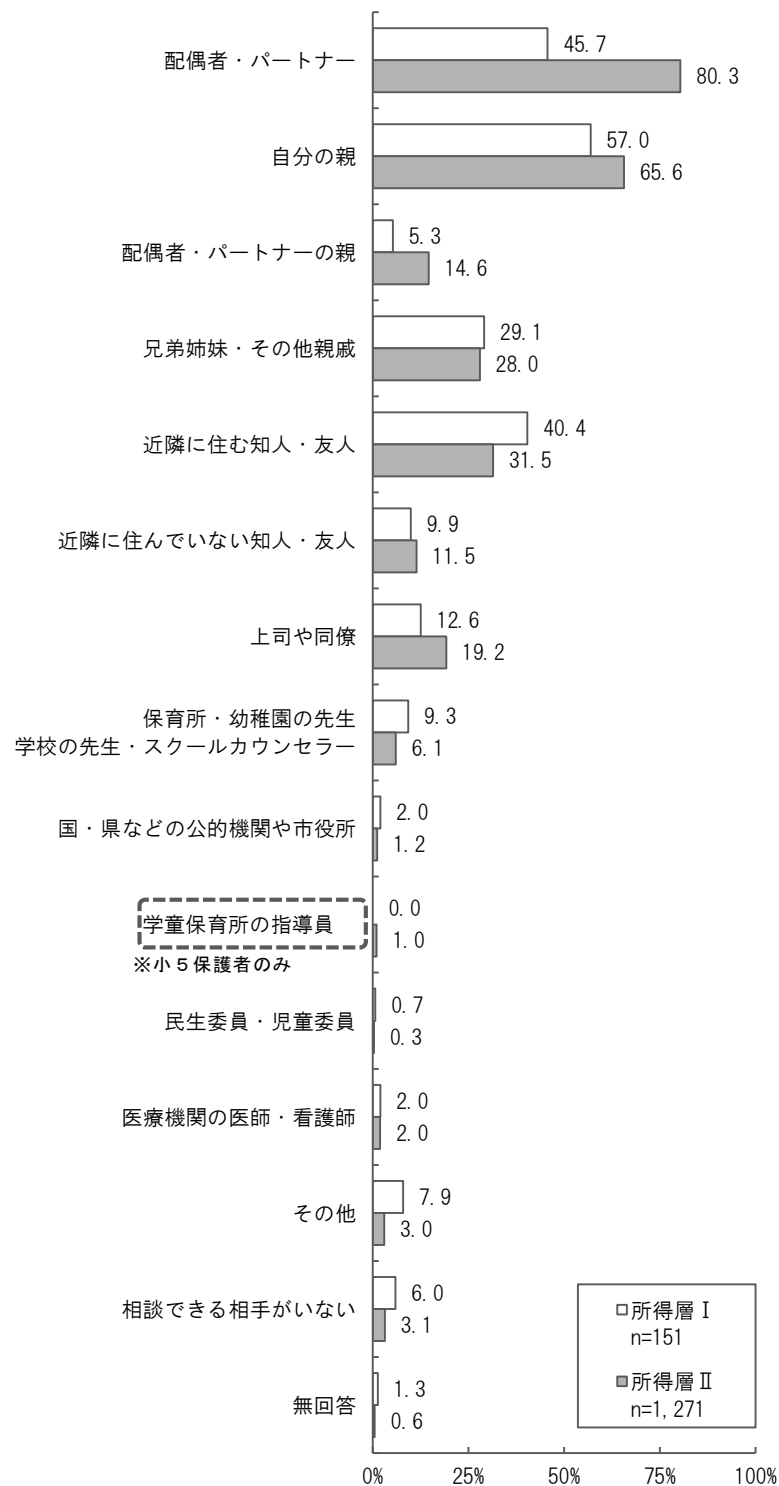
○困った時や悩みがあるときに相談できる相手をみると、いずれの学年も「配偶者・パートナー」(72.4~82.8%)が最も高く、次いで「自分の親」(58.3~72.4%)、「近隣に住む知人・友人」(31.7~33.7%)、「兄弟姉妹・その他親戚」(27.6~29.9%)となっています。

※ひとり親・保護世帯結果はP128 参照

問26 本当に困ったときや悩みがあるときに相談できる相手

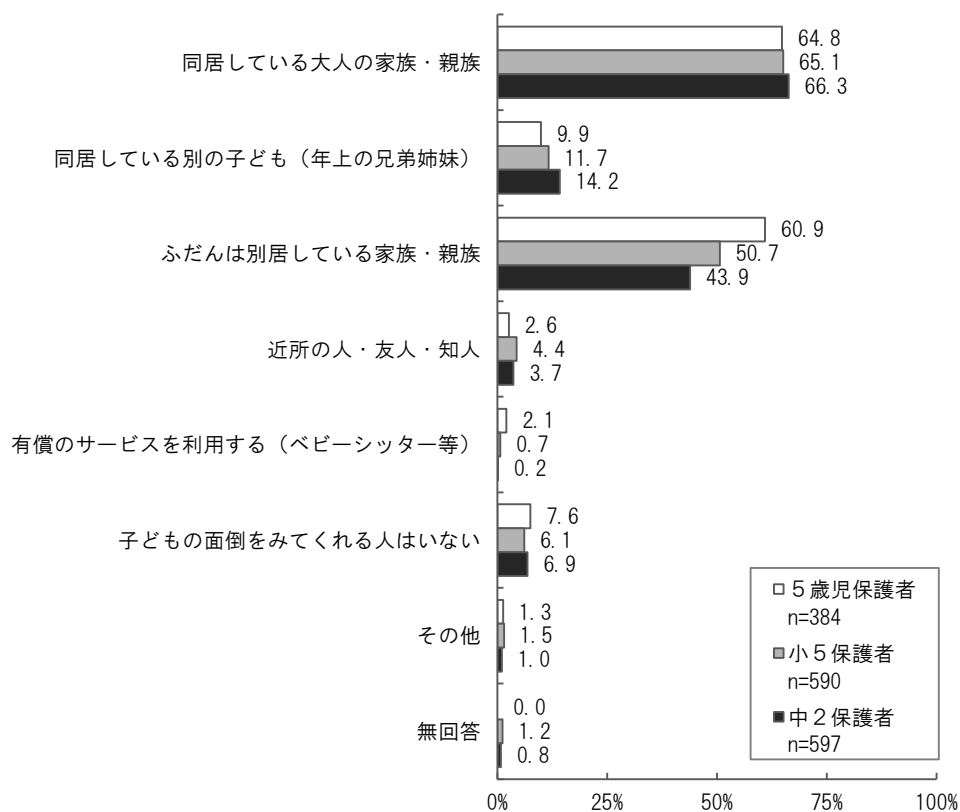


問26 本当に困ったときや悩みがあるときに相談できる相手（3学年全体の所得層別）



○保護者が病気や不在の時に、子どもを面倒みてくれる人は、いずれの学年も「同居している大人の家族・親族」(64.8～66.3%)が最も高く、次いで「ふだんは別居している家族・親族」(43.9～60.9%)となっています。

問27 病気や不在の時に、子どもを面倒みてくれる人



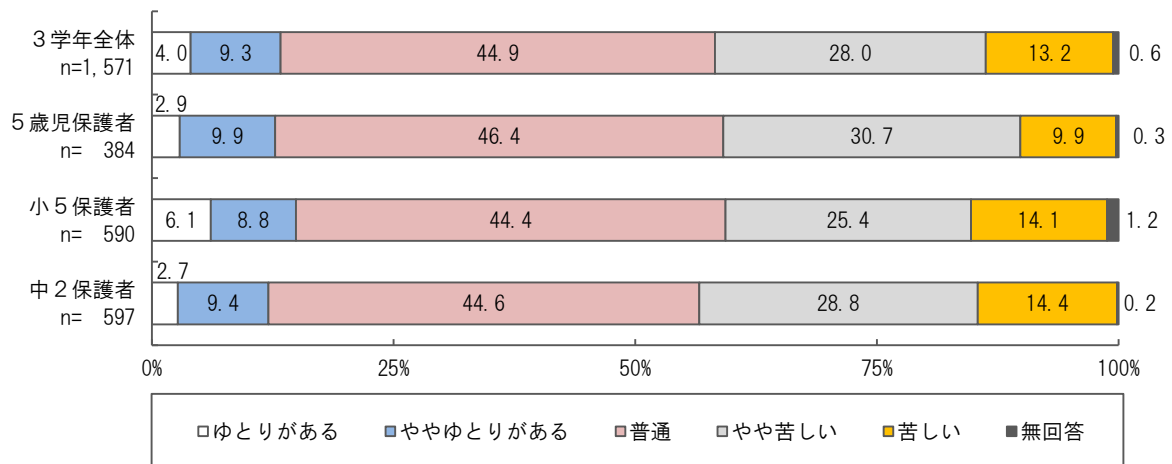
10 世帯の経済状況について

○現在の暮らしの状況を学年別にみると、いずれの学年でも「やや苦しい」と「苦しい」を合わせた割合が4割台となっています。

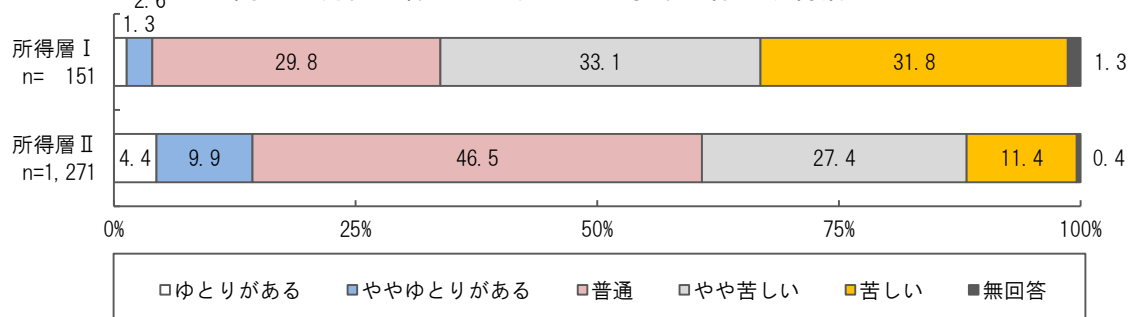
○所得層別にみると、「やや苦しい」と「苦しい」を合わせた割合は所得層Ⅱの38.8%に対し、所得層Ⅰでは64.9%と26.1^{ポイント}上回っています。

○3学年全体（41.2%）に比べ、ひとり親世帯では68.4%で、27.2^{ポイント}、準要保護・生活保護世帯では84.4%で、43.2^{ポイント}上回っています。

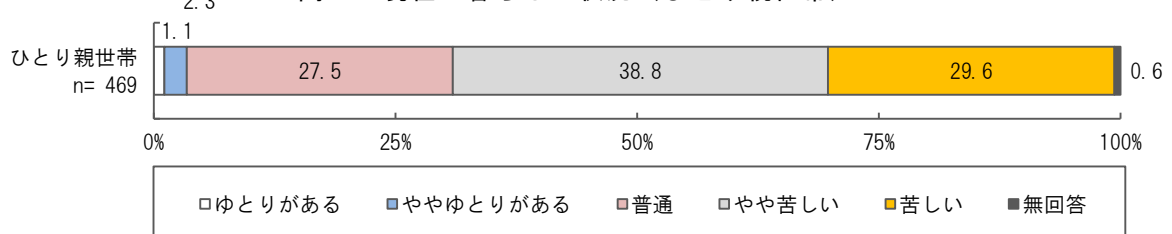
問28 現在の暮らしの状況（学年別）



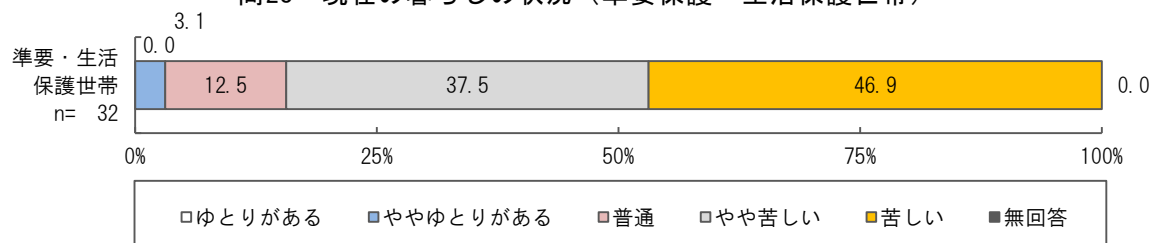
問28 現在の暮らしの状況（3学年全体の所得層別）



問28 現在の暮らしの状況（ひとり親世帯）



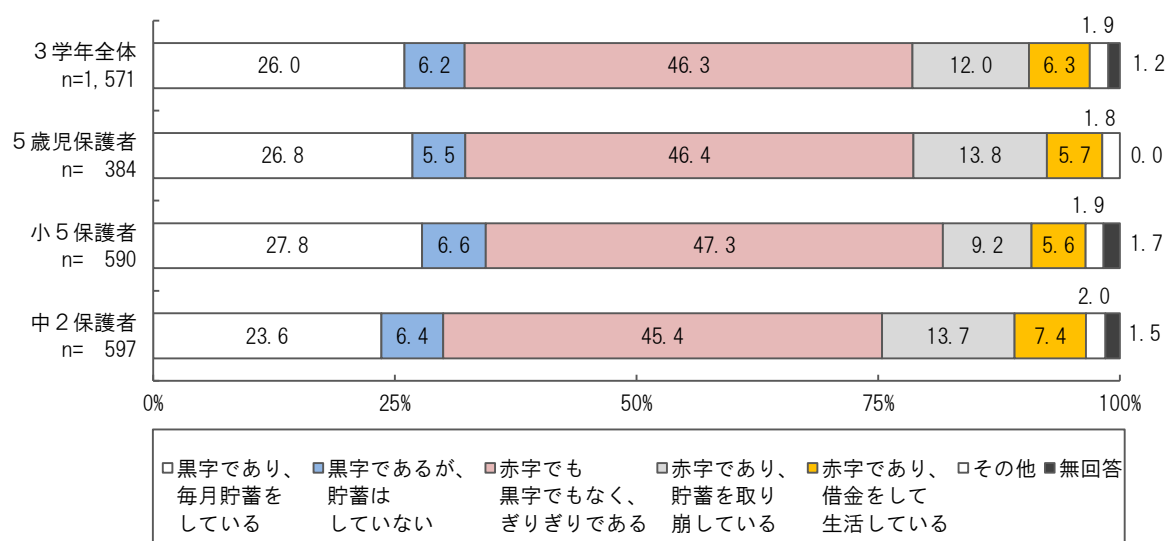
問28 現在の暮らしの状況（準要保護・生活保護世帯）



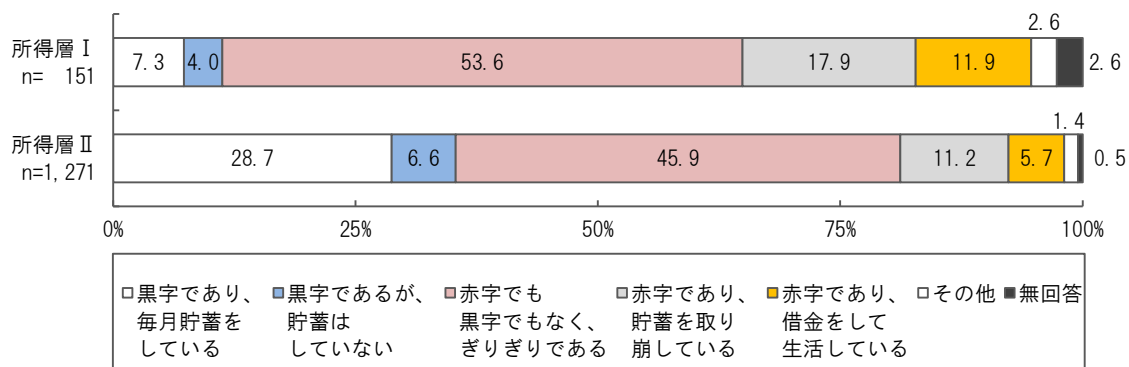
○家計の状況は、いずれの学年も「赤字でも黒字でもなく、ぎりぎりである」（45.4～47.3%）が最も高く、次いで「黒字であり、毎月貯蓄をしている」（23.6～27.8%）となっています。

○家計の状況を所得層別にみると、「赤字であり、貯蓄を取り崩している」と「赤字であり、借金をして生活している」を合わせた割合は、所得層Ⅰが所得層Ⅱを上回っています。

問29 家計の状況（学年別）

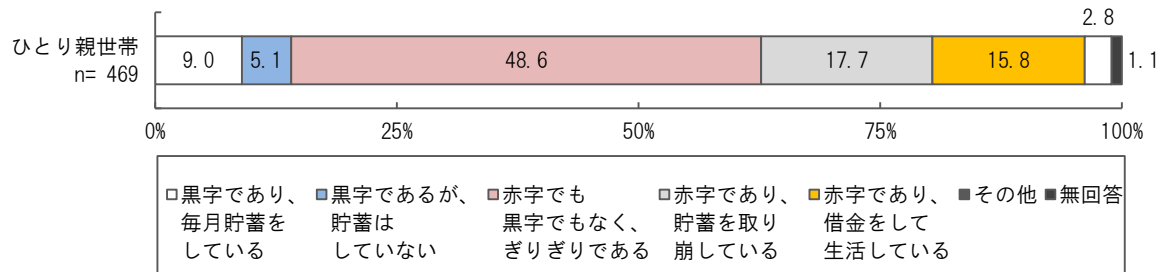


問29 家計の状況（3 学年全体の所得層別）

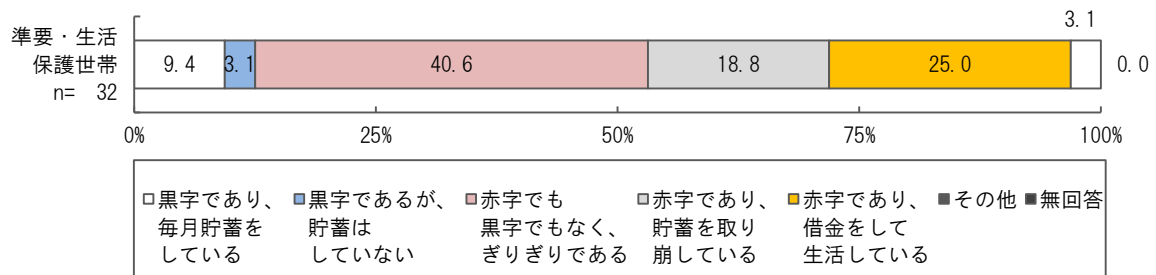


○ひとり親世帯と生活保護世帯の家計の状況をみると、「赤字であり、貯蓄を取り崩している」と「赤字であり、借金をして生活している」を合わせた割合は、ひとり親世帯で33.5%、準要保護・生活保護世帯で43.8%となっています。

問29 家計の状況（ひとり親世帯）

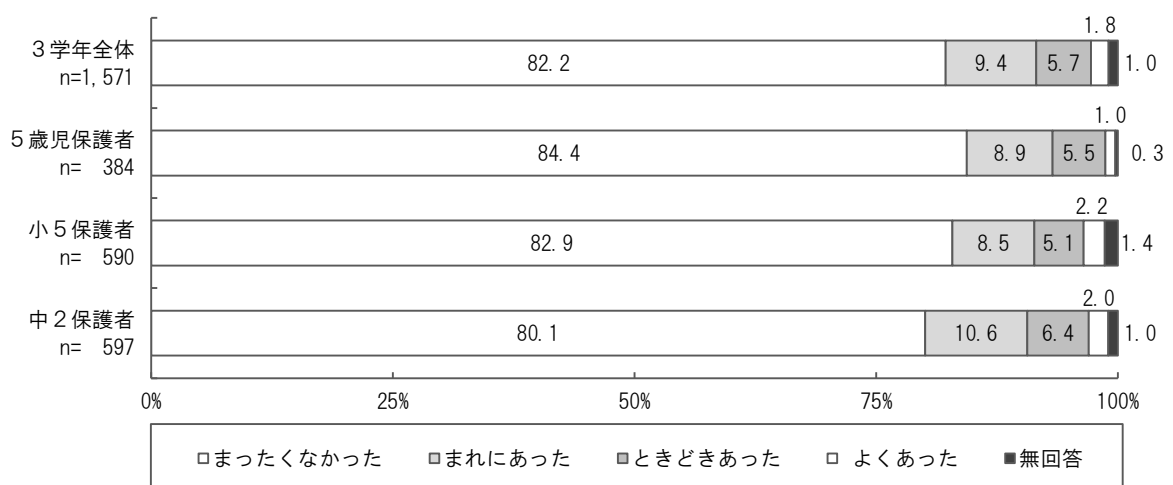


問29 家計の状況（準要保護・生活保護世帯）



○過去1年間に食料が買えなかった経験をみると、「よくあった」「ときどきあった」「まれにあった」を合わせた割合は、いずれの学年も2割弱となっています。

問30 過去1年間に食料が買えなかった経験（学年別）

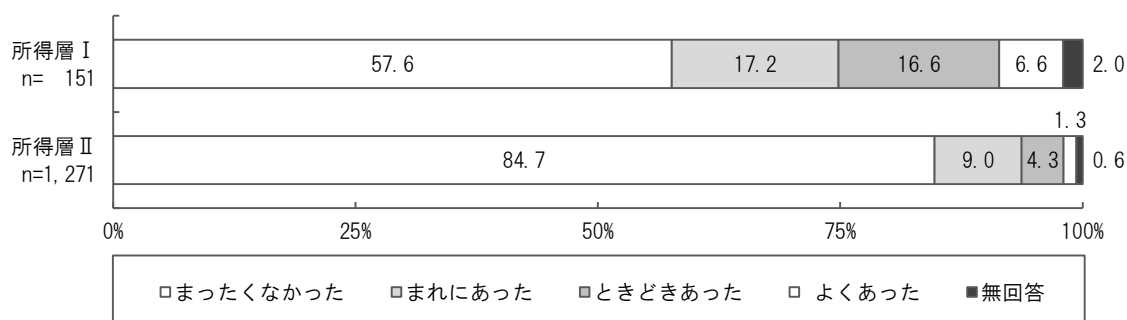


○所得層別の過去１年間に食料が買えなかった経験をみると、所得層Ⅰでは「よくあった」「ときどきあった」「まれにあった」を合わせた割合は40.4%となり、所得層Ⅱ（14.6%）を大きく上回っています。

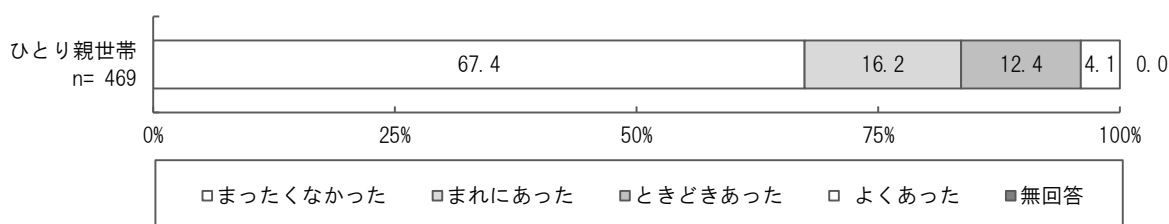
○ひとり親世帯では、「よくあった」「ときどきあった」「まれにあった」を合わせた割合は32.7%となっています。

○準要保護・生活保護世帯では、「よくあった」「ときどきあった」「まれにあった」を合わせた割合は50.0%となっています。

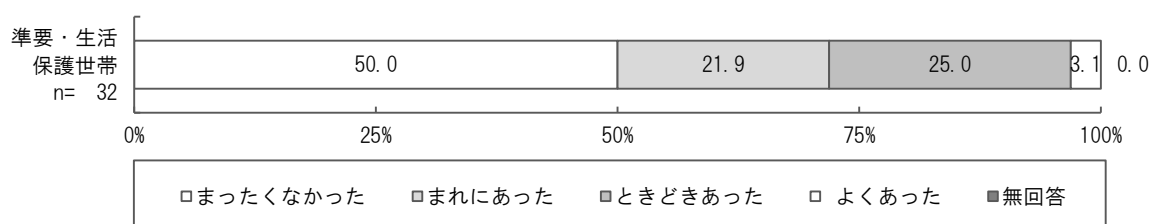
問30 過去１年間に食料が買えなかった経験（３学年全体の所得層別）



問30 過去１年間に食料が買えなかった経験（ひとり親世帯）



問30 過去１年間に食料が買えなかった経験（準要保護・生活保護世帯）



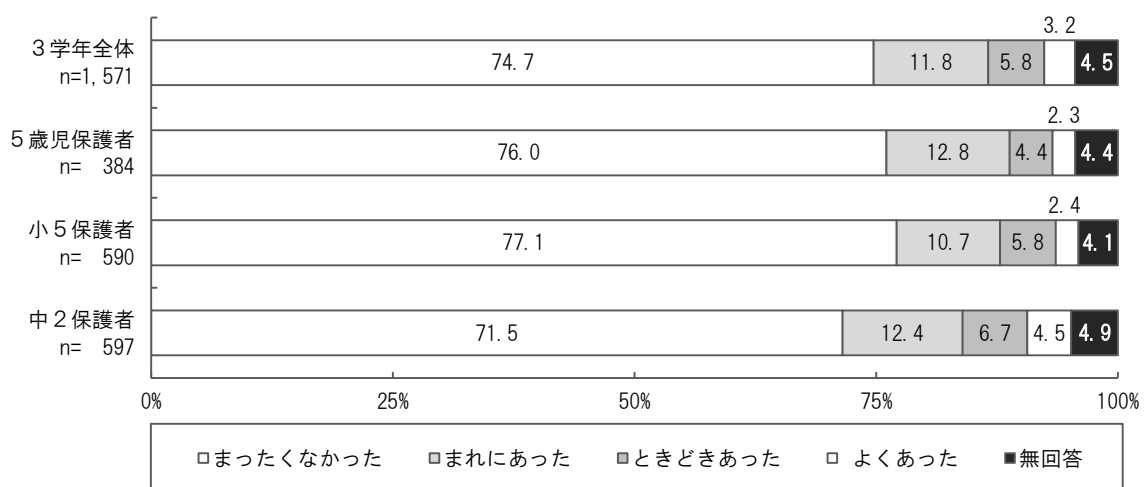
○過去1年間に衣類が買えなかった経験をみると、「よくあった」「ときどきあった」「まれにあった」を合わせた割合は、いずれの学年も2割前後となっています。

○所得層別の過去1年間に衣類が買えなかった経験をみると、所得層Ⅰでは「よくあった」「ときどきあった」「まれにあった」を合わせた割合は39.7%となり、所得層Ⅱ（19.1%）を大きく上回っています。

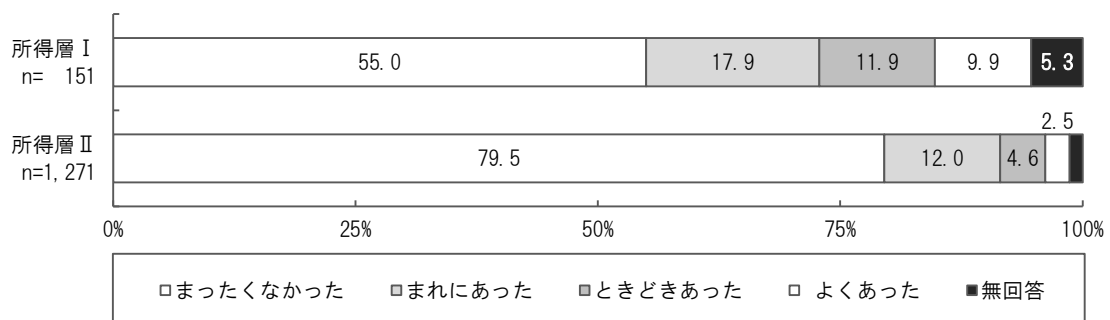
○ひとり親世帯では、「よくあった」「ときどきあった」「まれにあった」を合わせた割合は37.1%となっています。

○準要保護・生活保護世帯では、「よくあった」「ときどきあった」「まれにあった」を合わせた割合は53.2%となっています。

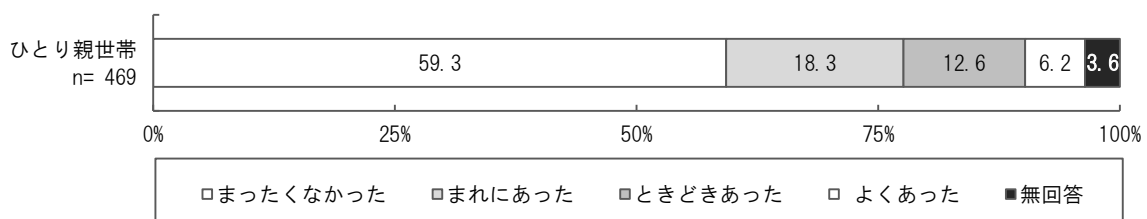
問31 過去1年間に衣類が買えなかった経験（学年別）



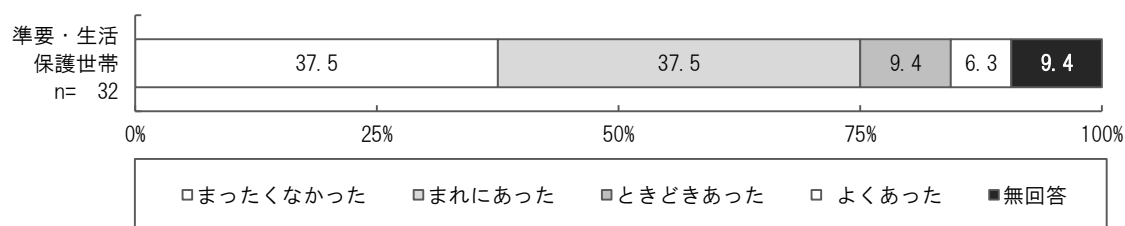
問31 過去1年間に衣類が買えなかった経験（3 学年全体の所得層別）



問31 過去1年間に衣類が買えなかった経験（ひとり親世帯）

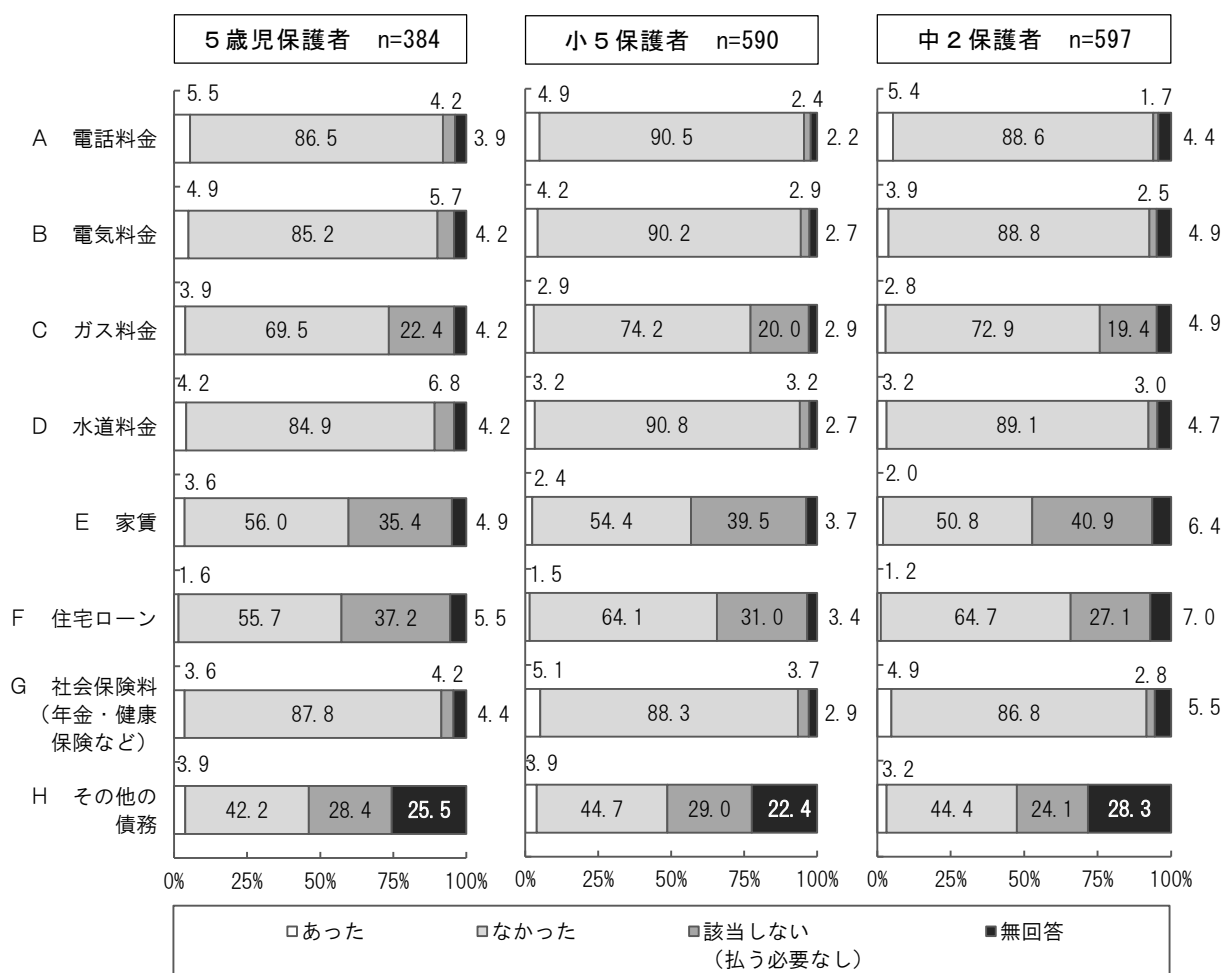


問31 過去1年間に衣類が買えなかった経験（準要保護・生活保護世帯）



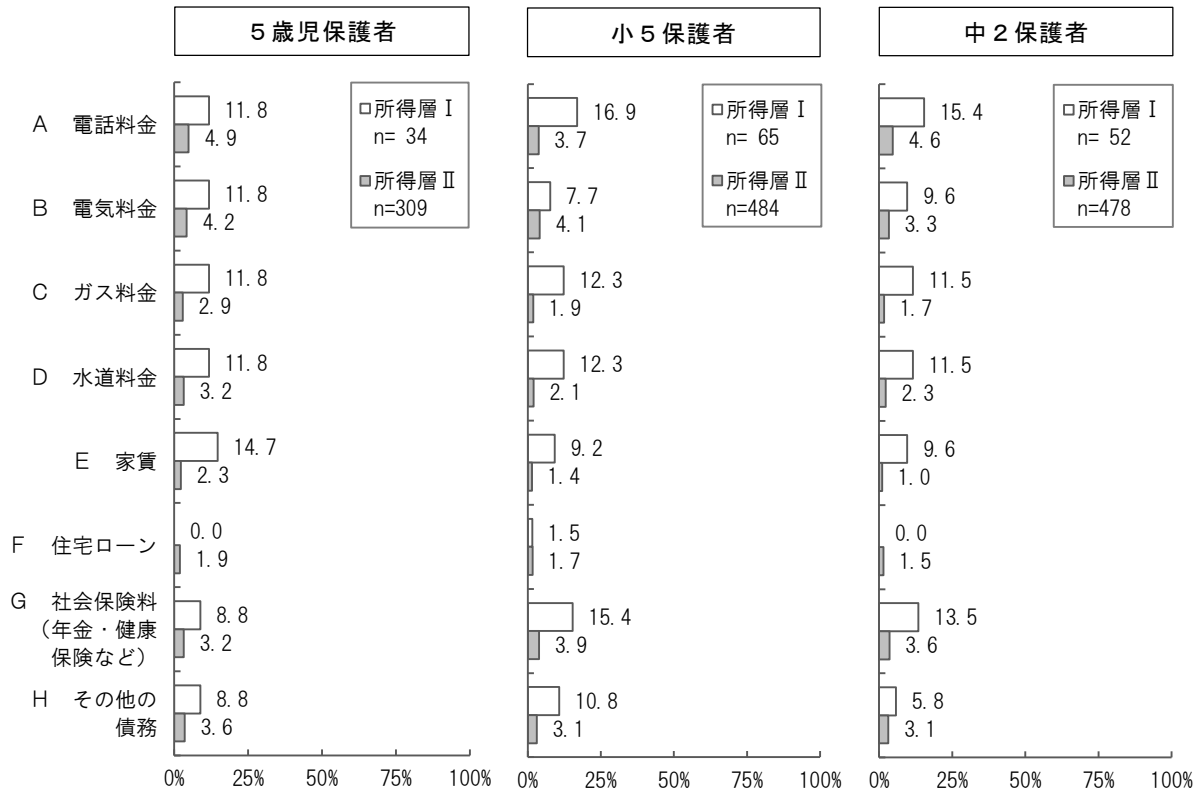
○過去1年間の未払い・滞納・債務不履行の経験の有無をみると、いずれの学年も「なかった」が最も高くなっており、「あった」と回答した方は1割未満となっています。

問32 過去1年間の未払い・滞納・債務不履行の経験の有無



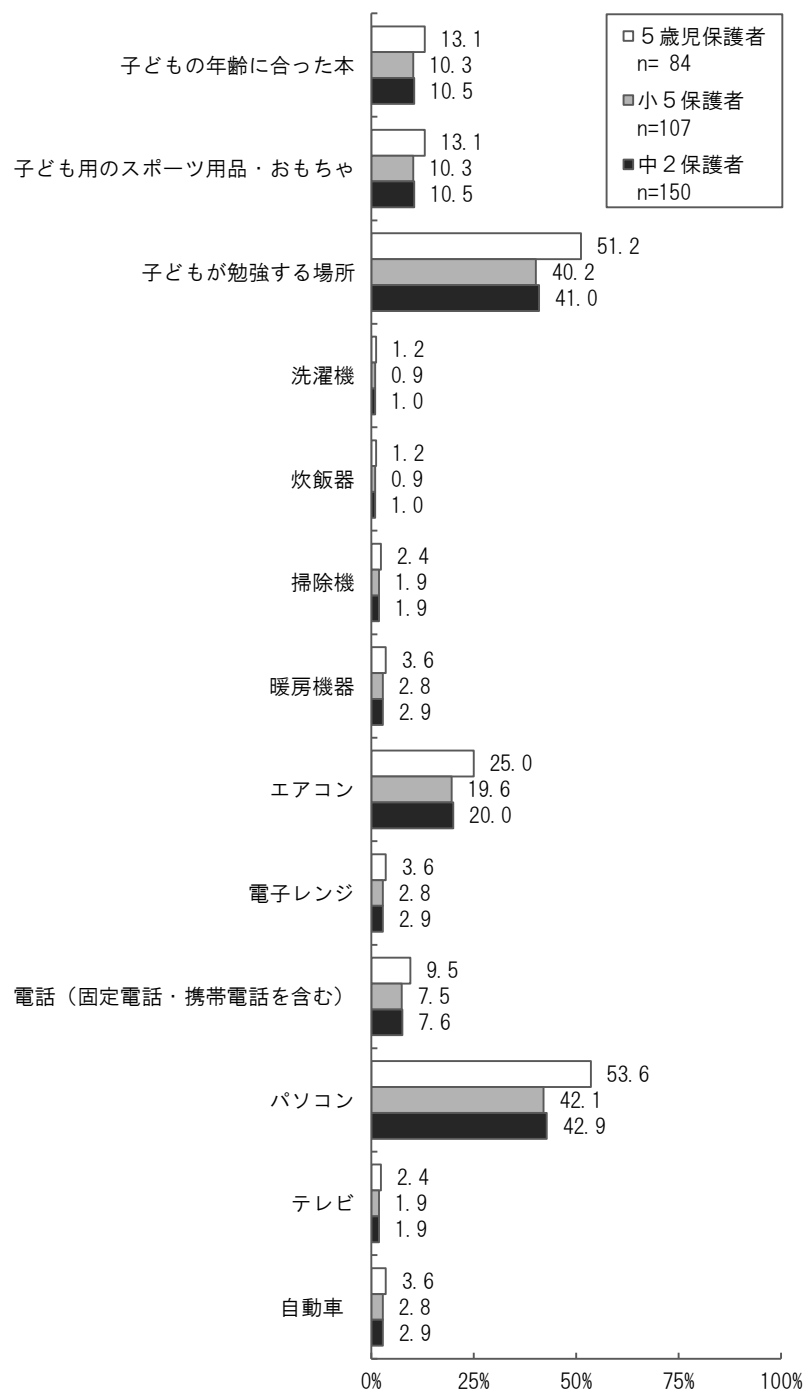
○所得層別に過去1年間の未払い・滞納・債務不履行の経験をみると、所得層Ⅰは所得層Ⅱよりも割合が高くなっており、5歳児保護者では「E 家賃の滞納」（14.7%）、小5保護者では「A 電話料金の未払い」（16.9%・15.4%）が最も高くなっています。

問32 過去1年間の未払い・滞納・債務不履行の経験の有り（所得層別）



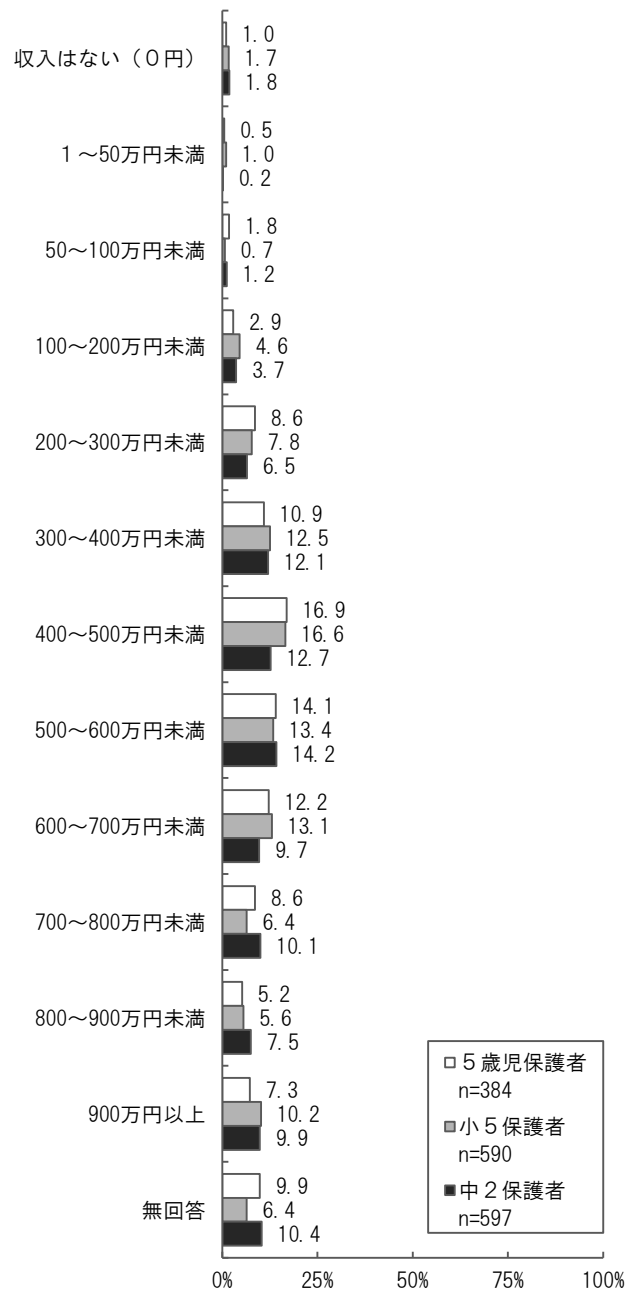
○経済的な理由のために世帯にないものをみると、いずれの学年も『ないものがある』と回答した方の4割以上が「パソコン」や「子供が勉強する場所」をあげています。

問33 経済的な理由のために世帯にないもの



○世帯全員の年間収入額は5歳児保護者・小5保護者で「400～500万円未満」（16.9%・16.6%）、中2保護者で「500～600万円未満」（14.2%）が最も高くなっています。

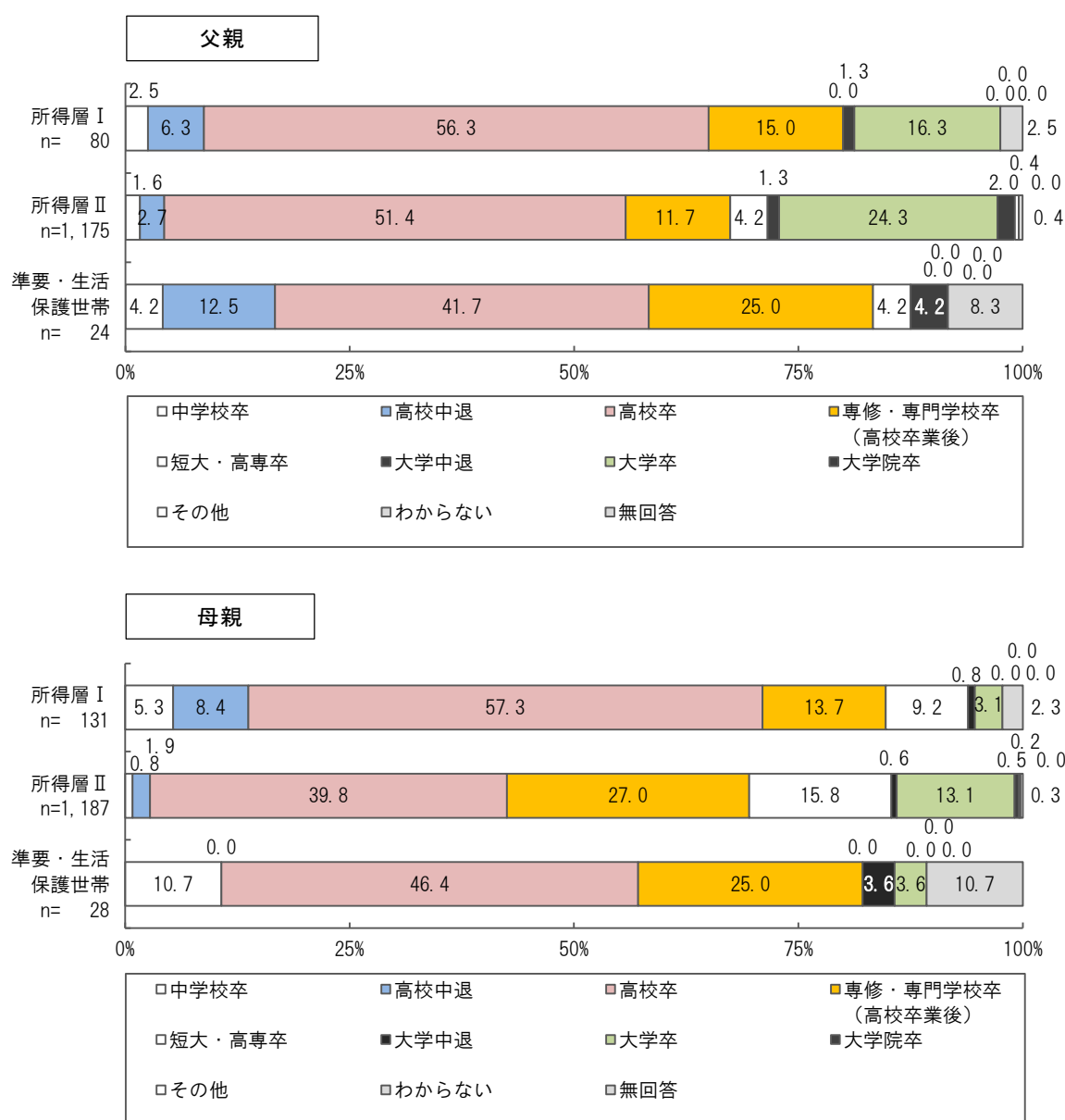
問35 世帯全員の年間収入額



11 これまでの経験について

- 父親の最終学歴を、3学年全体の所得層別でみると「短大・高専卒」、「大学卒」「大学院卒」の割合が所得層Ⅰと比べて所得層Ⅱで高くなっています。
- また、準要保護・生活保護世帯では、「高校卒」（41.7％）が最も高く、次いで「専修・専門学校卒（高校卒業後）」（25.0％）、「高校中退」（12.5％）となっています。
- 同様に、母親の最終学歴をみると、「専修・専門学校卒（高校卒業後）」、「短大・高専卒」「大学卒」「大学院卒」の割合が所得層Ⅰと比べて所得層Ⅱで高くなっています。
- また、準要保護・生活保護世帯では、「高校卒」（46.4％）が最も高く、次いで「専修・専門学校卒（高校卒業後）」（25.0％）、「中学卒業」（10.7％）となっています。

問36 保護者の最終学歴（3学年全体の所得層別、準要保護・生活保護世帯別）

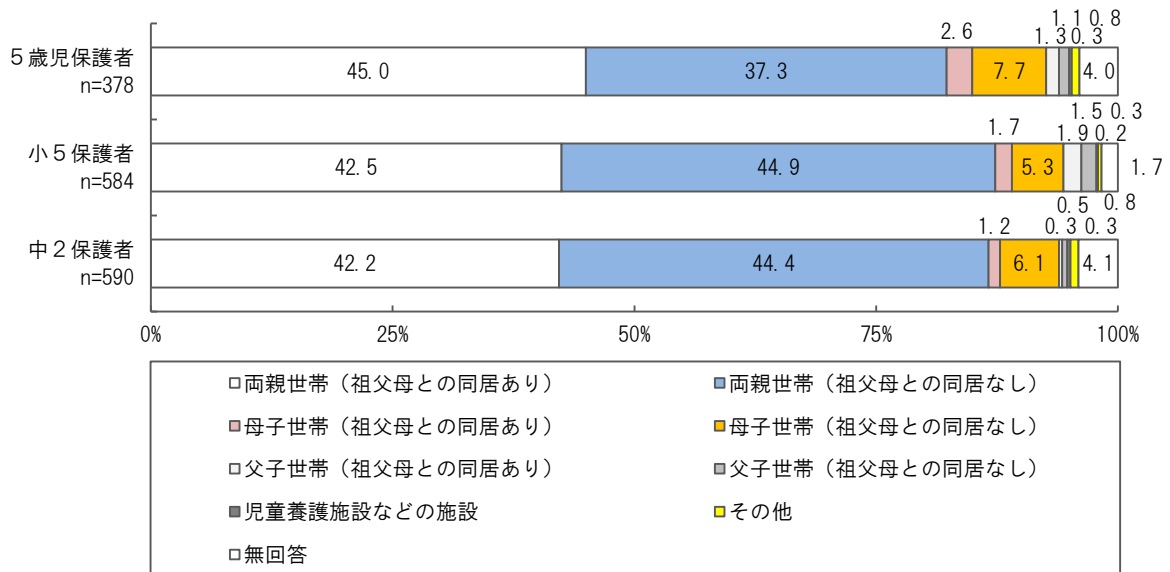


○保護者の中学3年生の頃の家庭の様子をみると、5歳児保護者は「両親世帯（祖父母との同居あり）」（45.0%）、小5保護者・中2保護者は「両親世帯（祖父母との同居なし）」（44.9%・44.4%）が最も高くなっています。

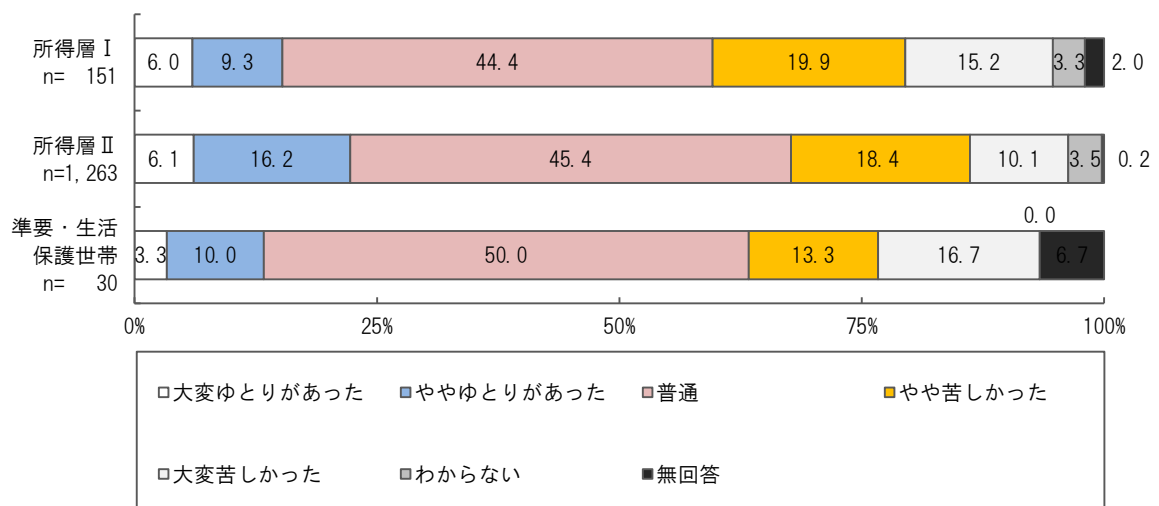
○同様に、3学年全体の所得層別でみると、「やや苦しかった」と「大変苦しかった」を合わせた割合は所得層Ⅰが所得層Ⅱよりも高くなっています。

○また、準要保護・生活保護世帯では、「やや苦しかった」と「大変苦しかった」を合わせた割合が30.0%となっています。

問37 中学3年生の頃の家庭の様子



問38 中学3年生の頃の暮らし向き（3学年全体の所得層別、準要保護・生活保護世帯別）

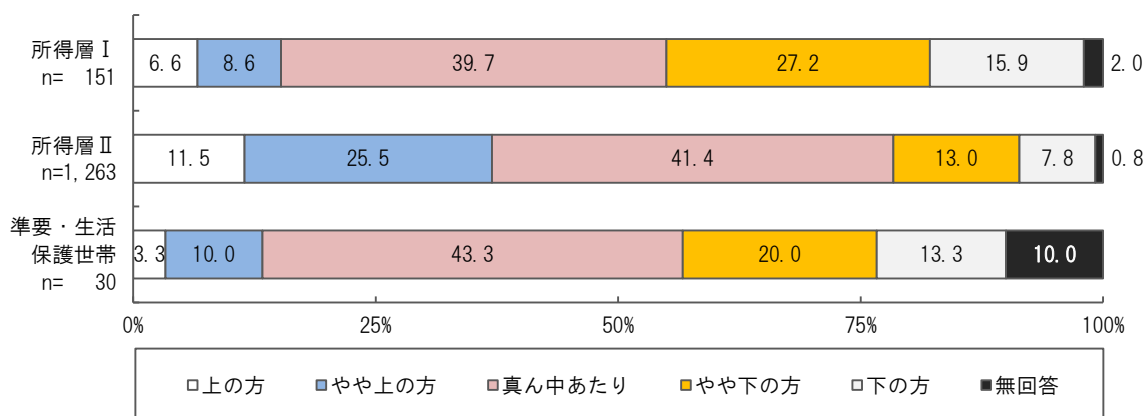


○保護者の中学3年生の頃の成績を3学年全体の所得層別でみると、「やや下の方」と「下の方」を合わせた割合が所得層Ⅰにおいて所得層Ⅱよりも高く、その差は2倍となっています。

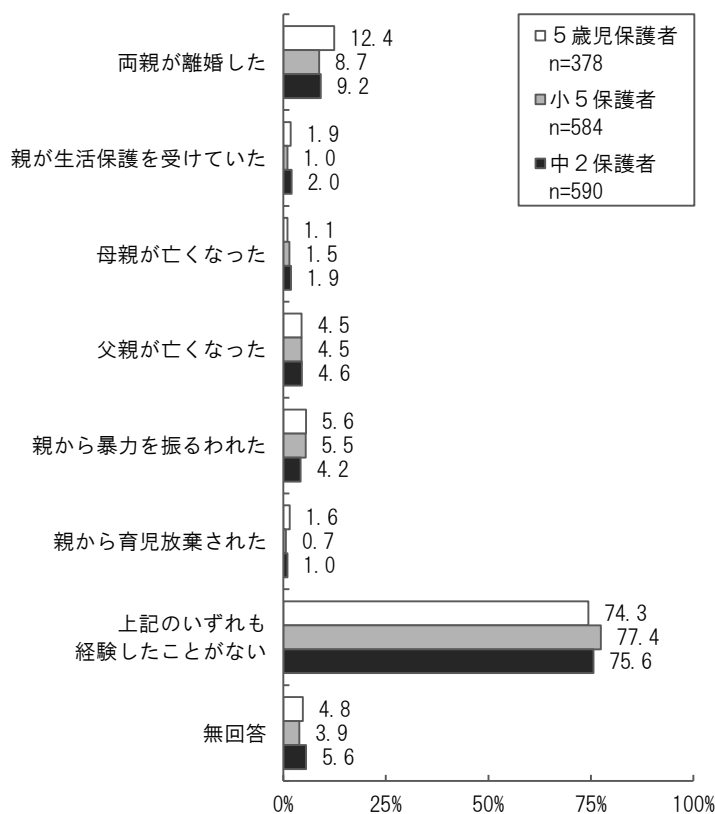
○また、準要保護・生活保護世帯では、「やや下の方」と「下の方」を合わせた割合が33.3%となっています。

○成人する前にあった出来事は、5歳児保護者で「両親が離婚した」(12.4%)が1割を超えており、小5保護者・中2保護者でもそれぞれ約1割と他の出来事と比べて高い割合となっています。

問39 中学3年生の頃の成績（3学年全体の所得層別、準要保護・生活保護世帯別）



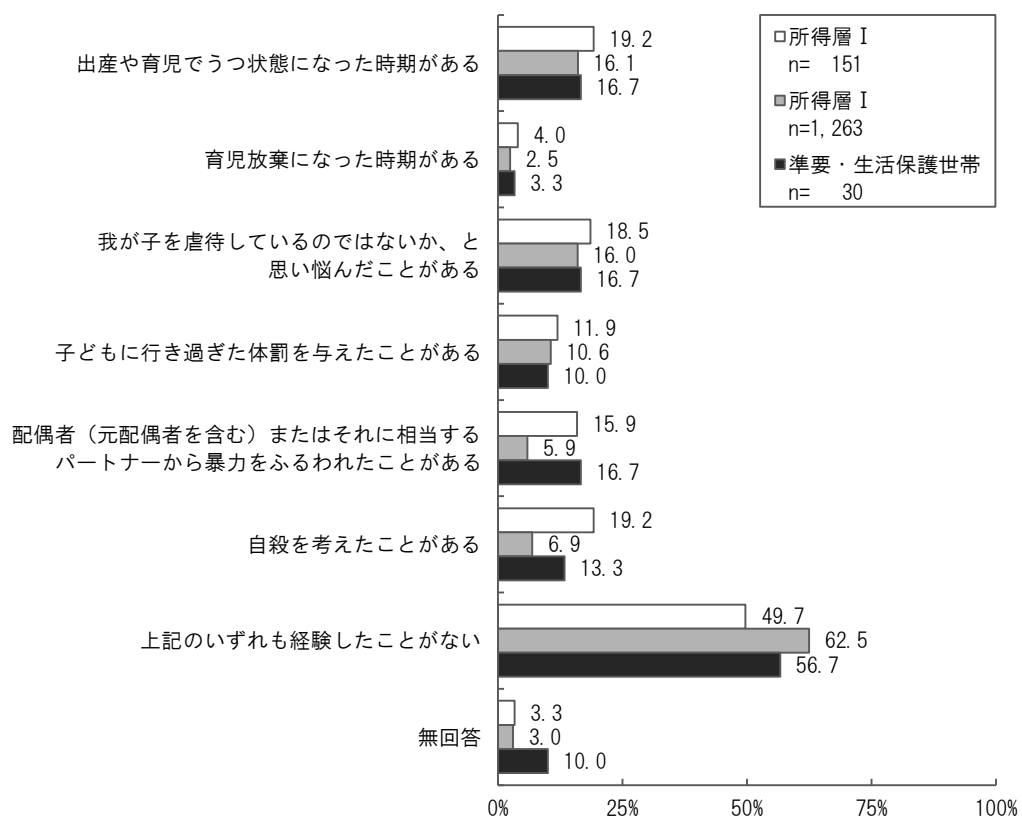
問40 成人する前に体験したこと



○子育てにかかわってから経験したことを3学年全体の所得層別でみると、ともに最も割合の高い「上記のいずれも経験したことがない」(49.7%・62.5%)を除いては、所得層Ⅰの割合が所得層Ⅱを上回っています。

○また、準要保護・生活保護世帯では、「上記のいずれも経験したことがない」(56.7%)が最も高く、次いで「出産や育児でうつ状態になった時期がある」「我が子を虐待しているのではないか、と思い悩んだことがある」「配偶者(元配偶者を含む)またはそれに相当するパートナーから暴力をふるわれたことがある」(各16.7%)となっています。

問41 子育てにかかわってから経験したこと
(3学年全体の所得層別、準要保護・生活保護世帯別)

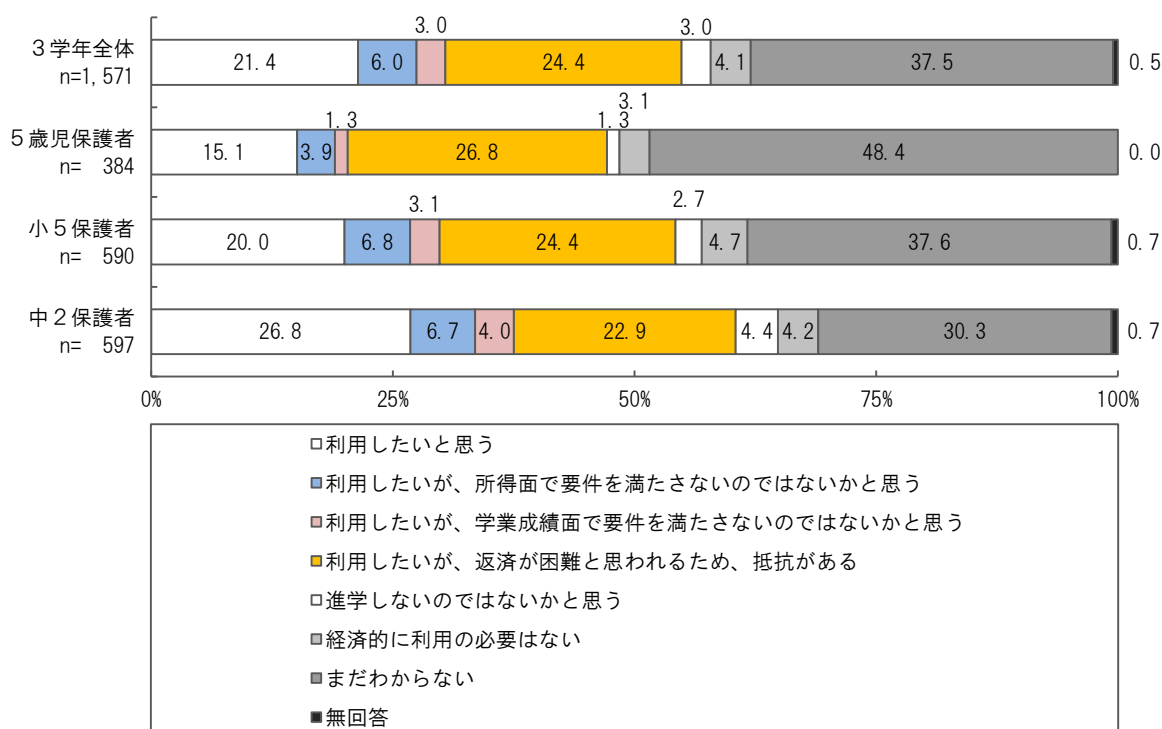


12 公的支援の利用状況について

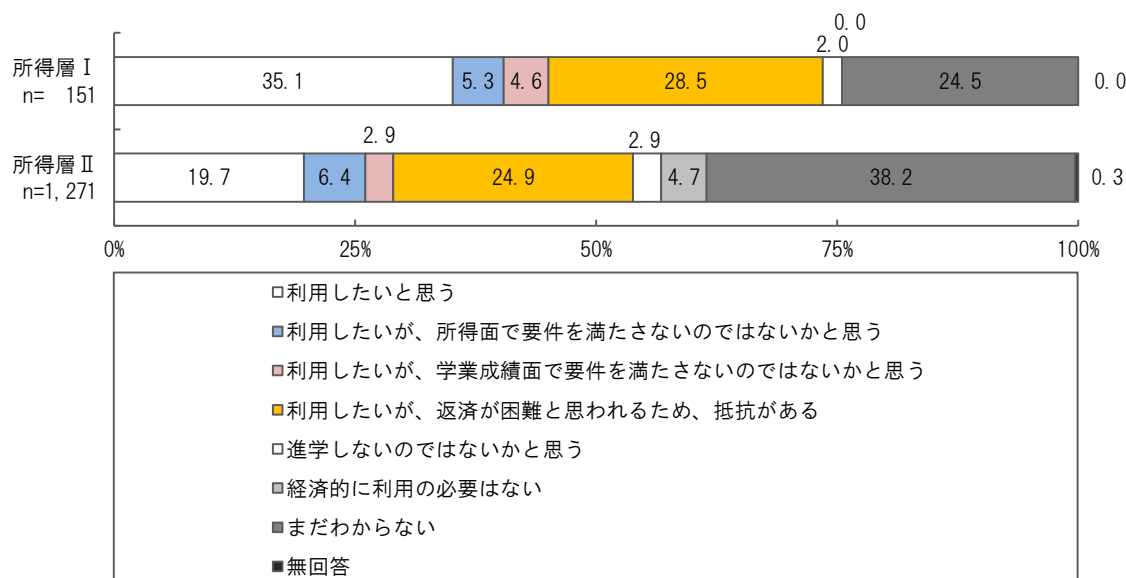
○子どもが進学する場合の奨学金利用希望をみると、5歳児保護者・小5保護者は「まだわからない」（48.4％・37.6％）が最も高く、次いで「利用したいが、返済が困難と思われるため、抵抗がある」（35.3％・30.8％）となっています。中2保護者では「まだわからない」（30.3％）が最も高く、次いで「利用したいと思う」（26.8％）となっています。

○進学時の奨学金の利用希望を所得層別でみると、「利用したいと思う」割合は所得層Ⅰが所得層Ⅱよりも高くなっています。

問42 進学時の奨学金の利用希望（学年別）



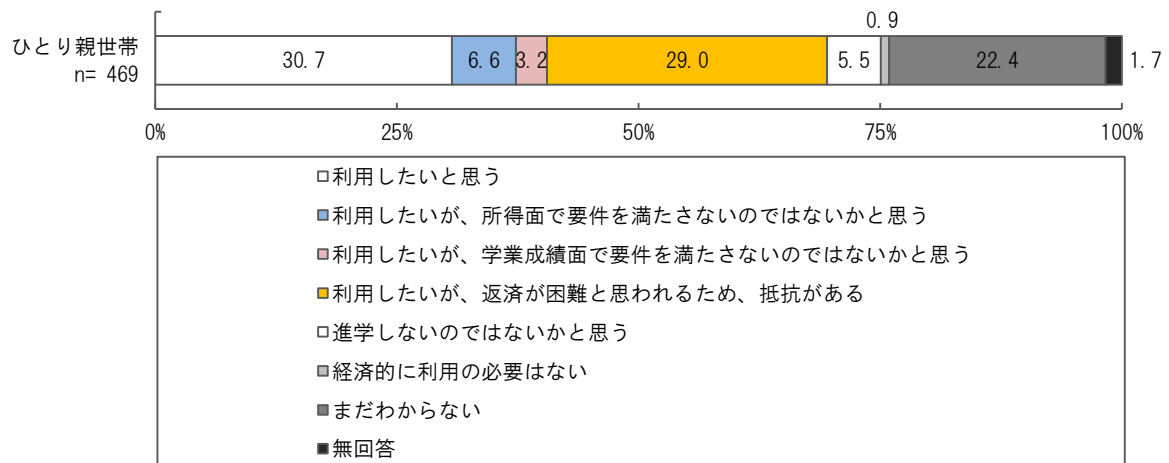
問42 進学時の奨学金の利用希望（3学年全体の所得層別）



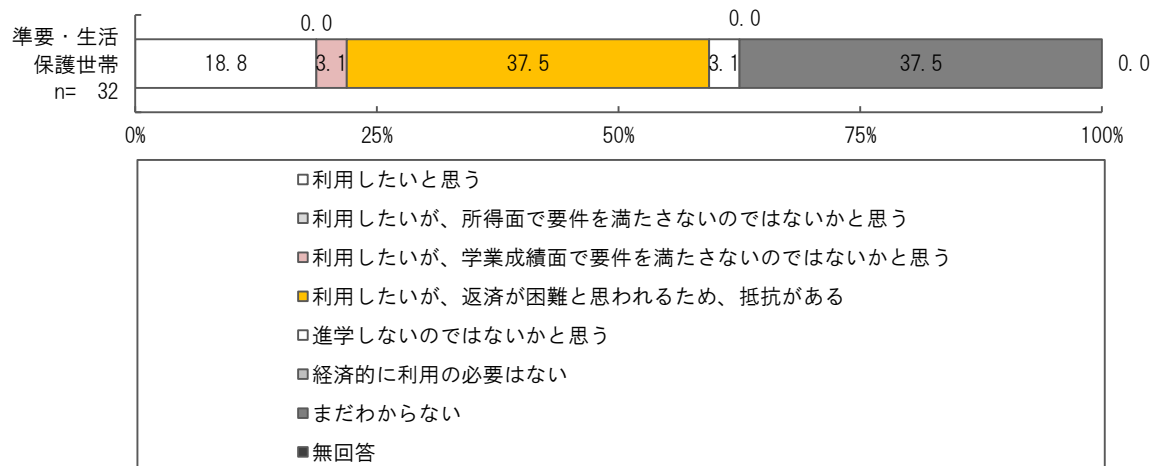
○ひとり親世帯の進学時の奨学金の利用希望は、「利用したいと思う」（30.7％）が最も高く、次いで「利用したいが、返済が困難と思われるため、抵抗がある」（29.0％）、「まだわからない」（22.4％）となっています。

○また、準要保護・生活保護世帯では、「利用したいが、返済が困難と思われるため、抵抗がある」「まだわからない」（各37.5％）が最も高く、次いで「利用したいと思う」（18.8％）となっています。

問42 進学時の奨学金の利用希望（ひとり親世帯）

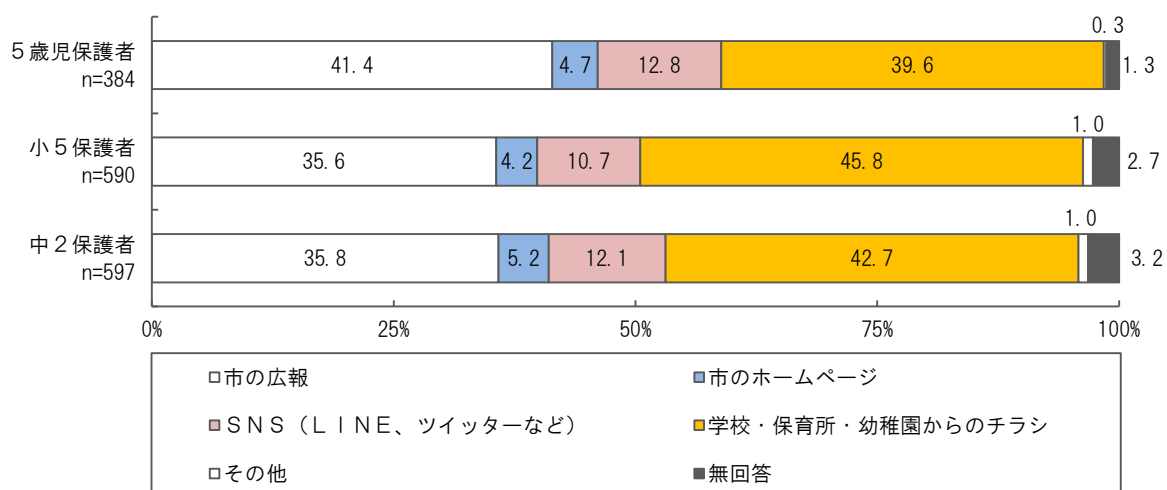


問42 進学時の奨学金の利用希望（準要保護・生活保護世帯）



○子どもに関する施策等の情報について希望する入手方法をみると、5歳児保護者は「市の広報」(41.4%)が最も高く、次いで「学校・保育所・幼稚園からのチラシ」(39.6%)となっています。小5保護者・中2保護者は「学校・保育所・幼稚園からのチラシ」(45.8%・42.7%)が最も高く、次いで「市の広報」(35.6%・35.8%)となっています。

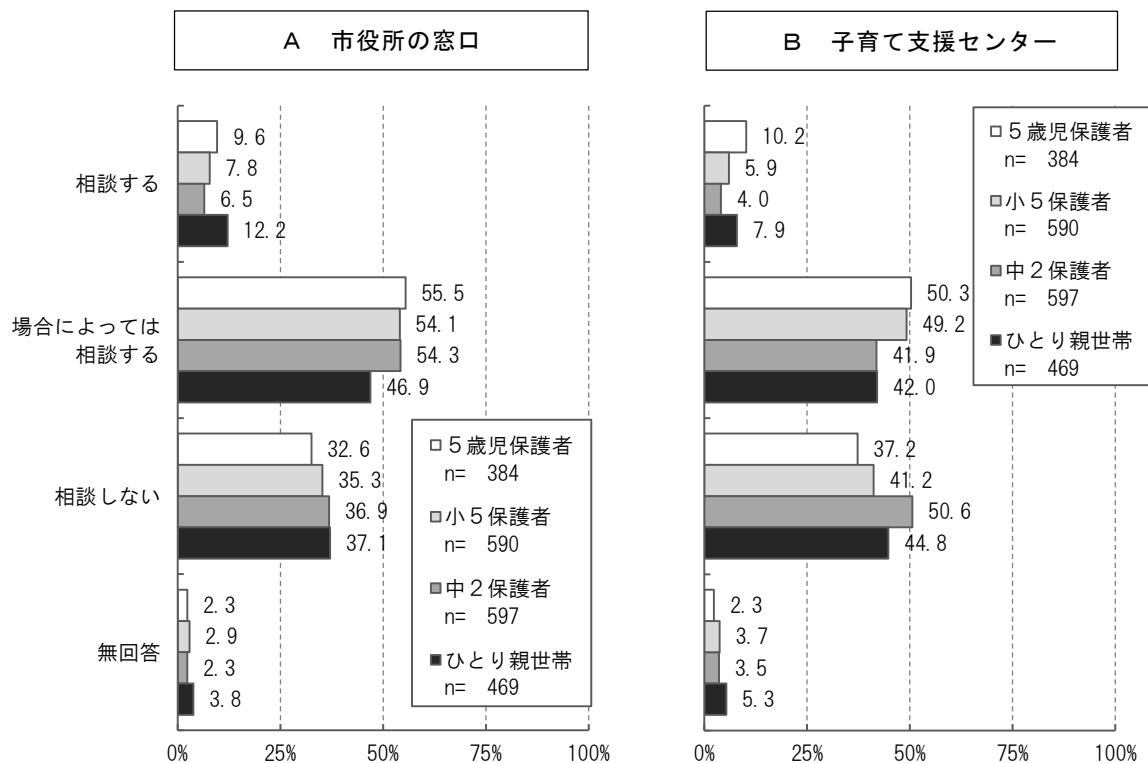
問43 子どもに関する施策等の情報について希望する入手方法



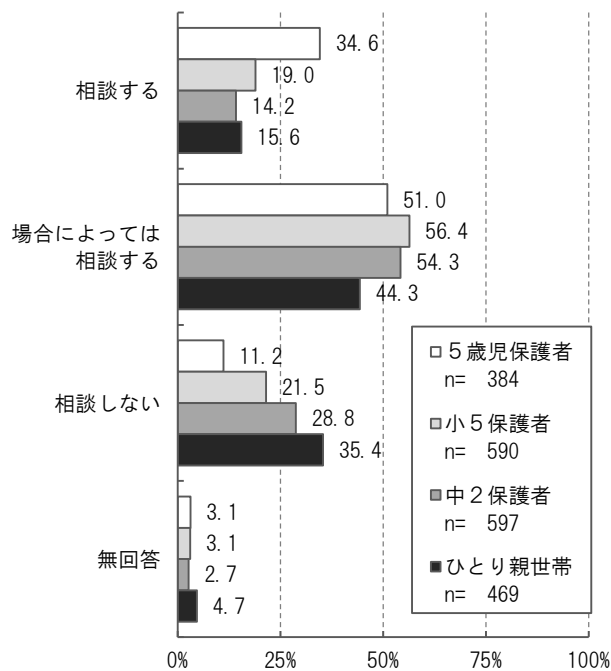
○困った時に相談する公的機関をみると、5歳児保護者では「相談する」と「場合によっては相談する」を合わせた割合は、『学校・保育所・幼稚園の先生、スクールカウンセラー』（85.6%）が最も高く、次いで『市役所の窓口』（65.1%）、『子育て支援センター』（60.5%）となっています。

○また、ひとり親世帯をみると、「相談する」と「場合によっては相談する」を合わせた割合は、『学校・保育所・幼稚園の先生、スクールカウンセラー』（59.9%）が最も高く、次いで『市役所の窓口』（59.1%）、『子育て支援センター』（49.9%）となっています。

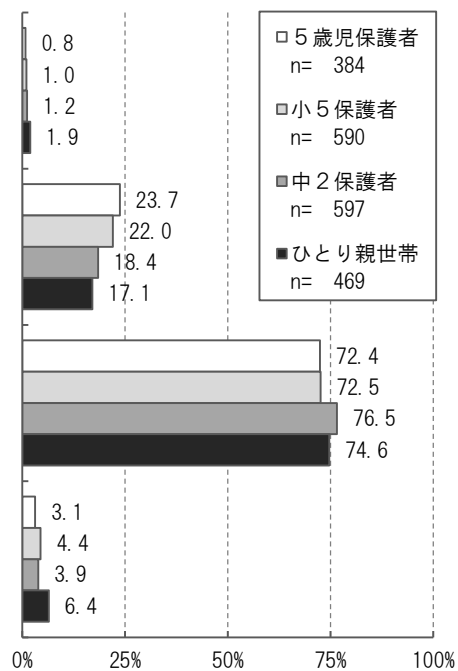
問44 困ったときに相談する公的機関



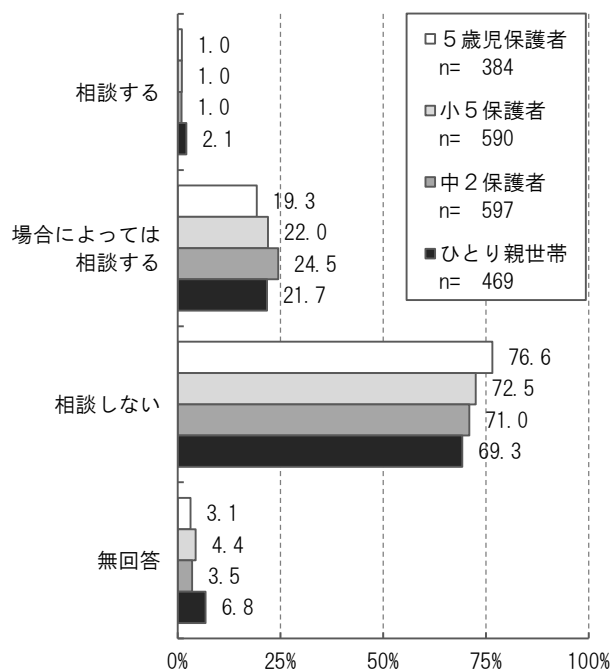
C 学校・保育所・幼稚園の先生、
スクールカウンセラー



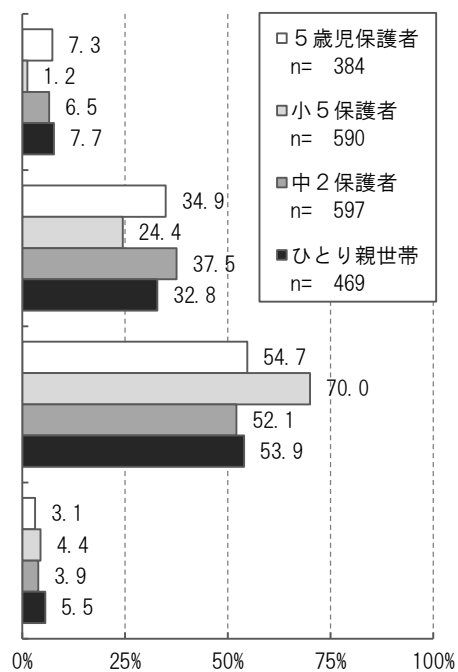
D 民生委員・児童委員

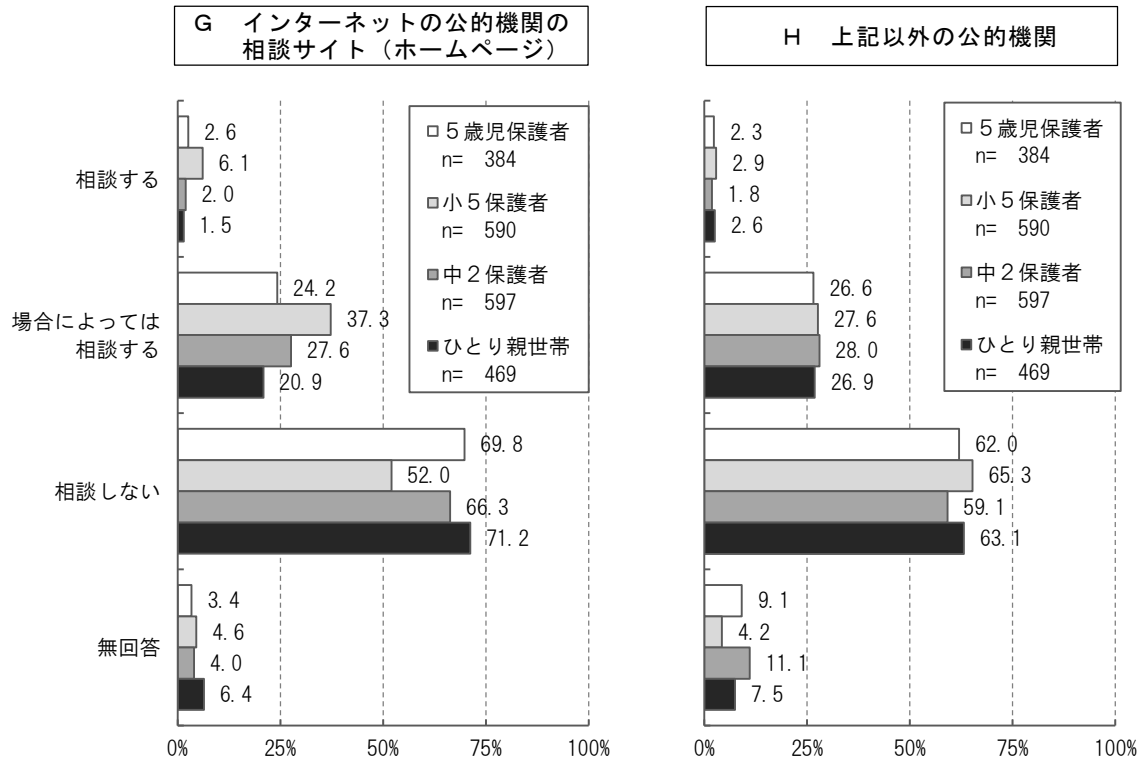


E 社会福祉協議会



F ハローワーク員





第 3 章
子ども(小学5年生・中学2年生)
調査結果

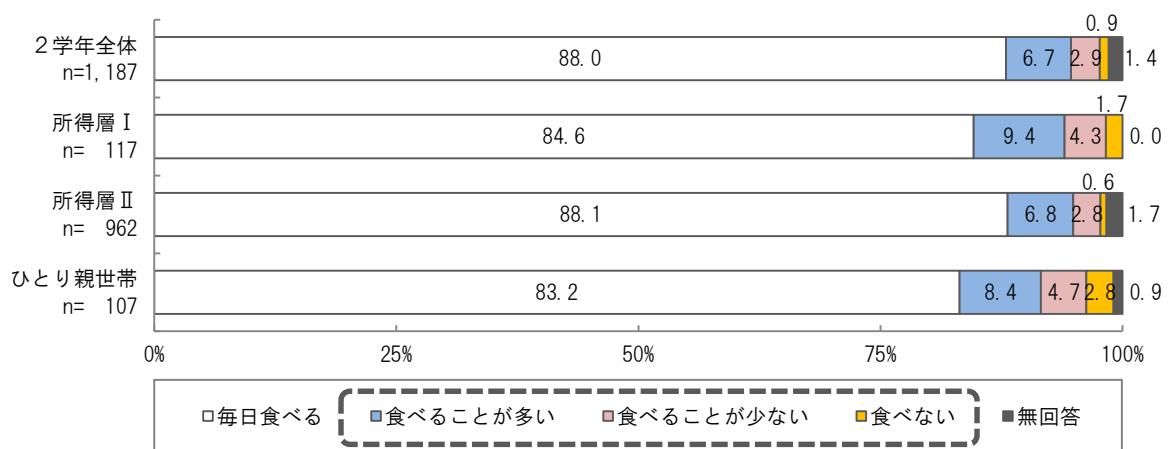
第3章 子ども(小学5年生・中学2年生)調査結果

1 朝食について

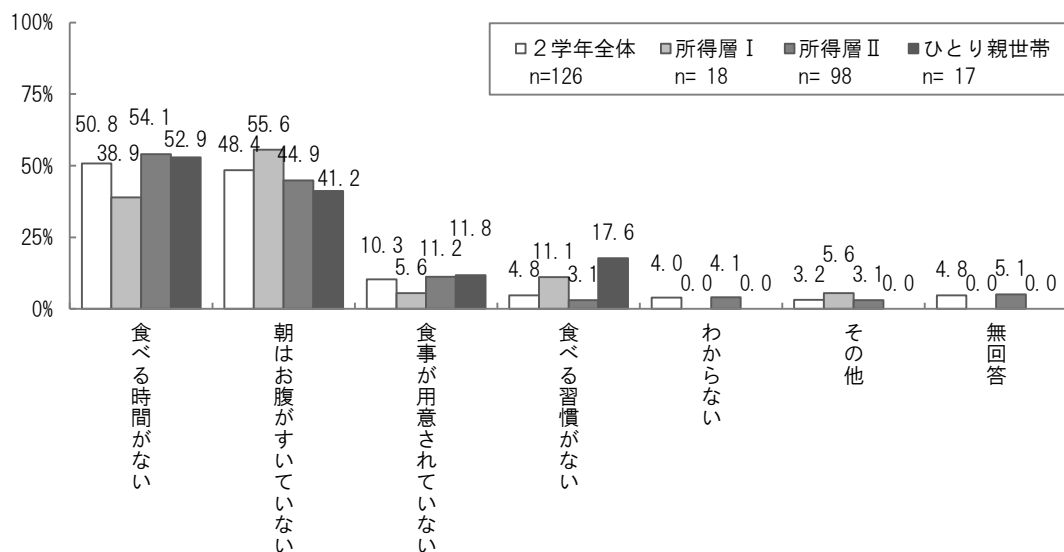
○朝食をとる頻度を回答者区分別にみると、「食えることが少ない」「食えない」が2学年全体で3.8%おり、所得層Ⅰは7.5%と割合がやや高くなっています。

○朝食を食べない理由は、「食べる時間がない」「朝はお腹がすいていない」が大半を占めています。また、ひとり親世帯では「食べる習慣がない」と回答した方が17.6%と他より高くなっています。

問1-(1) 週当たりの朝食をとる頻度

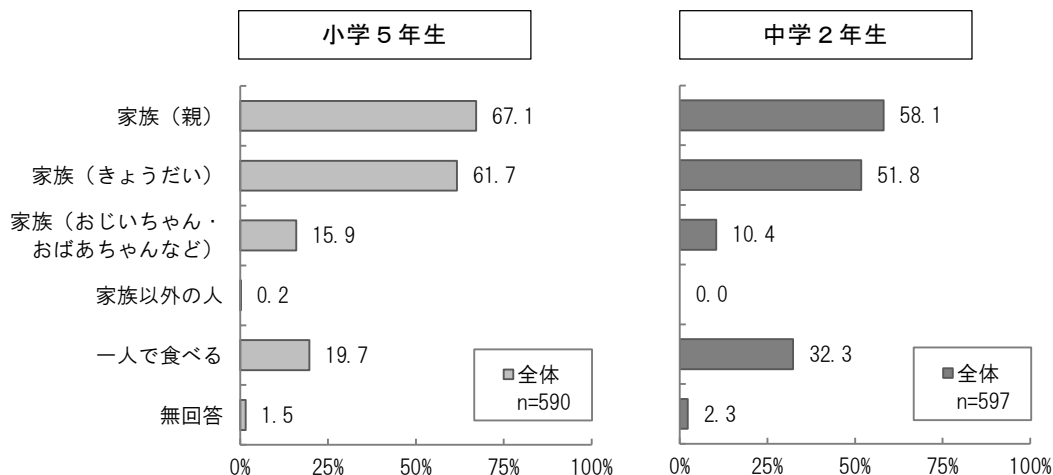


問1-(2) 朝食を食べない理由



○朝食を一緒に食べる人は、小学5年生は「家族（親）」（67.1％）が最も高く、次いで「家族（きょうだい）」（61.7％）となっています。中学2年生は「家族（親）」（58.1％）が最も高く、次いで「家族（きょうだい）」（51.8％）となっています。

問1-(3) 朝食を一緒に食べる人

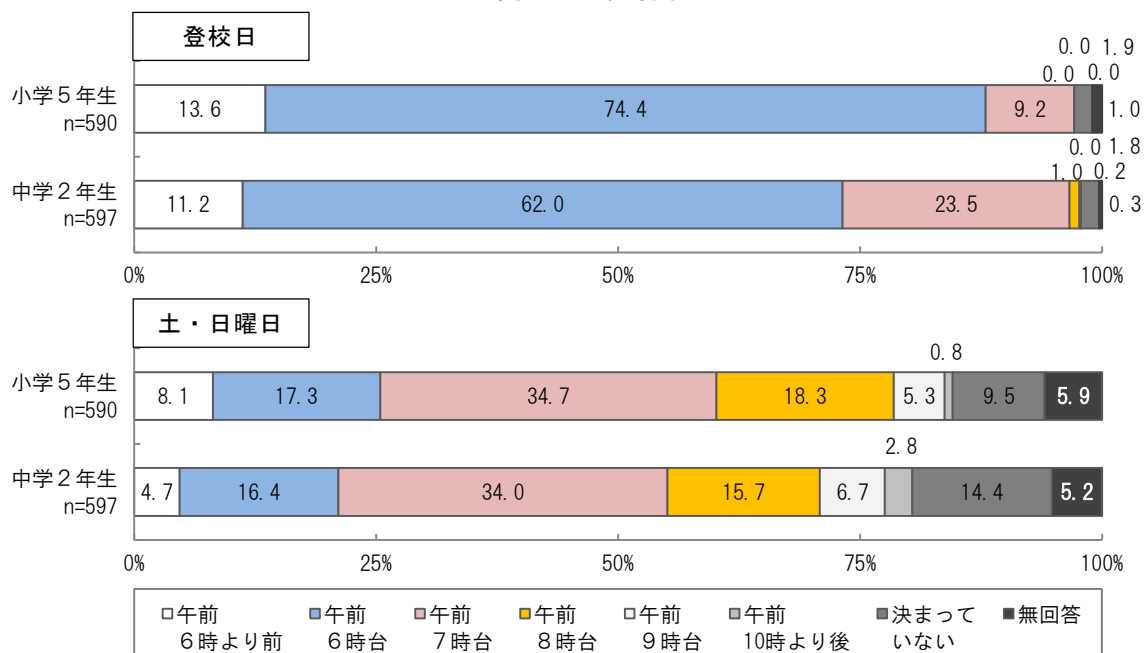


2 ふだんの生活について

○登校日の起床時間は、小学5年生・中学2年生ともに「午前6時台」（74.4％・62.0％）が最も高く、次いで小学5年生は「午前6時より前」（13.6％）、中学2年生は「午前6時台」（23.5％）となっています。

○土・日曜日の起床時間は、小学5年生・中学2年生ともに「午前7時台」（34.7％・34.0％）が最も高く、次いで小学5年生は「午前8時台」（18.3％）、中学2年生は「午前6時台」（16.4％）となっています。

問2 起床時間

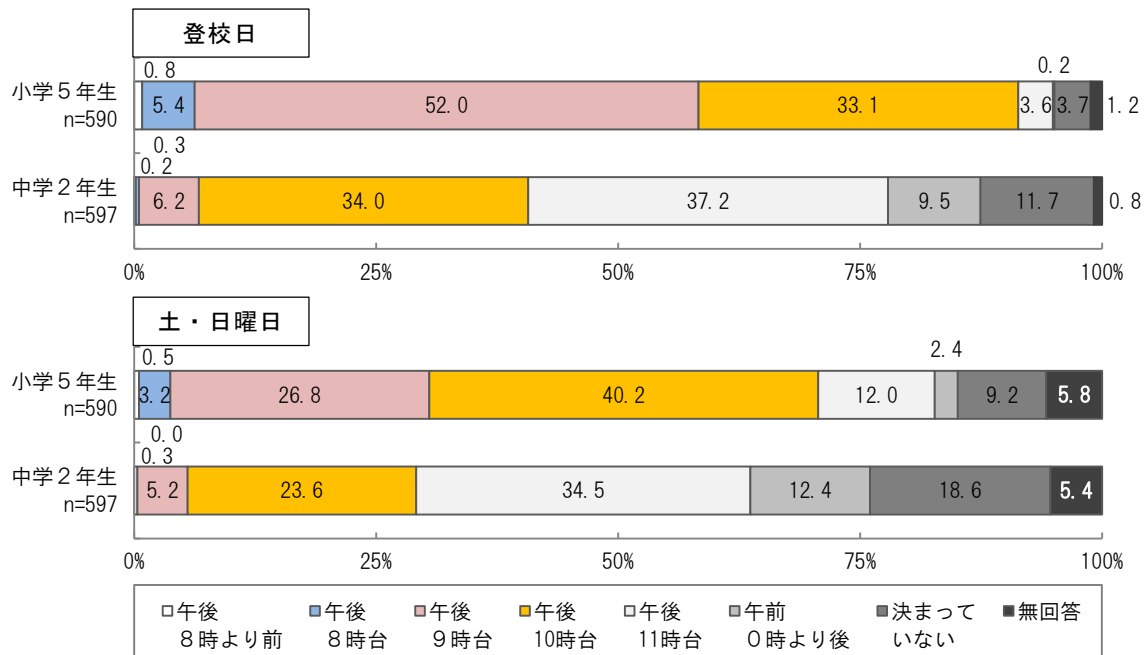


○登校日の就寝時間は、小学5年生が「午後9時台」（52.0％）が最も高く、次いで「午後10時台」（33.1％）となっています。中学2年生は「午後11時台」（37.2％）が最も高く、次いで「午後10時台」（34.0％）となっています。

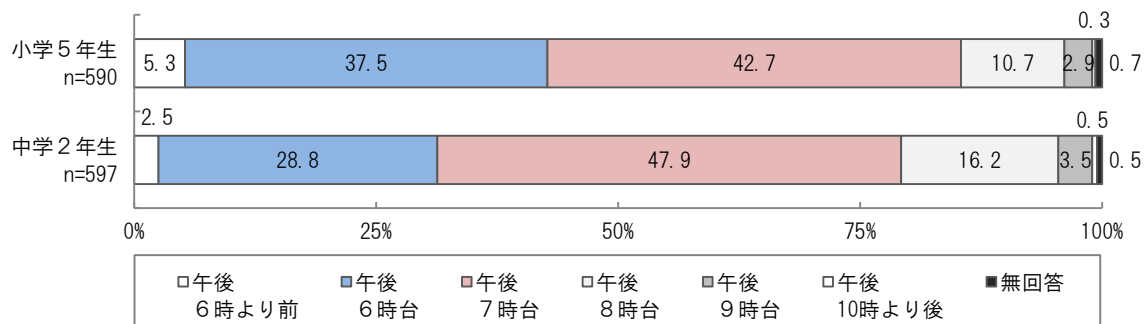
○土・日曜日の就寝時間は、小学5年生が「午後10時台」（40.2％）が最も高く、次いで「午後9時台」（26.8％）となっています。中学2年生は「午後11時台」（34.5％）が最も高く、次いで「午後10時台」（23.6％）となっています。

○夕食を食べる時間は、小学5年生が「午後7時台」（42.7％）が最も高く、次いで「午後6時台」（37.5％）となっています。中学2年生は「午後7時台」（47.9％）が最も高く、次いで「午後6時台」（28.8％）となっています。

問2 就寝時間



問3 夕食を食べる時間

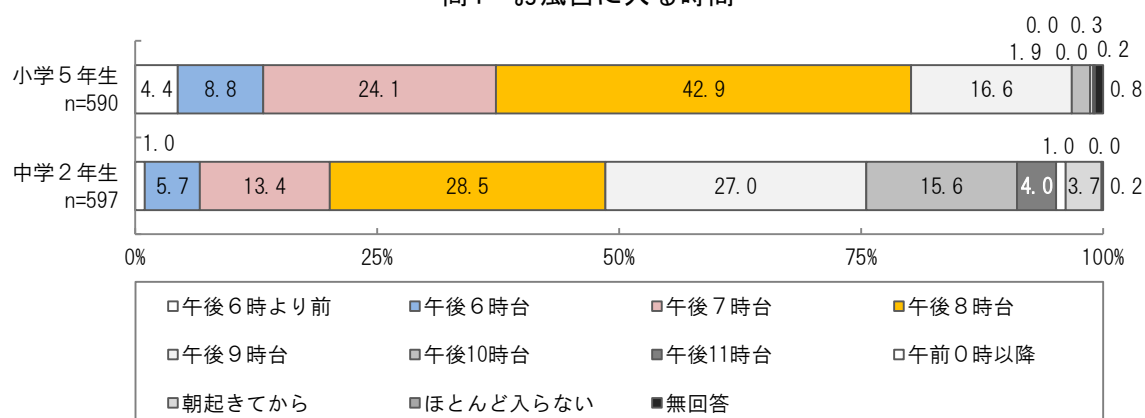


○お風呂に入る時間は、小学5年生が「午後8時台」（42.9%）が最も高く、次いで「午後7時台」（24.1%）となっています。中学2年生は「午後8時台」（28.5%）が最も高く、次いで「午後9時台」（27.0%）となっています。

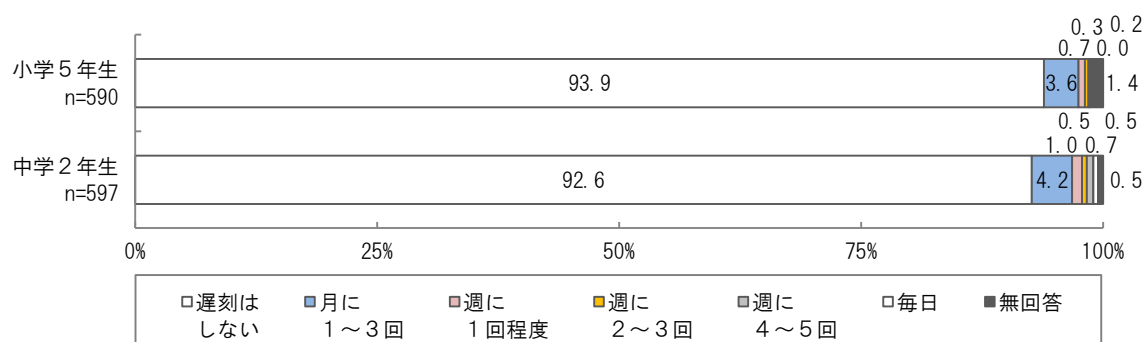
○学校に遅刻する頻度をみると、小学5年生・中学2年生ともに「遅刻はしない」（93.9%・92.6%）が最も高くなっています。

○1か月間に読む本の冊数は、小学5年生が「2～5冊」（32.5%）が最も高く、次いで「11冊以上」（26.4%）、「6～10冊」（20.7%）となっています。中学2年生は「2～5冊」（41.9%）が最も高く、次いで「1冊」（29.1%）、「読まなかった」（14.7%）となっています。

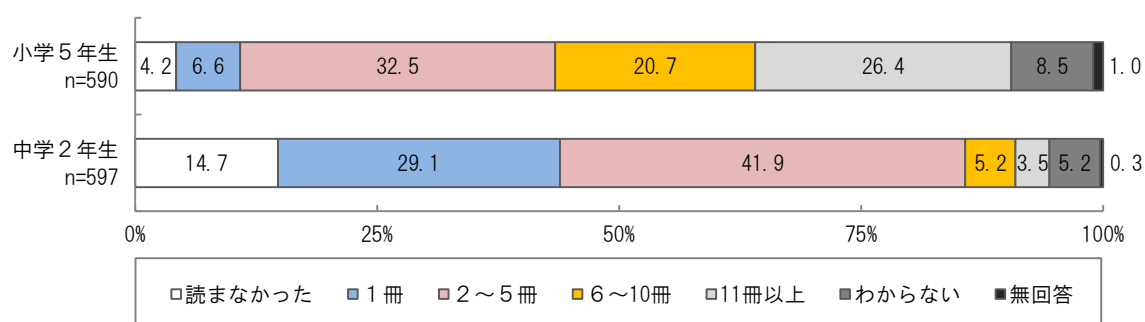
問4 お風呂に入る時間



問5 学校に遅刻する頻度



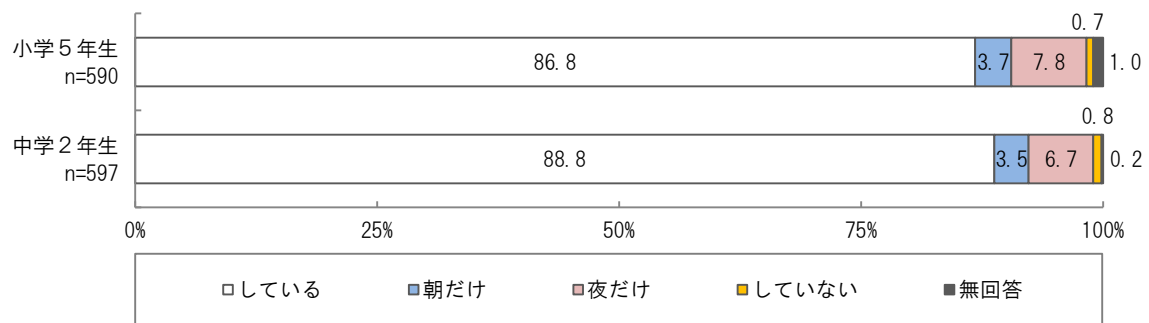
問6 1か月間に読む本の冊数



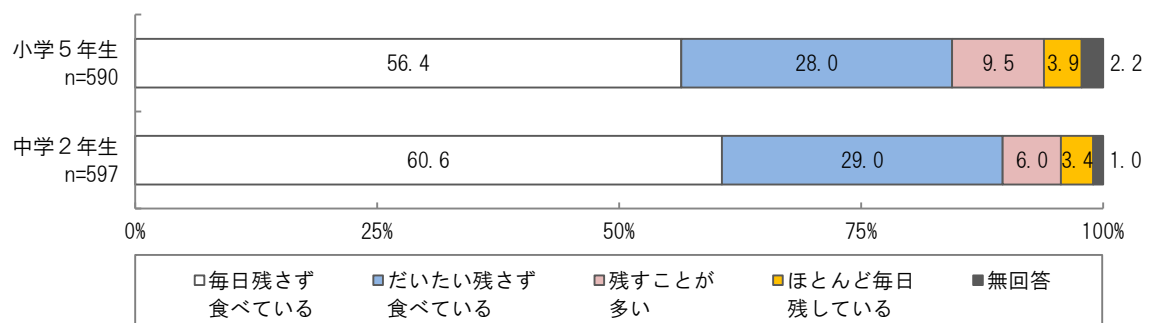
○朝と夜の歯磨きの習慣をみると、小学5年生・中学2年生ともに「している」(86.8%・88.8%) が最も高く、次いで「夜だけ」(7.8%・6.7%) となっています。

○学校給食の摂取状況をみると、小学5年生・中学2年生ともに「毎日残さず食べている」(56.4%・60.6%) が最も高く、次いで「だいたい残さず食べている」(28.0%・29.0%) となっています。

問7 朝と夜の歯磨きの習慣

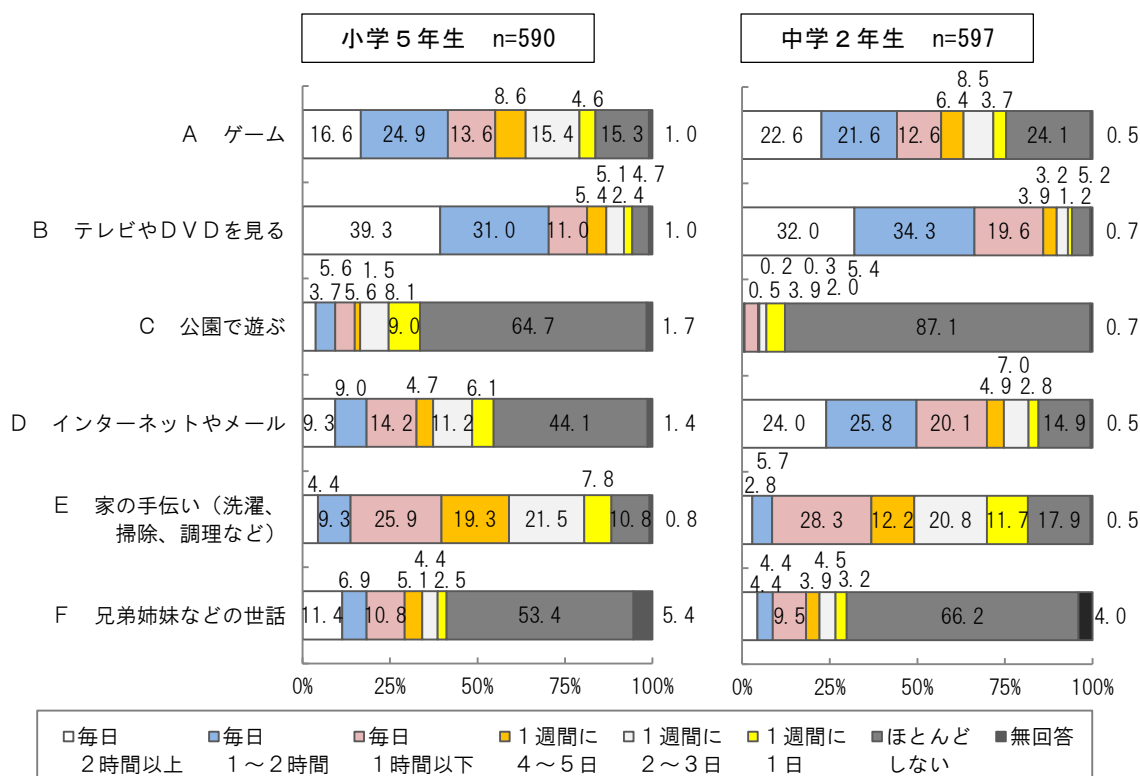


問8 学校給食の摂取状況



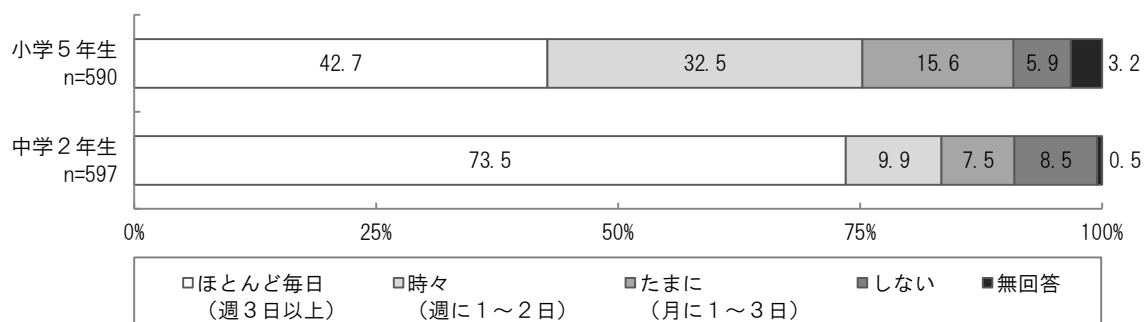
○ふだんの活動時間で「毎日2時間以上」おこなっていることをみると、小学5年生は「テレビやDVDを見る」(39.3%)が最も高く、次いで「ゲーム」(16.6%)、「兄弟姉妹などの世話」(11.4%)となっています。中学2年生は「テレビやDVDを見る」(32.0%)が最も高く、次いで「インターネットやメール」(24.0%)、「ゲーム」(22.6%)となっています。

問9 ふだんの活動時間



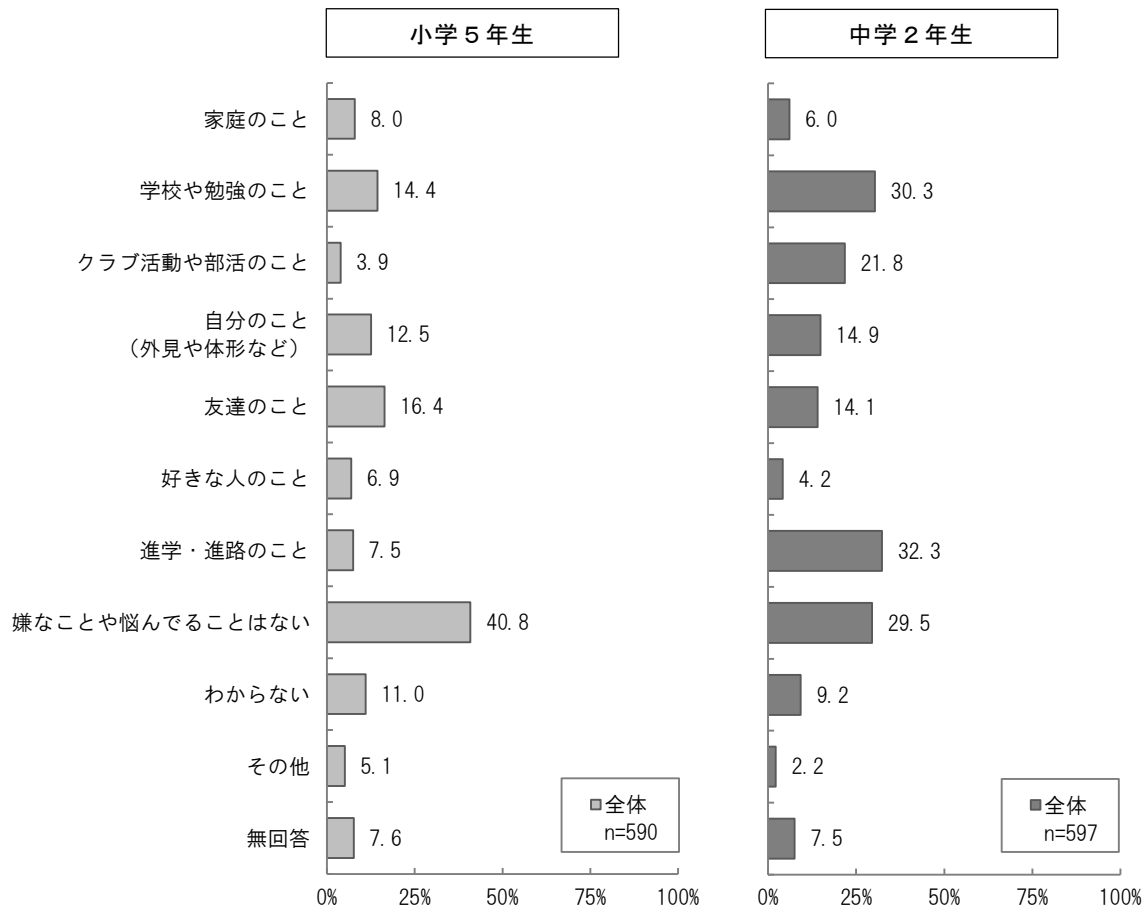
○体育の授業以外に、運動やスポーツをする頻度をみると、小学5年生は「ほとんど毎日(週3日以上)」(42.7%)が最も高く、次いで「時々(週に1~2日)」(32.5%)、「たまに(月に1~3日)」(15.6%)となっています。中学2年生は「ほとんど毎日(週3日以上)」(73.5%)が最も高くなっています。

問10 体育の授業以外に、運動やスポーツをする頻度



○嫌なことや悩んでいることをみると、小学5年生は「友達のこと」（16.4%）、「学校や勉強のこと」（14.4%）、「自分のこと（外見や体形のこと）」（12.5%）となっています。また、「嫌なことや悩んでいることはない」は40.8%と最も高くなっています。中学2年生は「進学・進路のこと」（32.3%）が最も高く、次いで「学校や勉強のこと」（30.3%）、「クラブ活動や部活のこと」（21.8%）となっています。また、「嫌なことや悩んでいることはない」は29.5%となっています。

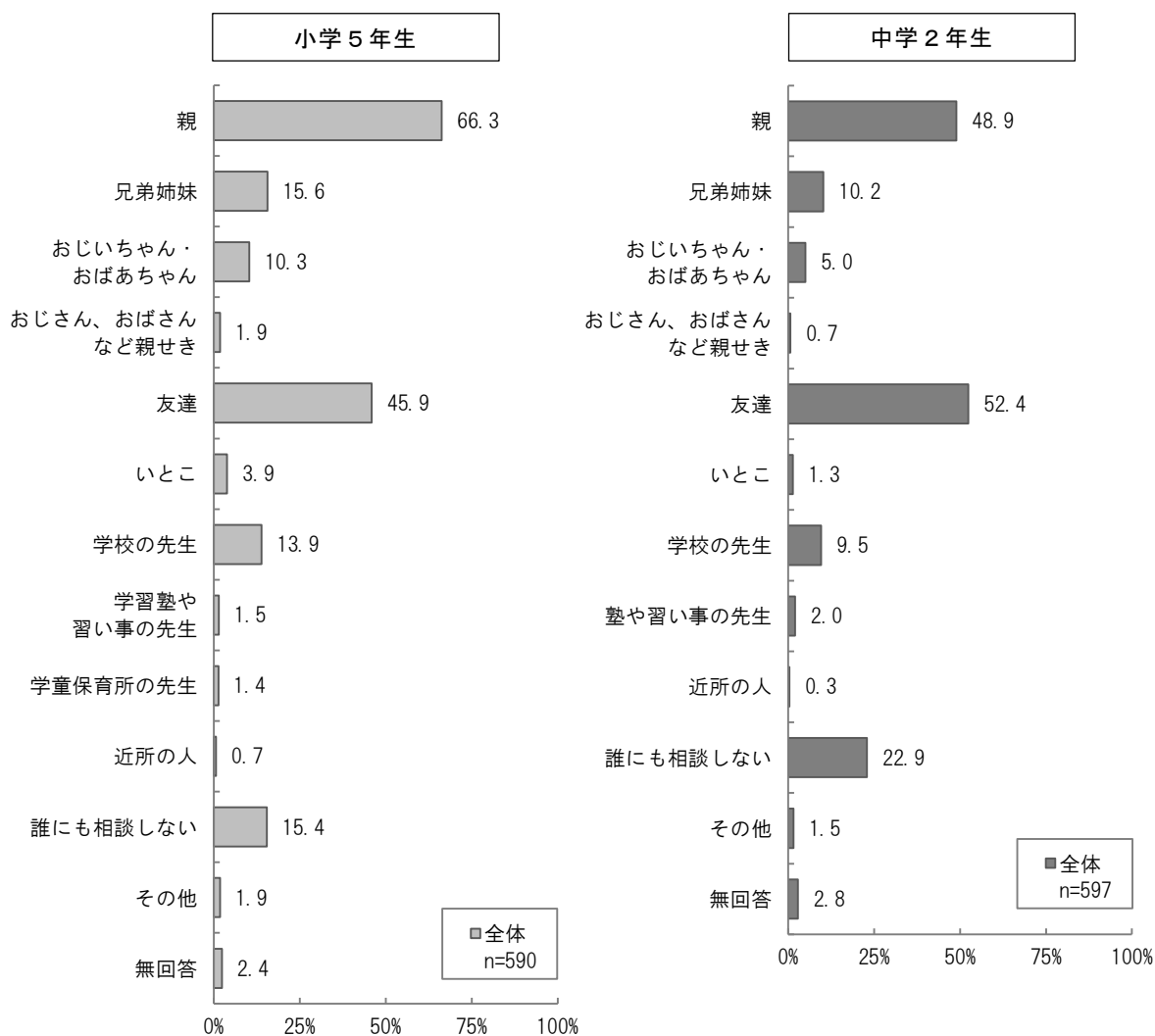
問11 嫌なことや悩んでいること



○嫌なことや悩み事を相談する相手をみると、小学5年生は「親」（66.3%）が最も高く、次いで「友達」（45.9%）となっています。また、「誰にも相談しない」は15.4%となっています。

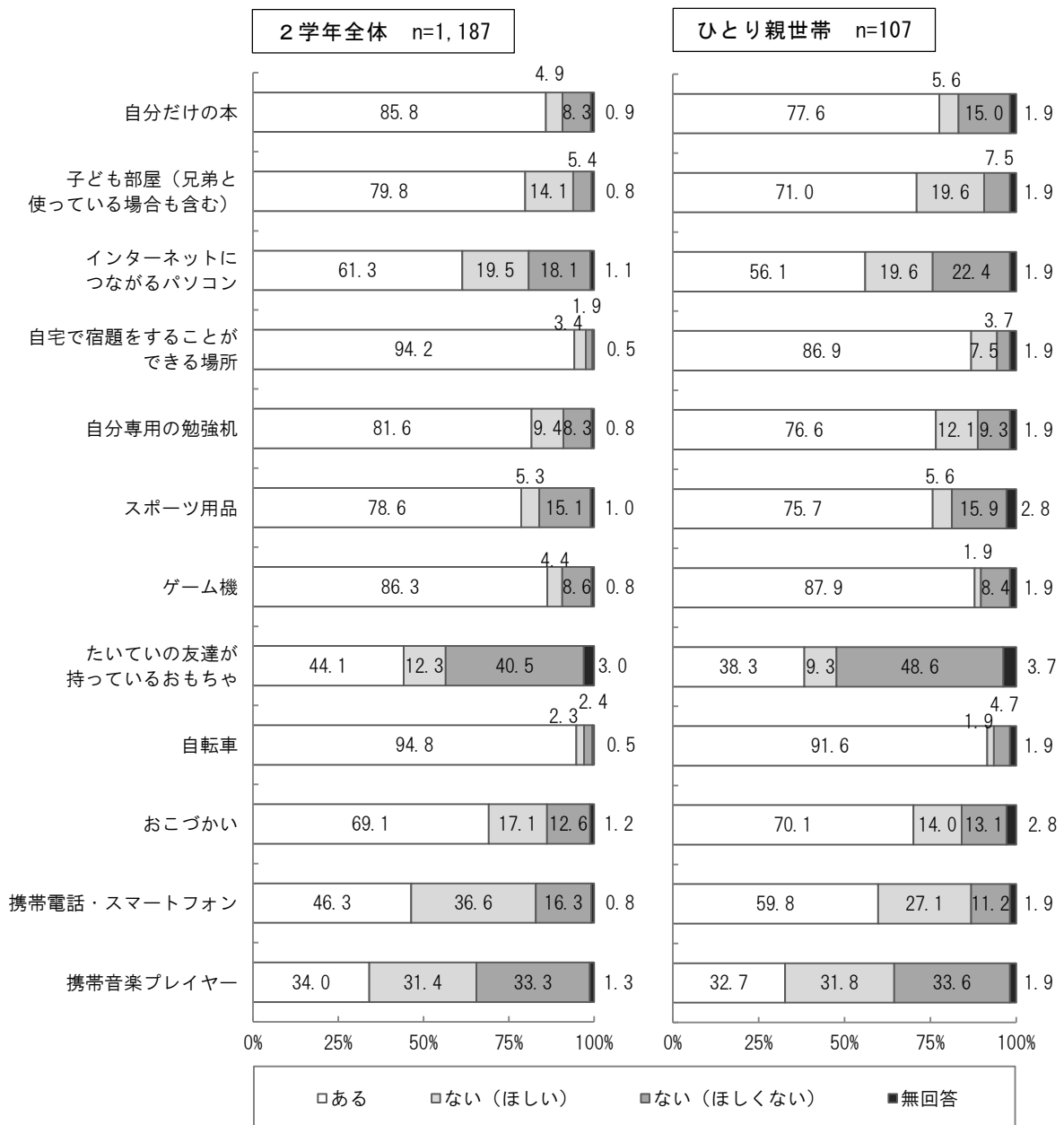
○中学2年生の嫌なことや悩み事を相談する相手は「友達」（52.4%）が最も高く、次いで「親」（48.9%）となっています。また、「誰にも相談しない」は22.9%となっています。

問12 嫌なことや悩んでいることがあるときに相談する相手

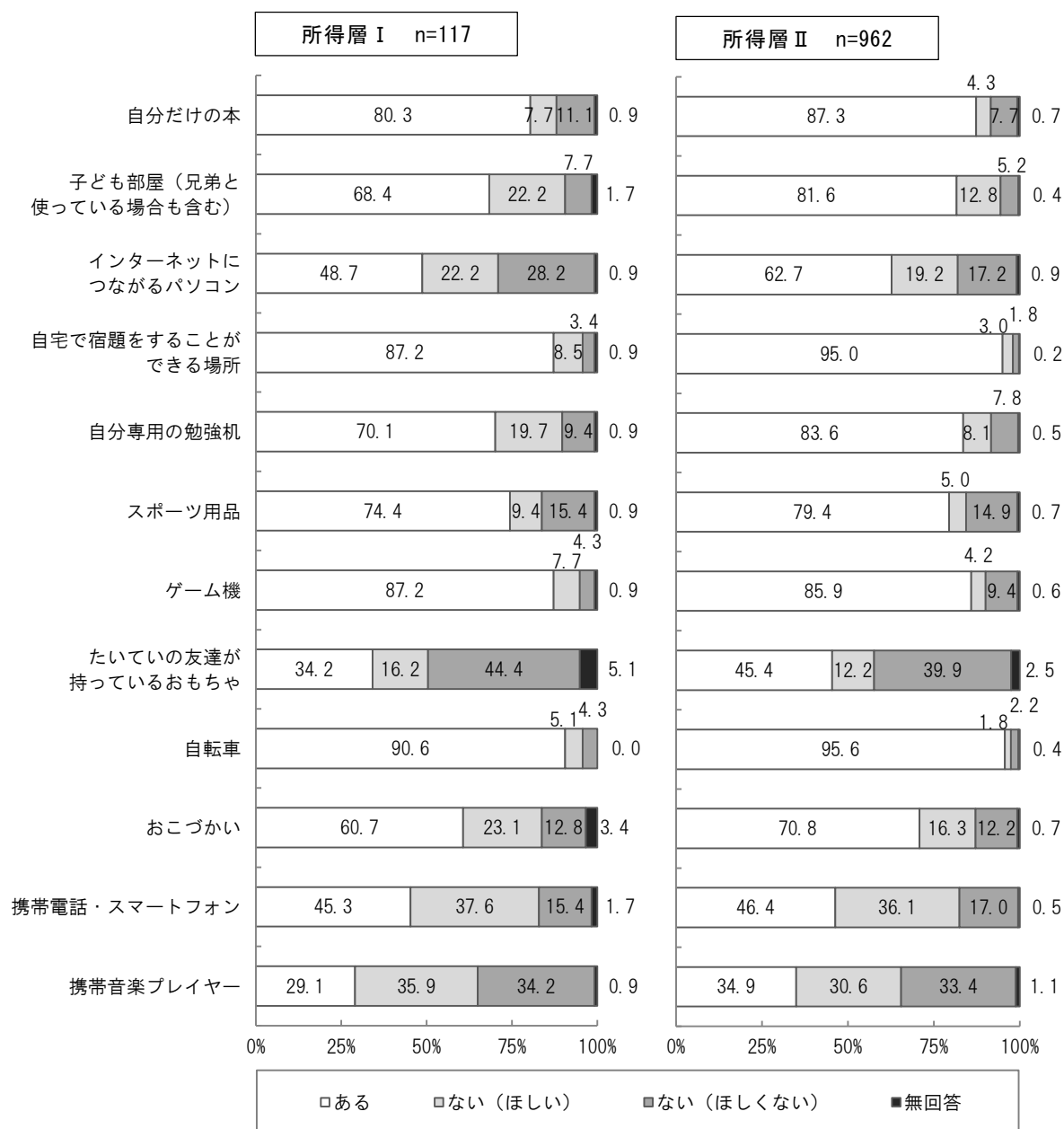


○所有物等の状況をみると、いずれの回答者区分でも『携帯電話・スマートフォン』と『携帯音楽プレイヤー』は自分で使うことができるもののうち「ない（ほしい）」と回答した割合が高くなっています。

問13 自分が使うことができるもの

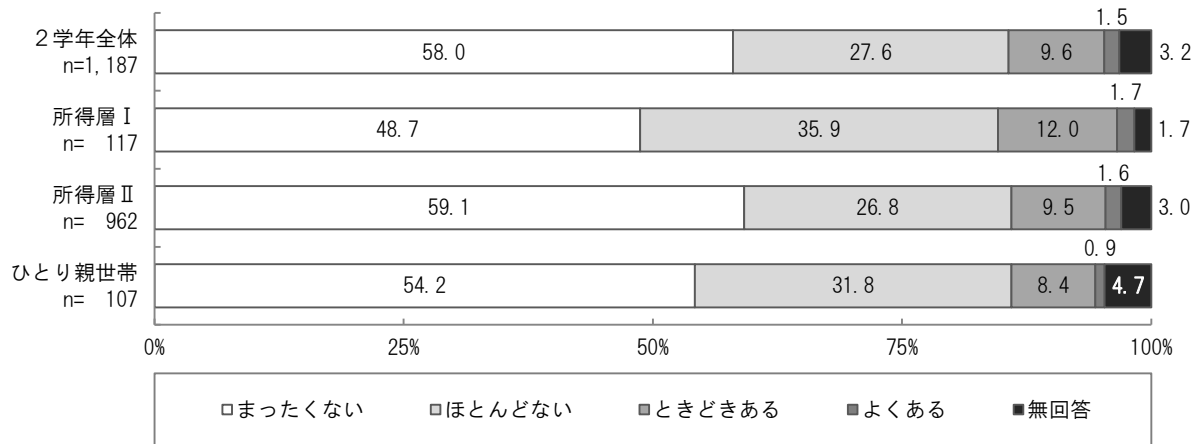


○所得層別にみると、所得層Ⅰはすべての項目で「ない（ほしい）」と回答した割合が所得層Ⅱよりも高くなっています。



○必要だった文具や教材が買えなかった経験を回答者区別にみると、いずれも1割が「ときどきある」と「よくある」となっています。

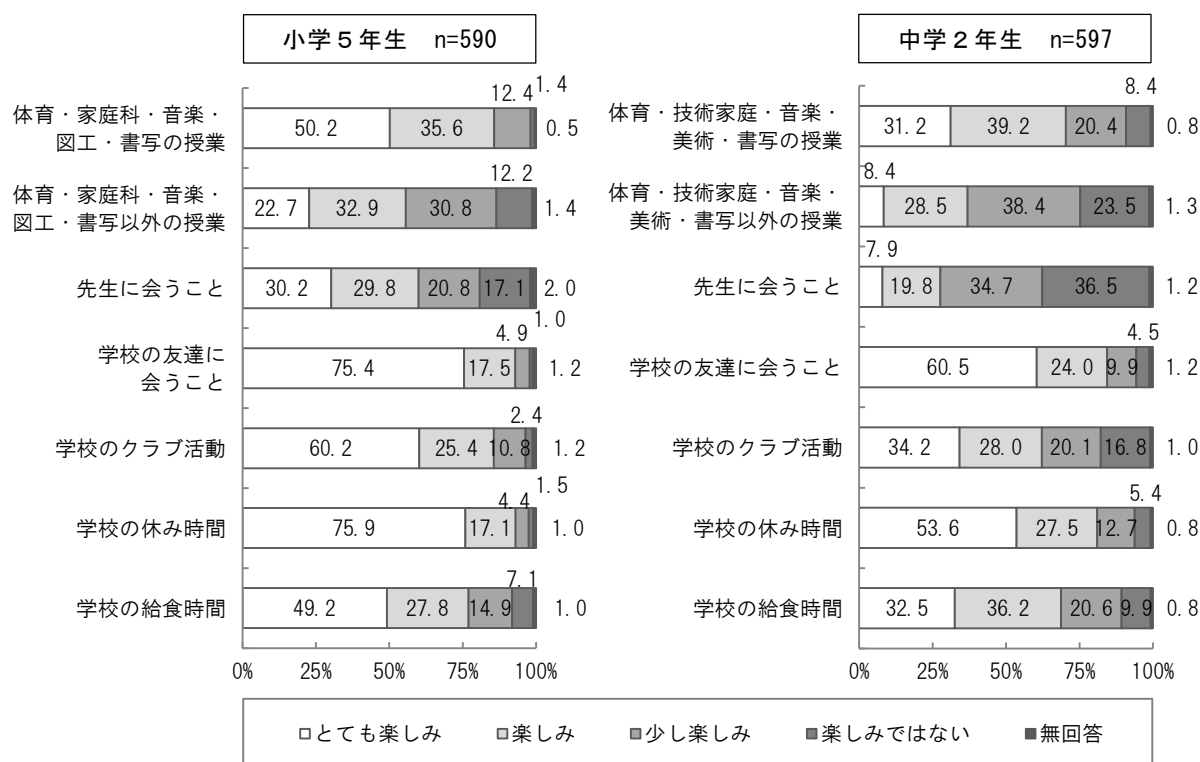
問14 必要だった文具や教材が買えなかった経験の有無



3 学校・勉強について

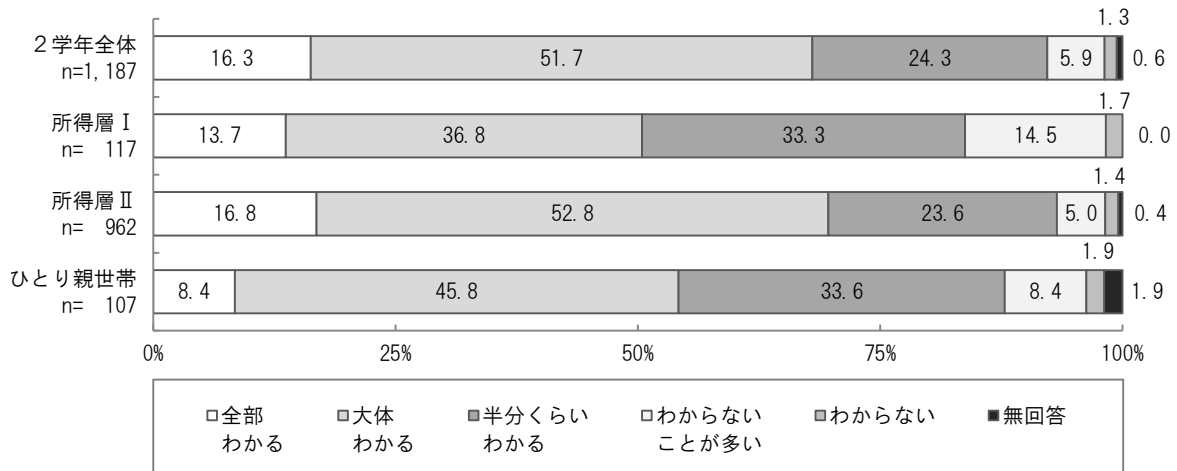
- 小学5年生のとても楽しみにしている学校生活についてみると、「学校の休み時間」(75.9%)が最も高く、次いで「学校の友達に会うこと」(75.4%)、「学校のクラブ活動」(60.2%)、「体育・家庭科・音楽・図工・書写の授業」(50.2%)となっています。
- 中学2年生のとても楽しみにしている学校生活についてみると、「学校の友達に会うこと」(60.5%)が最も高く、次いで「学校の休み時間」(53.6%)「学校のクラブ活動」(34.2%)、「学校の給食」(32.5%)、「体育・家庭科・音楽・図工・書写の授業」(31.2%)となっています。

問16 学校生活について



○授業の理解度を回答者区分別にみると、「わからない」と回答した割合が所得層Ⅰで14.5%と他より高くなっています。

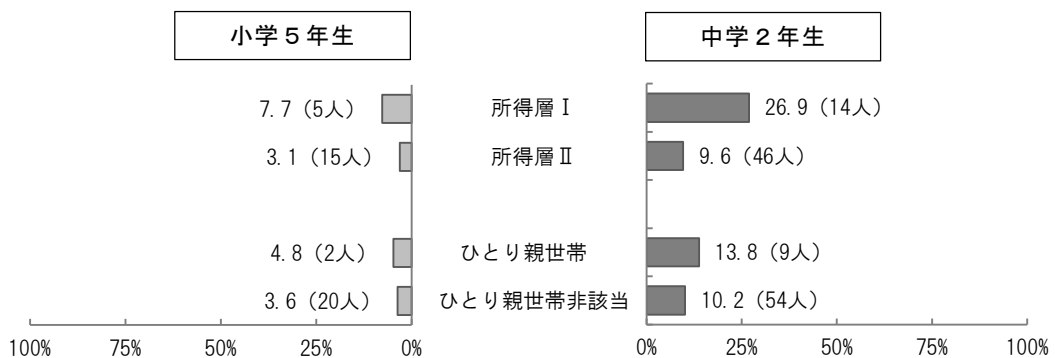
問17 学校の授業の理解度



○授業の理解が困難（「わからないことが多い」＋「わからない」）な割合を所得層別にみると、小学5年生では所得層ⅠがⅡより4.6^{ポイント}高く、中学2年生では所得層ⅠがⅡより17.3^{ポイント}と大きく上回っています。

○世帯層別にみると、小学5年生はひとり親世帯で4.8%、中学2年生は13.8%となり、非該当世帯をわずかに上回っています。

問17 授業の理解度「わからないことが多い」＋「わからない」と回答
（所得層別・ひとり親世帯別）



※母数

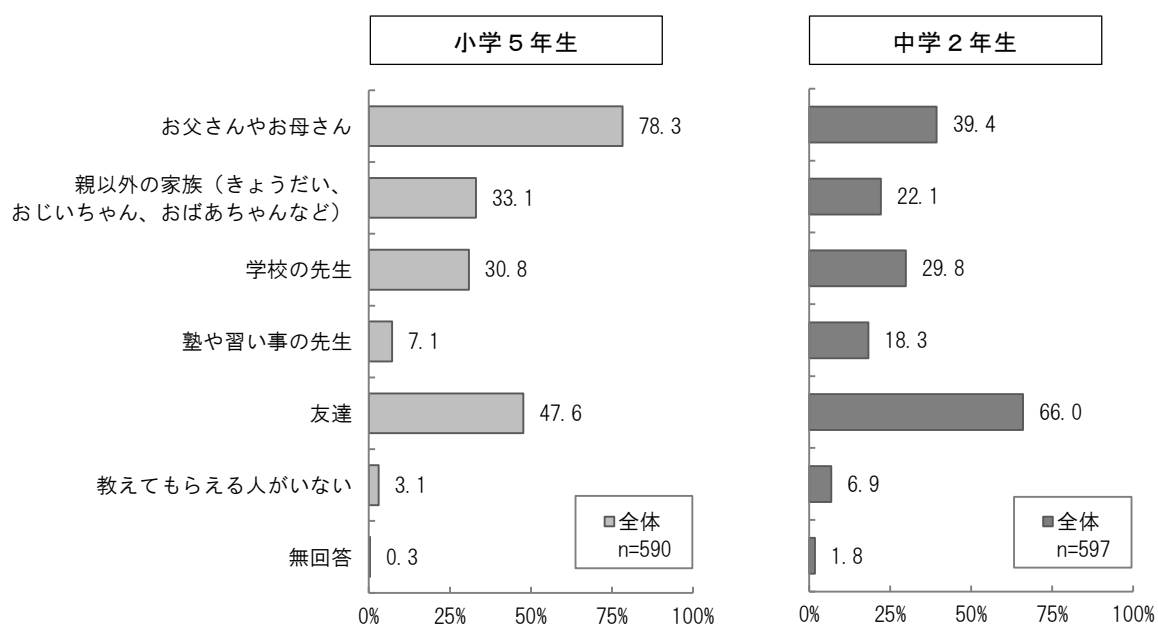
（所得層Ⅰ 小学5年生n=65、中学2年生n=52）（所得層Ⅱ 小学5年生n=484、中学2年生n=478）

（ひとり親世帯 小学5年生n=42、中学2年生n=65）（ひとり親世帯非該当 小学5年生n=548、中学2年生n=532）

○小学5年生の勉強がわからないときに教えてもらう人は、「お父さんやお母さん」(78.3%)が最も高く、次いで「友達」(47.6%)、「親以外の家族(きょうだい、おじいちゃん、おばあちゃんなど)」(33.1%)、「学校の先生」(30.8%)となっています。

○中学2年生の勉強がわからないときに教えてもらう人は、「友達」(66.0%)が最も高く、次いで「お父さんやお母さん」(39.4%)、「学校の先生」(29.8%)、「親以外の家族(きょうだい、おじいちゃん、おばあちゃんなど)」(22.1%)となっています。

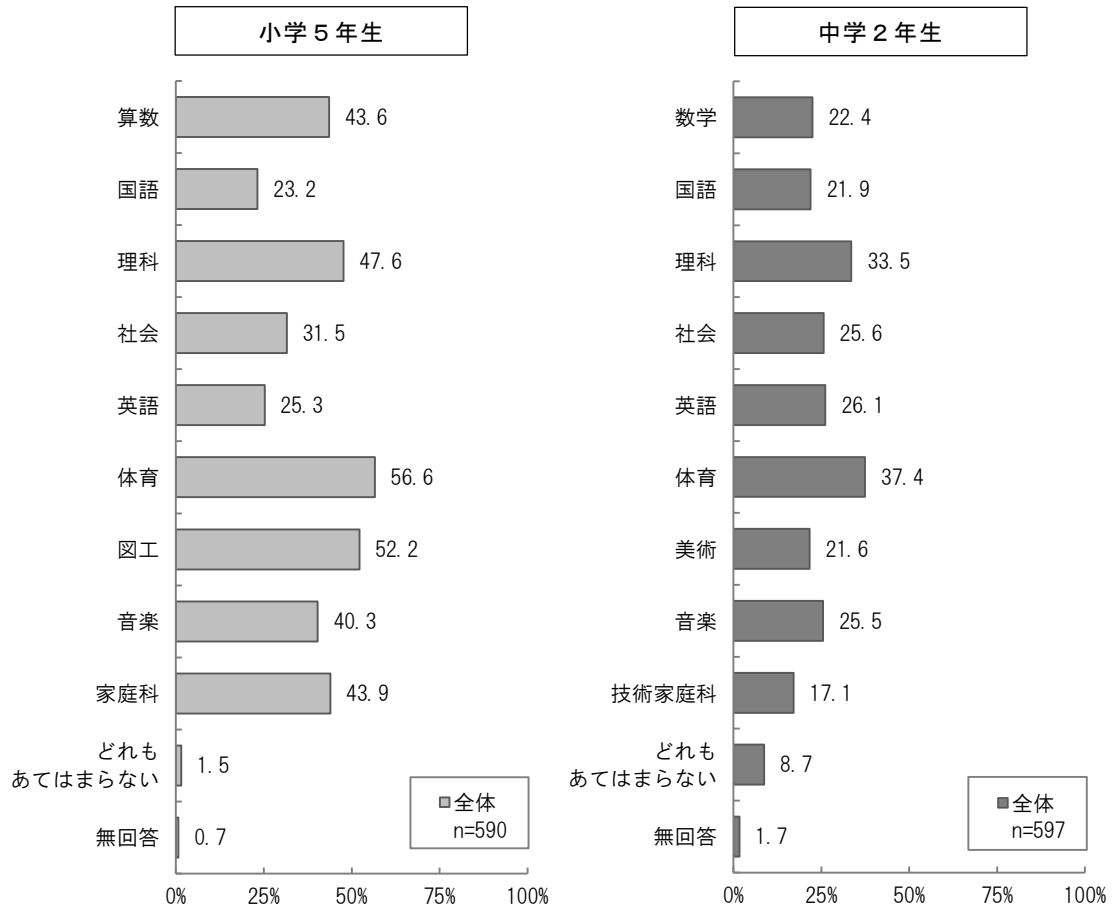
問18 勉強がわからないときに教えてもらう人



○小学5年生の得意な教科は、「体育」「図工」が50%台、「理科」「家庭科」「算数」「音楽」が40%台となっています。

○中学2年生の得意な教科は、「体育」「理科」が30%台、「英語」「社会」「音楽」「数学」「国語」「美術」が20%台となっています。

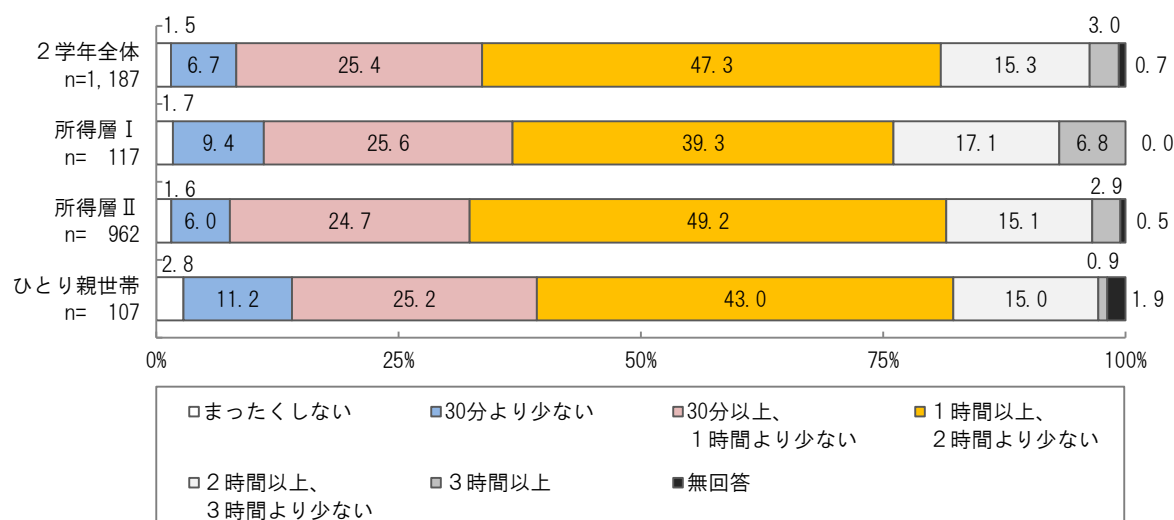
問19 得意な教科



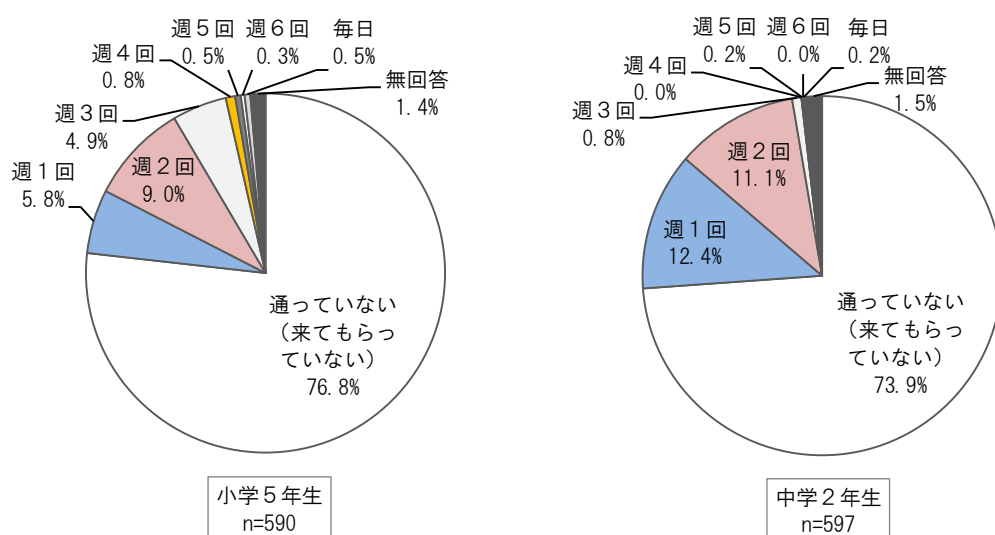
○平日の授業以外の勉強時間をみると、「まったくしない」と「30分より少ない」を合わせた割合では、ひとり親世帯が14.0%、所得層Ⅰが11.1%とやや高くなっています。

○学習塾や家庭教師の利用日数は、小学5年生・中学2年生ともに「通っていない（来てもらっていない）」（76.8%・73.9%）が最も高く、次いで中学2年生では「週1回」（12.4%）「週2回」（11.1%）となっています。

問20 平日1日あたりの勉強時間（授業以外）



問21 1週間あたりの学習塾や家庭教師の利用日数

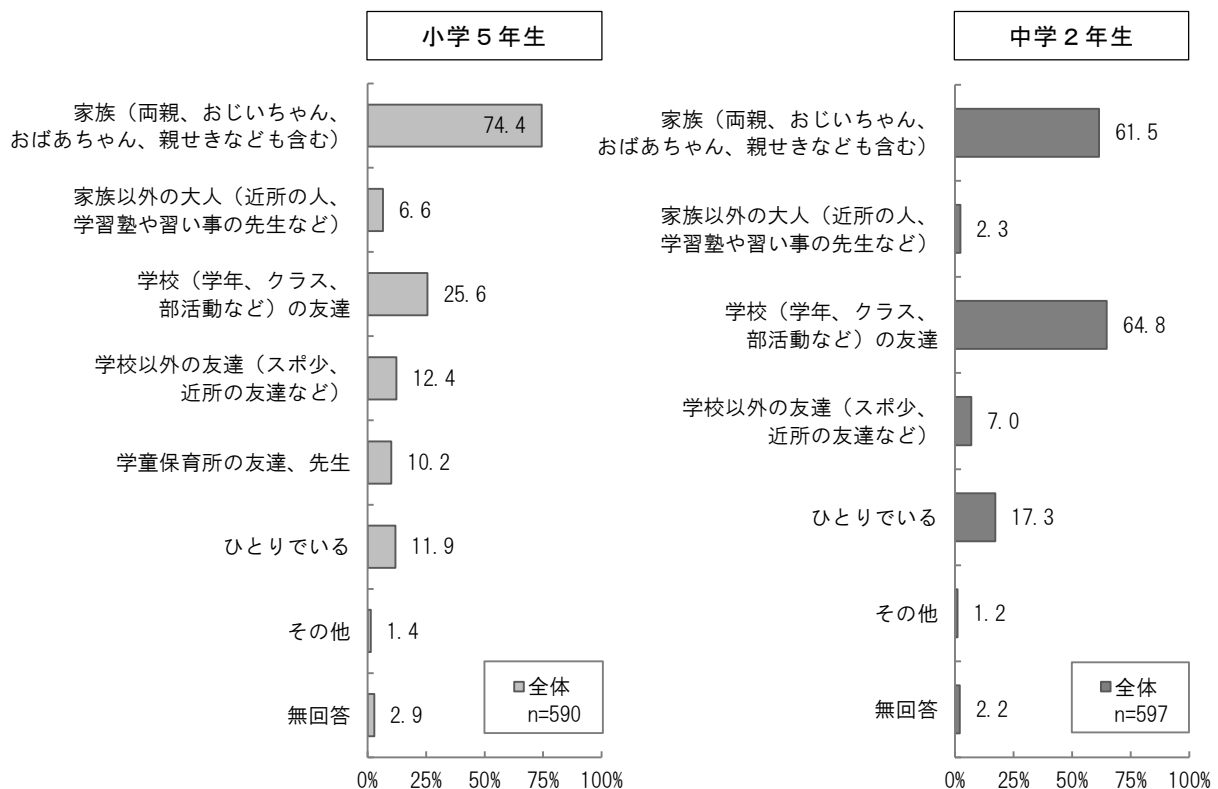


4 放課後の過ごし方について

○小学5年生の放課後、一緒に過ごす人は、「家族（両親、おじいちゃん、おばあちゃん、親せきなども含む）」（74.4%）が最も高く、次いで「学校（学年、クラス、部活動など）の友達」（25.6%）となっています。

○中学2年生の放課後、一緒に過ごす人は、「学校（学年、クラス、部活動など）の友達」（64.8%）が最も高く、次いで「家族（両親、おじいちゃん、おばあちゃん、親せきなども含む）」（61.5%）、「ひとりである」（17.3%）となっています。

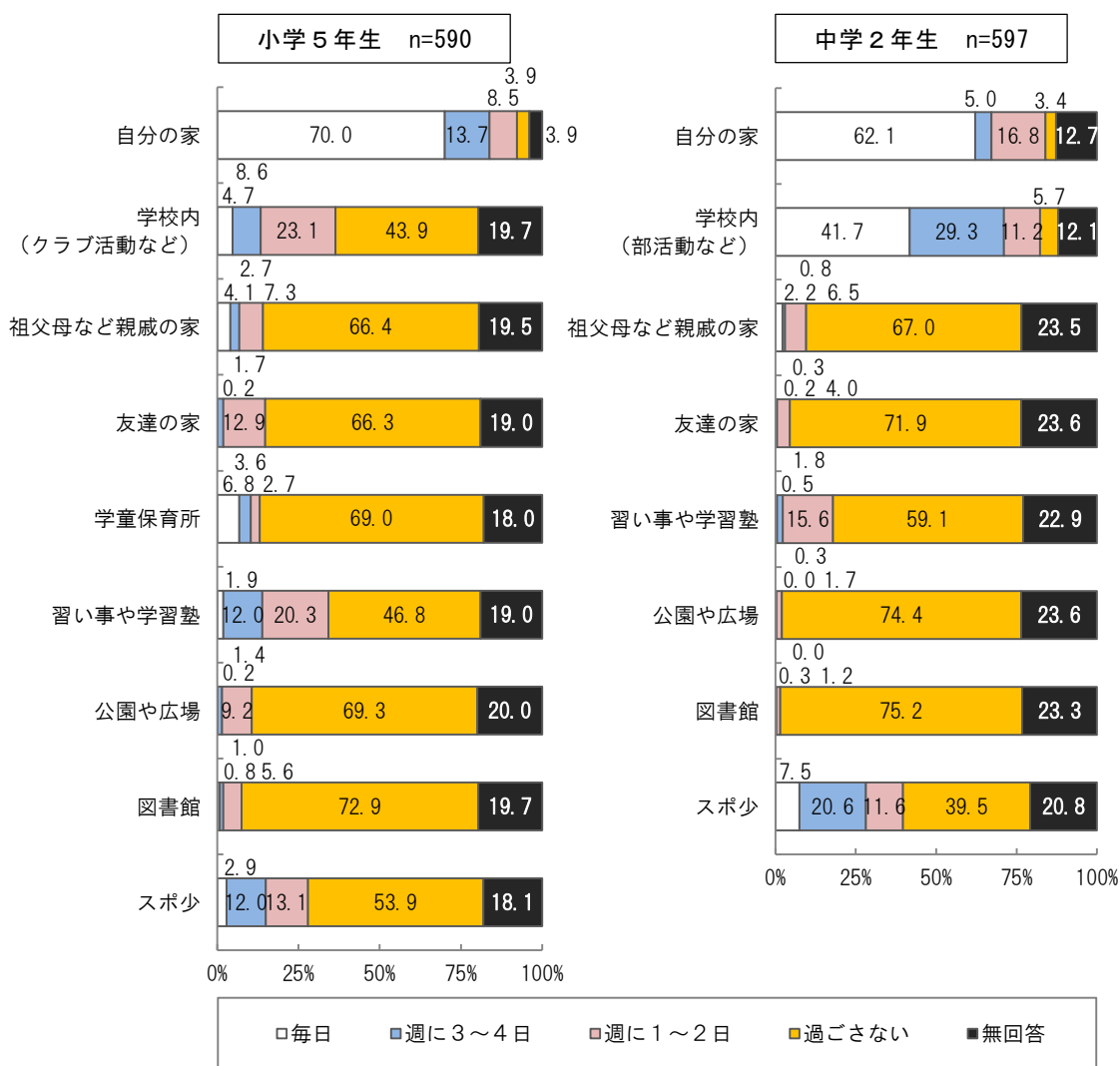
問22(1) 放課後、一緒に過ごす人



○小学5年生の放課後、毎日過ごす場所は、「自分の家」(70.0%)が最も高く、次いで「学童保育所」(6.8%)となっています。

○中学2年生の放課後、毎日過ごす場所は、「自分の家」(62.1%)が最も高く、次いで「学校内(クラブ活動など)」(41.7%)、「スポ少」(7.5%)となっています。

問22(2) 放課後、過ごす場所

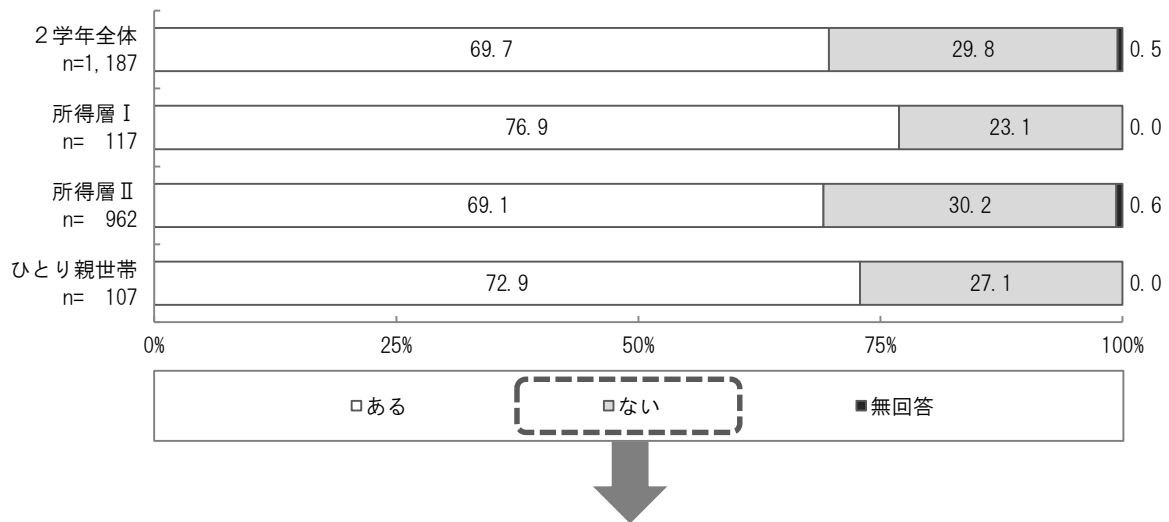


5 「ゆめ」について

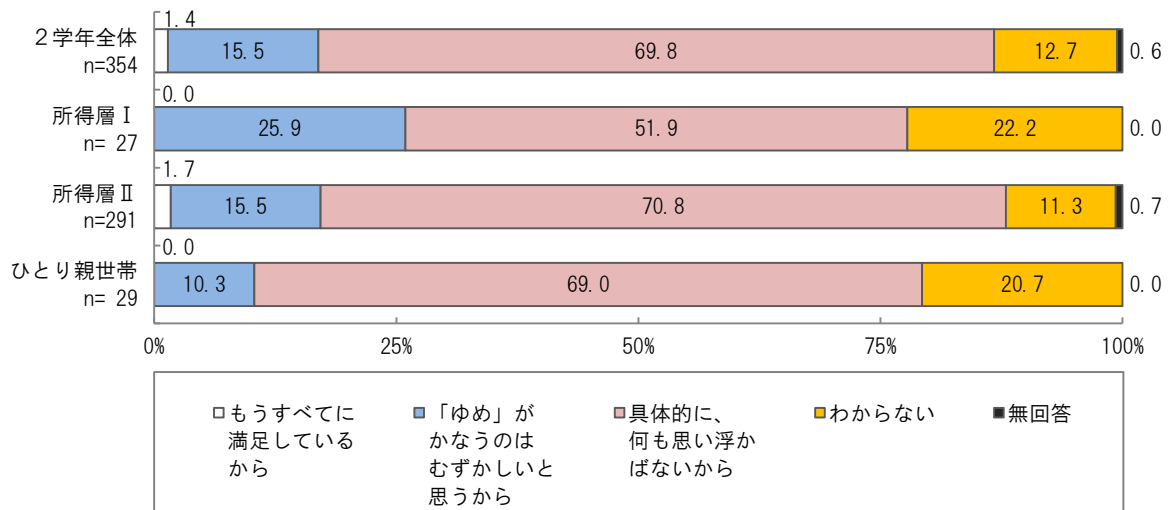
○将来の「ゆめ」の有無を回答者区別にみると、「ある」(69.1～76.9%)、「ない」(23.1～30.2%)となっています。

○「ゆめ」がない理由として「夢がかなうのがむずかしいと思うから」と回答した割合は、所得層Ⅰで25.9%と他の回答者区分より高くなっています。

問23(1) 将来の「ゆめ」の有無



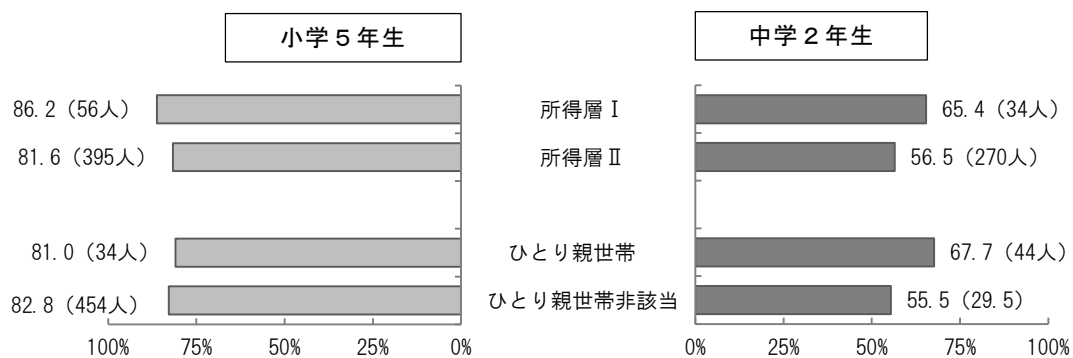
問23(3) 「ゆめ」がない理由



○将来の「ゆめ」があると回答した割合を所得層別にみると、小学5年生、中学2年生ともに所得層Ⅰの割合が高い状況です。

○世帯別にみると、中学2年生ではひとり親世帯が非該当世帯を上回っています。

問23(1) 将来の「ゆめ」があると回答（所得層別・ひとり親世帯別）



※母数

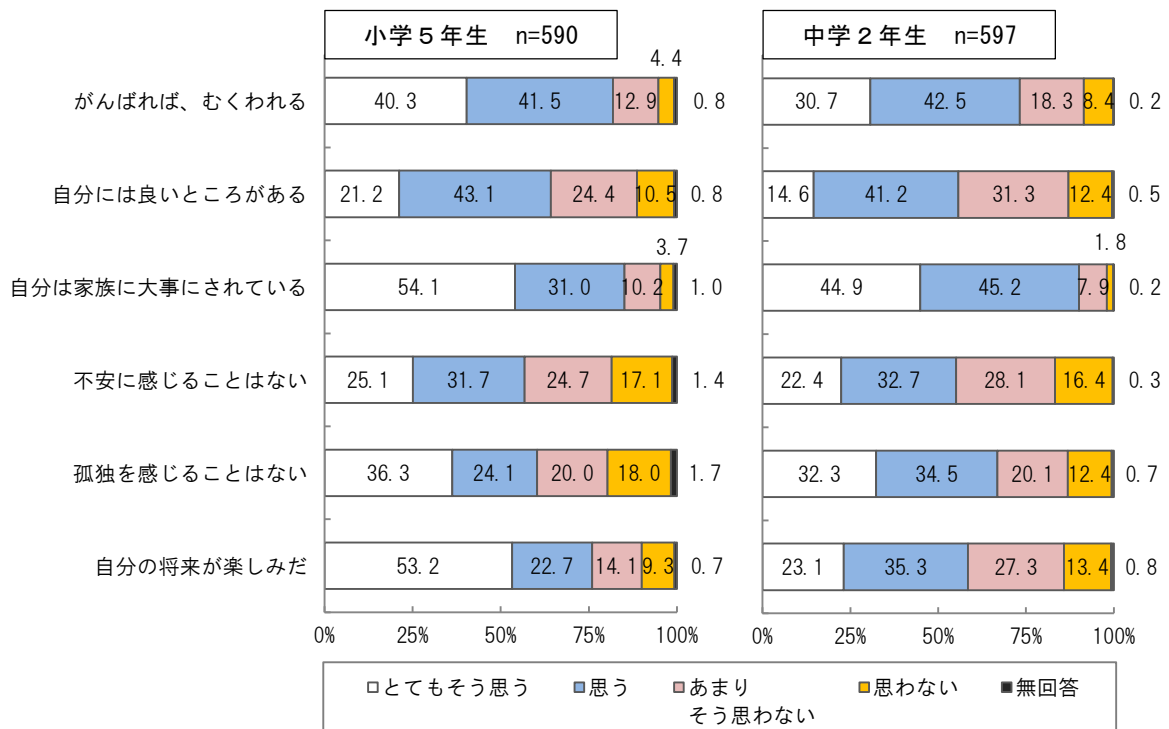
(所得層Ⅰ 小学5年生n=65、中学2年生n=52) (所得層Ⅱ 小学5年生n=484、中学2年生n=478)

(ひとり親世帯 小学5年生n=42、中学2年生n=65) (ひとり親世帯非該当 小学5年生n=548、中学2年生n=532)

6 普段考えていることについて

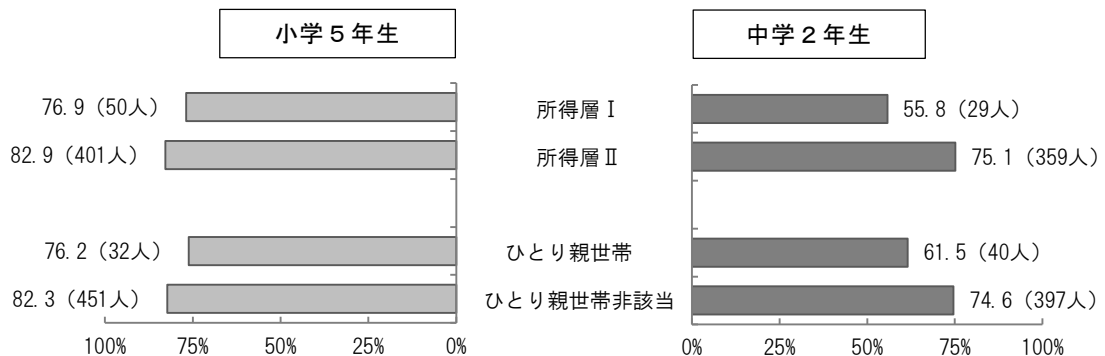
- 自分自身の思いや気持ちをみると、小学5年生・中学2年生ともに「自分は家族に大事にされている」の「とてもそう思う」（54.1%・44.9%）が最も高くなっています。
- 『がんばれば、むくわれる』と思う（「とてもそう思う」＋「思う」）割合を所得層別にみると、所得層Ⅰの小学5年生が76.9%、中学2年生が55.8%となり、いずれも所得層Ⅱ（82.9%・75.1%）を下回っています。
- 世帯別にみると、小学5年生、中学2年生ともに、ひとり親世帯（76.2%、61.5%）が、非該当世帯（82.3%、74.6%）より低くなっています。

問24 自分自身の思いや気持ち



問24 がんばれば、むくわれる「とてもそう思う」＋「思う」と回答

(所得層別・ひとり親世帯別)



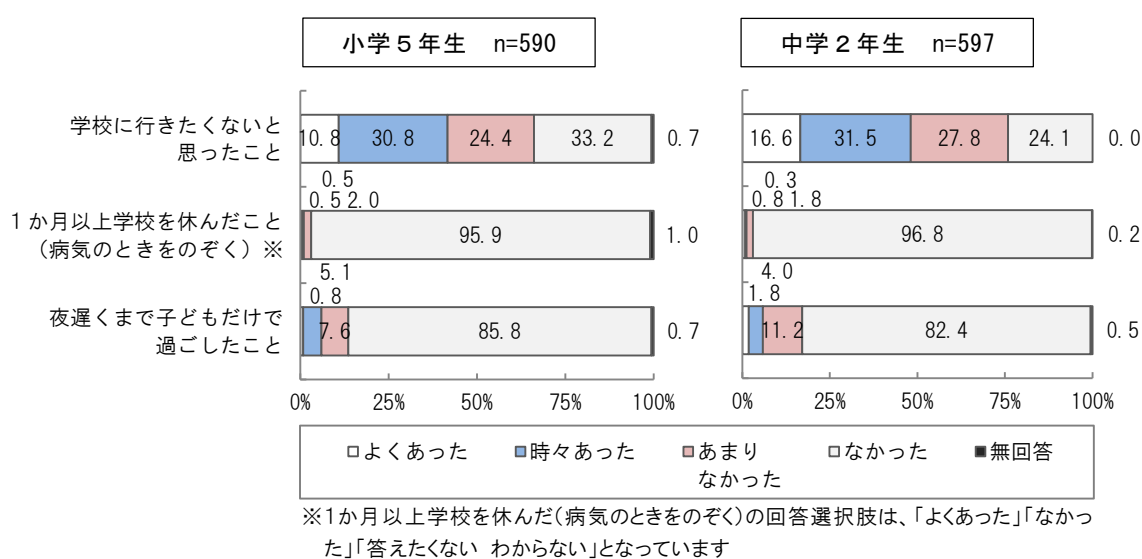
※母数

(所得層Ⅰ 小学5年生n=65、中学2年生n=52) (所得層Ⅱ 小学5年生n=484、中学2年生n=478)

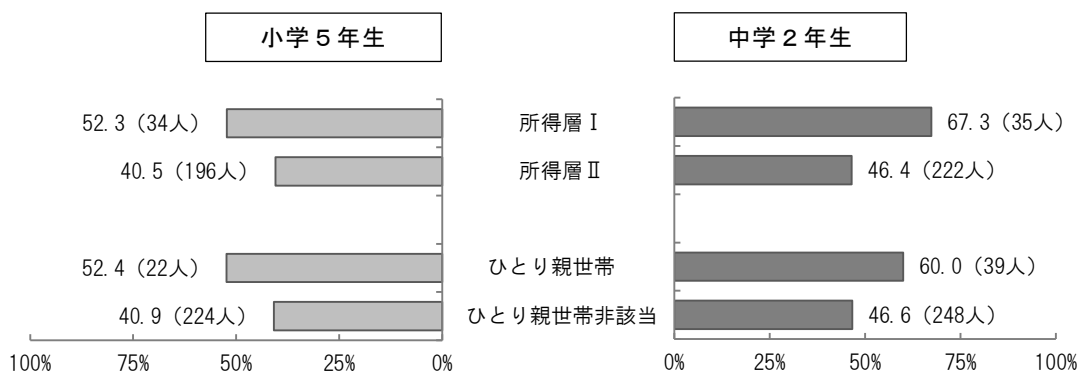
(ひとり親世帯 小学5年生n=42、中学2年生n=65) (ひとり親世帯非該当 小学5年生n=548、中学2年生n=532)

- 小学5年生のこれまでであったことについて、「よくあった」と「時々あった」を合わせた割合をみると、「学校に行きたくないと思った」が41.6%となっています。
- 同様に、中学2年生の割合をみると、「学校に行きたくないと思った」が48.1%となっています。
- 「学校に行きたくないと思った」ことがあった割合を、所得層別にみると、所得層Ⅰの小学5年生が52.3%、中学2年生が67.3%となり、いずれも所得層Ⅱ（40.5%・46.4%）を上回っています。
- 世帯別にみると、小学5年生、中学2年生ともに、ひとり親世帯（52.4%、60.0%）が、非該当世帯（40.9%、46.6%）を大きく上回っています。

問25 これまでにあったこと



問25 学校に行きたくないと思ったことが「よくあった」＋「時々あった」と回答（所得層別・ひとり親世帯別）



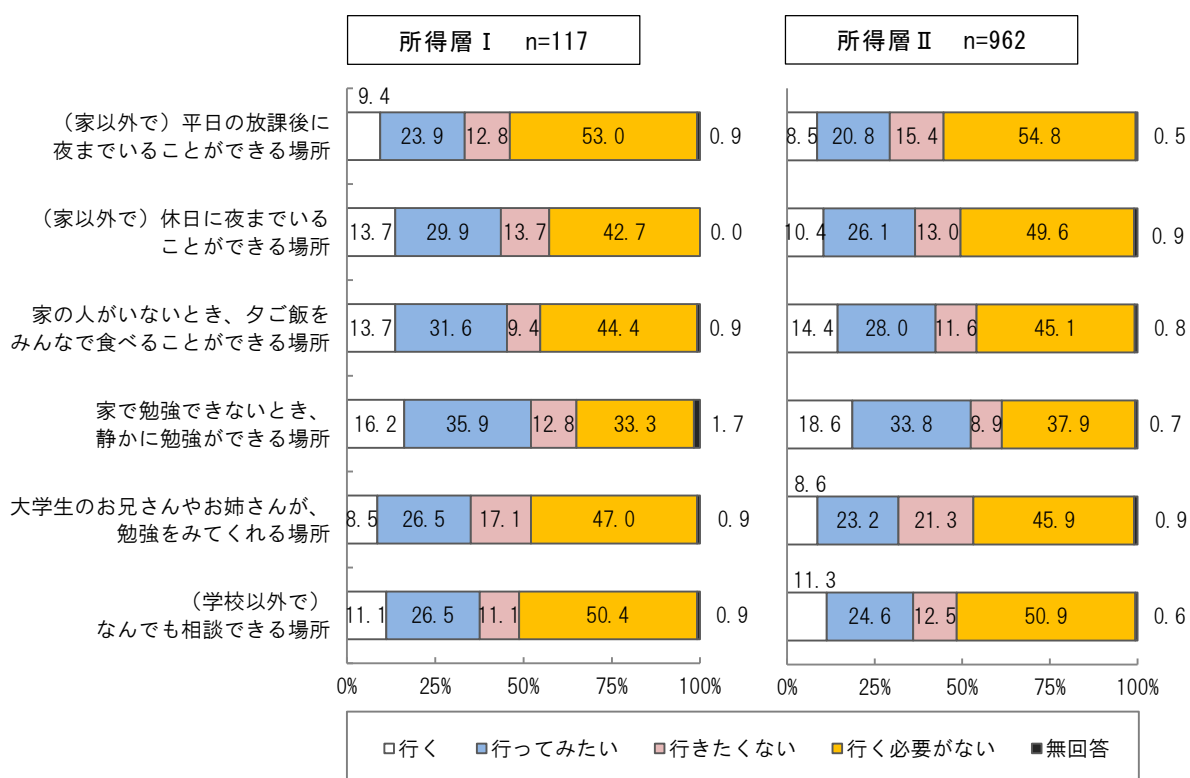
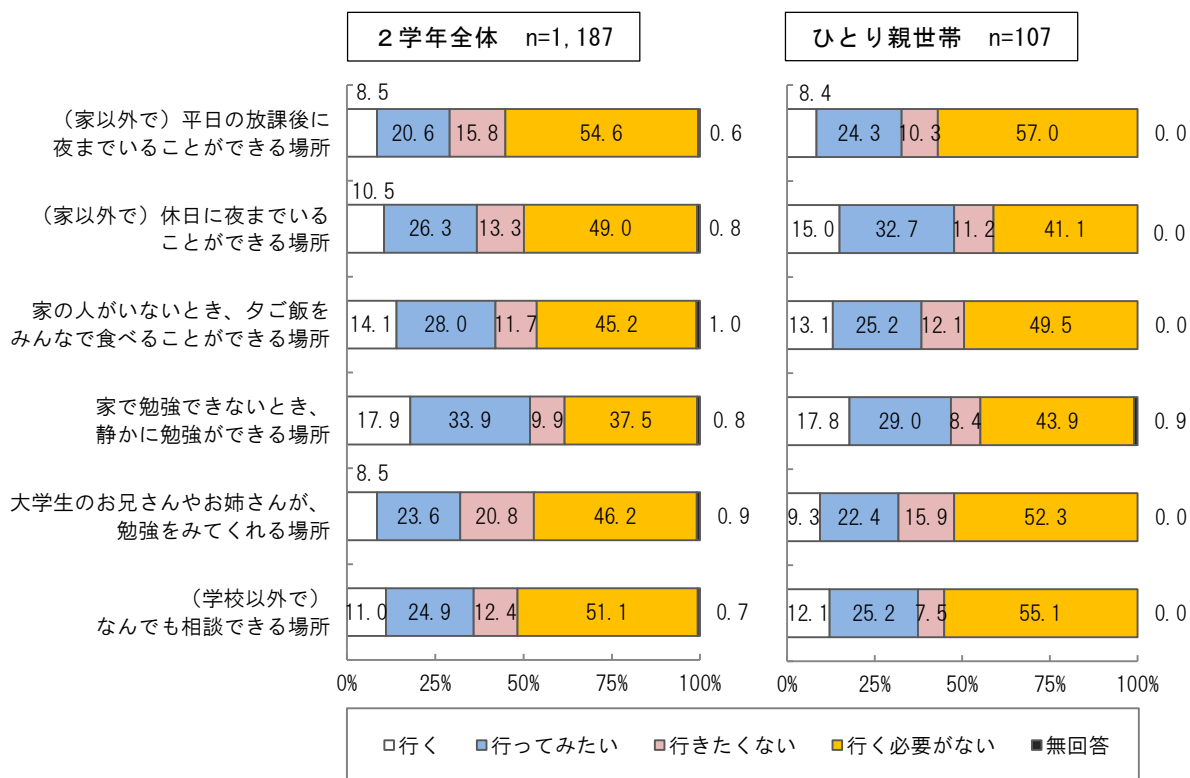
※母数

（所得層Ⅰ 小学5年生n=65、中学2年生n=52）（所得層Ⅱ 小学5年生n=484、中学2年生n=478）

（ひとり親世帯 小学5年生n=42、中学2年生n=65）（ひとり親世帯非該当 小学5年生n=548、中学2年生n=532）

○あれば行ってみたいと思う場所は、2学年全体・所得層Ⅰ・所得層Ⅱともに『家で勉強できないとき、静かに勉強ができる場所』（「行く」＋「行ってみたい」）をあげた割合が最も高くなっています。一方、ひとり親世帯では『（家以外で）休日に夜までいることができる場所』が最も高くなっています。

問26 あれば行ってみたいと思う場所



第 4 章

ひとり親・保護世帯の調査結果

第4章 ひとり親・保護世帯の調査結果

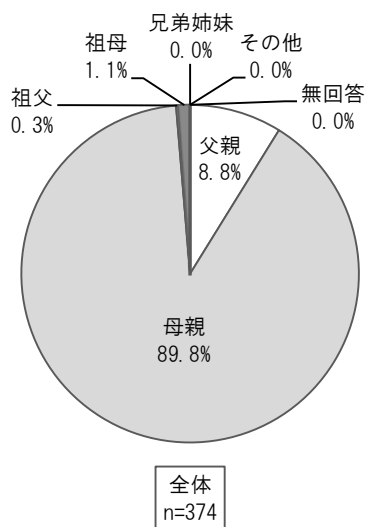
1 回答者とその世帯について

○本調査への回答者は、「母親」(89.8%)が約9割を占め、次いで「父親」(8.8%)となっています。

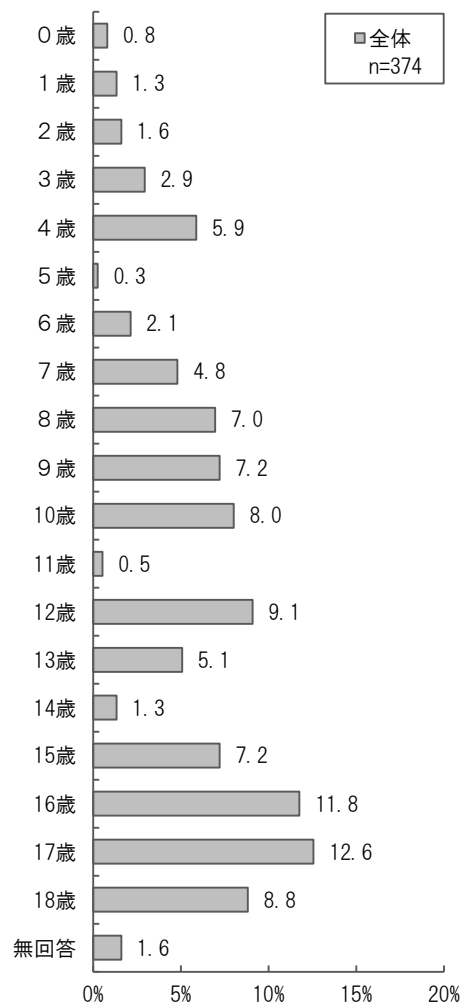
○回答者の年齢は、「40～49歳」(42.5%)が最も高く、次いで「30～39歳」(37.4%)となっています。

○子どもの年齢は、「17歳」(12.6%)が最も高く、次いで「16歳」(11.8%)、「12歳」(9.1%)となっています。

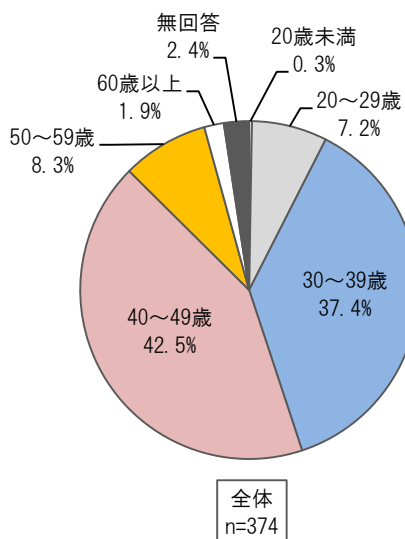
問1 調査の回答者



問2.1 子どもの年齢



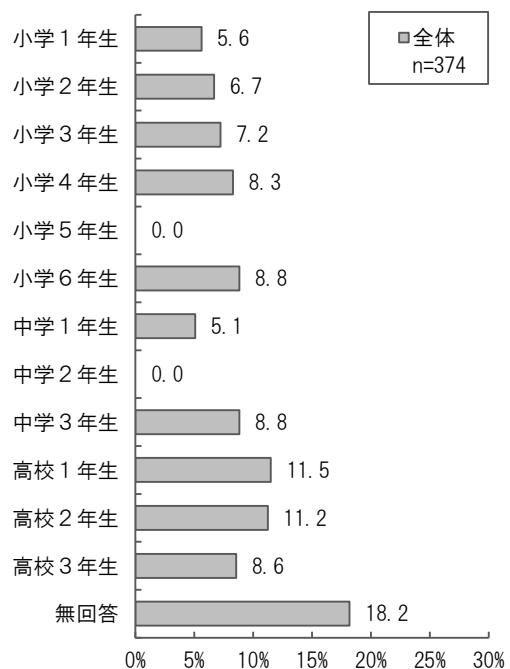
問2.3 回答者の年齢



※全体…⑦、⑧(P5参照)の調査票に回答した方を合計しています。

○子どもの学年をみると、「高校1年生」（11.5%）が最も高く、次いで「高校2年生」（11.2%）となっています。

問2.2 子どもの学年



○現在の婚姻状況をみると、「結婚している（事実婚を含む）」（7.0％）は1割未満、「離婚」「死別」「未婚」を合わせると88.7％となっています。

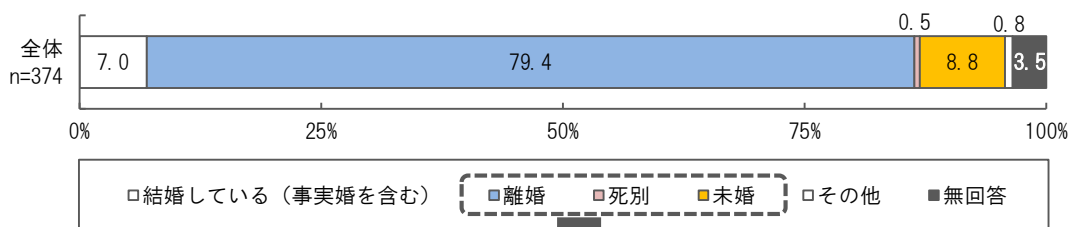
○ひとり親家庭になった年齢は、「30～39歳」（40.4％）が最も高く、次いで「20～29歳」（28.6％）、「40～49歳」（13.0％）となっています。

◎ひとり親世帯の親は、現在は40歳代、離別時は30歳代が最も多くなっています。子どもは高校生が最も多いことから、子どもが幼少期にひとり親世帯となり、現在は祖母などの力を借りて生活している様子がうかがえます。

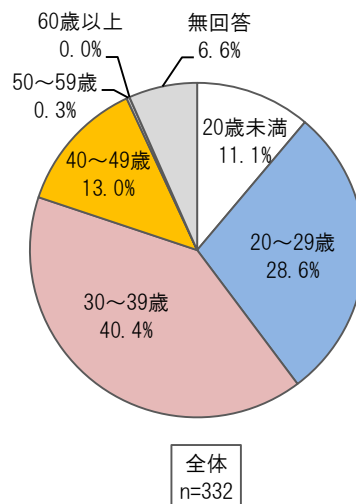
※P111 問2.3、P112 問2.2、P114 問6参照

問1で「1. 父親」「2. 母親」「3. 祖父」「4. 祖母」と回答した方

問4 現在の婚姻状況



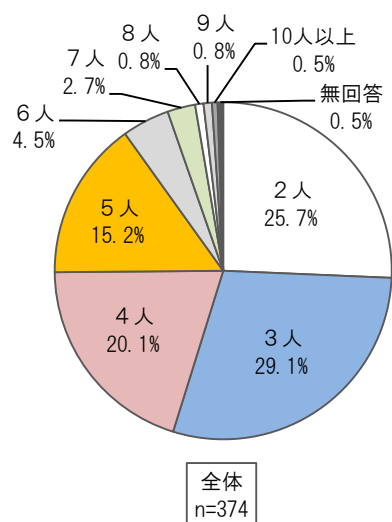
※ひとり親家庭になった年齢



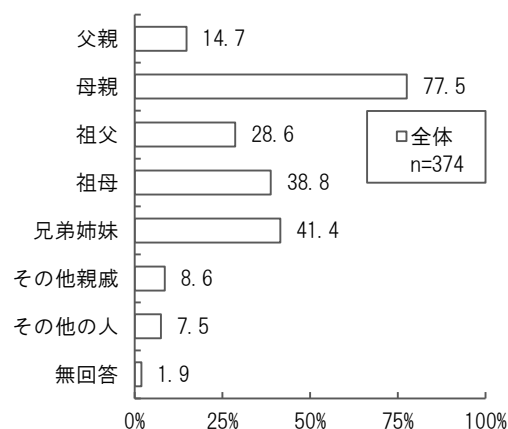
○同居している家族の人数をみると、「3人」(29.1%)が最も高く、次いで「2人」(25.7%)、「4人」(20.1%)となっています。

○同居している家族の内訳は、「母親」(77.5%)が最も高く、次いで「兄弟姉妹」(41.4%)、「祖母」(38.8%)となっています。

問5 同居している家族の人数



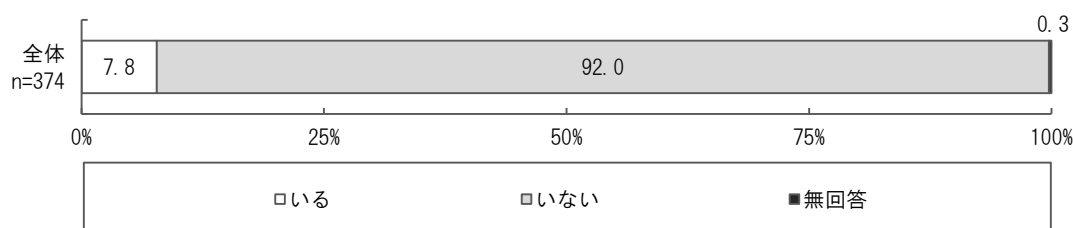
問6 同居している家族



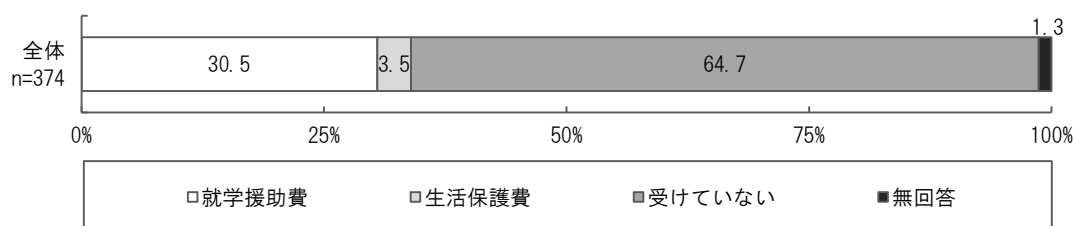
○介護が必要な方の有無をみると、「いる」が7.8%、「いない」が92.0%となっています。

○世帯が受けている公的支援は、「就学援助費」が30.5%、「生活保護費」が3.5%となっています。

問8 介護が必要な方の有無



問9 世帯が受けている公的支援



2 お子さんのことについて

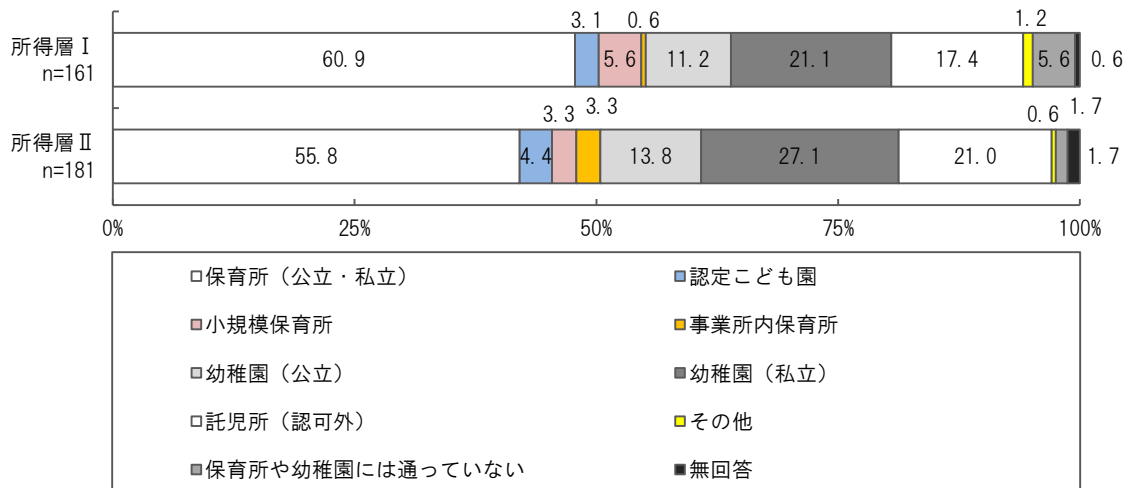
○所得層別にみると、いずれも「保育所（公立・私立）」「幼稚園（私立）」「託児所（認可外）」の順となっていますが、所得層Ⅰでは所得層Ⅱに比べ、「保育所（公立・私立）」の割合が高く、「幼稚園（私立）」「託児所（認可外）」の割合が低くなっています。

○希望する進学先を所得層別にみると、「高校」「短大・高専・専門学校」では所得層Ⅰの割合が高く、「大学またはそれ以上」では所得層Ⅱの割合が所得層Ⅰの2倍以上とその差は大きく開いています。

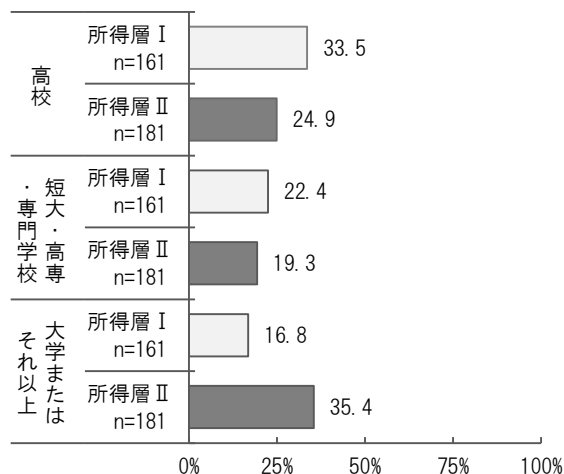
◎所得層Ⅰの世帯では、働く必要があるため保育所を選ぶ傾向が見られます。また、所得層Ⅱより所得層Ⅰでは、保育園や幼稚園に通っていない世帯が多く、経済的理由から保育園や幼稚園に通うのをあきらめている世帯も一定数いると推察されます。

◎また、所得層Ⅰの世帯では、所得層Ⅱの世帯に比べて、経済的理由から進学をあきらめている世帯も一定数いると推察されます。

問10 現在通っている、または就学前に通ったことのある保育所や幼稚園（所得層別）



問11 希望する進学先（所得層別）

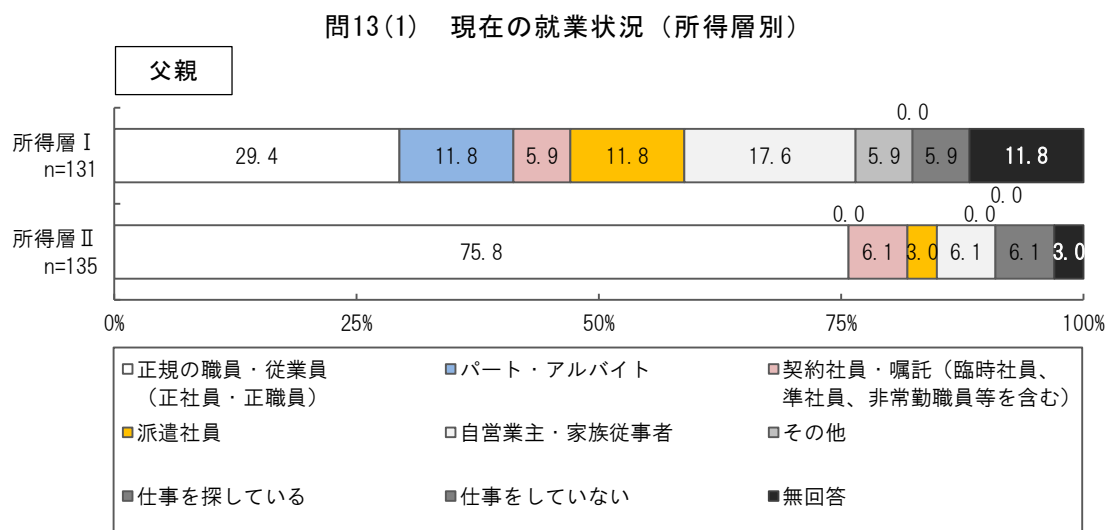
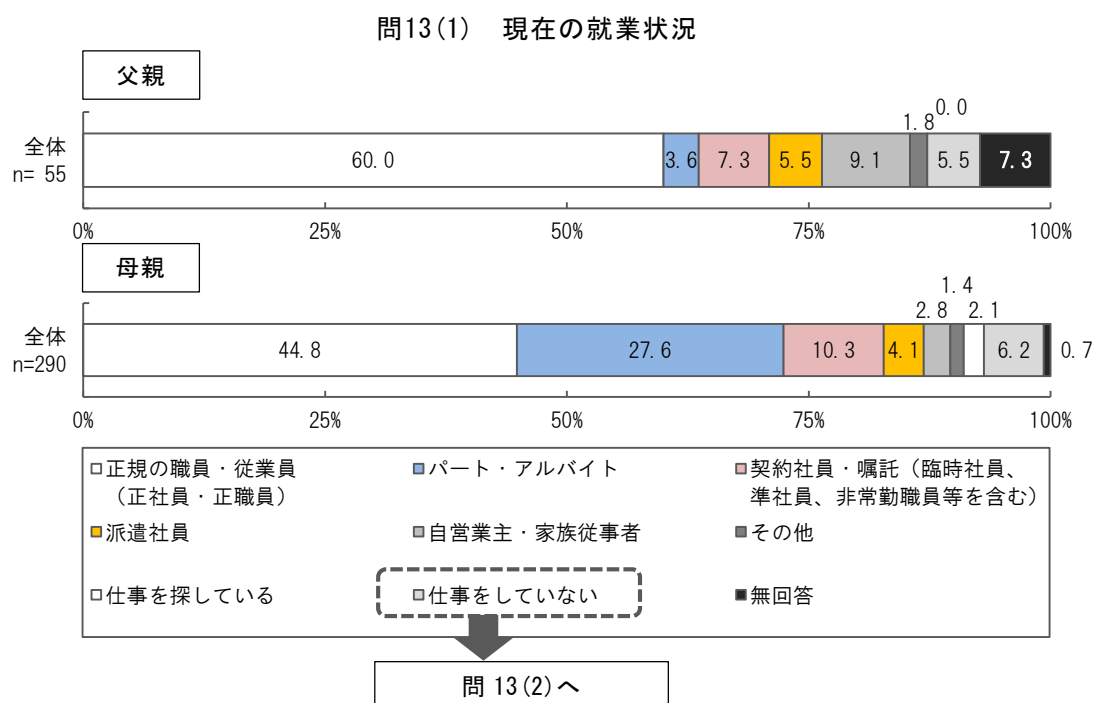


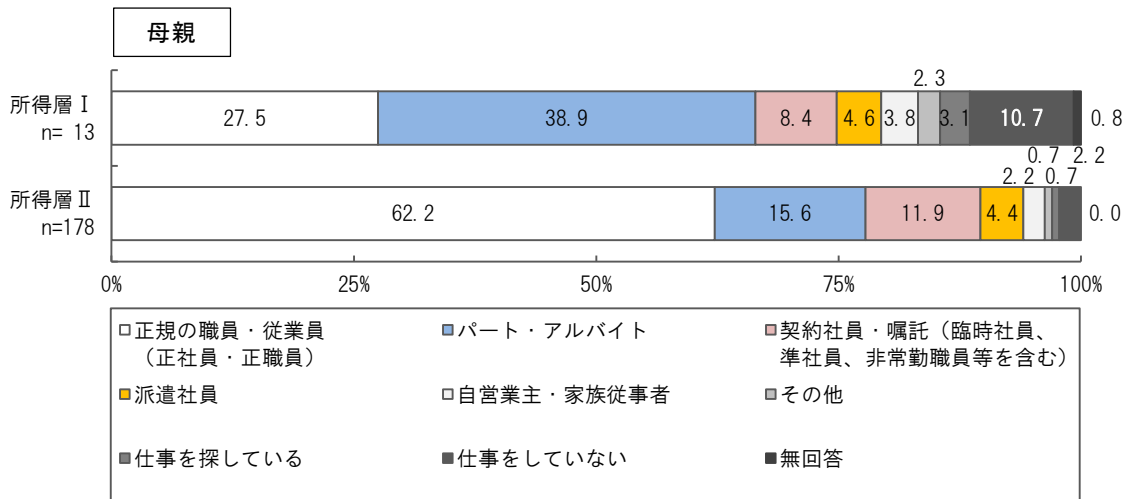
3 保護者の現在の就業状況について

○父親の現在の就業状況をみると、「正規の職員・従業員（正社員・正職員）」（60.0％）が最も高く、次いで「自営業主・家族従事者」（9.1％）、「契約社員・嘱託（臨時社員、準社員、非常勤職員等を含む）」（7.3％）となっています。また、「仕事をしていない」が5.5％となっています。

○母親の現在の就業状況をみると、「正規の職員・従業員（正社員・正職員）」（44.8％）が最も高く、次いで「パート・アルバイト」（27.6％）、「契約社員・嘱託（臨時社員、準社員、非常勤職員等を含む）」（10.3％）となっています。また、「仕事をしていない」が6.2％となっています。

◎所得層別にみると、父親・母親ともに所得層Ⅰは所得層Ⅱよりも「正規の職員・従業員（正社員・正職員）」の割合が低くなっています。



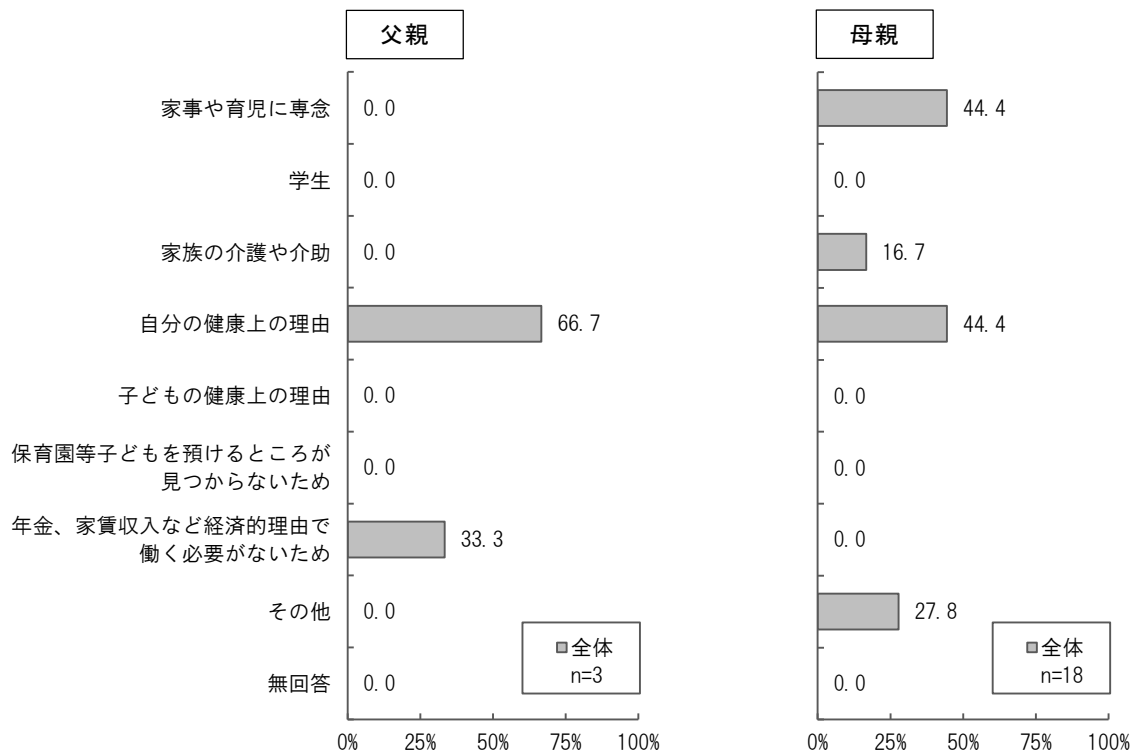


○母親が仕事をしていない理由は、「家事や育児に専念」「自分の健康上の理由」(各44.4%)で高くなっています。

(父親の対象者は少数のため、コメントを省略します。)

問 13(1)で「8. 仕事をしていない」と回答した方

問13(2) 現在仕事をしていない理由

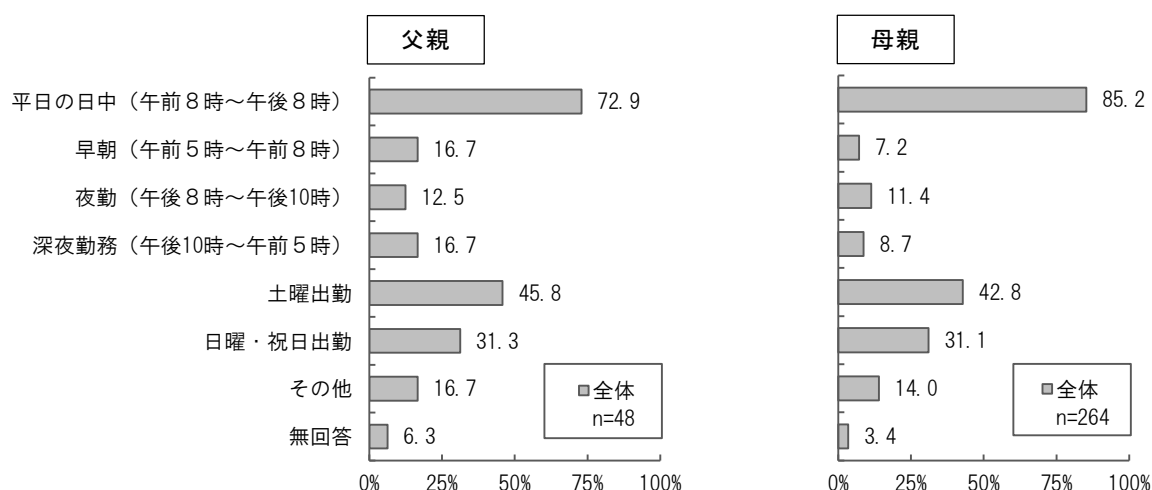


○勤務時間帯をみると、父親・母親ともに「平日の日中（午前8時～午後8時）」（72.9%・85.2%）が最も高く、次いで「土曜出勤」（45.8%・42.8%）となっています。

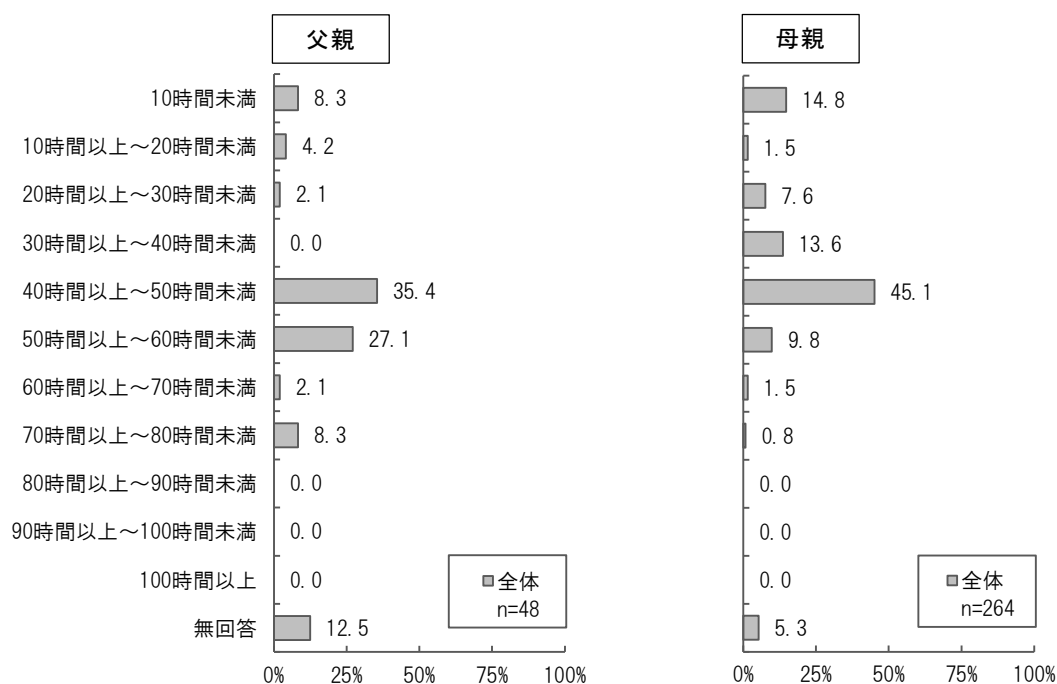
○週当たりの労働時間をみると、父親は「40時間以上～50時間未満」（35.4%）が最も高く、次いで「50時間以上～60時間未満」（27.1%）、母親は「40時間以上～50時間未満」（45.1%）が最も高く、次いで「10時間未満」（14.8%）となっています。

※全体の結果はP31 参照

問13(3) 仕事の勤務時間帯

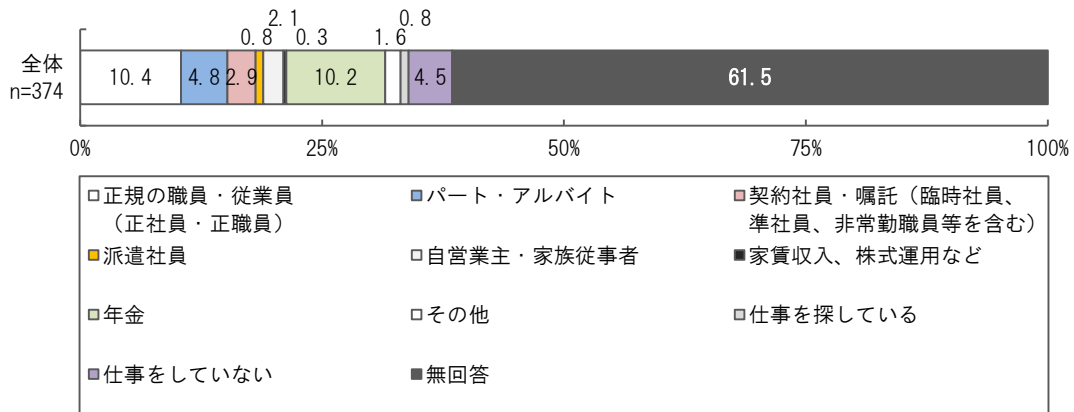


問13(4) 週当たりの平均労働時間



○父親・母親以外の方の就業状況をみると、「正規の職員・従業員（正社員・正職員）」（10.4%）、「年金」（10.2%）が1割を超え、それ以外は0.5割以下となっています。

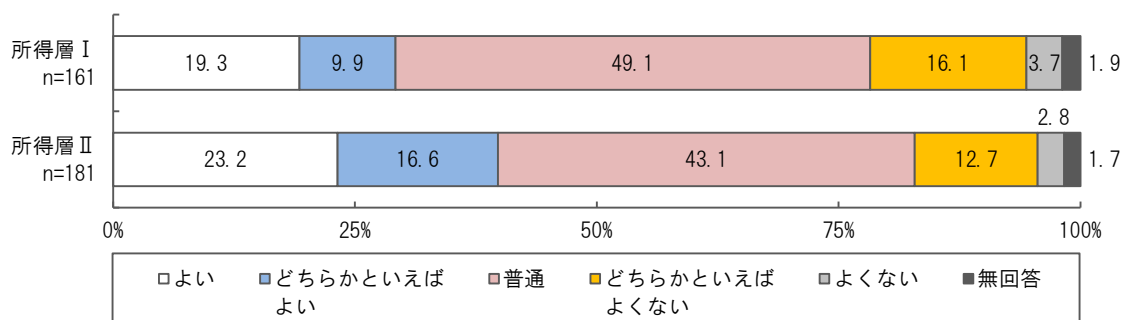
問14 主たる家計を支えている方が父親・母親以外の場合の就業状況



4 保護者（回答者）の健康状態について

○所得層別にみると、所得層Ⅰ・Ⅱともに「普通」（49.1%・43.1%）が最も高くなっています。また、「よい」と「どちらかといえばよい」を合わせると、所得層Ⅰ（29.2%）より所得層Ⅱ（39.8%）が高く、「どちらかといえばよくない」と「よくない」を合わせると、所得層Ⅱ（15.5%）より所得層Ⅰ（19.8%）が高くなっています。

問15 保護者の健康状態（所得層別）



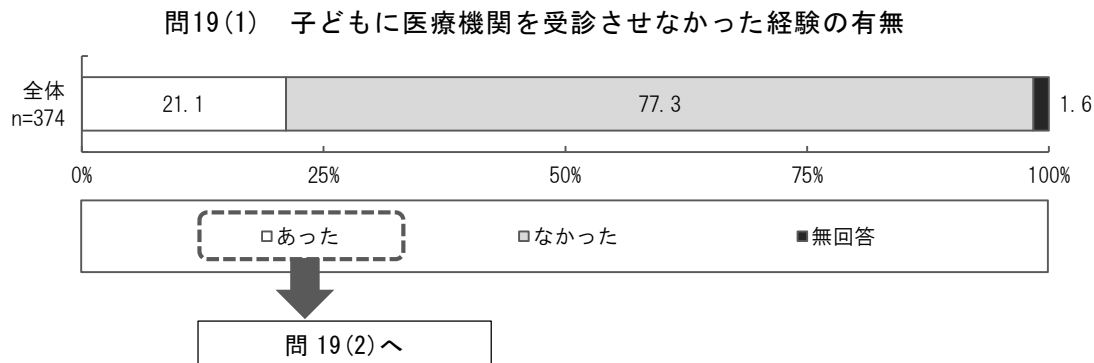
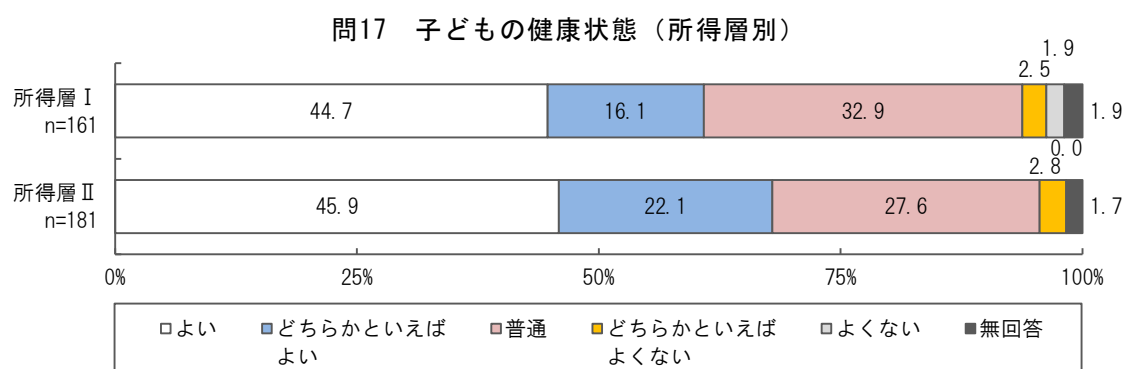
5 子どもの健康状態等について

○子どもの健康状態を所得層別にみると、「よい」と「どちらかといえばよい」を合わせた割合は、所得層Ⅰ（60.8%）より所得層Ⅱ（68.0%）が高く、「どちらかといえばよくない」と「よくない」を合わせると、所得層Ⅱ（2.8%）より所得層Ⅰ（4.4%）が高くなっています。

○子どもに医療機関の受診をさせなかったことが「あった」と回答した割合は、2割を超えています。

◎所得層Ⅰが所得層Ⅱより健康状態のよくない傾向が見られます。

※第2章P33 問15、第4章P119 問15 参照

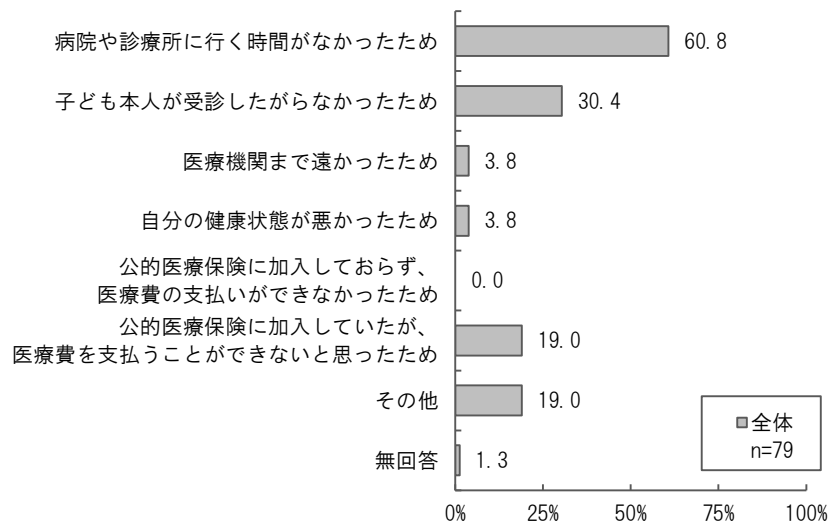


○医療機関を受診させなかった理由は、「病院や診療所に行く時間がなかったため」（60.8%）が最も高く、次いで「子ども本人が受診しなかったため」（30.4%）となっています。

◎ひとり親・準要保護世帯は、医療費を払うことができないことを理由に受診させなかった割合（19.0%）が調査対象全体に比べて高くなっています。

※第2章P41 問19（2）参照

問19(2) 医療機関を受診させなかった理由

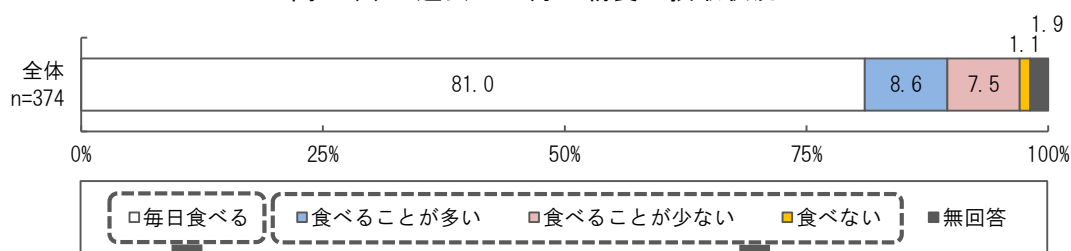


○朝食を「毎日食べる」子どもが家族の大人と一緒に朝食をとる頻度をみると、「ほとんど毎日」以外が34.7%となっています。

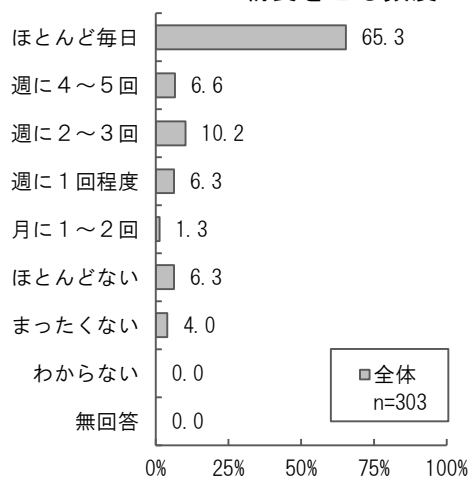
○朝食を抜いたり食べない理由をみると、「時間がない」(43.8%)が最も高く、次いで「お腹がすいていない」(32.8%)となっています。

◎ひとり親・保護世帯は時間に余裕がなく、子どもを病院に連れて行くことが難しかったり、朝食を食べる習慣がない割合が高かったりする傾向が見られます。

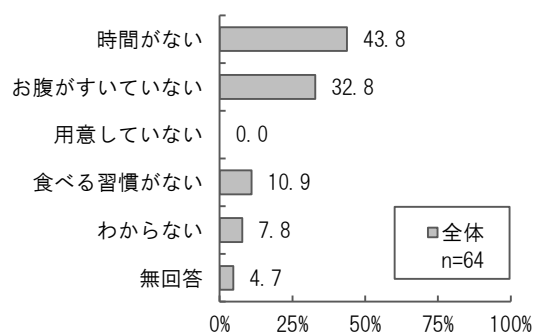
問20(1) 過去1か月の朝食の摂取状況



問20(3) 家族の大人と一緒に朝食をとる頻度



問20(2) 朝食を食べない理由



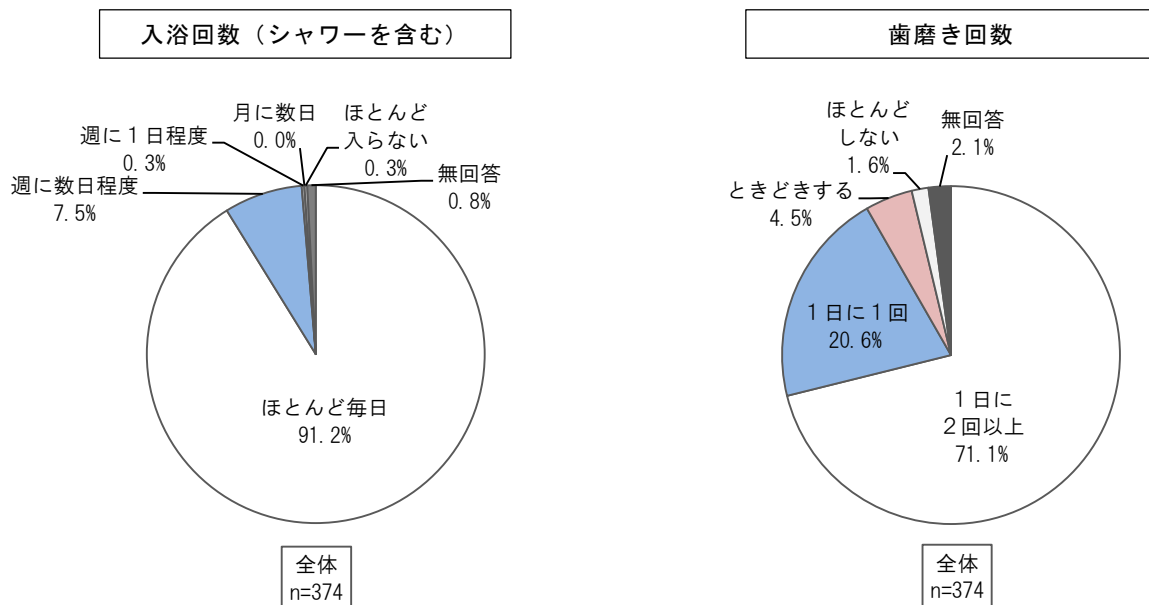
○入浴回数をみると、「ほとんど毎日」(91.2%)が9割を超え高くなっています。一方、「週に1日程度」(0.3%)、「ほとんど入らない」(0.3%)がごくわずかながらいる状況です。

○歯磨き回数では、「1日に2回以上」(71.1%)が最も高く、次いで「1日に1回」(20.6%)となっています。一方、「ときどきする」(4.5%)、「ほとんどしない」(1.6%)を合わせると6.1%となっています。

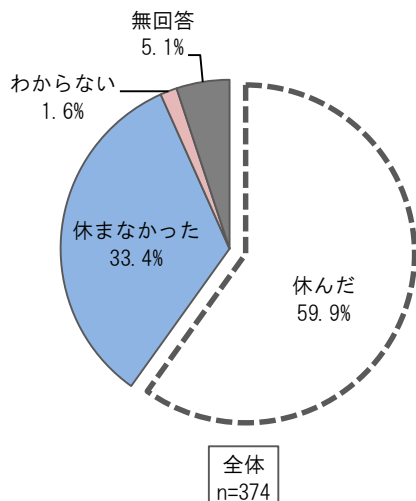
○4月から現在までに保育所・幼稚園・学校を休んだ状況をみると、「休んだ」(59.9%)が6割となっています。

○保育所・幼稚園・学校を休んだ理由は、「病気やけが」(90.2%)が最も高く、次いで「忌引きなどの家族の理由」(13.8%)、「本人が行きたがらなかった」(9.8%)となっています。

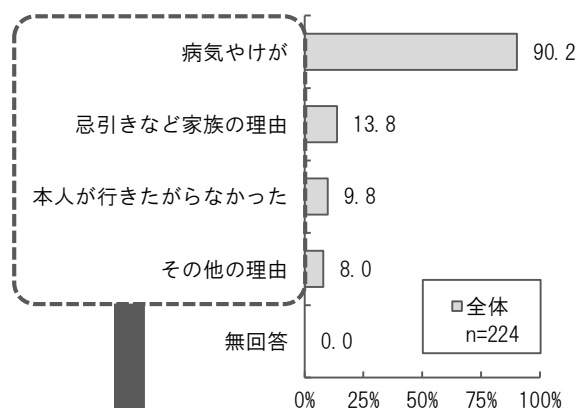
問21 入浴・歯磨きの頻度



問22(1) 保育所・幼稚園・学校の

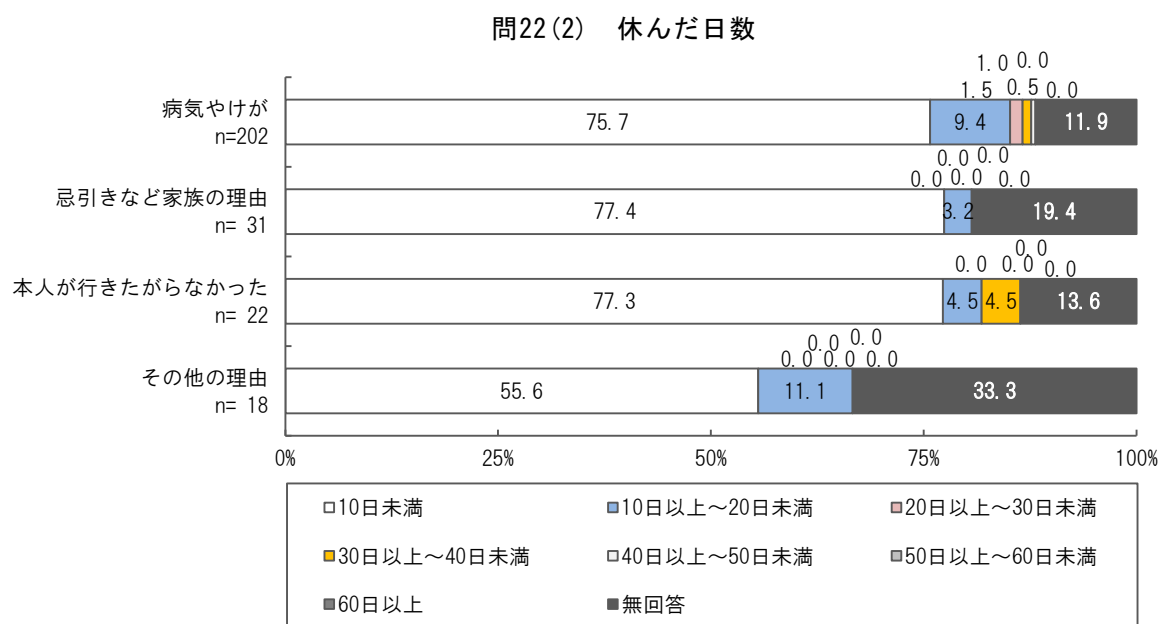


問22(2) 休んだ理由欠席の状況（4月～現在）



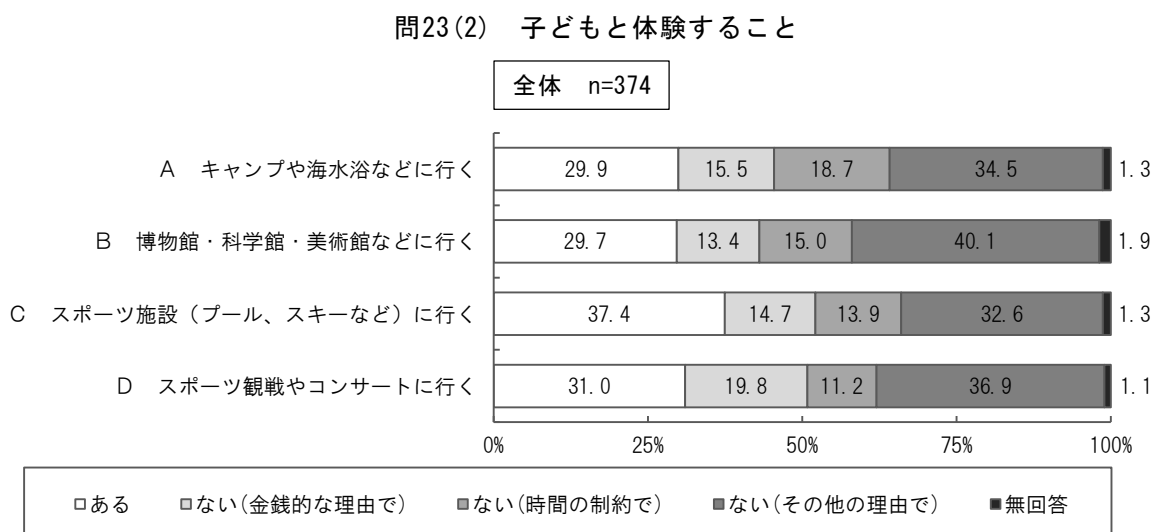
問22(2) 休んだ日数へ

○休んだ日数は、いずれも10日未満の割合が最も高くなっています。



6 子どもとの関わりについて

○子どもと体験することが「ある」割合は、『スポーツ施設（プール、スキーなど）に行く』（37.4%）が最も高くなっています。一方、「ない」を合わせると『キャンプや海水浴などに行く』（68.7%）が最も高く、次いで『博物館・科学館・美術館などに行く』（68.5%）となっています。

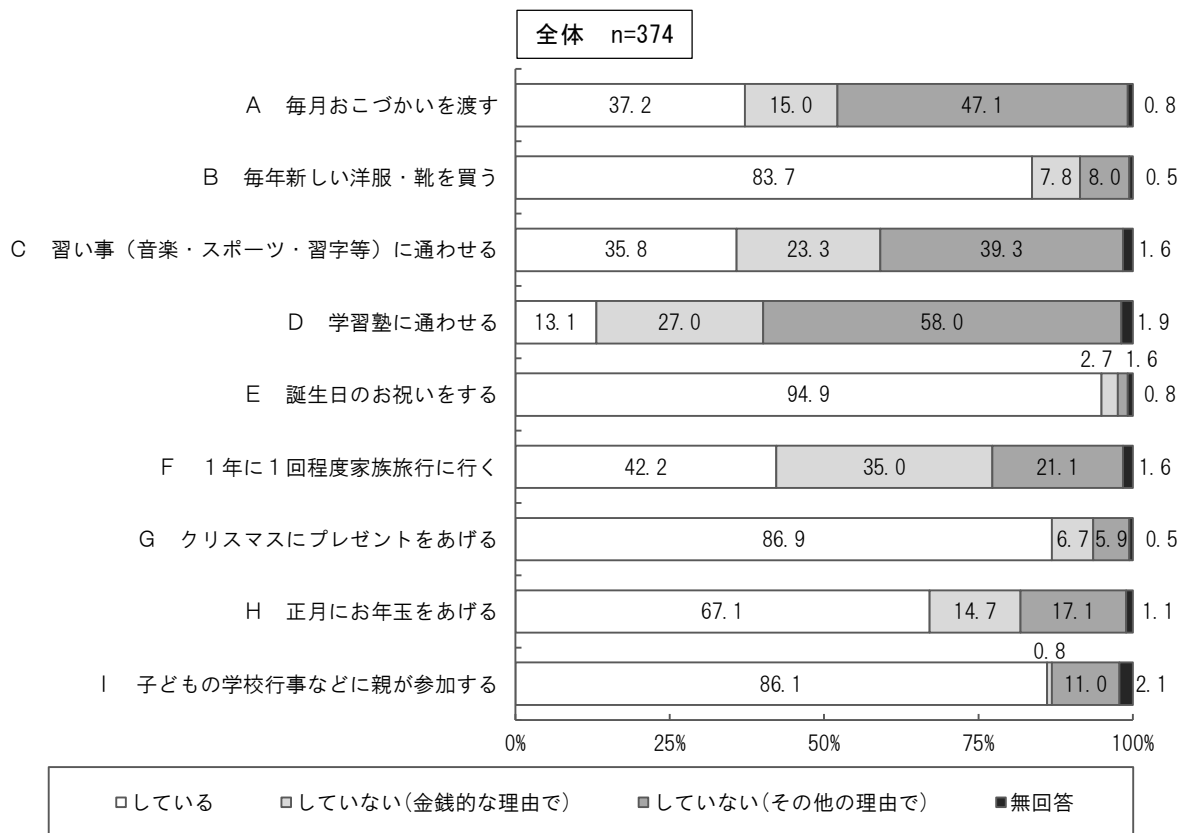


○家庭で子どもに「している」割合は、『誕生日のお祝いをする』（94.9%）が最も高くなっています。一方、「していない」を合わせると『学習塾に通わせる』（85.0%）が最も高く、次いで『習い事（音楽・スポーツ・習字等）に通わせる』（62.6%）、『毎月おこづかいを渡す』（62.1%）となっています。

◎ひとり親・保護世帯では、「子どもに毎年新しい洋服・靴を買う」「習い事に通わせる」の割合が調査対象全体に比べて低く、子どもにあまりお金をかけていない（かけられない）傾向が見られます。

※第2章P53～55 問24 参照

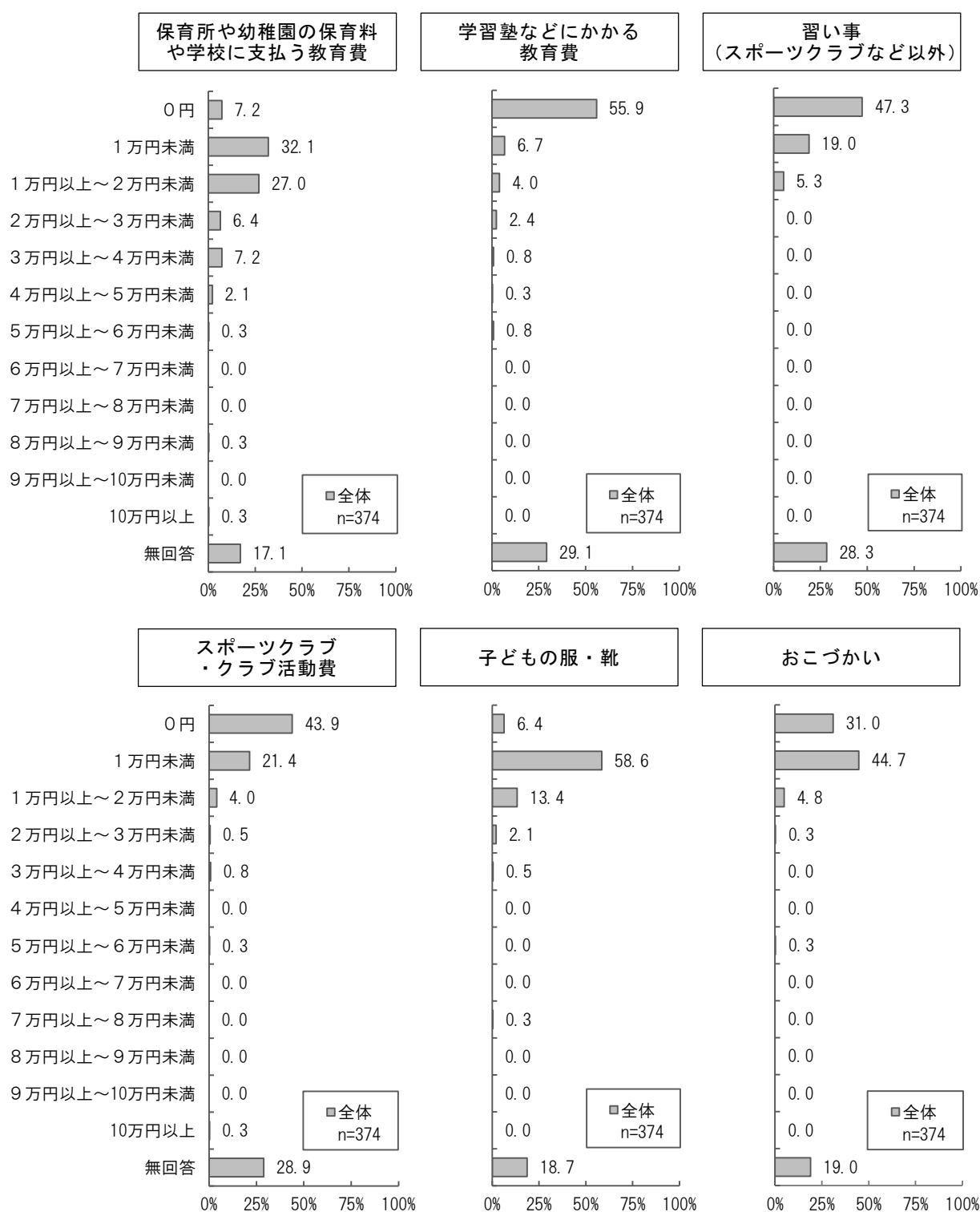
問24 家庭で子どもにしていること



7 子育てにかかる費用について

○『学習塾などにかかる教育費』『習い事（スポーツクラブなど以外）』『スポーツクラブ・クラブ活動費』『携帯・スマートフォンの代金』では「0円」、『保育所や幼稚園の保育料や学校に支払う教育費』『子どもの服・靴』『おこづかい』では「1万円未満」の割合が最も高くなっています。

問25 子育てにかかる生活費や学費





8 家庭での生活について

○困った時や悩みがあるときに相談できる相手をみると、「自分の親」（67.9％）が最も高く、次いで「兄弟姉妹・その他親戚」（37.7％）、「近隣に住む知人・友人」（35.6％）となっています。

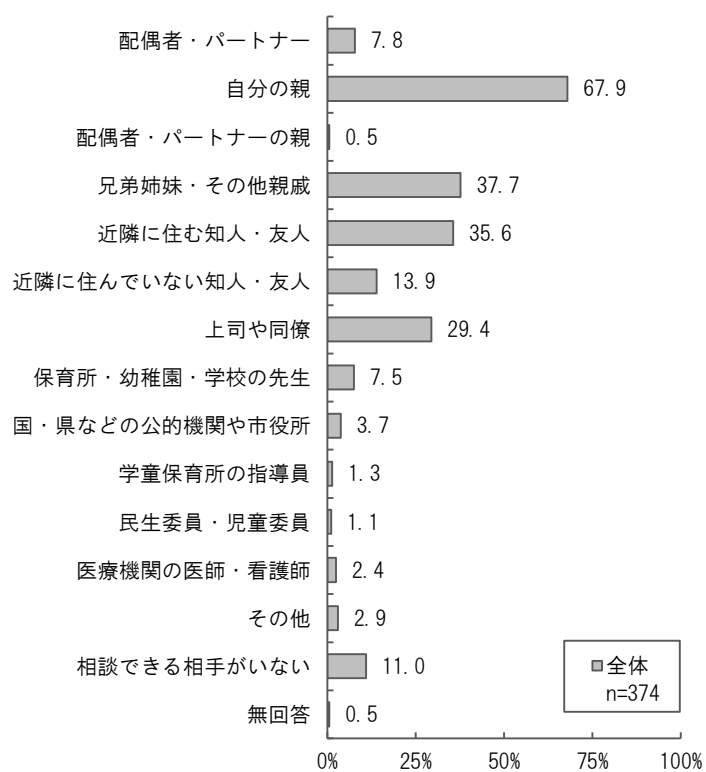
○保護者が病気や不在の時に、子どもの面倒を見てくれる人は、「同居している大人の家族・親族」（44.1％）が最も高く、次いで「ふだんは別居している家族・親族」（42.5％）となっています。

◎悩みの相談相手について、調査対象者全体では「配偶者・パートナー」が最も多くなっているのに対し、ひとり親・保護世帯では「自分の親」が最も多くなっています。

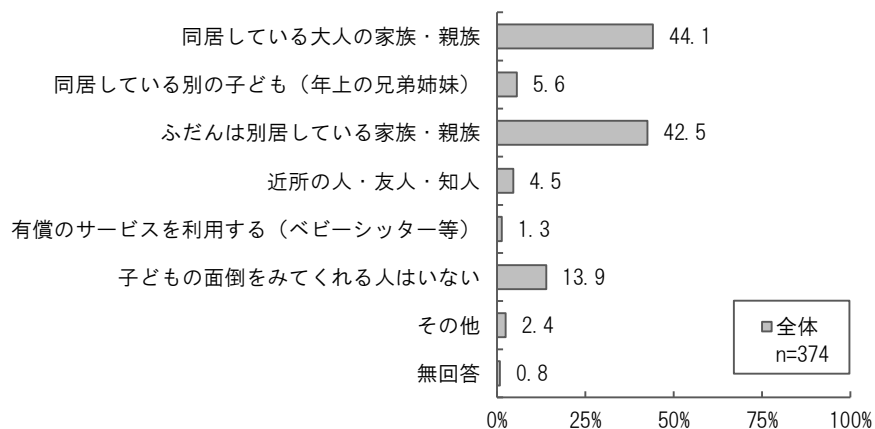
◎また、ひとり親・保護世帯では「相談できる相手がいない」、病気の時や不在の時に「子どもの面倒をみてくれる人がいない」がそれぞれ10％以上となっており、調査対象者全体と比べて割合が高く、子育て等で孤立しがちな傾向が見られます。

※第2章P59 問26、P62 問27 参照

問26 本当に困ったときや悩みがあるときに相談できる人



問27 病気の時や不在の時に、子どもの面倒をみてくれる人



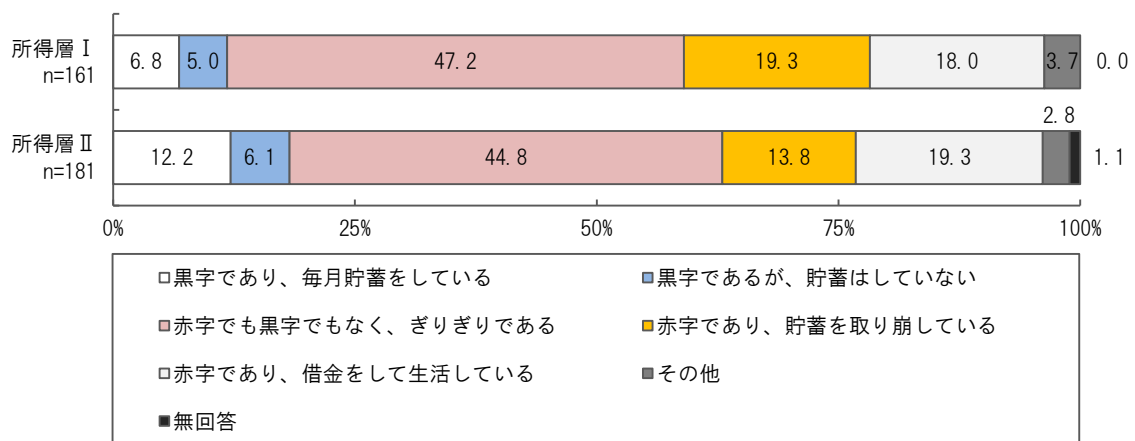
9 世帯の経済状況について

○家計の状況を所得層別でみると、所得層Ⅰ・Ⅱともに「赤字でも黒字でもなく、ぎりぎりである」（47.2%・44.8%）が最も高くなっています。所得層Ⅱでは「赤字であり、借金をして生活している」（19.3%）が約2割となっている反面、「黒字であり、毎月貯蓄をしている」（12.2%）が1割を超えており、同じ所得層内でも格差が大きくなっています。

◎ひとり親・保護世帯の所得層Ⅱでは、「黒字で毎月貯蓄している」の割合が調査対象者全体の所得層Ⅱに比べて半分以下となっており、比較的収入があっても経済的余裕が少ないことがうかがえます。

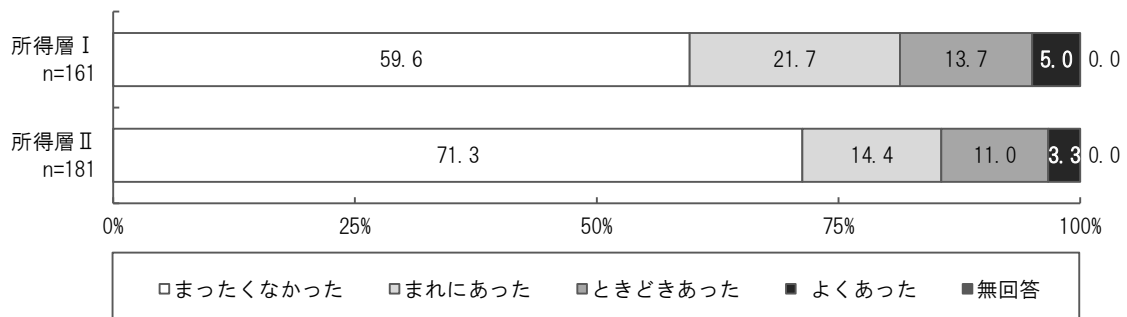
※第2章P64 問29 参照

問29 家計の状況（所得層別）



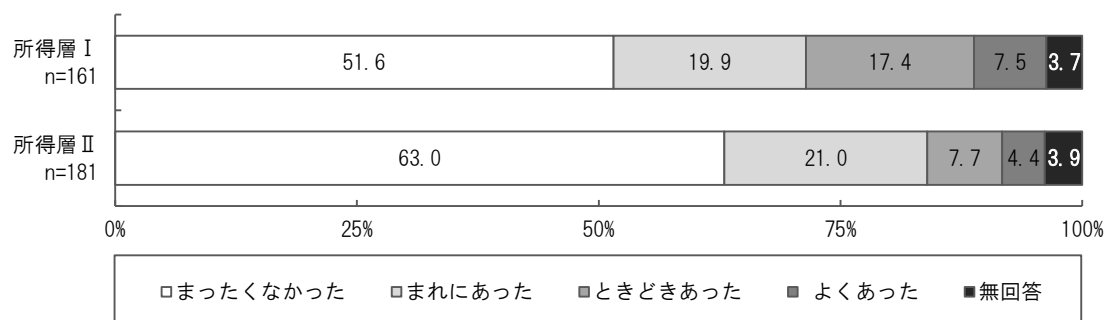
○過去1年間に食料が買えなかった状況を所得層別にみると、「よくあった」「ときどきあった」「まれにあった」を合わせた割合は所得層Ⅰ（40.4%）が所得層Ⅱ（28.7%）を上回っています。

問30 過去1年間に食料が買えなかった経験（所得層別）



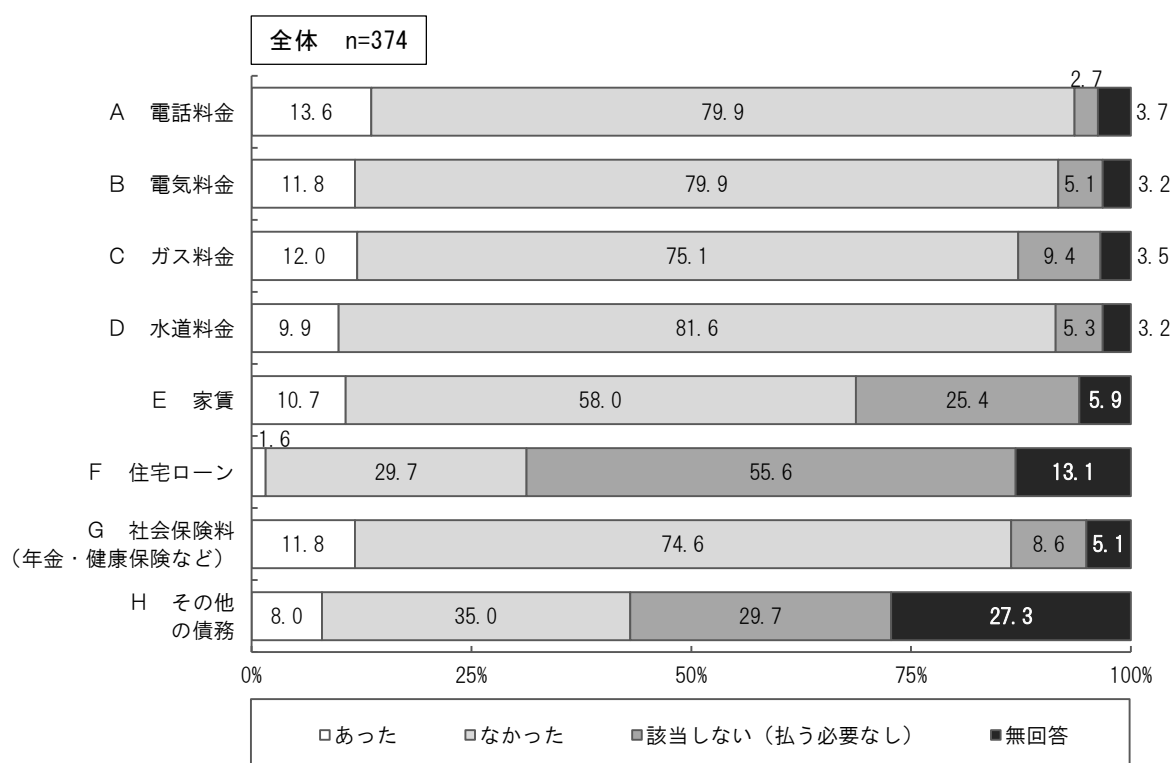
○過去1年間に衣類が買えなかった状況を所得層別にみると、「よくあった」「ときどきあった」「まれにあった」を合わせた割合は所得層Ⅰでは44.8%となっています。

問31 過去1年間に衣類が買えなかった経験（所得層別）



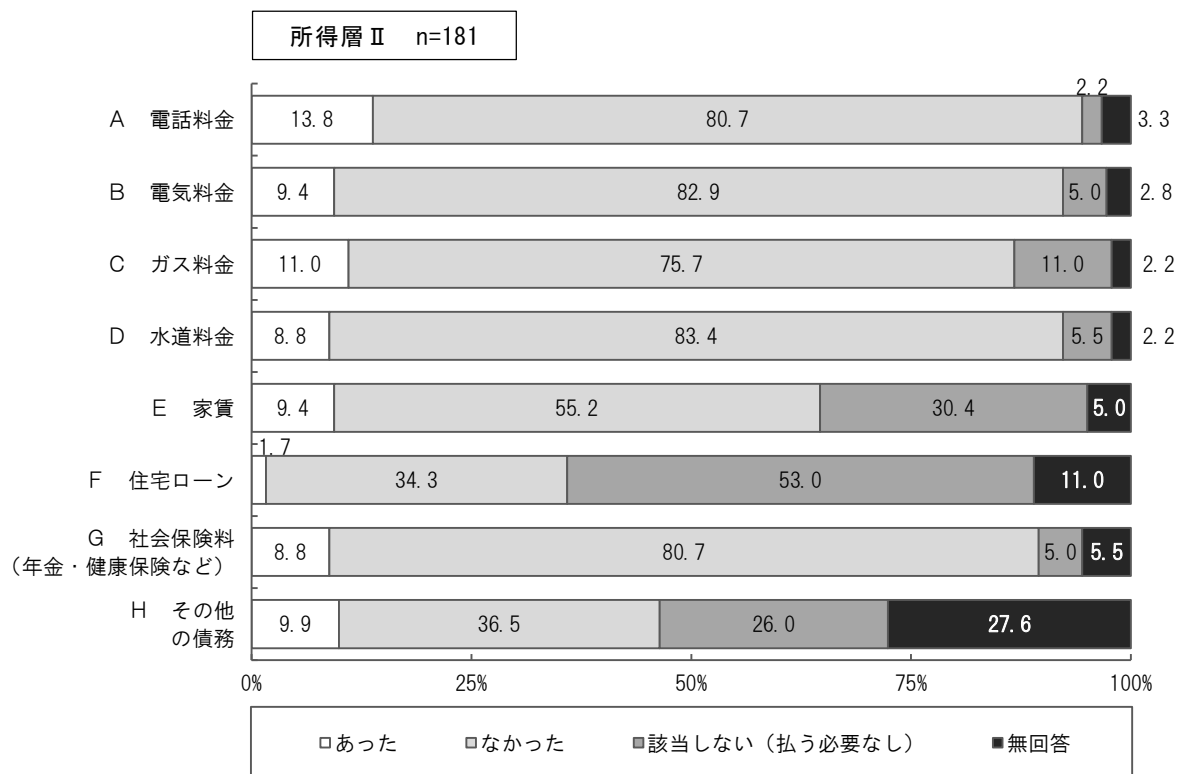
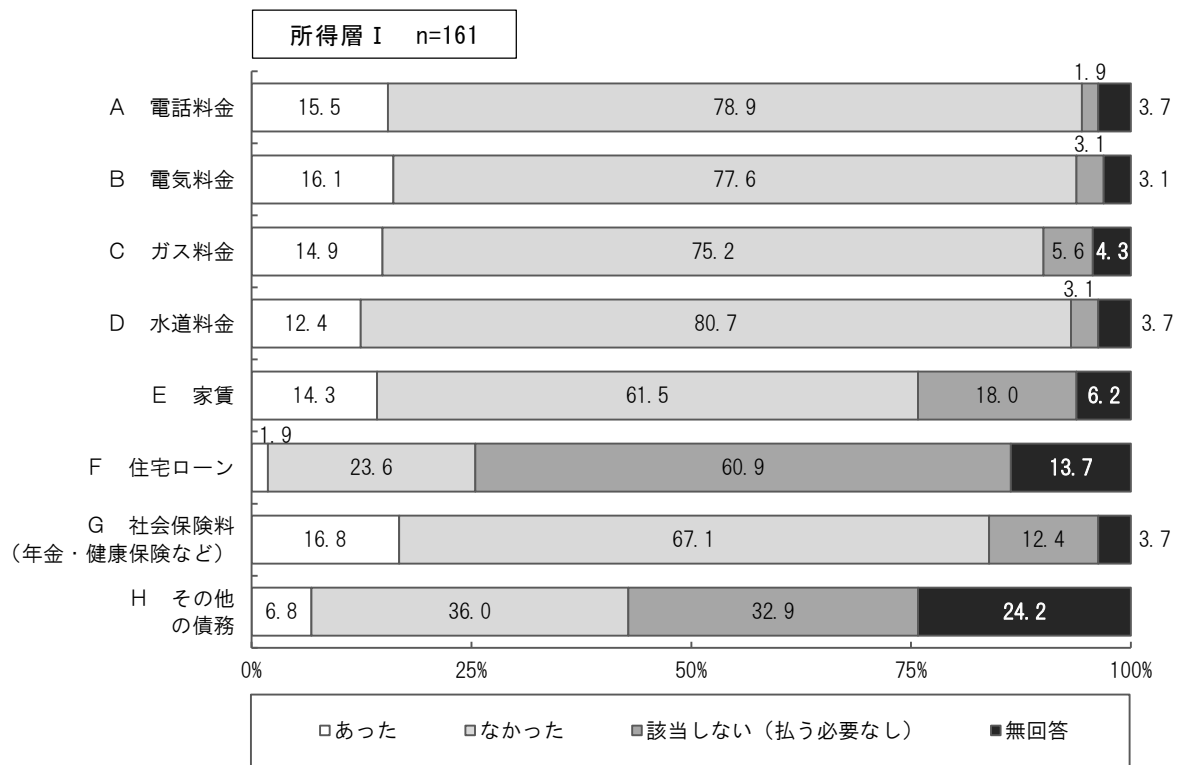
○過去1年間に未払い・滞納・債務不履行が「あった」割合は、多い順に「A 電話料金」「C ガス料金」「B 電気料金」「G 社会保険料（年金・健康保険など）」「E 家賃」で10%台となっています。

問32 過去1年間の未払い・滞納・債務不履行の経験



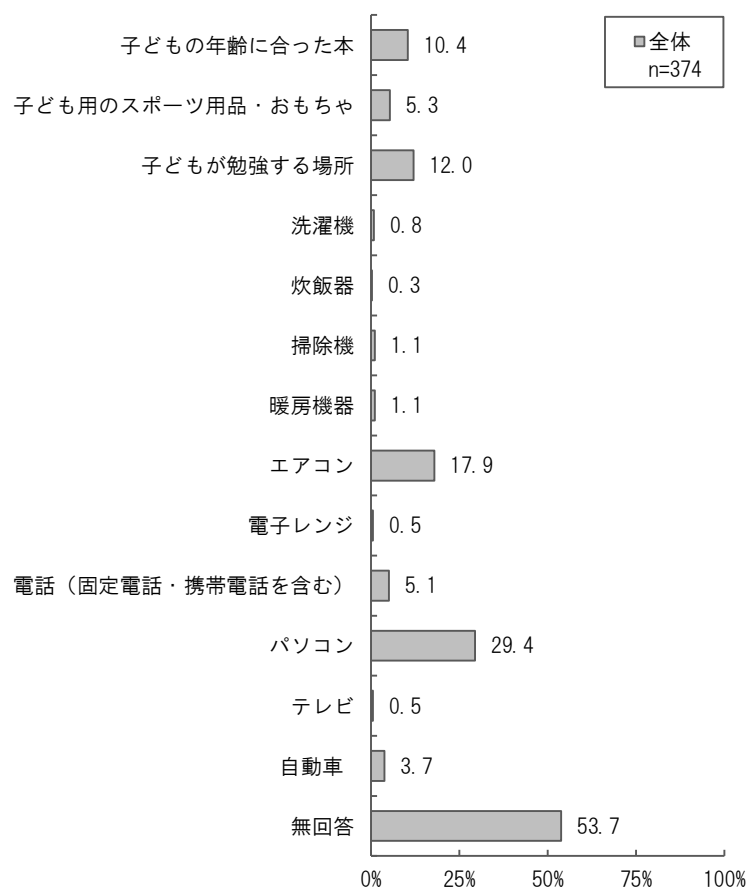
○所得層別にみると「あった」割合は、「H その他の債務」を除いて所得層Ⅰが所得層Ⅱを上回っています。

問32 過去1年間の未払い・滞納・債務不履行の経験（所得層別）



○経済的理由のために世帯にないものをみると「パソコン」(29.4%)が最も高く、次いで「エアコン」(17.9%)、「子どもが勉強する場所」(12.0%)となっています。

問33 経済的理由のために世帯にないもの

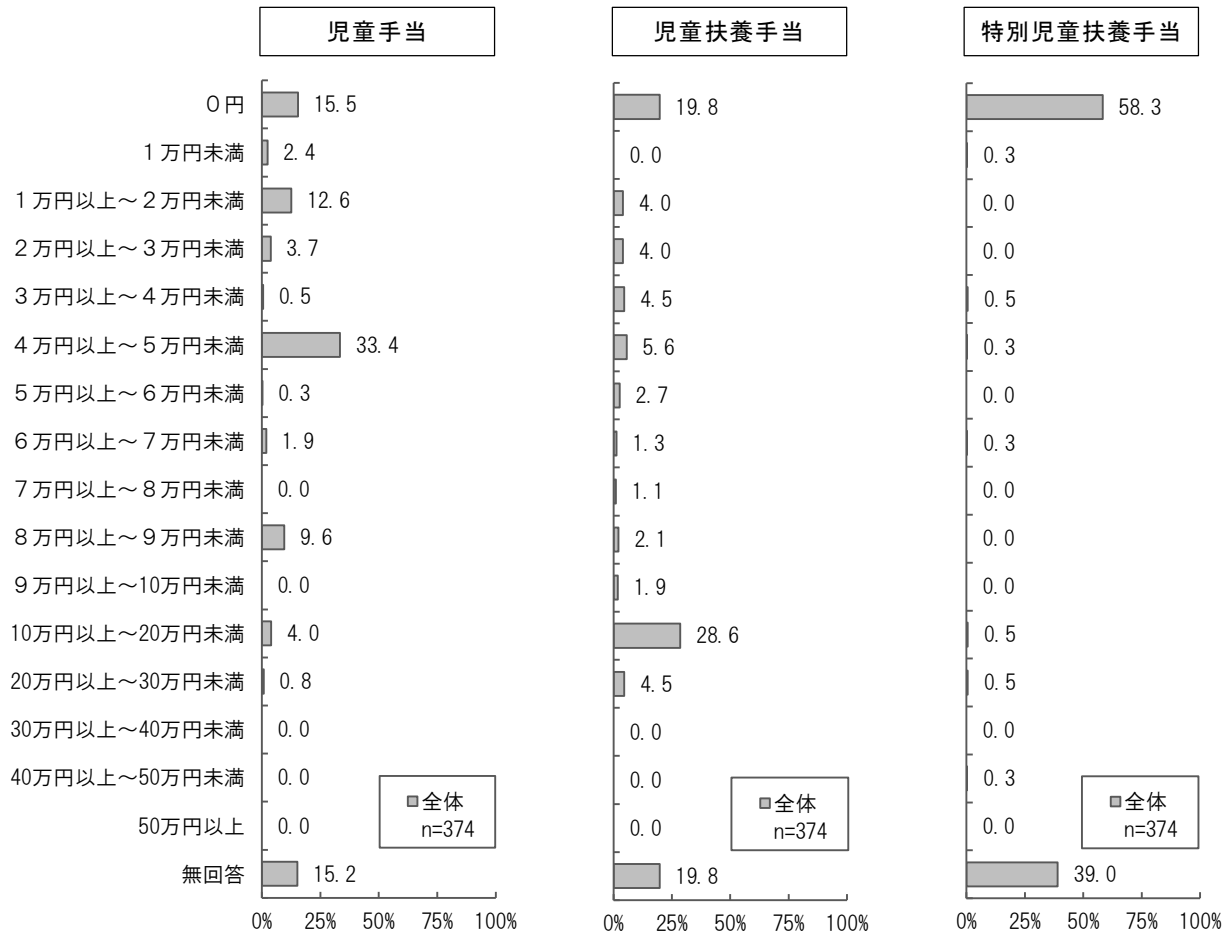


○児童手当の支給額は、「4万円以上～5万円未満」が3割を超え最も高くなっています。

○児童扶養手当の支給額は、「10万円以上～20万円未満」が約3割で最も高くなっています。

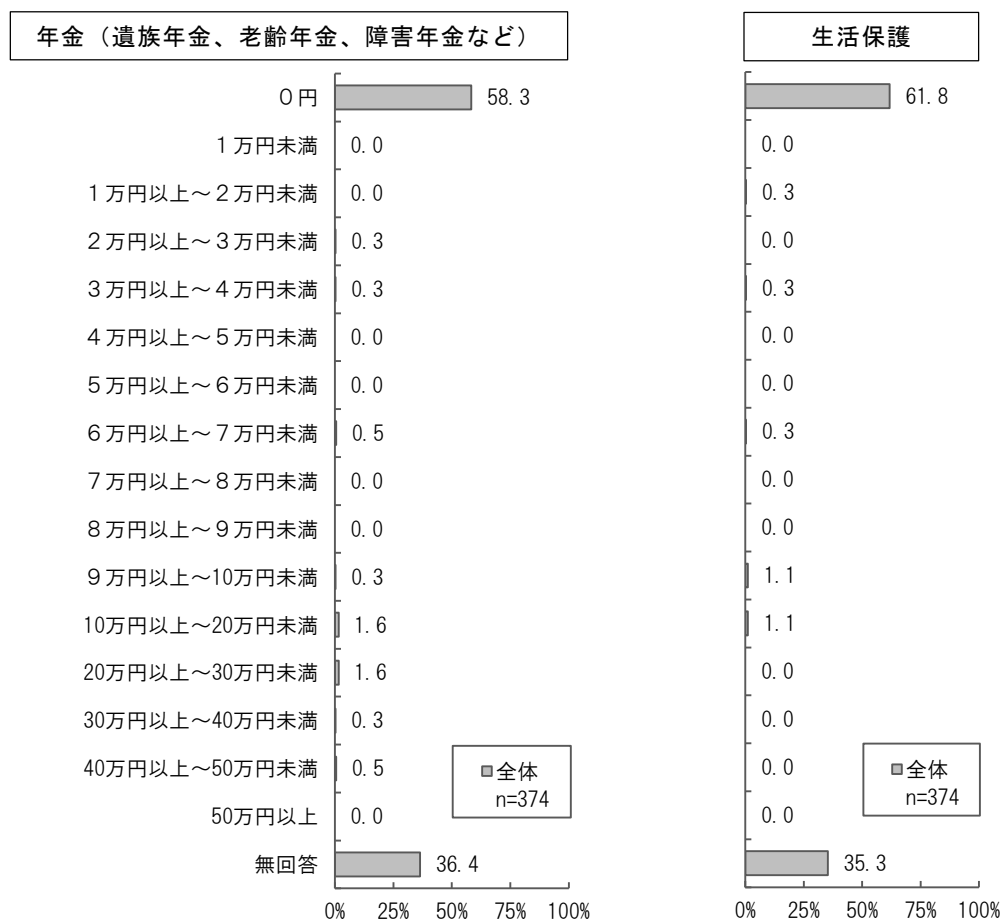
○特別児童扶養手当は、「0円」（58.3%）が半数以上を占めています。

問34 公的年金、社会保障給付金の1回あたり支給額

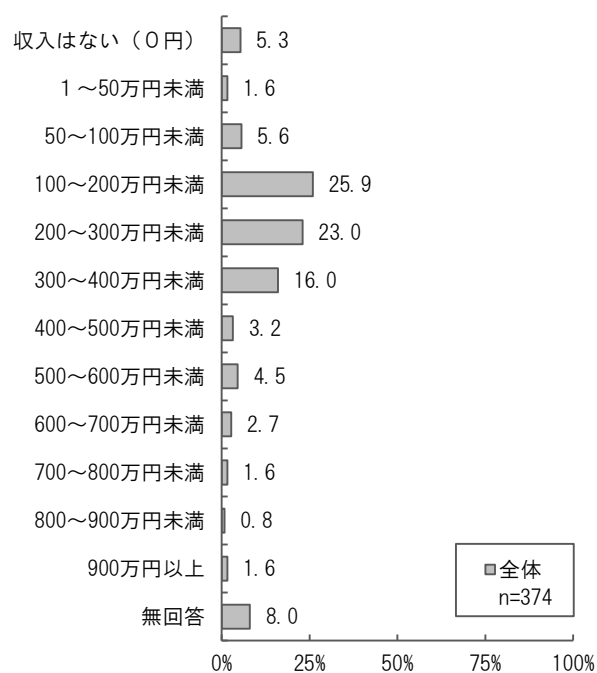


○年金（遺族年金、老齢年金、障害年金など）・生活保護の支給額は、「0円」（58.3%・61.8%）が最も高くなっています。

○世帯全員の年間収入額は、「100～200万円未満」（25.9%）が最も高く、次いで「200～300万円未満」（23.0%）、「300～400万円」（16.0%）となっています。



問35[問35] 世帯全員の年間収入額



10 これまでの経験について

○父親・母親の最終学歴は、ともに「高校卒」(45.5%・44.8%)が最も高く、次いで「専修・専門学校卒(高校卒業後)」(14.5%・26.6%)となっています。

○保護者の中学3年生の頃の家庭の様子をみると、母子世帯・父子世帯を合わせると15.3%となっています。

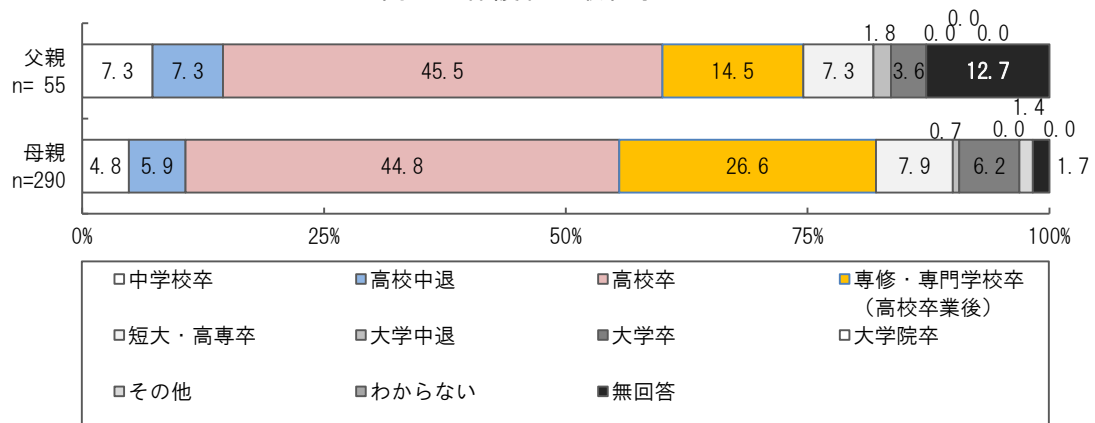
○中学3年生の頃の暮らし向きは、「やや苦しかった」と「大変苦しかった」を合わせると32.8%となっています。約3分の1が苦しい暮らし向きだったことがうかがえます。

◎ひとり親・保護世帯では、親の最終学歴、中学3年での暮らし向き、中学3年での成績のいずれも調査対象者全体に比べて低い傾向があり、相関関係が見られます。

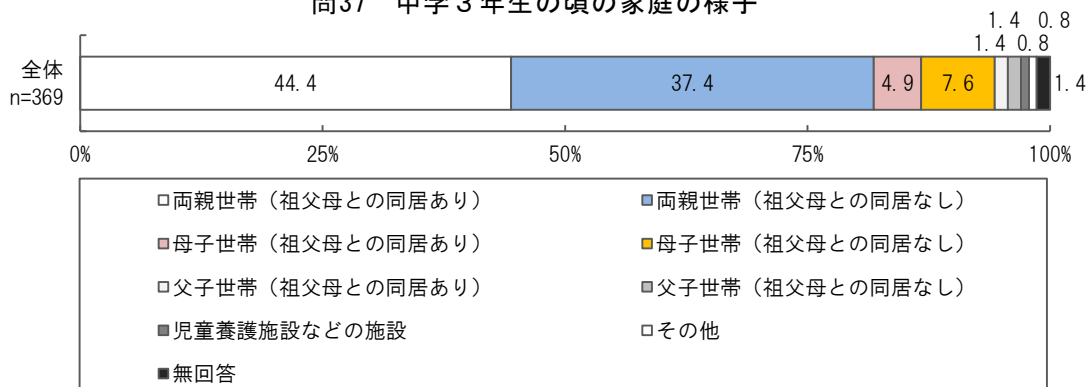
◎ひとり親・保護世帯では、中学3年ごろの家庭の様子で、ひとり親世帯だった割合が、調査対象者全体に比べて高くなっており、ひとり親世帯出身者が親になってからひとり親世帯になるケースが一定程度見られます。

※第2章 P72～74 問36～39 参照

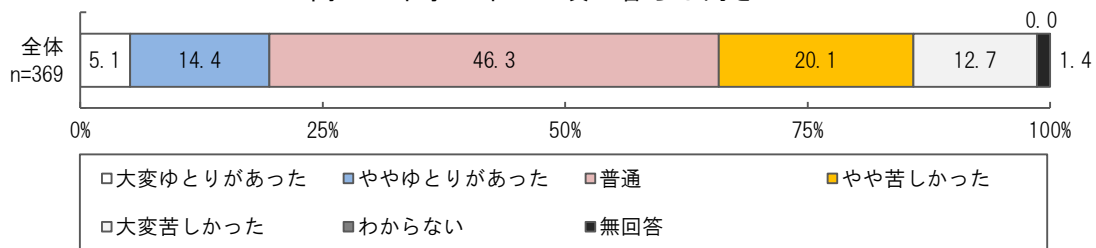
問36 保護者の最終学歴



問37 中学3年生の頃の家庭の様子

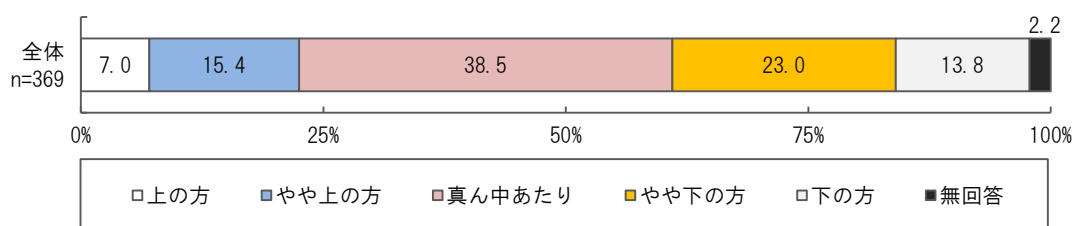


問38 中学3年生の頃の暮らし向き



○中学3年生時の学年での成績は、「上の方」と「やや上の方」を合わせた割合（22.4%）より、「やや下の方」と「下の方」を合わせた割合（36.8%）が高くなっています。

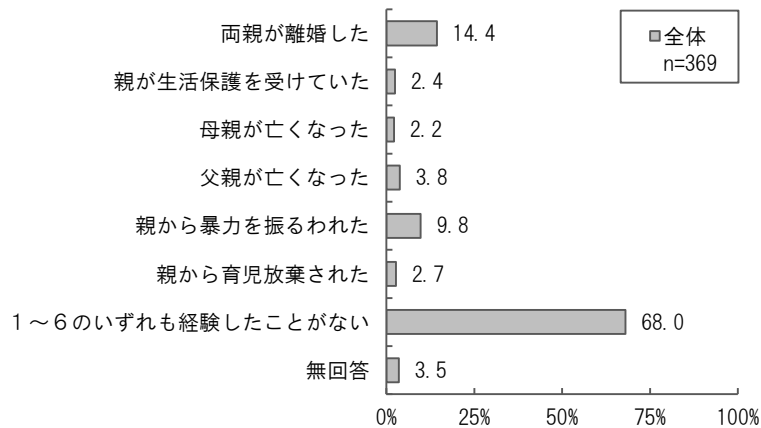
問39 中学3年生時の学年での成績



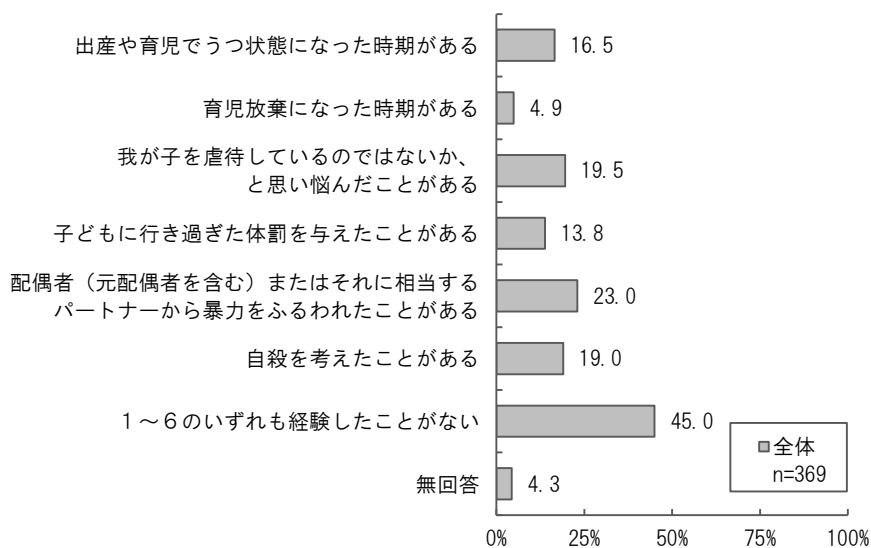
○成人前に体験したことは、「両親が離婚した」（14.4%）、「親から暴力を振るわれた」（9.8%）の割合が1割前後となっています。

○子育てに関わってから経験したことは、「配偶者（元配偶者を含む）またはそれに相当するパートナーから暴力をふるわれたことがある」（23.0%）が最も高く、次いで「我が子を虐待しているのではないか、と思い悩んだことがある」（19.5%）、「自殺を考えたことがある」（19.0%）が2割前後となっています。

問40 成人する前に体験したこと

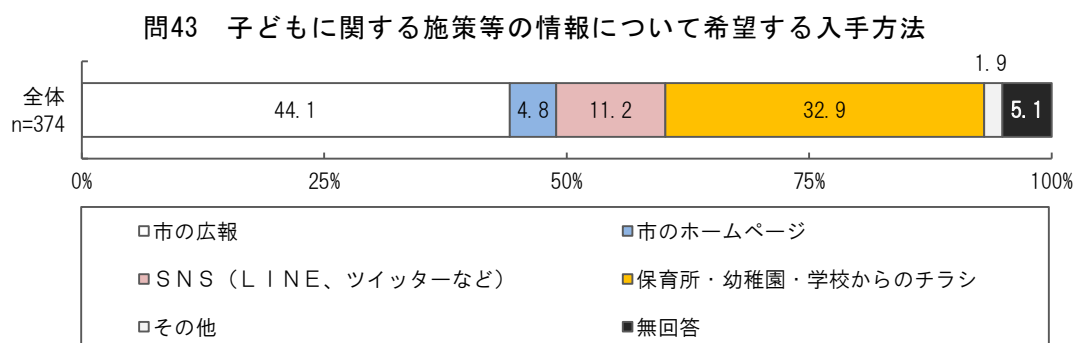


問41 子育てにかかわってから経験したこと

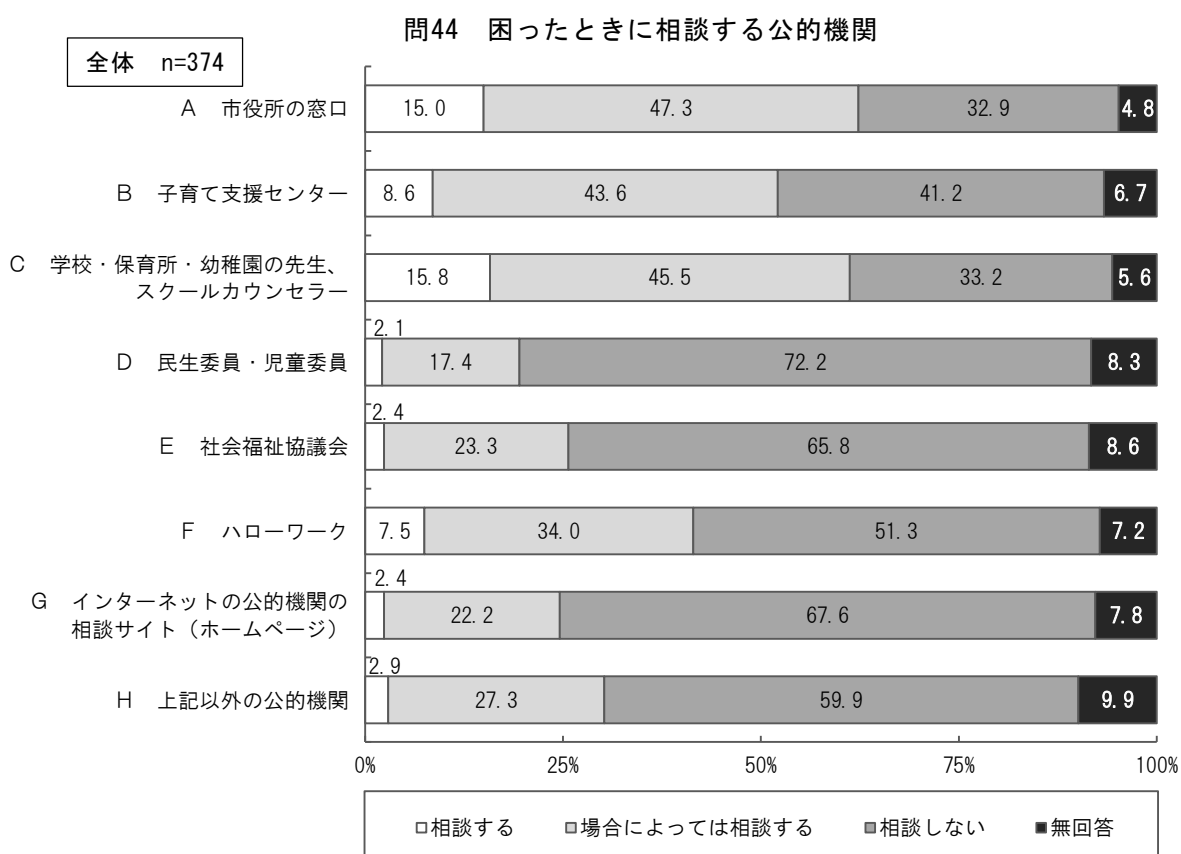


11 公的支援の利用状況について

○子どもに関する施策等の情報について希望する入手方法をみると、「市の広報」（44.1％）が最も高く、次いで「保育所・幼稚園・学校からのチラシ」（32.9％）、「SNS（LINE、ツイッターなど）」（11.2％）となっており、世帯類型での違いは見られず、広報や学校等からのチラシが多くを占めています。



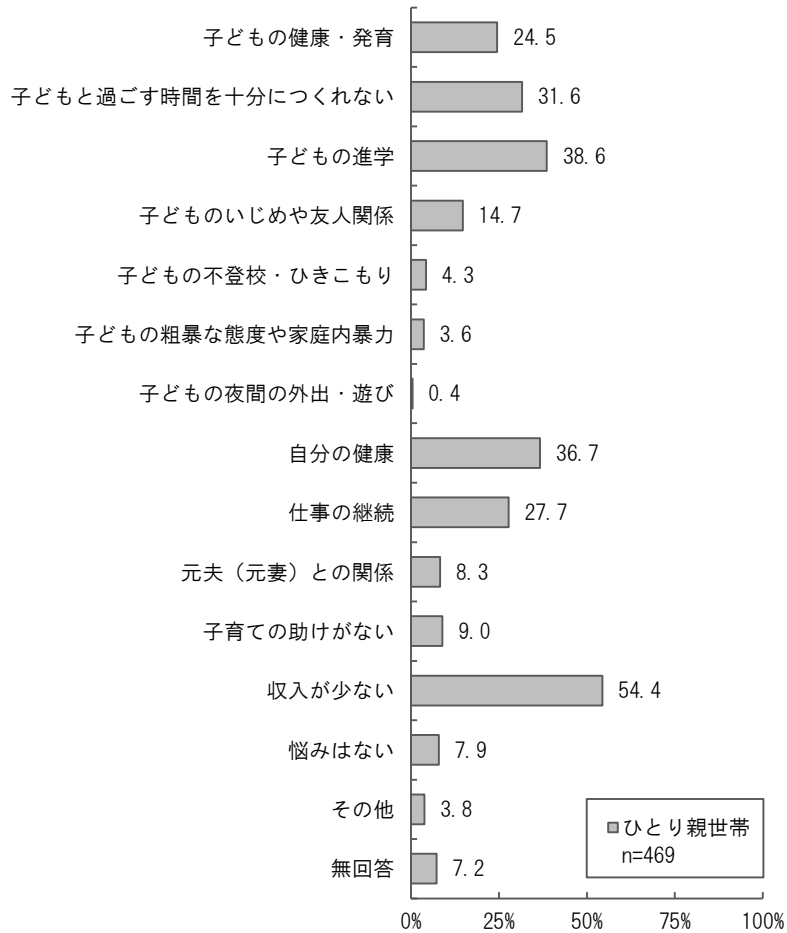
○困った時に相談する公的機関をみると、「相談する」と「場合によっては相談する」を合わせた割合は、『市役所の窓口』（62.3％）が最も高く、次いで『学校・保育所・幼稚園の先生、スクールカウンセラー』（61.3％）、『子育て支援センター』（52.2％）となっています。一方、「相談しない」割合は、『民生委員・児童委員』（72.2％）が最も高く、次いで『インターネットの公的機関の相談サイト（ホームページ）』（67.6％）、『社会福祉協議会』（65.8％）となっています。



12 悩みごと等について（ひとり親世帯のみ）

○ひとり親世帯の半数以上が「収入が少ない」という悩みを現在抱えています。

問45 現在悩んでいること

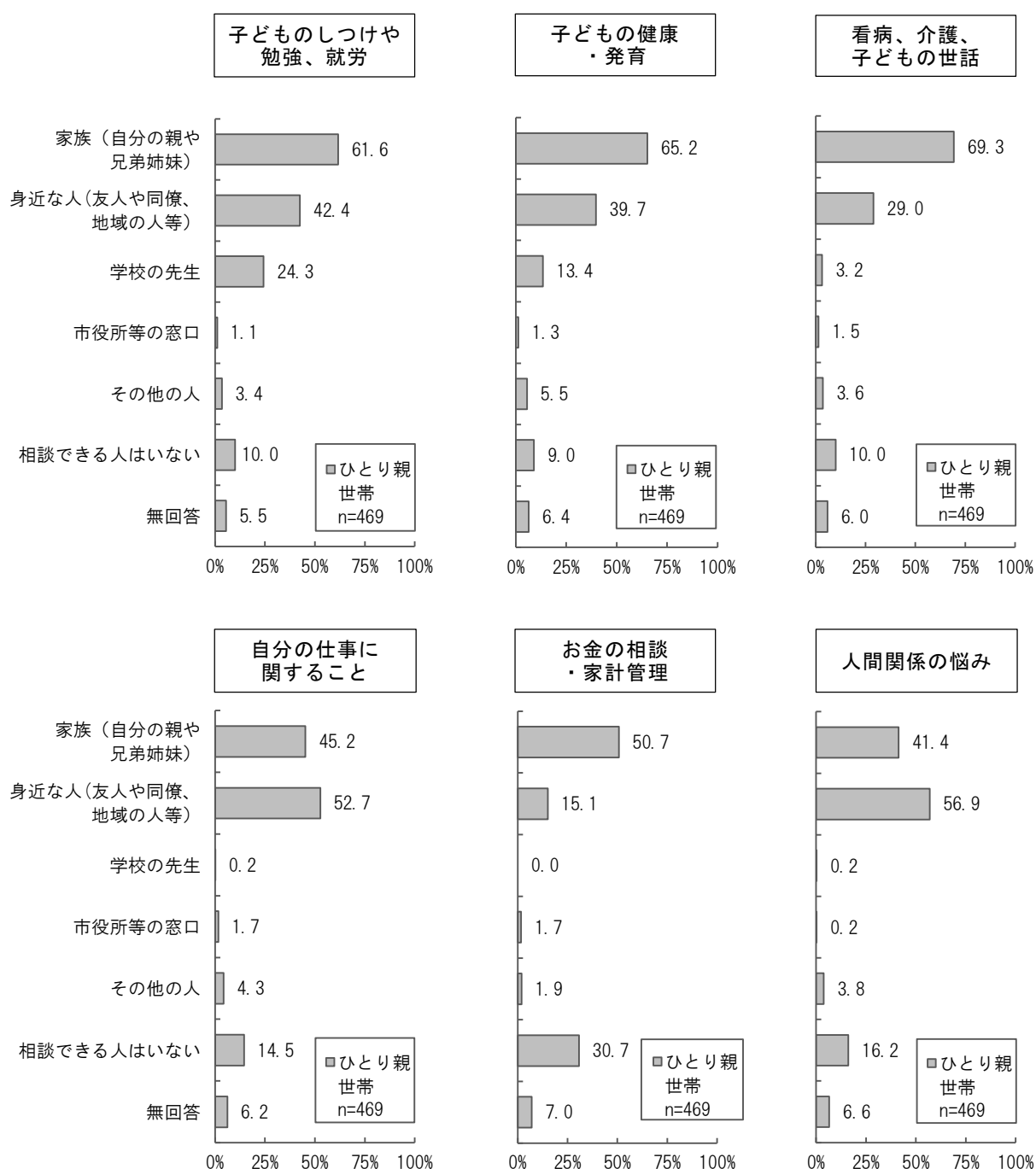


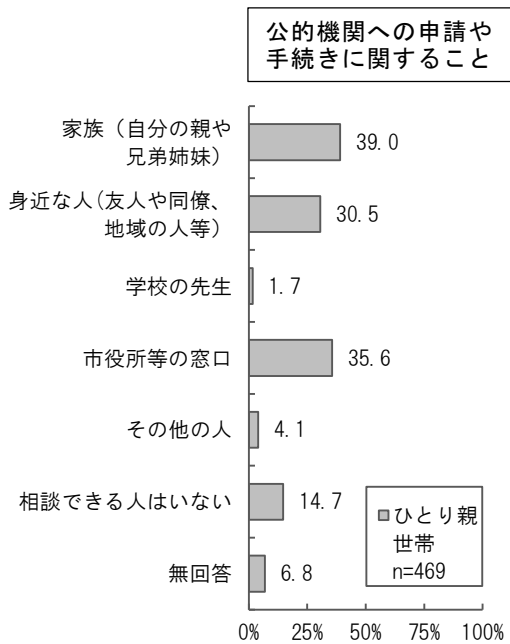
※ひとり親世帯…②、④、⑥、⑧(P5参照)の調査票に回答した方を合計しています。

○悩みごとを相談できる人をみると、『子どものしつけや勉強、就労』『子どもの健康・発育』『看病、介護、子どもの世話』『お金の相談・家計管理』『公的機関への申請や手続きに関すること』では「家族（自分の親や兄弟姉妹）」、『自分の仕事に関すること』『人間関係の悩み』では「身近な人（友人や同僚、地域の人等）」が最も高くなっています。

○『お金の相談・家計管理』では、「家族（自分の親や兄弟姉妹）」に次いで「相談できる人はいない」が3割を超えています。

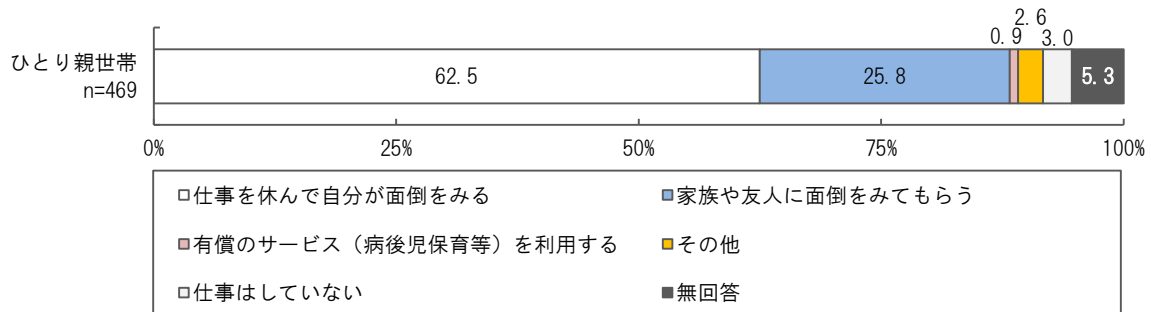
問46 悩みごとを相談できる人





○子どもが病気になったとき、約4世帯に1世帯が「家族や友人に面倒をみてもらう」（25.8%）や「有償のサービス（病後児保育等）を利用する」（0.9%）など自分以外が面倒をみると回答しています。

問47 子どもが病気になったときの対応



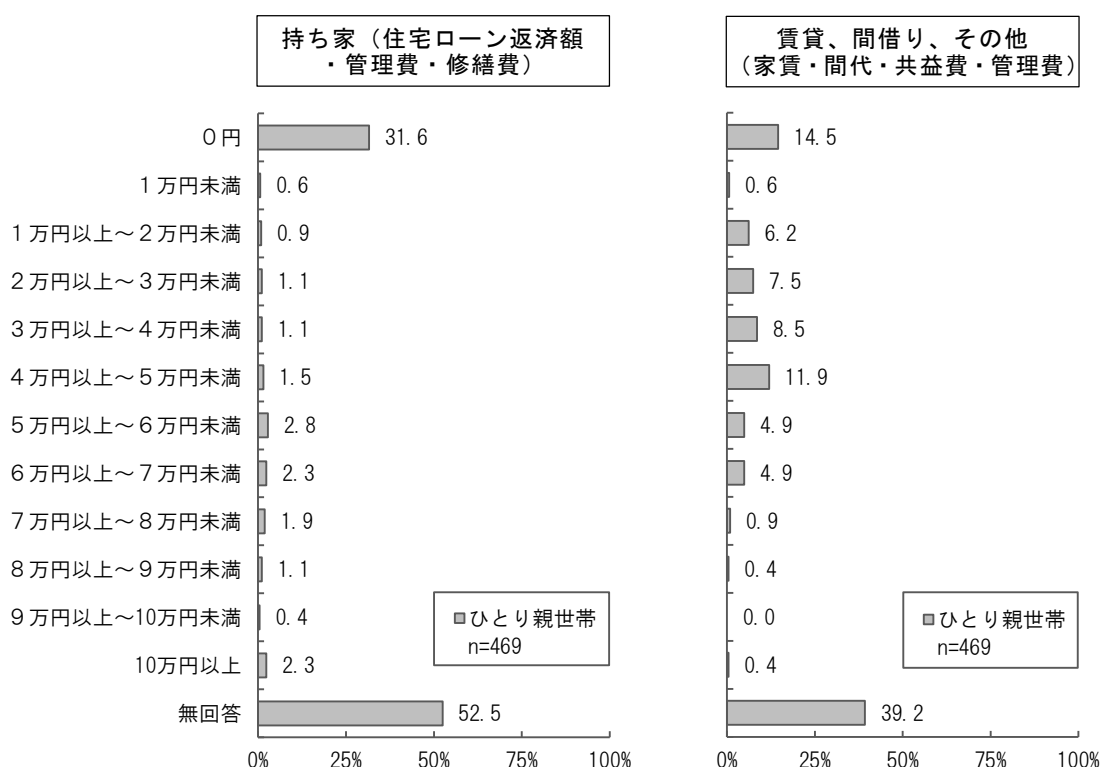
13 家庭の経済状況について（ひとり親世帯のみ）

○1か月あたりの住居費負担をみると、『持ち家（住宅ローン返済額・管理費・修繕費）』『賃貸、間借り、その他（家賃・間代・共益費・管理費）』ともに、「0円」（順に31.6%・14.5%）が最も高くなっています。

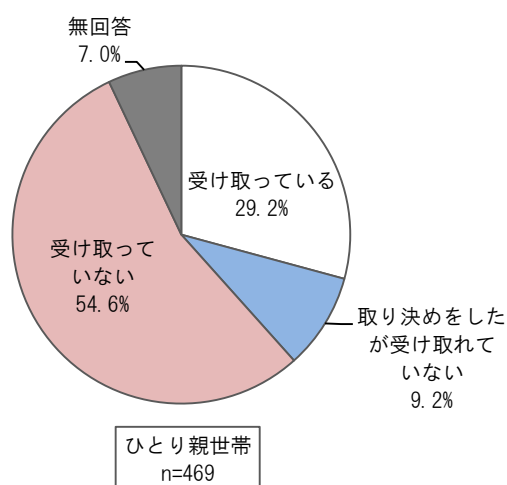
○養育費の取得状況は、「取り決めたが受け取れていない」「受け取っていない」を合わせると63.8%で、約3分の2の世帯が養育費を受け取っていない状況です。

○実家からの経済的援助は、約7割が「受けていない」（69.7%）状況です。

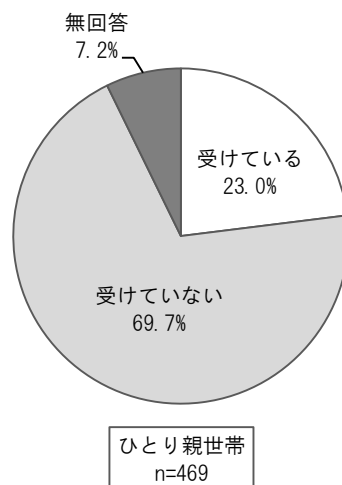
問48 1か月あたりの住居費負担



問49 養育費の取得状況



問50 実家からの経済的援助

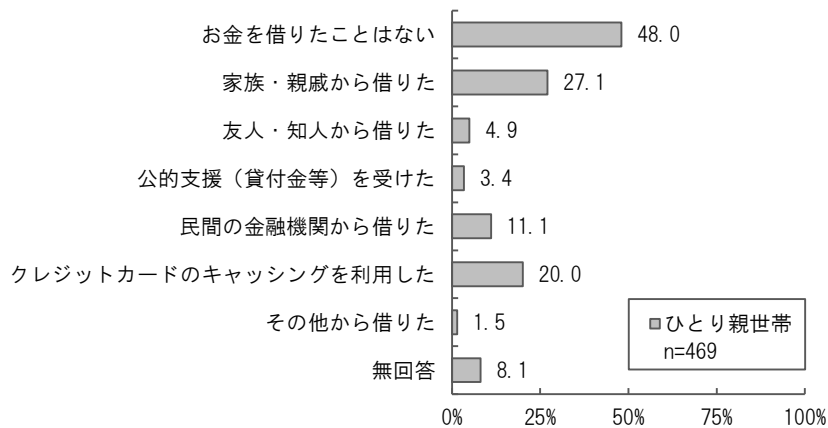


○ひとり親家庭となつてからの借金の状況をみると、「家族・親戚から借りた」(27.1%)、「クレジットカードのキャッシングを利用した」(20.0%)で割合が高くなっています。

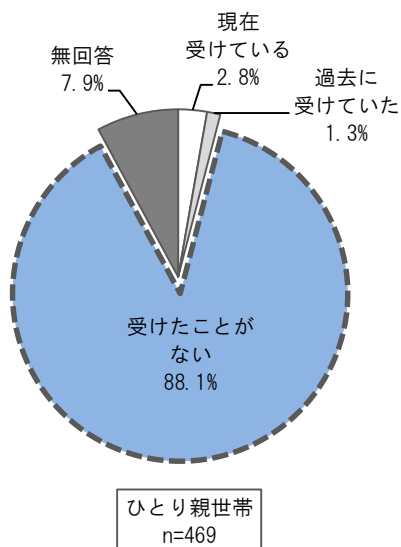
○ひとり親家庭となつてからの生活保護の受給状況では、「現在受けている」と「過去に受けていた」を合わせると4.1%となっています。

○88.1%の世帯が生活保護を受給しない理由は、「経済的に必要がないから」(39.0%)が約4割となっています。

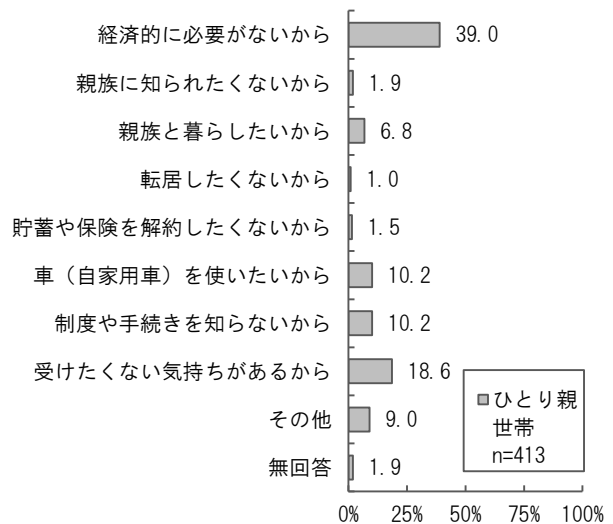
問51 ひとり親家庭としての借金の状況



問52(1) ひとり親家庭としての生活保護受給状況



問52(2) 受給したことがない理由

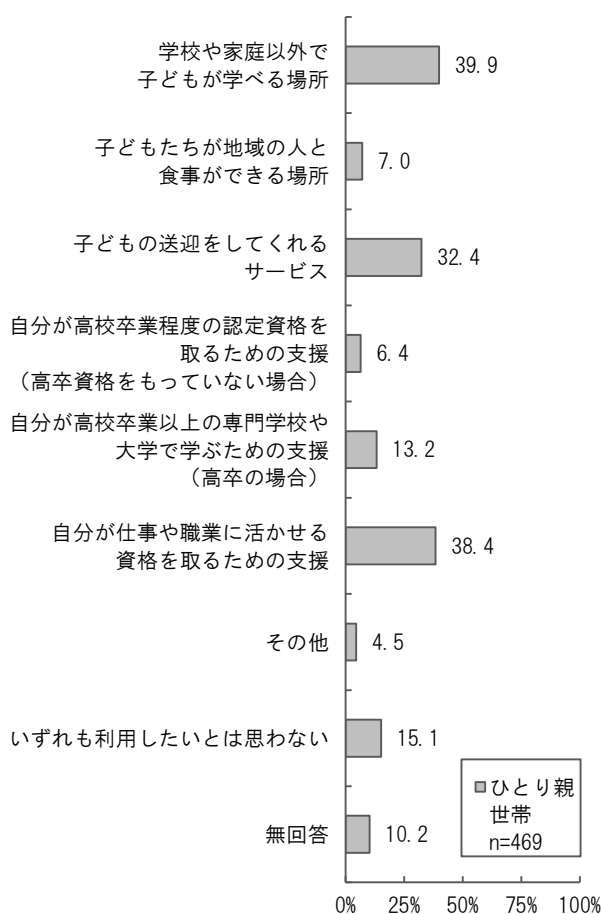


14 様々な支援制度について（ひとり親世帯のみ）

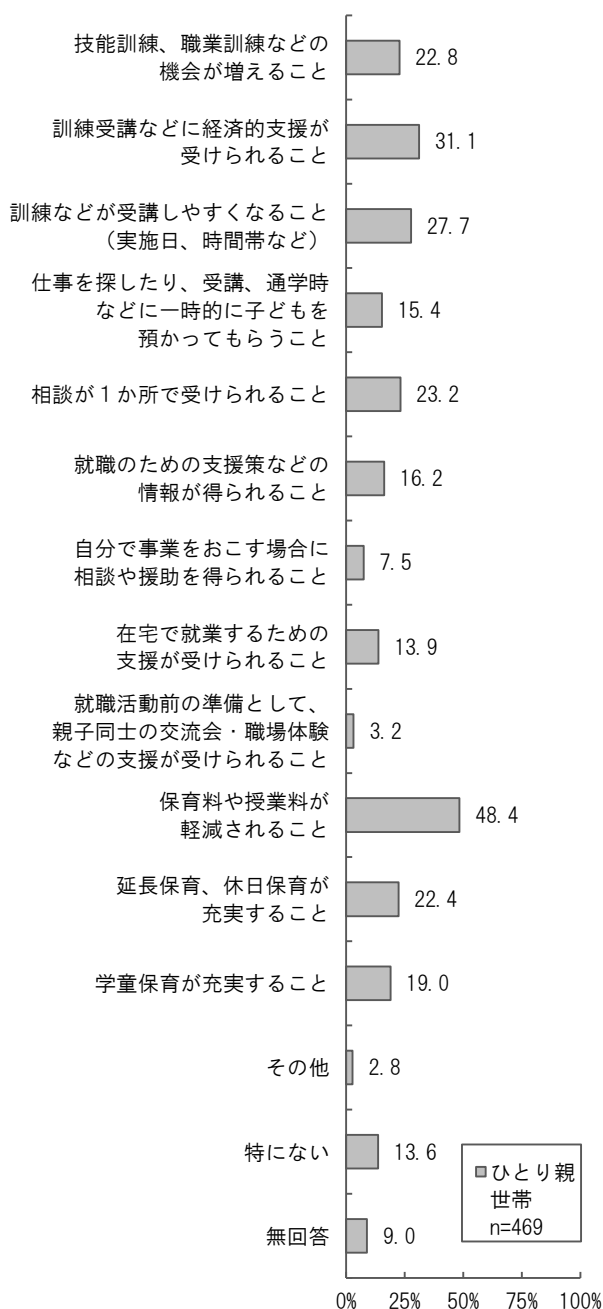
○利用したい支援やサービスをみると、「学校や家庭以外で子どもが学べる場所」（39.9%）、「自分が仕事や職業に活かせる資格を取るための支援」（38.4%）、「子どもの送迎をしてくれるサービス」（32.4%）で割合が高くなっています。

○よりよい就職や仕事のためにほしい支援は、「保育料や授業料が軽減されること」（48.4%）が約5割と高くなっています。

問53 利用したい支援やサービス



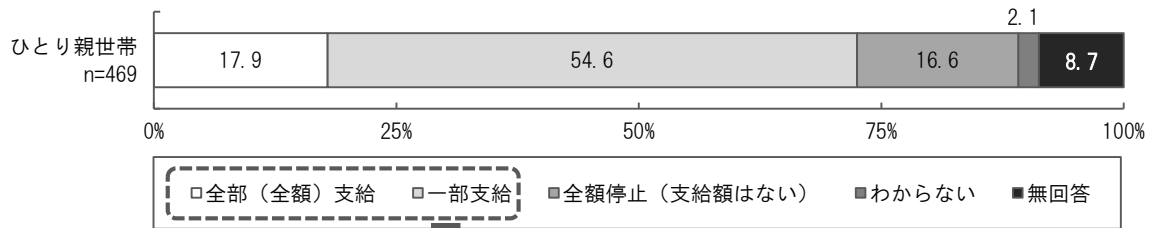
問54 よりよい就職や仕事のためにほしい支援



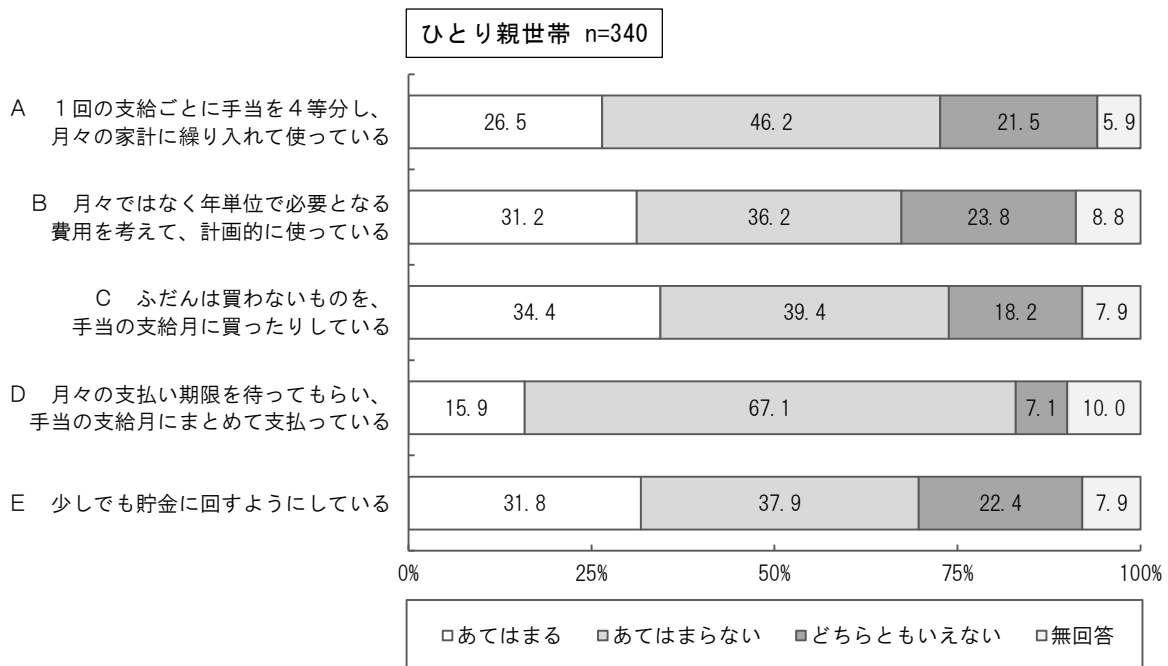
○児童扶養手当の支給状況は、「全部（全額）支給」と「一部支給」を合わせると72.5%となっています。

○支給された児童扶養手当の使途の配分をみると、「ふだんは買わないものを、手当の支給月を買ったりしている」(34.4%)、「少しでも貯金に回すようにしている」(31.8%)、「月々ではなく年単位で必要となる費用を考えて、計画的に使っている」(31.2%)が30%台となっています。

問55(1) 児童扶養手当の支給状況



問55(2) 児童扶養手当の配分



第 5 章

自由意見

第5章 自由意見

1 アンケート調査の自由意見

(1) 子どもの生活実態調査（就学前5歳児の保護者）の自由意見

アンケート調査の自由意見内容を分類し、多い順に示した結果は下表のとおりです。

■抽出語件数

抽出語	子供	医療	子育て	支援	助成	お金	無料	児童	所得	保育園
件数	50	36	24	17	17	15	13	12	12	12

■保護者の自由意見

抽出語	件数	自由意見（抜粋）
子供	50	私立幼稚園の保育料の補助とても助かります。それがないと私立の幼稚園に入れなかったと思う。かといって、市立の幼稚園は給食もバス送迎もないので、市立の幼稚園に入れようという気にはならなかった。小学生が学校や学童以外に休日や放課後に自由に友達と遊べる児童館のような場所が地域にほしい。特に冬や雨、風強い日、外で遊べないと、遊ぶ場所がないので、誰か友達の家といっても働いていたり、休日に家に集まられると困る。そうすると子供も遊ばなくて結局家にこもる。
		冬の間幼稚園児以上の子供が遊べる場所が少ないので仕方なく習い事に通わせ体を動かさせています。屋内で自由に遊べる施設を作ってほしいです。
		共働き世帯の為に、もっと色々なサービスや施設があると便利です。金銭面や保育料なども援助があると子供という時間が増えるのではないかと思います。病後保育施設の充実も希望です。
		転勤で北上に来ましたが、どこに子供のことを相談したら良いかわからないし、役所に行っても窓口の方たちに話をかけにくい。幼稚園の先生方に話をする以外相談の仕方が見つからないのが不安。子供より自分に使うお金がないので医療費無償化にしてほしい。
		保育園の義務教育化を進めてほしい。子供食堂を使ってほしい。（小学校の長期休みの時に利用できるように。）
		少しの時間でも気軽に子どもを預けられる施設があればいいなと思います。（できれば無料で）
		夫が仕事を休める状態ではなく、急に私の体調が悪くなり、当時1歳6ヶ月の子どもに食事も作れず、家の中で倒れていました。家族は県外。こういう時、どうすればいいのか、今でもわかりません。駆けつけて、子どもを保護してくれる人がいればと。TELである保育施設さんが何とか子どもを引き受けてくれました。タクシーで行き、私はそのまま病院へ。あちこちTELするのも辛かったです。TEL1本で子どもの保護先とタクシーと全部引き受けてもらえる集約してくれるセンターみたいなものがあると、と思います。

医療	36	所得に関係なく医療費の助成をしてほしい。特にロタウイルスの予防接種は高価なので助成して頂けると助かります。元々、一閑に住んでいたの助成のなさをすごく感じました。インフルエンザの予防接種を子供、高齢者が優先して接種できるようにして頂きたい。
		子供にかかる医療費負担を他の市町村のようにして欲しい、インフルエンザ予防接種負担金等。
		医療費の無償を就学前までにしてほしい。
		子育てに所得制限を設けているが、子育てをする親は皆平等に支援が受けられるようにしてほしい。大変な思いをして子育てと仕事、家庭を両立している人と短時間労働等で両立させている人でも子育てにかかるお金や大変さは一緒です。他市で行っている医療費の所得制限廃止を北上市でも行ってほしい。もっと子育てしやすい市であるべきだと思う。市長や担当課の職員はもっと子育てしている人の話をきくべきだと思います。
		乳幼児に対する医療費助成が県内の他市町村に対して手薄だと思う。不妊治療の助成制度が他市町村と比べて充実していない。
		子供の医療費控除を年間収入が下がり受けられる事になった時など、市の方から通知が来る様にして頂きたい。前に、この様な助成がある事を知らず、何も手続きしていなく、医療費で損をしていた事があったので、気が付き市役所に電話したら、お金が戻る事もないと言われた。この様な制度があるならば、市の方から対象者に通知を送って頂きたいです。
子育て	24	医療費が無料になったり、インフルエンザなどの予防接種の割引や補助があると大変助かります。
		通勤族なので北上にいる期間は限られていますが、ここでの子育てを楽しみたいと思っています。
		子育てや生活支援に対する情報をどこから得事が出来るのかほとんど分からないので、日常で分かりやすく、見かけやすい場所の設置や配信等をしてほしい。
		子育ては妻に任せっきりのため、月1度は時間をあげたいと思っています。
		北上には子供が屋内で活動する場が少ないように思う。支援センターは狭く、大きな子供には遊具が少なくすぐあきってしまう。保育園の支援センターは小さい子に限られて遊べない。奥中山の子供の森や山形などにある子供が屋内で遊べる施設がもっと欲しい。子育てするお母さんは日中はパルによくいるが、ほとんどは家の中で1人で育てている。もっと他の人と交流をもてる場所がほしい。もしくは、子供をもっと手軽に預けるようにしてほしい。1H700円は高い←絶対無理。
		北上市は公園が少ない。医療費等などとりかかりが遅い。他県から来たのでとても感じるし、友達ともその話題になります。子育てし辛い環境だと思う。保育料も3人目は無料になるなど考えていただきたいです。上の兄弟の年齢によって、3人産んでも助成が少ない。3人目なのに悲しいです。色々検討して下さい。
		北上市は基本的に子育て世代には厳しいイメージ。
		北上市は他市町村と比べて、子育て世帯にとって暮らしやすいとは言えない。医療費補助など、所得制限が厳しい。又、地域の行事や関わりが多すぎ、暗黙の半強制体制。ただでさえ、仕事と育児で精いっぱいなのに、たまの休日がつぶれて大変です。お願いですから、地区運動会だけでも半日でおさめるよう、各地区に指導して欲しい。

支援	17	児童手当や医療費助成の制度で、所得制限をなくしてほしい。額面上の金額だけで所得制限に該当し、制度の対象にならないのは本当に大変。実際は額面からいろいろ引かれたり、出て行くお金も多くて、手元に残る生活費はそれほど多くない状況です。せめて子どもには平等の支援を望みます。
		障害のある子の教育で、小学校は支援学級があるからいいが、中学、高校となると全く未来がみえない。不安しかない。
		片親世帯の支援をもう少し充実させてもよいと思います。特に女性の場合、子育てと仕事を両立しながら標準の収入を得るのはとても大変だと感じます。又、貧困までいかなくても、普通の家庭でできる事ができないというのは、子供の成長に影響を与えますし、子供を守る事が、国や市町村の発展につながるからです。子供を育ててみて、そう感じます。
		支援センターを充実してほしい、（やはパークのように）新築してほしい。
		小、中学校で、支援を受けるかどうかなどの手紙がくるが、どういう人が対象で、自分の家庭は援助を受けられるのかなどの基準があいまい。中学校の柔道着は必要なのか、疑問。小学校のスキー教室も必要なのか？子供が大けがをして帰ってきた。
		多子世帯など、もうすこし生活支援があってもいいと思う。
助成	17	子供の医療費助成の対象年齢を上げて欲しい。（入院する事もあるので負担が大きい）
		助成制度に子供の年令的な制限（条件）を設けなくて欲しい。例）幼稚園の還付金等。我が家の場合、高校生、中学生、5才と2才児の子供たちがおります。経済的な負担は多大であります。
		北上市の助成金はなさすぎ。他の市の方が子育てしやすい。出産祝いとかオムツ代とか予防接種代とか色々補助足りない。1人育てるので家計が大変！何とかしてほしい。保育所もすぐ入れないし、児童館も入れないし、核家族増えて祖父母も仕事しているのに子供預ける所が少ない！
		もっと子どもを育てやすい環境にしてほしいです。これから小学校、中学校、高校と進学する上でお金が必要です。市から助成金があると助かります。
		子どものインフルエンザワクチンの助成があるといいなと思います。
お金	15	医療や、お金のことなど、子供のお金のことについて、広報などで現在をわかりやすく特集にして欲しいです。
		これからもっと子育てにお金がかかると思うが、不安しかない。大学に通いたいと言われても通わせられないと思う。
		3人子供はいるが第1子と第2子の年齢が離れているという事だけで全く助成されず所得でも制限され、高い税金を取られているのに北上市に住むメリットが感じられない。子供は大きくなる程お金がかかるのでそこを理解して頂き、不平等を解消して欲しい。
		他県から転勤して来ました。自分も育った土地なので、とても好きなのですが、ゴミ袋などにお金がかかりすぎますし、子育てに対する援助も北上市は少ないような気がします。
		児童手当がすごくありがたい。つづけてほしい。お金貯蓄できるくらいほしい。けど仕事時間増やすと、子供との時間が減り、自分に余裕がなくなる。2人以上子供いる人の手当て何かあればいいな。お母さんが、息ぬきできるために気がるに子供あすけられるところがあるといいな。（ランチしたい、ゆっくり買い物したいなどのとき、みてくれる所）

無料	13	収入に関わらず、医療費（子ども）を無料にしてほしい。
		子供の医療費を3才までではなく、せめて小学校卒業まで無料にしてほしい。4才から1500円かかる為、毎回同じ病院と決まっている訳ではないので、（内科、眼科など）その都度かかるので、あまり意味がないです。
		第3子以降に対しての手当てを手厚くしてほしい。医療費無料を小学校卒業までにしてほしい。進学に対しての援助を手厚くしてほしい。
		北上市には、大型の児童館や無料で遊べる室内遊技場、大型の公園（花巻広域公園など）がないので、ぜひ作っていただきたいです。ショッピングモール内は、赤ちゃん向けの所ばかりで、年長～小学生は遊べません。交通費をかけて市外に出るのは毎週となると、大変です。
児童	12	北上市に児童館があると助かると感じます。
		保育所の待機児童をまずなくしてほしい。教育の無償化よりも先に。
		児童手当の増額望む。
		もっと子育てに関する支援金が増えたら嬉しい。学童費が高すぎる。私の地元は年／1300円（児童館）
所得	12	子供の医療費が同じ所得で盛岡だと控除の対象になるのに北上市だと対象外になるのが不満です。
		所得制限のため医療費助成を受けられず、持病のある子どもを育てるのは大変でした。それぞれの市町村によって、背景は異なり助成していただけなかったのわかりますが、今まで住んだことのある他市町村4ヶ所では制限がもっと高かったためか、初めての経験でした。（小慢の申請もしておりますが、そちらも特別なことがない限りそんなに上限になりませんでした）お世話になりましたが、他市町村へ転居予定です。
		多子世帯への色々な支援があるとありがたいです。北上市はあまり子育てにやさしくないのではと感じます。所得でひっきりり色々な支援が受けられませんが、4人子供がいるので正直、なぜ？と思ってしまいます。
保育園	12	保育園を7：00～19：00にしてほしい。（他県ではあたりまえです）北上市は子育て世代にやさしくない。
		学童保育所の保険料を下げるか、第二子、三子の補助が欲しい。親が友達と会って（美容院etc）リフレッシュするために保育園に預けられるようにしてほしい。（現在預けているが勤務、病院以外は迎えに来てと言われる。）
		保育園にいろいろな経験をさせていただいたり、優しく見守っていただいたり、本当にお世話になっております。ただ、「安全」というのはわかるのですが、一部のクレーム（他県のことだったりも）や事故によっていろいろと行事が変更されたり、縮小されたりしていくのは時勢とはいえ、つまらないなあと思います。
		保育園で「父親や母親が仕事の休みの日は子供も保育園をお休みにご協力して頂く」と言われているが、ほぼ強制。親の休みの日がわかるシフトを見せろと言われる事もあるらしい。仕事が休みの日はしっかり休みたいので保育園に預けたい。そういう風習をやめてほしい。

(2) 小5保護者の自由意見

アンケート調査の自由意見内容を分類し、多い順に示した結果は下表のとおりです。

■抽出語件数

抽出語	医療	子供	支援	子育て	児童	学校	手当	生活	助成	お金
件数	34	29	26	23	20	16	16	16	15	15

■保護者の自由意見

抽出語	件数	自由意見（抜粋）
医療	34	所得制限の為、医療費助成がなかったので、下の子の入院が続いた時は貯金をくずさなくてはならなくなり、とても困りました。
		子供が生まれてから4つ目の市が北上市であるが、子供の医療に関して一番手厚くない。インフルエンザ予防接種の補助がないのは初めてである。医療費補助も所得制限にかかったのは初めてである。
		医療費助成は助かりますが、外来1, 500円以上だとほとんど戻のお金がありません。盛岡市、花巻市などは750円以上が戻ります。1ヵ月に3回ぐらい通院しないと1, 500円までかからないので、もう少し見直してほしいです。
		北上市は他の市町村に比べて医療費補助など子育てしにくいと思う。医療機関は充実していて良いと思う。
		小学校卒業まで医療費無料にしてほしい。
		親の収入によって医療費の補助があるかないかはおかしいと思う。子にかかる医療の補助はあるべきです。小1、小5といいますが、一切補助無しで不満です。
子供	29	学童保育所を利用しているが、地域によって差がある。放課後の子供の安全確保にも支援頂きたい。
		子供の目線でいろいろな事を考えられる親でありたいと思う。ただそれだけです。
		共働きが増えているこの時代で、PTAの役員など親が出る場が多い。年の近い子供2人だとあっちもこっちも役員になってしまう。出来るだけ参加しようとなると仕事にも影響があり、フルタイムでの勤務を続ける事もむずかしくなる。親である以上、仕方のない事だが、今の母達は時間に余裕も無い所、頑張っていると思う。また、ほとんどの役員決めがジャンケンやくじ引きで決められているが、向いていない仕事につくと本当につらいと思う。
		子どもが成長し、社会人として生きていくうえで必要な「生きる力」そして「学力」は環境に左右されるものだと思う。ひとり親家庭を否定はしないが、子どもに対する責任を考えると、「命を授かること」を教育や家庭の中でしっかりと子どものうちから教えていかないと行かないのではないかと感じる。何もかも援助・支援・補助ではないと思う。
		公園でボールを使用できる場所がなくなっており、子供たちが家の前の路上であそんだりしている。思いきりボールあそびができる場所が欲しい。

支援	26	金銭的な支援は結果として必要ですが、子供達が生きていくためにはどんな力が必要で、どんな過程があるのか指導していく必要性を強く感じます。働くことの大切さ、喜び、生きがいなどのいろいろな選択肢を子供達に伝えていきたいと思います。
		国からの支援はすべての子供が平等に受けるべきだと思うので、所得制限なしで児童手当・医療費控除は受けられる様にしたい方がよいと思います。
		子育てや生活支援に関する情報を多様な形で発信してほしい。
子育て	23	子供3人のうち双子の兄弟を持つ母親です。県外で住んでいた頃、夫は仕事で不在が多く、母と子の毎日で双子ということもあり、2～3歳の頃はとにかく大変でした。育児放棄したくなりました。この時利用していた保育所の園長先生（カウンセラー）の母親に対する子育て講座で学んだアドラー心理学の言葉や考え方にとても救われました。今も時々思い出しながら子育てしています。
		北上市にはもっともっと教育や子育て支援にお金をかけてもらいたい。花巻市と比較して、学校が古いままだったり、支援策等が明確ではないと思う。未来の北上を支えるのは子どもたちだということを重視して、子育てと教育に力を入れた取り組みを切望する。
		少子化を防ぎたいのなら、もっと早く子育てしやすい町に。本当はもっと子供がほしいが、経済的に無理です。給食費も3人分。インフルの予防接種の助成もなし。北上市は何もかも遅い。
		気軽に子育ての事、悩みが相談できる手段がもっとあってほしい（ネットなどで）。ママさん達の交流できる場があってもよいのではないかな。
児童	20	児童手当は月1万では足りない。経済的理由で大学進学が困難になるかもしれません。
		同居の家族の収入で、自分の収入が少なく、養育費ももらえない状態なのに、児童扶養手当がもらえない。同居で立場もなく、ストレスは増え、お金もない。ひとり親全員に同じ額支給してほしいです。
		教育費は幼・小・中・高と、どんどん多くかかるとなります。児童手当もそのように多くもらえたらいいと思います。
		私はなるべく公的な経済的な援助（生保、児童扶養手当）の受給を受けないよう、自分の資格取得に投資したり、より多くの収入が得られるように心掛けています。
学校	16	学校との距離が基準を満たしていないので、バス代を自費で利用している。不公平を感じるので、利用児童全員免除にしてほしい。
		学校の用品代にお金がかかりすぎて困る。ジャージとか中ズックとか、けっこう買い替えがはげしいのに、高くてスグ買えないコトの方が多い。もう少し市民のコト考えて下さい。
		スクールカウンセラーがどこの学校にいるのかわからない。もし相談したい場合はどうしたらいいのか？たとえば担任の事を相談したい場合などはどこに相談すればいいのか？
		北上市は小学校、中学校の校舎が老朽化していて危険なところや環境が悪いところが多いと感じます。もっと学校教育にお金や人を使ってほしいです。お願いします。（エアコンやPCなども他市に比べておくといいと思います）

手当	16	子供がたくさんいる家庭にもう少し手当てをくれるとうれしい。もっとたくさん産みたいのに経済的に無理だから、産めば産むほど得できる手当てがあったらうれしいです。
生活	16	就学支援を受けたかったが、世帯収入の制限にかかり、対象外となった。確かに祖父が年金をもらっているので理解できるが、その年金は祖父自身の介護の費用に消えており、実際の生活はとても苦しい。ガンをわずらっているのも、子世帯での単独生活も厳しい。市民の税金でまかなわれているので、一律での対応になるのもよくわかるが、もう少しだけゆとりある生活をしたいとも思っています。
		子育てや生活支援に関する情報を多様な形で発信してほしい。
		我が家は大人5人、子供（小学生）3人の生活で、私たち夫婦の収入は少なく、クレジットカードを利用しながら生活している状況です。また、上の2人はスポ少をしており、支出がかさんでいます。学童も入れざるをえず、入っている状況で、収入より支出が上回っている状況です。就学援助申請しようと思っても収入の面で受けられないと思い、申請していません。条件をもう少し軽くしてほしいです。
助成	15	インフルエンザの予防接種料金が高い為、助成があると助かります。
		子どもが将来希望を持って成長するにあたり、市から助成金を増やしてほしい。進学するのにお金がかかりすぎます。
		医療費助成について、証書を提出するだけでいいとなると楽だと思う。申請書を書くのが大変。申請書がなければ、現物支給でも現金支給でもいいです。
お金	15	子供が中学、高校と成長する事によって、色々な面でお金がかかります。子供が高校生になっても児童手当があるととても助かります。
		どんなに生活が苦しくても学校にお金を支払わなければいけなく大変な時もある。
		子育てにはお金がかかる。

(3) 中2 保護者の自由意見

アンケート調査の自由意見内容を分類し、多い順に示した結果は下表のとおりです。

■抽出語件数

抽出語	子供	手当	学校	児童	子育て	支援	高校	家庭	生活	医療
件数	48	22	19	18	17	17	14	13	13	12

■保護者の自由意見

抽出語	件数	自由意見（抜粋）
子供	48	自分が病気になった時（例えば入院するとか）子供の面倒を見る人がいない事が何よりも心配。ひとり親なので、子供の事（金銭面はもちろん、PTAや子供会など）が全て自分の腕にかかっているというプレッシャーから解放されないのが辛い。
		働いても働いても子供達が食べたい物、ほしい物を買ってあげられない。
		年金や税金が高すぎる。子供達に負担がいきそうで、とても心配です。もっと働きやすく子育てしやすい環境になれば良い。
		子供が望む教育をうけさせたいと思うが、子供が複数いる場合は経済的にとても厳しい。子供が複数人いる家庭への支援を子供が小さい時だけではなく、大きくなるまでしてほしい。部活動での経済的負担が大きく支援してほしい。
		北上市住み良い街ランキング1位となってますが、公園など近隣の市に比べると全く整備されていると思いません。子供の運動不足、肥満対策といいますが、遊ぶ所もありません。
		保育園が充実していれば幼い子供を育てる中で辛い思いをすることはなかったのではないかと今でも考えています。定員を増やす、保育料を下げる、保育士を増やす等14年たつ今日でも改善されているように見えない。
		子供の医療費助成に所得制限をつけたり、子供が3人いて多子世帯なのに、所得でひっきり助成を受けられない等、北上市はとっても子育てしづらい市です。岩手県の中でも、考え方、やり方が古いです。
手当	22	児童手当を給食費ではじめに回収してしまえば支払わない人が出ないと思う。ずっと支払わないのはおかしいし、しっかりしてほしい。
		子供が18才になると下の子供が第1子扱いになり、手当が少なくなってしまう。子供3人で第3子なのに、第1子ってどうかと思います。
		北上市は子供に関する手当てや補助、教育機関への助成が少なく、子育てしにくい。
		児童手当、支給額上げてほしいです。
		医療費の補助の所得制限をなしにしてほしい。特別児童扶養手当の所得の計算の見直しをしてほしい。共働きで収入が多くても片方の収入だけでみてももらっている方もいる。1人しか働いていなくても収入が超えるともらえない。昔の計算の仕方そのままのようなので時代に合った計算の方法にしてほしい。

学校	19	高校まで無償化を希望。学校トイレの洋式、冷暖房完備の完全化。※北上の学校校舎が古すぎる。もっと子育て、勉強環境に力をいれてほしい。有意義なアンケートになりますように。
		学校のスキー教室でお金がないのに、スキーを買ったが、母子家庭の人は補助金が出るから高いスキーを買っていて、それはおかしいと思う。両親共働きでも生活が苦しいのに母子家庭や生活保護を受けている人の方が、いいくらしをしてる。中学校の集金の1万円は高すぎる。
		現在、子供は高校までの進学で、大学、専門学校等は考えていないようですが、本人が進学の意志を見せた場合には応援したいと思っています。しかし、最近の奨学金の話題にある通り、子供が3人いるので金銭的な不安はあります。
		子ども会、中学校の部活に親が関与しないといけない事が多く、土日が仕事であれば送り迎えなどやりくりにしむ事がある。土、日休日の方は多いのだろうが、そんな人ばかりではない。子供の為を思えば平日出勤の仕事を選ぶべきでしょうが、自分の仕事はそうではなく何を優先するべきか悩みます。
児童	18	もう少し児童手当などの金額を上げてほしい。
		子供の医療費の支援はもっと向上すべき。子供の（兄弟）年齢が離れていると、児童手当や保育園入園において優遇の対象から外れるのは納得いかない。
		児童手当を高校卒業まで支給してほしい。部活の遠征費や親の時間がとてもかかる。もう少し費用の負担や親の時間をへらせないか。
		児童手当などありがたいと思うが、中、高になると少額、又はなくなる。子供が小さい時にかかる額は少ないが中、高、大になるとかかる費用が高額になり、一番必要な所に（学校教育に）行き届いていないと思う。
		子育ては周りのつながりが大切だと思う。近くに自分の親がいない方、遠方から来た方は不安になると思う。私自身も経験があったから。
子育て	17	女性が子供を産んだあと、子育てをサポートする体制が家庭や社会にないと第2子まで考えられませんでした。出産後の現実はまだまだ女性に厳しいです。
		全く子育て生活支援に対して北上市民の特権が感じられない。所得によってだと思うが、単身赴任は二重生活であり、保育料が高いのが大変。手当分も収入扱いにされると・・・。
		北上市は子供に関する手当や補助、教育機関への助成が少なく、子育てしにくい。
		ここに歩道は100%必要なのか？と思わせる様な工事やこんなところに税金？と思うことが多々あります。人口減少を辿る北上市。バラまきではない子育て支援に税金が使われることを願います。年寄りよりも子供を産みたい！と思わせる様な市であってほしいです。
支援	17	子供が多ければ多いほど大変だと痛感しております。日々がんばらないと行けない状態です。安心して産めて育てられる支援があると子供はもっと産みやすくなります。もっと助けてほしいのが現状です。
		北上市は近隣の市町村に比べ、子供への支援、補助が少ない。（インフルエンザ予防接種の補助等含め）今後要検討し、実行していただきたいです。
		将来子どものゆめ（警察官）を、かなえてあげたいと思うのですが、経済的にとても心配です。公的支援の情報がくわしく分かるように聞く所があれば教えてほしいし、もっと情報がほしいです。

高校	14	高校卒業後、進学してほしいと思っているが、学費が高額なため支払が心配。
		子供を沢山産み育てたい気持ちがあっても、その子供を大学まで進学させる経済的な不安がある。小中までは大丈夫だが、高校、大学と一番お金がかかる時期に支援が少ないと思う（子供が小さい間に計画的にお金をためておけばと今後悔。スポーツにお金ってけっこうかかるんですね。上を目指す目指すだけ。
		高校に進学になると、小中学校のように、親密に相談出来る場所がなく、どこに相談したらいいのかわかりません。行かせたい学校（盛岡方面）に通わせていいか悩んでいます。
		今の世の中ほぼほぼ高校へ進学している。高校に入るとさらに出費が増える。高校生のいる母子家庭の援助がほしい。
家庭	13	その人によるでしょうが、ひとり親家庭への聞き取り調査や相談会など気軽に相談できる場があったらいいと思います。他の方の話や自分だけじゃないんだって思えば頑張れると思います。
		年収が多くても家庭の理由で貯金もなく、毎月赤字です。収入制限等、なくしてほしい。特に高校。
		子どもを大学に入れてあげたいが、費用がかかりすぎて支払いが困難な為、もっと奨学金制度など普通の家庭の子でも受けられたら助かると思います。
		ひとり親家庭への収入額に応じた支給のはばを広げて欲しい。子供が高卒後の進学するうえで、学費等大きな金額が掛かるため、その時に対応した支給があると助かります。
生活	13	公共交通機関の不備により、将来の進学や通学にかかる送迎等のため、家族等への負担やそれに伴う転職が余儀なくされかねないため、それによって今後生活面に不安を感じる。
		今の時代何でもお金！子供にお金をかけたいと思っても、生活するのがやっとです。普通に生活するために、光熱費、水道代、電話代、灯油代、食費、学校費、払うところを払えばわずかな残りです。子供が成人するまでと思い、何とかやっています。これ以上の国や県などの公的な給付金など、あるとは思ってないので、あきらめています。病気をせず、元気に仕事ができることだけです。
		テレビなどでもよく見ますが、母子手当や生活保護など不正にもらっている人がいます。きちんとした調査を学校・地区などと協力しながら、本当に必要としている世帯にあててほしいと思います。不正にもらっている人はなんとも思わずもらっているようです。
医療	12	子どもの医療費助成に所得制限があるのはおかしい。それなりに住民税も納付していると思いますが、全く恩恵がない。全ての子供は平等でないのですか？市の財政が厳しいのであれば中高生に拡大する必要はなかったと思います。税収を増やしたいのなら全ての子供に助成し高所得者の移住を期待するのも一つかと。広報での回答お待ちしております。（父より）
		子供の医療費助成を中学生まで所得制限なしにしてほしい。
		医療費助成について、昨年子供が3回入院し、医療費の支払いがとても大変でした。償還払いのため、3ヶ月後には戻りますが、一旦は支払わなければならない、本当に悩みました（支払えるか借りなければならないのか？）乳幼児の様に現物支給ですと、支払い負担が減るので助かります。

北上市 子どもの生活実態調査結果報告書

発行日 平成 31 年 3 月
発行元 北上市教育委員会 教育部 子育て支援課
住 所 〒024-8501
岩手県北上市芳町 1 - 1
T E L 00197-72-8261
U R L <http://www.city.kitakami.iwate.jp/>
